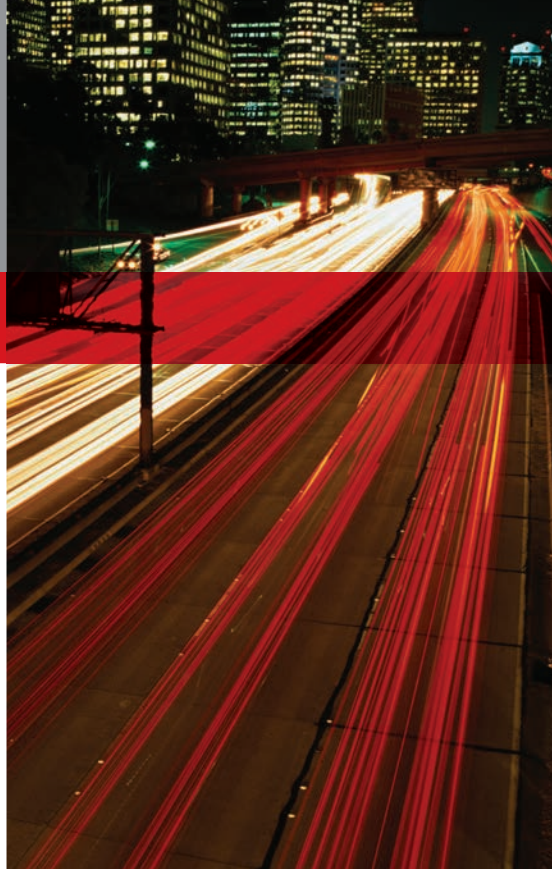




TOYOTA TUNDRA



OWNER'S MANUAL

本車両は米国にて生産され、主に米国内でのご使用を前提として設計されております。

そのため、日本国内においては一部機能に制限が生じる場合がございます。

誠に恐れ入りますが、あらかじめご理解・ご了承のうえ、ご使用くださいますようお願い申し上げます。

イラスト目次	イラストから検索	
安全・安心のために	お客様に 必ずお読みいただきたいこと (主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 (主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 (主な項目：キー、ドア、シート)	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス (主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた)	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など (主な項目：エアコン・収納装備の使い方)	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 (主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)	6
万ーの場合には	故障したときや、緊急時などの対処 (主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 (主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)	8
さくいん	症状から検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	11
検索のしかた	12
イラスト目次	14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	35
助手席乗員検知システム	44
排気ガスに対する注意	48

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	49
チャイルドシート	49

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム	64
オートアラーム	65

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	68
計器類（4.2 インチディスプレイ装着車）	73
計器類（フル液晶ディスプレイ装着車）	77
マルチインフォメーションディスプレイ	81
ヘッドアップディスプレイ	89
燃費画面	93

3 運転する前に

3-1. キー

キー	96

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア・リヤドア）	99
パワーランニングボード	103
テールゲート	106
パワーベッドステップ	117
スマートエントリー&スタートシステム	119

3-3. シートの調整

フロントシート	124
リヤシート	126
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能	129
ヘッドレスト	133

3-4. ハンドルの位置・ミラー

ハンドル	136
インナーミラー	138
デジタルインナーミラー	139
ドアミラー	147

3-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ	150
パワーバックウインドウ	153
パノラマムーンルーフ	154

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	161
荷物を積むときの注意	168

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ	169
オートマチックトランスミッション	173
方向指示レバー	178
パーキングブレーキ	179
ブレーキホールド	182

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	185
フォグランプスイッチ	188
AHB（オートマチックハイビーム）	188
ワイパー&ウォッシャー	191

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	195

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	198
PCS（プリクラッシュセーフティ）	202
LTA（レーントレーシングアシスト）	213
RSA（ロードサインアシスト）	222
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）	225
Stop & Start システム	235
BSM（ブラインドスポットモニター）	241

クリアランスソナー	247
RCTA（リアクロストラフィックアラート）	254
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	259
パーキングサポートブレーキ（静止物）	264
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）	267
バックガイドモニター	269
パノラミックビューモニター	280
マルチテレインモニター	312
電子制御エアサスペンション	323
ドライブモードセレクトスイッチ	326
4WD システム	328
AUTO LSD	330
リヤデフロック	331
クロールコントロール	333
マルチテレインセレクト	336
ダウンヒルアシストコントロールシステム	339
運転を補助する装置	342
アクティブフロントスポイラー	347

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	349

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン	354
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター	361

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	363

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....	366
荷台装備.....	371

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....	376

6 お手入れのしかた**6-1. お手入れのしかた**

外装の手入れ.....	394
内装の手入れ.....	397

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....	400
ウォッシャー液の補充.....	400
タイヤについて.....	401
タイヤ空気圧について.....	410
エアコンフィルターの交換.....	412
電子キーの電池交換.....	414
ヒューズの点検・交換.....	416
電球（バルブ）の交換.....	419

7 万一の場合には**7-1. まず初めに**

故障したときは.....	424
非常点滅灯（ハザードランプ）... ..	425
発炎筒.....	425
車両を緊急停止するには.....	426
水没・冠水したときは.....	427
車中泊が必要なときは.....	428

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....	429
フューエルポンプシャットオフシステム.....	431
警告灯がついたときは.....	432
警告メッセージが表示されたときは.....	442
パンクしたときは.....	446
エンジンがかからないときは.....	456
キーをなくしたときは.....	457
電子キーが正常に働かないときは.....	458
バッテリーがあがったときは.....	460
オーバーヒートしたときは.....	464
スタックしたときは.....	466

8 車両情報**8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....	470

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能.....	475

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.....	487

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....	490
五十音順さくいん.....	493

1

2

3

4

5

6

7

8

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書に記載されている仕様は、印刷時点での最新情報です。時間の経過にともない、お客様の車に改良が加えられ、本書の内容が一部不完全または不正確になる場合があります。トヨタは継続的な製品改良に努めているため、予告なく本書の内容を変更する権利を有します。

トヨタが本書を更新した場合、次の URL から、またはトヨタアプリにアクセス可能なモバイル端末で、お車のモデルおよび年式を選択することで最新の内容をご覧ください。

www.toyota.com/owners

エンジン停止後の車両下部からの音について

エンジン停止後、約 5 時間経過すると、数分間、車両下部から音が聞こえることがあります。これは燃料蒸発ガス漏れのチェック音であり、故障を示すものではありません。

トヨタ車のアクセサリ、スペアパーツおよび改造について

現在、市場にはトヨタ純正品以外のアクセサリやスペアパーツが多数出回っています。これらの製品について、トヨタは性能、修理、交換、またはお車への損害や悪影響に関して保証せず、責任を負いません。

本車両は、トヨタ純正品以外で改造しないでください。トヨタ純正品以外での改造は、車両の性能、安全性、耐久性に影響をおよぼす可能性があり、場合によっては法規制に違反することもあります。また、改造によって生じた損傷や性能上の問題は、保証の対象外となる場合があります。

また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をするおそれがあり危険です。

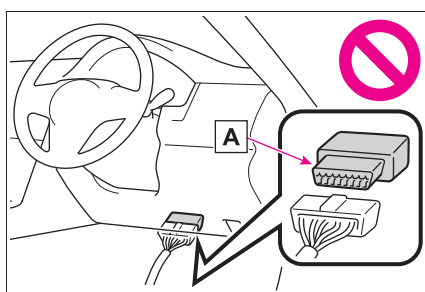
サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタ^Aなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- マルチポート燃料噴射システム／シーケンシャルマルチポート燃料噴射システム
- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販

売店にお問い合わせください。

車両データの記録

本車両には高度なコンピューターが搭載されており、次のような特定のデータを記録します。

- ・ エンジン回転数／電動モーター回転数（駆動用モーター回転数）
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ カメラの画像状況

車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの送信

お車に記録されたデータは、通知することなくトヨタに送信されることがあります。

● データの利用

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合

- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

- 記録した画像情報は、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

- トヨタが収集、利用、共有する車両データの詳細については、次のウェブサイトをご覧ください。

www.toyota.com/privacyvts/

アフターマーケット部品および再生部品の保証適用に関する声明（アメリカオーナー向け）

マグナソン・モス保証法（15 U.S.C. s.2301 以降）により、自動車メーカーが、修理にアフターマーケット部品や再生部品を使用した、または認定サービス以外の者がサービスを行ったという理由だけで、自動車の保証を無効にしたり、保証適用を拒否することは違法とされています。この規定は、商業用または工業用のみを目的として購入された新車には適用されません。

連邦法により、車両に装着されたアフターマーケット部品や再生部品が欠陥品であったり、取り付け不良により保証対象の他の部品に損害をおよぼした場合、メーカーは保証適用を拒否し、修理費用を

請求することがあります。連邦取引委員会（FTC）は、メーカーが保証適用を拒否する前に、アフターマーケット部品や再生部品、または認定サービス以外の者による作業が、保証対象の他の部品に損害をおよぼしたことを立証することを求めています。

さらに、連邦法では、メーカーが保証に基づき消費者に部品やサービスを無償提供する場合、または連邦取引委員会（FTC）から免除を取得している場合には、自動車保証を無効にしたり、保証適用を拒否することが認められています。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ 運転席および助手席のシートベルトの着用状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が

発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせで使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

● 必要に応じてトヨタは次のことを行うことがあります。

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

廃車について

SRS エアバッグおよびシートベルトプリテンショナーには、爆発性の化学物質が含まれています。SRS エアバッグやシートベルトプリテンショナーを取り外さずに廃車にすると、火災などの事故を引き起こすおそれがあります。廃車にする前に、SRS エアバッグおよびシートベルトプリテンショナーは、資格のある整備工場またはトヨタ販売店で取り外し、適切に処分してください。

過塩素酸塩を含む物質

特別な取り扱いが必要な場合があります。詳細は次の URL をご覧ください。www.dtsc.ca.gov/hazardouswaste/perchlorate

お車には、過塩素酸塩を含む可能性のある部品があります。これらの部品には、エアバッグ、シートベルトプリテンショナー、ワイヤレスリモコン用電池などが含まれる場合があります。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

高電圧部位に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手でふれてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

警告

■運転に関する注意事項

飲酒運転：アルコールや運転能力を低下させる薬物の影響下で車両を運転しないでください。アルコールや一部の薬物は反応時間を遅らせ、判断力や運動能力を低下させるため、死亡または重傷につながる事故を引き起こすおそれがあります。

危険を避ける運転：常に危険を避ける運転を心がけてください。他のドライバーや歩行者のミスを予測し、事故回避の準備をしておくことが重要です。

運転者の不注意：運転中は常に運転に集中してください。車両装備の操作、携帯電話での通話、読書など、運転者の注意をそらす行為は、事故につながり、運転者自身や同乗者、または、その他乗客に死亡または重傷をもたらす可能性があります。

■お子さまの安全に関する注意事項

車内にお子さまを放置したり、お子さまにキーを持たせたり使用させたりしないでください。

お子さまが車両を始動させたり、シフトレバーを動かしてしまう可能性があります。また、窓やパノラマムーンルーフ、その他の車両装備で遊んでけがをするおそれもあります。さらに、車内の高温や極端な低温は、お子さまにとって命にかかわる場合があります。

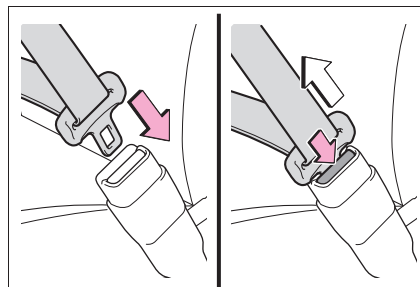
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

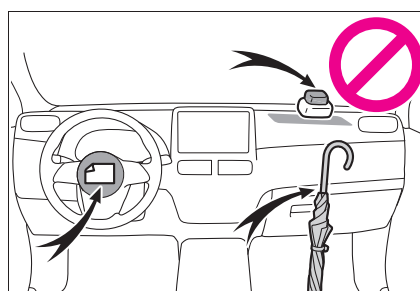
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

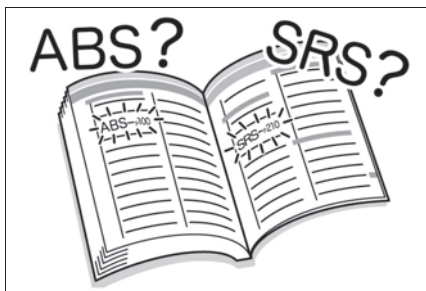


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

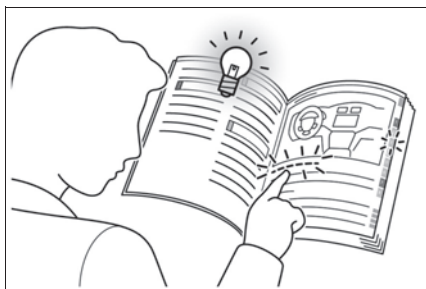
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：→P.493



■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：→P.14



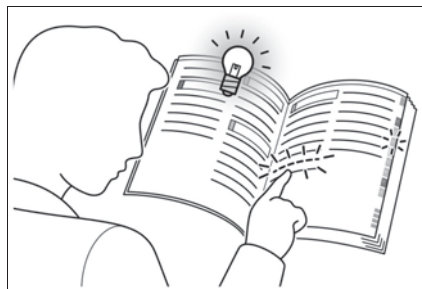
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：
→P.490



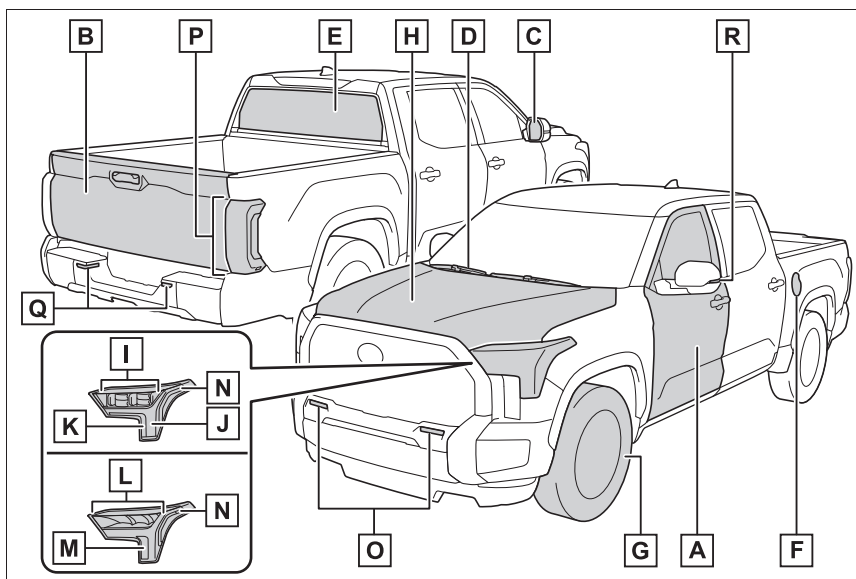
■ タイトルから探す

- 目次：→P.2



イラスト目次

■ 外観



A	ドア	P.99
	施錠／解錠	P.99
	ドアガラスの開閉	P.150
	メカニカルキーでの施錠／解錠	P.458
	警告メッセージ	P.432
B	テールゲート	P.106
	施錠／解錠	P.106
	テールゲートの開閉	P.107
	テールゲートの取り外し	P.113
C	ドアミラー	P.147
	鏡面の角度調整	P.147
	ミラーの格納	P.148
	調整位置の登録★	P.129
	曇りを取る（ミラーヒーター）	P.356

D	ワイパー.....	P.191
	冬季の注意.....	P.349
	凍結防止（ウインドシールドデアイサー）.....	P.359
	洗車時の注意（雨滴感知式ワイパー）★.....	P.395
E	バックウインドウ.....	P.153
F	給油口.....	P.195
	給油方法.....	P.195
	燃料の種類・燃料タンク容量.....	P.470
G	タイヤ.....	P.401
	サイズ・空気圧.....	P.401, 473
	冬用タイヤ・タイヤチェーン.....	P.349
	点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム.....	P.401
	パンク時の対処.....	P.446
H	ボンネット.....	P.400
	開け方.....	P.400
	エンジンオイル.....	P.470
	オーバーヒート時の対処.....	P.464

走行に関わる外装のランプバルブ

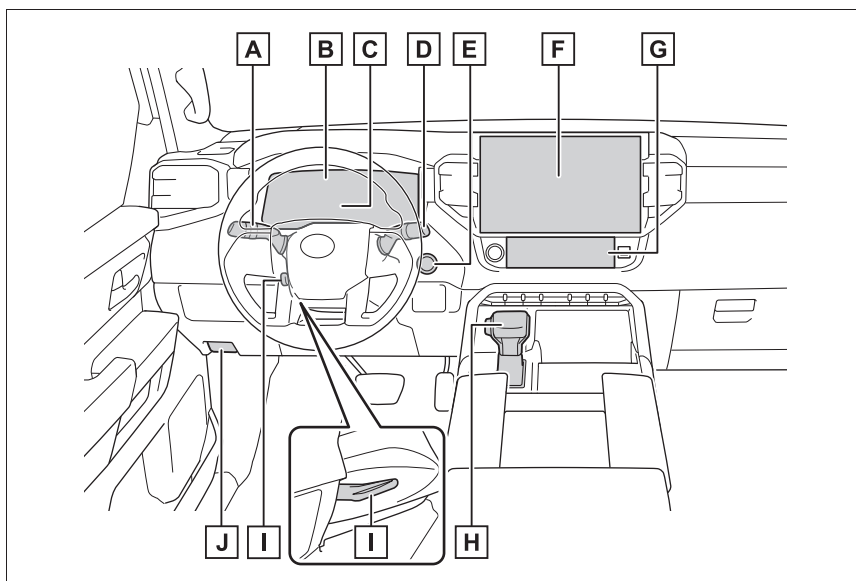
(交換要領：P.419, ワット数：P.474)

I	ヘッドランプ.....	P.185
J	車幅灯.....	P.185
K	方向指示灯.....	P.178
	デイトタイムランニングランプ.....	P.185
L	ヘッドランプ・デイトタイムランニングランプ.....	P.185
M	方向指示灯.....	P.178
	車幅灯.....	P.185
N	サイドマーカーランプ.....	P.185

O	フォグランプ★	P.188
P	尾灯	P.185
	方向指示灯	P.178
	制動灯	
Q	後退灯	
	シフトポジションを R にする	P.173
	番号灯	P.185
R	方向指示灯★	P.178

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



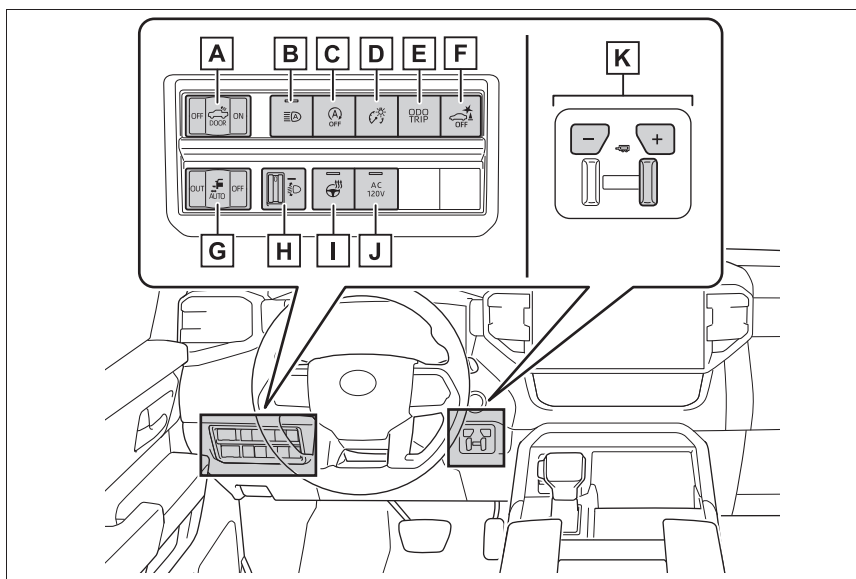
A	方向指示レバー	P.178
	ランプスイッチ	P.185
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・ 番号灯・デイトタイムランニングランプ	P.185
	フォグランプ★	P.188
B	マルチインフォメーションディスプレイ	P.81
	表示内容	P.81
	警告メッセージ表示時の対処	P.442
C	メーター	P.73, 77
	見方・明るさの調整	P.73, 77
	警告灯／表示灯	P.68
	警告灯点灯時の対処	P.432
D	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.191
	使い方	P.191
	ウォッシャー液の補充	P.400

警告メッセージ	P.442
[E] エンジンスイッチ	P.169
エンジンの始動・モード切りかえ	P.169
エンジンの緊急停止	P.426
エンジンが始動できないときの対処	P.456
警告メッセージ	P.442
[F] マルチメディアシステム *	
[G] エアコン	P.354
操作方法	P.354
バックウインドウの曇り取り（バックウインドウデフォグガー）	P.356
[H] シフトレバー	P.173
シフトポジションの切りかえ	P.174
けん引時の注意	P.429
シフトレバーが動かないときの対処	P.175
[I] ハンドル位置調整スイッチ★／ハンドル位置調整レバー★	P.136
調整方法	P.136
調整位置の登録★	P.129
[J] ボンネット解除レバー	P.400

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

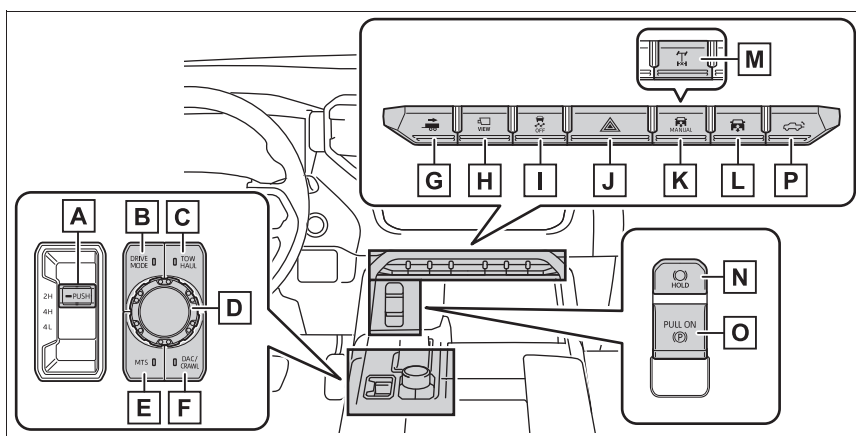
■ スイッチ類



- A** ワークランプメインスイッチ P.365
- B** オートマチックハイビームスイッチ P.188
- C** Stop & Start キャンセルスイッチ P.235
- D** インストルメントパネル照度調整スイッチ P.76, 80
- E** “ODO TRIP” スイッチ P.75, 79
- F** パーキングサポートブレーキ OFF スイッチ★ P.261
- G** パワーステップスイッチ
 - パワーランニングボード★ P.103
 - パワーベッドステップ★ P.117
- H** 手動光軸調整ダイヤル★ P.187
- I** ステアリングヒータースイッチ★ P.361
- J** AC120V スイッチ★ P.385

[K] トレーラーブレーキコントロールスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



[A] 4WD スイッチ★	P.328
[B] “DRIVE MODE” スイッチ★	P.326
[C] “TOW HAUL” スイッチ★	P.176
[D] モードセレクトスイッチ★	P.176, 326, 333, 336
[E] “MTS” スイッチ★	P.336
[F] “DAC/CRAWL” スイッチ★	P.333
[G] トレーラーバックアップガイドスイッチ★	
[H] カメラスイッチ★	P.282
[I] VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ	P.343
[J] 非常点滅灯スイッチ	P.425
[K] 車高調整モード選択スイッチ★	P.323
[L] 車高調整スイッチ★	P.323
[M] リヤデフロックスイッチ★	P.331

N	ブレーキホールドスイッチ	P.182

O	パーキングブレーキスイッチ	P.179

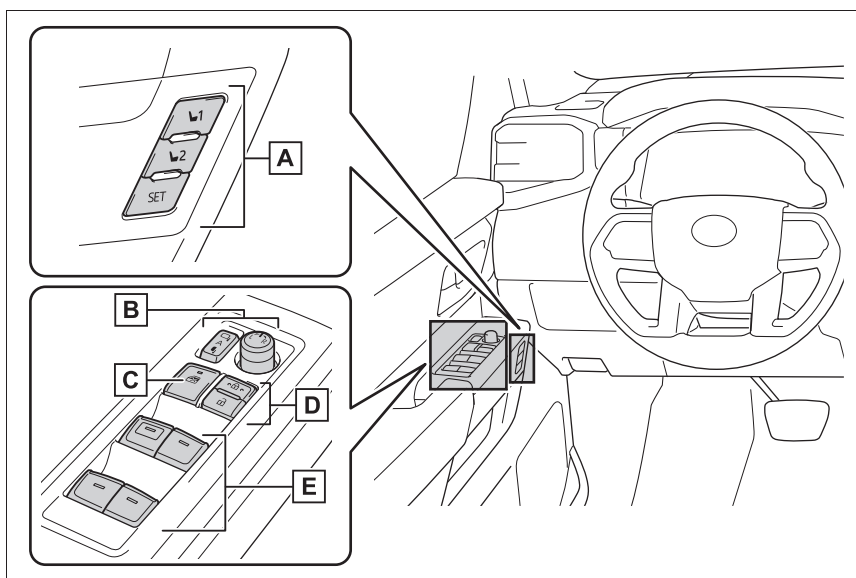
かける・解除する	P.179

冬季の注意	P.350

警告ブザー・警告メッセージ	P.181, 437

P	パワーテールゲートオープナースイッチ★	P.108

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A	ポジションメモリーボタン★	P.129

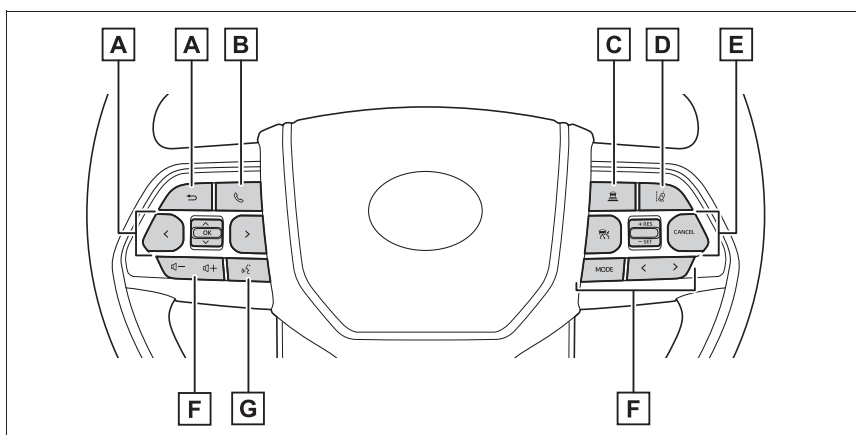
B	ドアミラースイッチ	P.147

C	ウインドウロックスイッチ	P.152

D	ドアロックスイッチ	P.101

E	パワーウインドウスイッチ	P.150

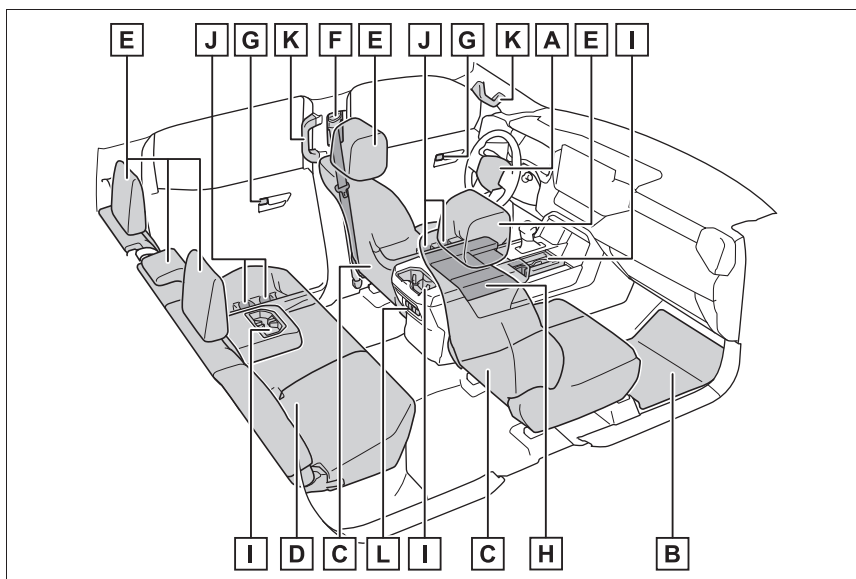
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- A** メーター操作スイッチ P.82
- B** 電話スイッチ ※
- C** 車間距離切りかえスイッチ P.230
- D** LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.213
- E** クルーズコントロールスイッチ
 レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） P.225
- F** オーディオスイッチ ※
- G** トークスイッチ ※

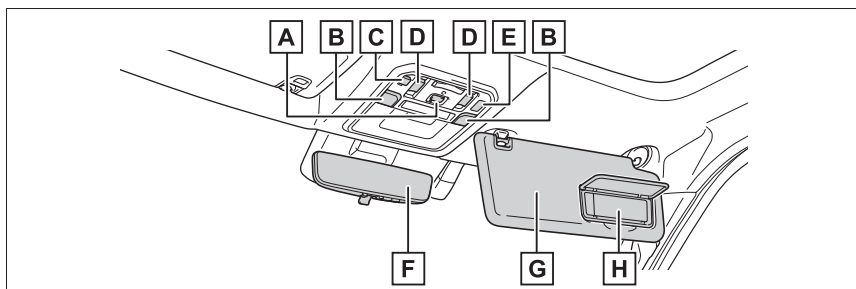
※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 室内



A SRS エアバッグ	P.35
B フロアマット	P.26
C フロントシート	P.124
D リヤシート	P.126
E ヘッドレスト	P.133
F シートベルト	P.29
G ロックレバー	P.102
H コンソールボックス	P.369
I カップホルダー	P.367
J ボトルホルダー	P.368
K アシストグリップ	P.384
L リヤシートヒーター／ベンチレーター★	P.362

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- A** “SOS” ボタン（日本国内では使用できません）
- B** フロントインテリアランプ・パーソナルランプ P.364
- C** パワーバックウインドウスイッチ★ P.153
- D** パノラマムーンルーフスイッチ★ P.154
- E** “MOOD” スイッチ★ P.364
- F** インナーミラー★ P.138
デジタルインナーミラー★ P.139
- G** サンバイザー P.390
- H** バニティミラー★ P.390

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために
～必ずお読みください～

1

1

安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 26

安全なドライブのために 27

シートベルト 29

SRS エアバッグ 35

助手席乗員検知システム 44

排気ガスに対する注意 48

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 49

チャイルドシート 49

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム
..... 64

オートアラーム 65

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

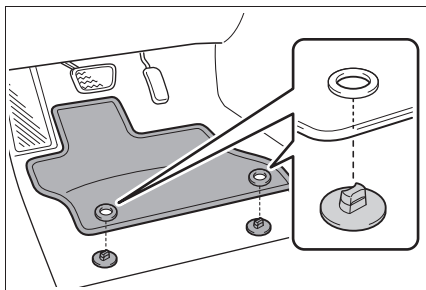
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

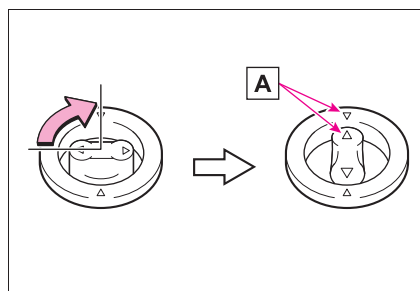
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク **A** を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

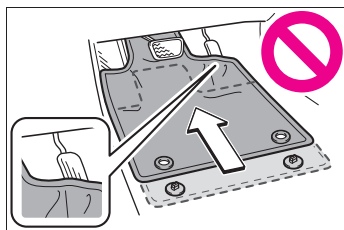
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告**■運転する前に**

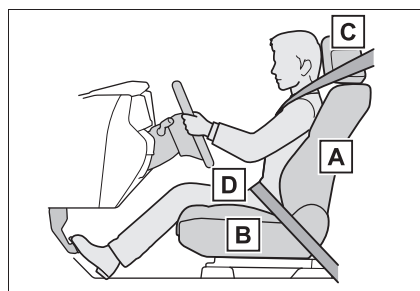
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う



- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには

- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.124）
- B** ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.124）
- C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.133）
- D** シートベルトを正しく着用する（→P.29）

警告**■ 安全な運転のために**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、
インナーミラー★・デジタルイン
ナーミラー★・ドアミラーを正し
く調整してください。(→P.138,
139, 147)

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ず
シートベルトを正しく着用してく
ださい。(→P.29)

シートベルトを正しく着用できな
い小さなお子さまを乗せるときは、
適切な子供専用シートをご用意く
ださい。(→P.49)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

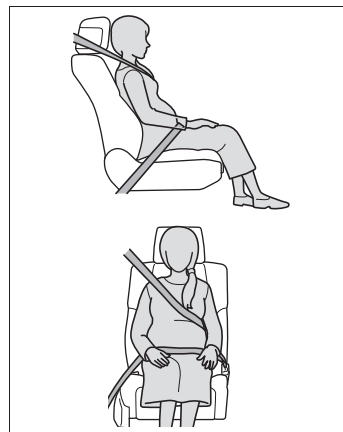
警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.30)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.30)

■お子さまを乗せるとき

→P.63

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

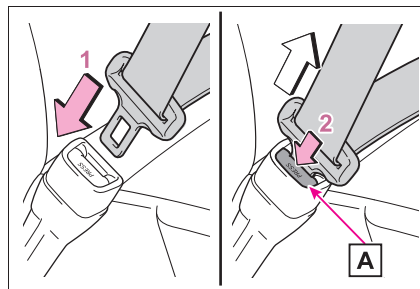
正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

知識**■ お子さまのシートベルトの使い方**

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→P.49)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.29)

着け方・はずし方（リヤシート中央席を除く）

- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す

シートベルトがリトラクターから引き出せない場合は、ベルトを強く引っ張ってから離してください。

知識

■シートベルトロックの解除方法（ELR：Emergency locking retractor）

急停止や衝撃があったときシートベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度シートベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、シートベルトを引き出すことができます。

■チャイルドシート固定機構付シートベルト（ALR：Automatic locking retractor）

リヤシートの肩部ベルトは、いっぱいまで引き出してからもどすとその位置で固定し引き出せなくなります。これは、チャイルドシートを固定するための機構です。シートベルトを一度完全に巻きもどしてからもう一度引き出せば解除できます。（→P.49）

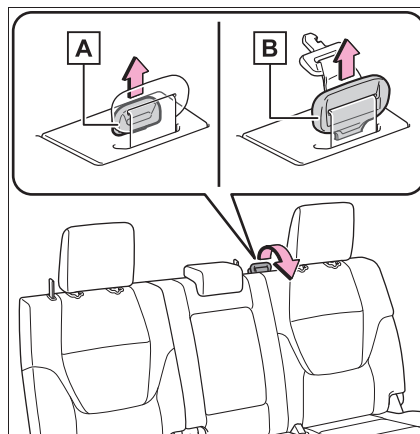
■リヤ外側席シートベルトを使用したあとは

バックルを各ポケットに格納してください。



着け方（リヤシート中央席）

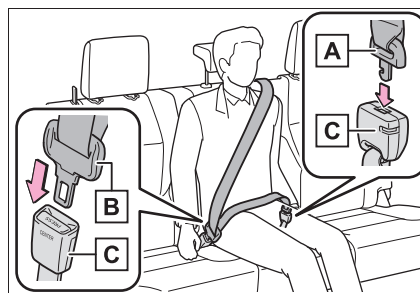
1 プレートを取り出す



A プレート A

B プレート B

2 ベルトを固定するには、プレート A、プレート B の順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む



A プレート A

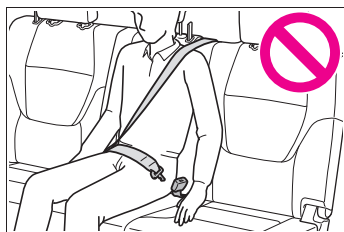
B プレート B

C バックル

警告

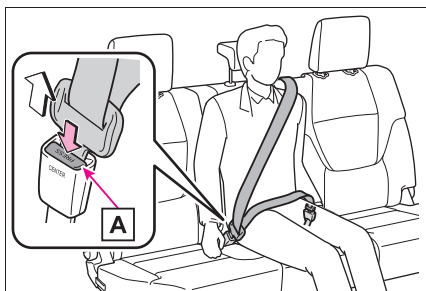
■ リヤシート中央席シートベルトについて

リヤシート中央席シートベルトを使用するときは、必ずプレート A とプレート B をそれぞれのバックルに結合してください。結合されていない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



はずし方・格納のしかた（リヤシート中央席を除く）

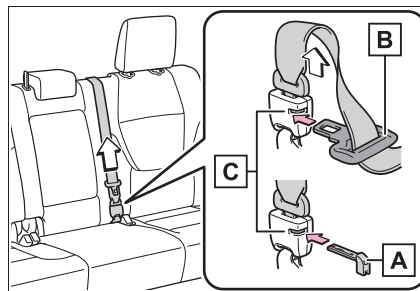
- 1 バックルの解除ボタン **A** を押して、ベルトを解除する



- 2 メカニカルキー（→P.96）、またはプレート B をバックルの切り欠きに挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルト

を持ちながらゆっくり巻きもどします。



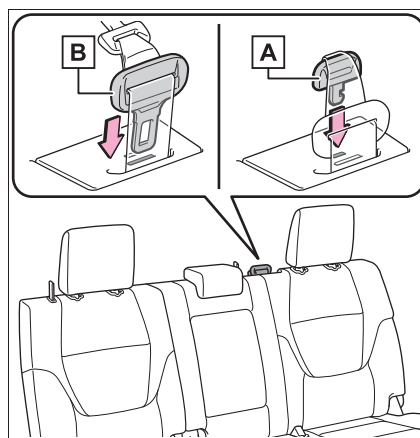
A メカニカルキー

B プレート B

C バックル

- 3 プレート B、プレート A の順にホルダーに格納する

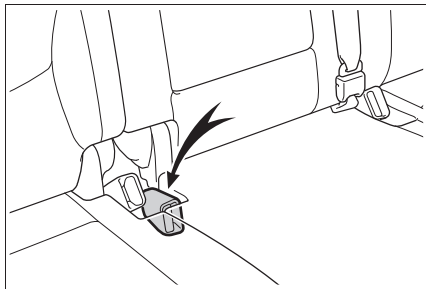
確実に固定されるよう、しっかり奥まで挿し込んでください。



A プレート A

B プレート B

4 シートベルトのバックルをポケットに格納する



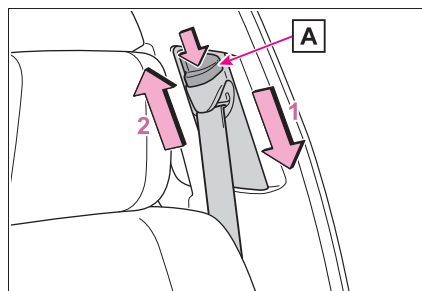
■シートベルトロックの解除方法（ELR：Emergency locking retractor）

急停止や衝撃があったときシートベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度シートベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、シートベルトを引き出すことができます。

■チャイルドシート固定機構付シートベルト（ALR：Automatic locking retractor）

リヤシートの肩部ベルトは、いったん引き出してからもどすとその位置で固定し引き出せなくなります。これは、チャイルドシートを固定するための機構です。シートベルトを一度完全に巻きもどしてからもう一度引き出せば解除できます。（→P.49）

シートベルトの高さ調節（フロント席）



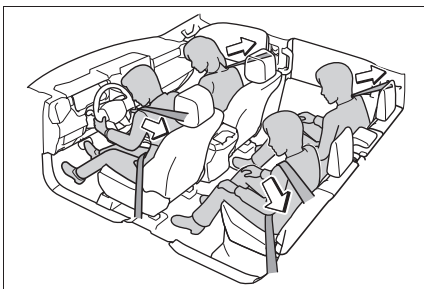
- 1 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを下げる
- 2 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

⚠ 警告

■シートベルトの高さ調節について

肩ベルトは必ず肩の中央を通る位置に調整してください。ベルトが首にかからないようにし、肩からずり落ちないように装着してください。お守りいただかないと、急停止、急ハンドルや事故のときに十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー (フロント席・リヤ外側席)



前方・側方から強い衝撃を受けたときや、横転したときにシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃のときは通常は作動しません。

知識

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ 予防連携機能について

PCS（プリクラッシュセーフティ）によって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

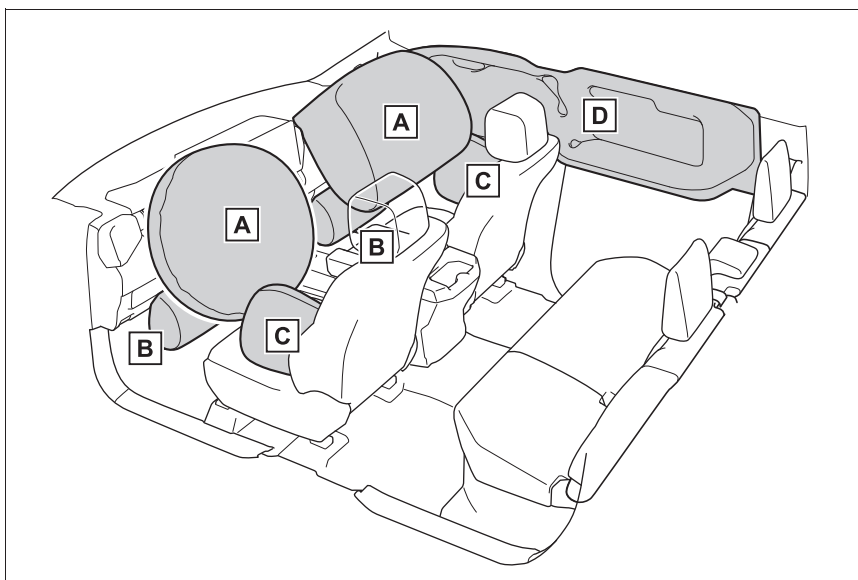
- 助手席座面にはクッションなどを置かないでください。
乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席のシートベルトプリテンショナーが作動しないことがあります。
- シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ

運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助

▶ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

C SRS フロントサイドエアバッグ

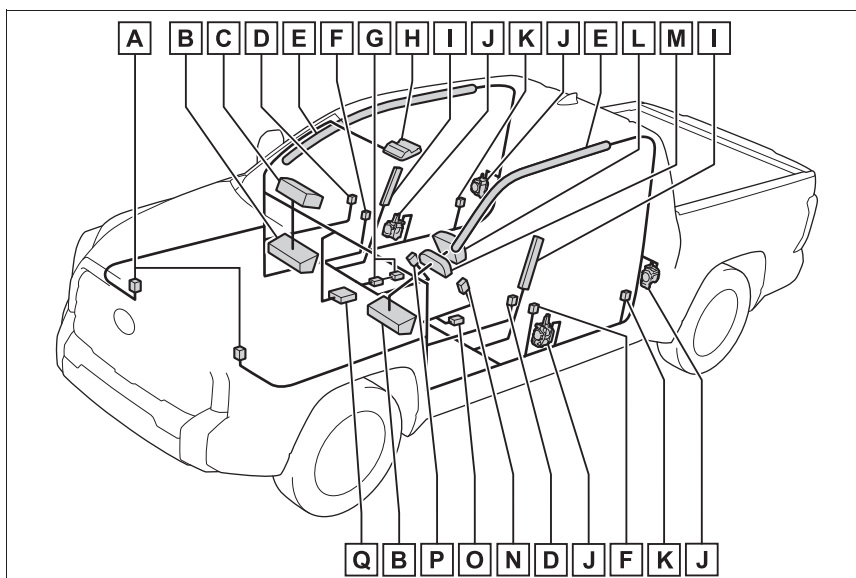
フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

D SRS カーテンシールドエアバッグ

・ フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

- ・車両が横転した際に、乗員が車外に放り出されるのを防ぐのに役立ちます

■ SRS エアバッグシステムの構成部品



- A** フロントインパクトセンサー
- B** ニーエアバッグ
- C** 助手席エアバッグ
- D** サイドインパクトセンサー（フロント）
- E** カーテンシールドエアバッグ
- F** サイドインパクトセンサー（フロントドア）
- G** 助手席乗員検知センサー
- H** “AIR BAG ON” & “AIR BAG OFF” 表示灯
- I** サイドエアバッグ
- J** シートベルトプリテンショナー&フォースリミッター
- K** サイドインパクトセンサー（リヤ）
- L** 運転席エアバッグ
- M** SRS 警告灯

N 運転席シートベルトバックルスイッチ

O 運転席シートポジションセンサー

P 助手席シートベルトバックルスイッチ

Q エアバッグセンサーアッセンブリー

お客様の車両には、アメリカ自動車安全基準（FMVSS208）に基づいて設計された先進エアバッグが装備されています。エアバッグセンサーアッセンブリー（ECU）は、上記のシステム構成図に示されたセンサーなどから得られる情報に基づいて、エアバッグの作動を制御します。これらの情報には、衝突の深刻度や乗員に関する情報が含まれます。エアバッグが作動する際には、インフレーター内の化学反応によって無害なガスが瞬時に生成され、エアバッグが膨張して乗員の動きを抑制します。

知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール的一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- すべてのドアが解錠されます。（→P.100）
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.342）
- 室内灯が自動で点灯します。（→P.365）
- 非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.425）
- 燃料供給を停止します。（→P.431）

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 12 - 18 mph [20 - 30 km/h] で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナー、SRS ニーエアバッグのみ作動する場合があります。
- 助手席に乗員がいない場合、助手席用 SRS フロントエアバッグは作動しません。ただし、助手席に荷物が置かれている場合は、乗員がいなくても助手席用 SRS フロントエアバッグが作動することがあります。

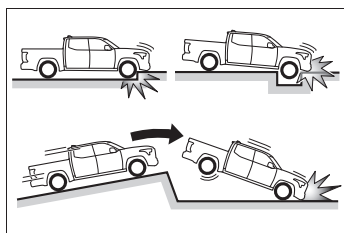
■ SRS エアバッグが作動するとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ)

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値 (約 1.5t の車両が、約 12 - 18 mph [20 - 30 km/h] の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値) 以上の場合に作動します。
- 車両側面のどちらかに衝突があった場合でも、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動します。
- 横転時は、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

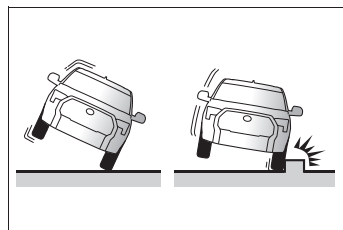
次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



SRS カーテンシールドエアバッグは、次のような状況で作動する場合があります。

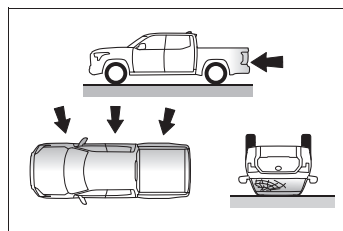
- 車両が大きく傾いたとき
- 車両が横すべりし縁石などに衝突して強い衝撃があったとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき (フロント SRS エアバッグ)

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

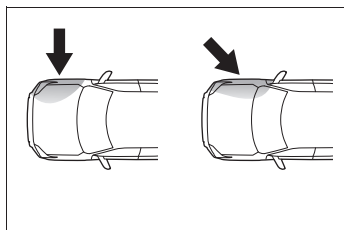
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ)

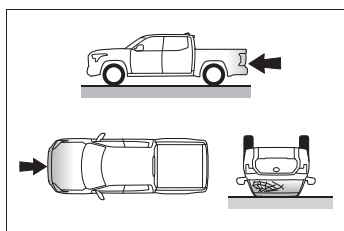
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



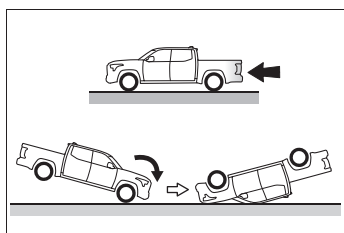
SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃、縦方向への転覆、または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 後方からの衝突
- 縦方向への転覆

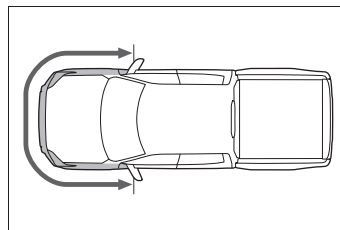


■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

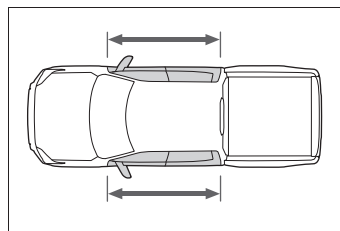
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

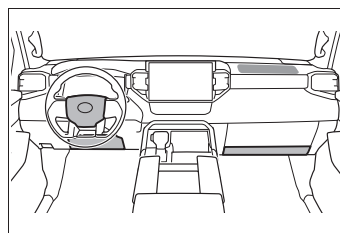
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



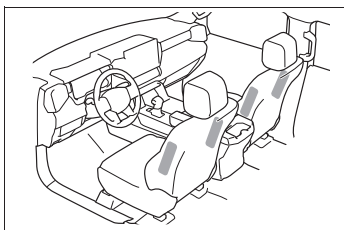
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



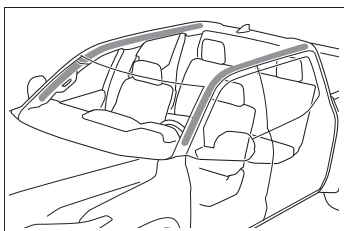
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

- SRS 運転席用エアバッグは強い力でふくらむため、特に運転者がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

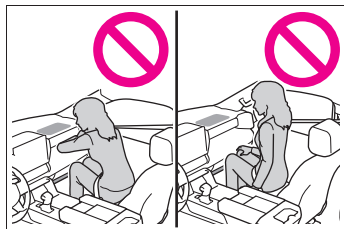
アメリカ道路交通安全局（NHTSA）は次のように推奨しています。運転席用エアバッグは膨らみ始める 2 ～ 3 in.（50 ～ 70 mm）が危険なため、運転席用エアバッグから 10 in.（約 250 mm）離れることで十分な安全性が確保できます。この距離は、ハンドルの中心から胸骨までで測定します。エアバッグから 10 in.（約 250 mm）未満の距離に座っている場合は、いくつかの方法で運転姿勢を調整できます。

- ・ ペダルに届く範囲で、シートをできるだけ後ろに下げる
- ・ シートの背もたれをわずかに倒す
車両の設計は異なりますが、運転席をいちばん前にしても、多くの運転者は背もたれを少し倒すだけで、エアバッグからの安全距離 10 in.（約 250 mm）を確保できます。背もたれを倒すと前方の視界が悪くなる場合は、滑りにくいクッションを使用するか、車両にシート高さ調整機能がある場合はシートを上げてください。
- ・ ハンドルが調整可能な場合は、下向きに傾ける
これにより、エアバッグが頭部や首ではなく、胸部に向かうようになります。

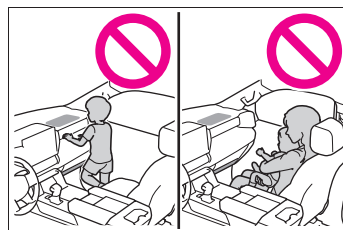
シートは、前述の NHTSA の推奨に従って調整してください。ただし、ペダル操作、ステアリング操作、および計器パネルの視認を妨げない位置にしてください。

警告

- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P.49)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



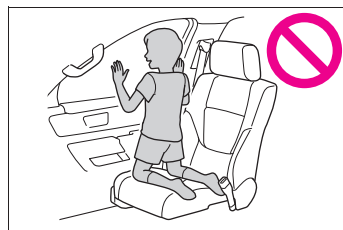
- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

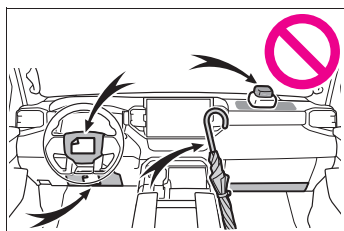


- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

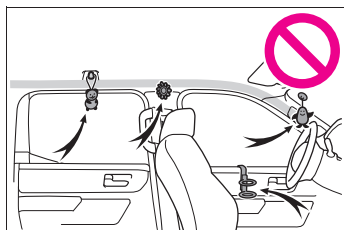


警告

- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRSカーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

- 助手席座面にはクッションなどを置かないでください。乗員の重量が分散されるため、センサーが乗員を正しく検知できず、衝突時に助手席用のフロント SRS エアバッグが作動しないことがあります。

**警告****■改造・廃棄について**

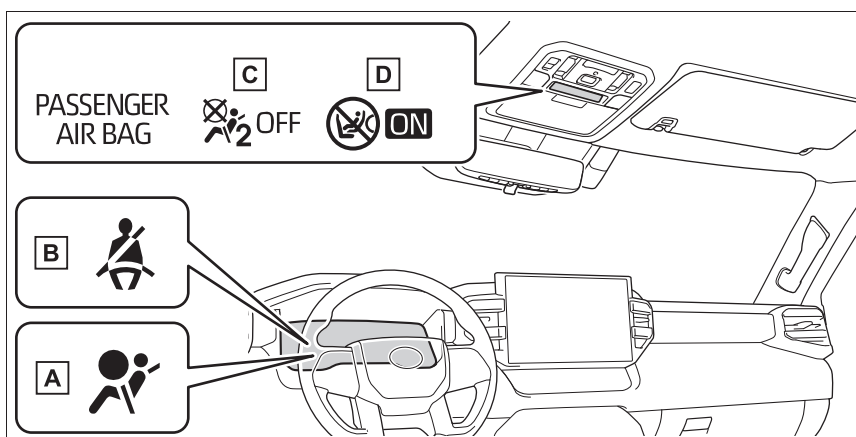
トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチ・ルーフキャリアなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け
- 身体に障がいのある方のための車両改造

助手席乗員検知システム

お車には助手席乗員検知システムが装備されています。このシステムは助手席の乗員を検知し、助手席用エアバッグおよび助手席用ニーエアバッグを作動または停止させます。

システムの構成部品



A SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

B 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯

C “AIR BAG OFF” 表示灯

D “AIR BAG ON” 表示灯

⚠ 警告

■ 助手席乗員検知システムについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを正しく着用してください。

- 助手席に人が座る前に、シートベルトプレートがバックルに差し込まれたままになっていないか、確認してください。

- 助手席やその装備（例：シートバックポケット）に重い荷物を載せないでください。

- 後部座席から助手席の背もたれに手や足をかけて、助手席に体重をかけないでください。

警告

- 後部座席の乗員が、足で助手席を持ち上げたり、脚で背もたれを押したりしないでください。
- 助手席の下に物を置かないでください。
- 助手席の背もたれを後部座席に接触するほど倒さないでください。背もたれが後部座席に接触すると、“AIR BAG OFF”表示灯が点灯し、助手席用 SRS エアバッグが事故のときに作動しないおそれがあります。もし背もたれが後部座席に接触する場合は、接触しない位置に戻してください。走行中は、助手席の背もたれをできるだけ起こした状態に保ってください。背もたれを過度に倒すと、シートベルトシステムの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- 助手席に大人が座っている場合、“AIR BAG ON”表示灯が点灯します。もし“AIR BAG OFF”表示灯が点灯している場合は、乗員を次のように対処してください：背筋をまっすぐにしてシートの奥まで座り足を床に置く。また、シートベルトを正しく着用する。それでも“AIR BAG OFF”表示灯が点灯したままの場合は、乗員を後部座席に移動するか、それが不可能な場合は、助手席を後ろいっぱいに下げてください。
- やむを得ず助手席に前向きチャイルドシートを設置する場合は、正しい手順で取り付けてください。（→P.51）
- 助手席および運転席を改造したり取りはずしたりしないでください。

- 助手席を蹴ったり強い衝撃を加えたりしないでください。助手席乗員検知システムの故障を示す SRS 警告灯が点灯することがあります。その場合は、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。
- 後部座席に取り付けたチャイルドシートが、前席の背もたれに接触しないようにしてください。
- シートクッション面を覆うクッションやシートカバーなどのシートアクセサリーは使用しないでください。
- 助手席および運転席のシート地を張り替えたり交換したりしないでください。

助手席乗員検知システムの状態と作動

■ 大人 ※1

表示灯／警告灯	“AIR BAG ON” 表示灯& “AIR BAG OFF” 表示灯	“AIR BAG ON”
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	非表示
	運転席・助手席シートベルト非着用警告灯	非表示 ※2 または点滅 ※3
装置	助手席エアバッグ	作動可能
	助手席ニーエアバッグ	

■ 子ども ※4

表示灯／警告灯	“AIR BAG ON” 表示灯& “AIR BAG OFF” 表示灯	“AIR BAG OFF” または “AIR BAG ON” ※4
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	非表示
	運転席・助手席シートベルト非着用警告灯	非表示 ※2 または点滅 ※3
装置	助手席エアバッグ	作動不可能または作動可能 ※4
	助手席ニーエアバッグ	

■ 乳児用チャイルドシート ※5

表示灯／警告灯	“AIR BAG ON” 表示灯& “AIR BAG OFF” 表示灯	“AIR BAG OFF” ※6
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	非表示
	運転席・助手席シートベルト非着用警告灯	非表示 ※2 または点滅 ※3
装置	助手席エアバッグ	作動不可能
	助手席ニーエアバッグ	

■ 空席

表示灯／警告灯	“AIR BAG ON” 表示灯& “AIR BAG OFF” 表示灯	“AIR BAG OFF”
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	非表示
	運転席・助手席シートベルト非着用警告灯	
装置	助手席エアバッグ	作動不可能
	助手席ニーエアバッグ	

■ システム異常時

表示灯／警告灯	“AIR BAG ON” 表示灯& “AIR BAG OFF” 表示灯	“AIR BAG OFF”
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	表示
	運転席・助手席シートベルト非着用警告灯	
装置	助手席エアバッグ	作動不可能
	助手席ニーエアバッグ	

※¹システムは大人サイズの人を大人として判定します。体格や姿勢によっては、小柄な大人が助手席に座った場合、システムが大人として認識しないことがあります。

※²助手席乗員がシートベルトを着用している場合

※³助手席乗員がシートベルトを着用していない場合

※⁴チャイルドシート、ブースターシート、コンバーチブルシートに座る一部のお子さまは、システムが子どもとして認識しない場合があります。認識に影響する要因としては、体格や座り方などが考えられます。

※⁵助手席に後向きチャイルドシートを設置しないでください。前向きチャイルドシートは、やむを得ない場合のみ助手席に設置してください。(→P.49)

※⁶表示灯が点灯しない場合は、チャイルドシートの正しい取り付け方法について、本マニュアルを参照してください。(→P.51)

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- バックウインドウを閉じてください。
- バックウインドウが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。
 お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。

- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター・ウィンドウロックスイッチをご使用ください。(→P.102, 152)
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・テールゲートやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告**■ お子さまを乗せるときは**

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

目次

知っておいていただきたいこと：
P.49

チャイルドシート：P.51

チャイルドシートを使用するときは：P.52

チャイルドシートの取り付け方法

- ・ アンカーブラケット（トップテザーストラップ）を使用する：P.54
- ・ LATCH アンカーで固定する：P.56
- ・ シートベルトで固定する：P.59

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。

- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。

警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。取り付けの詳細については、チャイルドシートに同梱されている取扱説明書を参照してください。本マニュアルには一般的な取り付け手順が記載されています。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

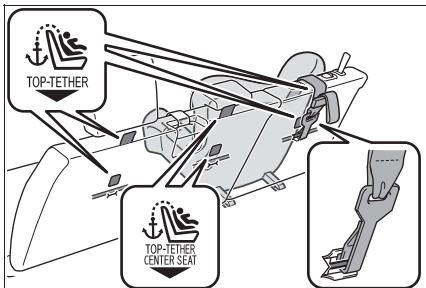
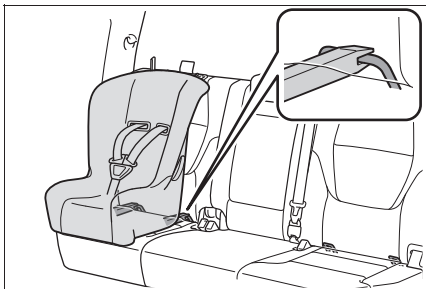
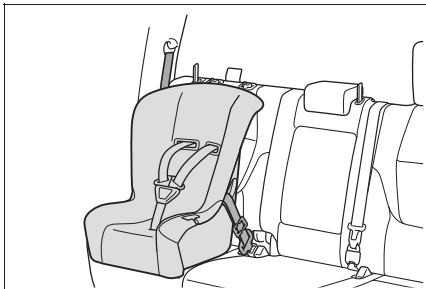
次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートの製造元が提供するすべての取り付け指示に従い、チャイルドシートが適切に固定されていることを確認してください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管してください。

チャイルドシート

■ チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法	ページ
アンカーブラケット（トップテザーストラップ）で固定する	 P.54
LATCH アンカーで固定する	 P.56
シートベルトで固定する	 P.59

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

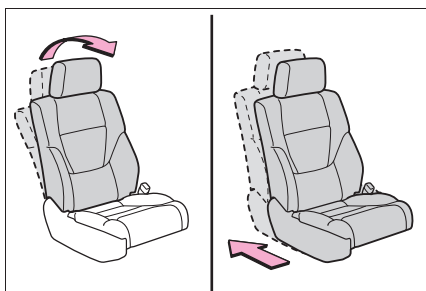
- シートをいちばんうしろに下げる

- 背もたれを可能な限り起こす

前向きチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように調整してください。

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



⚠ 警告

■ チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

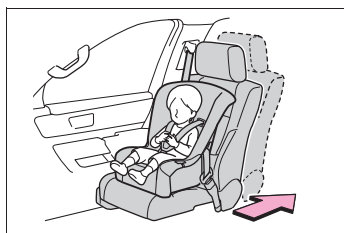
- 助手席の“AIR BAG OFF”表示灯が点灯していても、後向きにチャイルドシートを助手席に取り付けしないでください。うしろ向きに取り付けしていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- やむを得ない場合に限り前向きにチャイルドシートを助手席に取り付けることができます。トップテザーストラップが必要なチャイルドシートは、助手席にトップテザーストラップアンカーがないため、助手席では使用しないでください。

警告

- 助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合は、たとえ“AIR BAG OFF”表示灯が点灯していても、背もたれの角度を最も直立した位置に調整し、シートをいちばんうしろに下げ、シートを最も高い位置まで上げてください。

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

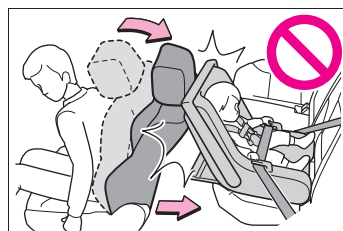
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- Booster seat (ブースターシート) を使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトが首にかからないようにし、肩からずり落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

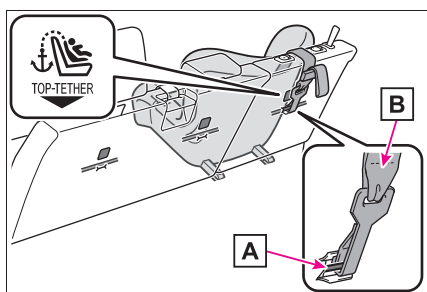
アンカーブラケット（トップテザーストラップ）を使用する

■ アンカーブラケット（トップテザーストラップ）について

この車はリヤシートにアンカーブラケットが装備されています。

トップテザーストラップを固定するときに使います。

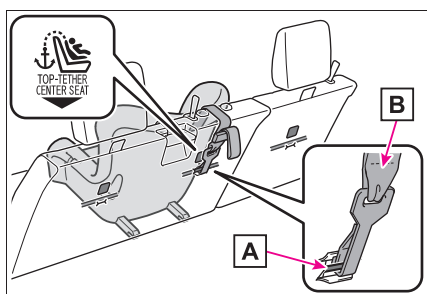
▶ リヤ外側席



A アンカーブラケット

B トップテザーストラップ

▶ リヤ中央席



A アンカーブラケット

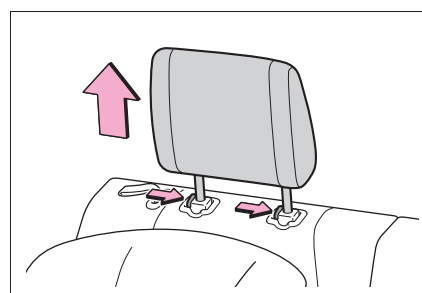
B トップテザーストラップ

■ トップテザーストラップをアンカーブラケットに固定する

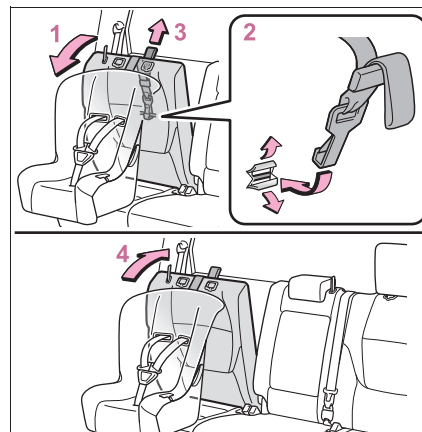
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

▶ リヤ外側席

- 1 ヘッドレストを取りはずす (→P.134)



- 2 チャイルドシートを車両の前方を向くように座席に設置する
- 3 フックをアンカーブラケットに固定する

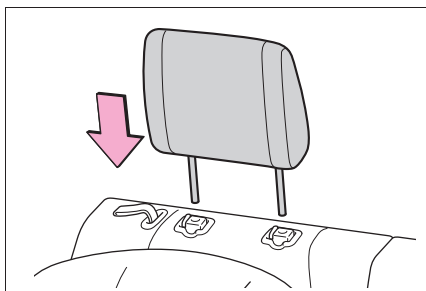


- 1 背もたれを少し前方に倒す (→P.126)

- 2 フックをアンカーブラケットに掛ける
- 3 トップテザーストラップをたるみがないように固定する
- 4 背もたれを元の位置に戻す
- 4 シートベルト (→P.60) または LATCH アンカー (→P.57) でチャイルドシートを固定し、トップテザーストラップを締める

トップテザーストラップが確実に固定されていることを確認する。

- 5 ヘッドレストがチャイルドシートの取り付けに干渉しない場合は、ヘッドレストを取り付けてください。

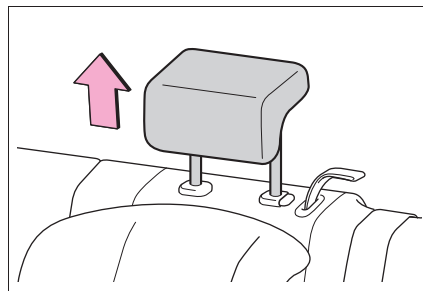


▶ リヤ中央席

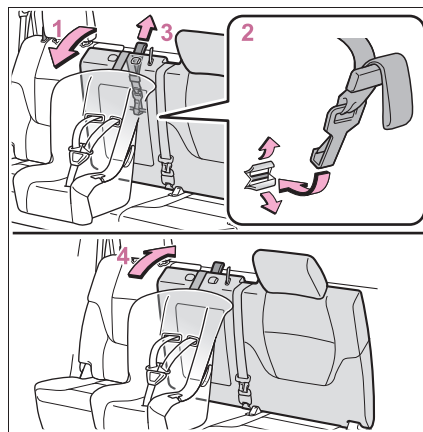
- 1 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストがチャイルドシートの取り付けに干渉し、かつヘッドレストを取りはずせる場合は、ヘッドレストを取りは

ずしてください。(→P.134)



- 2 チャイルドシートを車両の前方を向くように座席に設置する
- 3 フックをアンカーブラケットに固定する



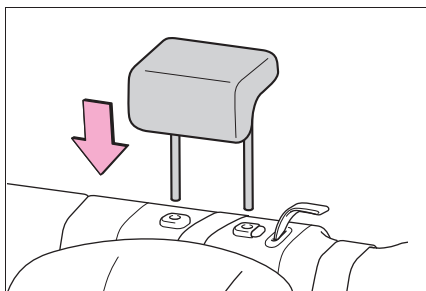
- 1 背もたれを少し前方に倒す (→P.126)
- 2 フックをアンカーブラケットに掛ける
- 3 トップテザーストラップをたるみがないように固定する
- 4 背もたれを元の位置に戻す

- 4 シートベルト (→P.60) または LATCH アンカー (→P.57) でチャイルドシートを固定し、トップテザーストラップを締める

トップテザーストラップが確実に固定されていることを確認する。

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付ける場合は、トップテザーストラップをヘッドレストの下に通すようにしてください。

- 5 ヘッドレストがチャイルドシートの取り付けに干渉しない場合は、ヘッドレストを取り付けてください。



知識

■ アンカーに関する法令・規制

LATCH システムは FMVSS225 または CMVSS210.2 に適合しています。FMVSS213 または CMVSS213 規格に適合するチャイルドシートを使用できます。

本車両は SAE J1819 に適合するように設計されています。

警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

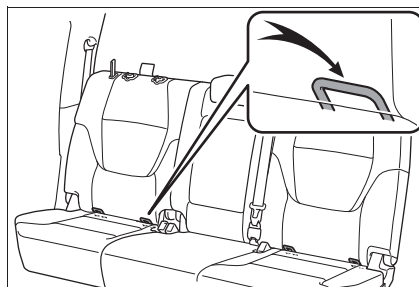
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- トップテザーストラップがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- トップテザーストラップはアンカーブラケット以外に掛けないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- リヤ中央席：ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてアンカーブラケットに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。
- シートを調整した場合は、チャイルドシートの固定状態を再度確認してください。

チャイルドシートを LATCH アンカーで固定する

■ LATCH アンカーについて

この車はリヤ外側席に LATCH アンカーが装備されています。

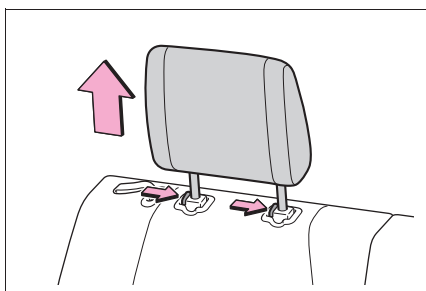


■ リヤ外側席に取り付ける

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

チャイルドシートにトップテザーストラップが付いている場合は、チャイルドシートを取り付ける前にトップテザーストラップを取り付け、その後チャイルドシートを取り付けてください。(→P.54)

- 1 ヘッドレストがチャイルドシートの取り付けに干渉し、かつヘッドレストを取りはずせる場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→P.134)



- 2 シートクッションと背もたれの間隙を少し広げてください。

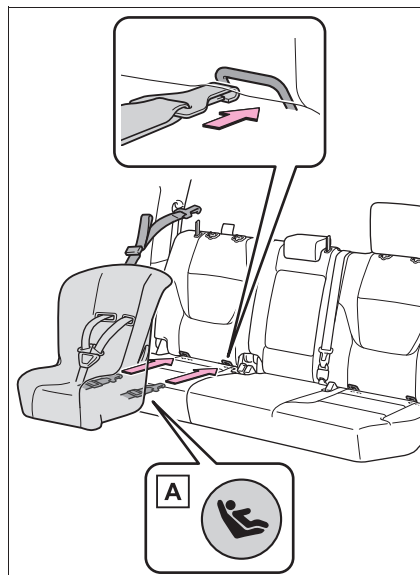
- ▶ フレキシブルロアアタッチメント付き

- 3 ロアアタッチメントのフックを LATCH アンカーに固定する

カナダオーナー：

チャイルドシートのシンボル

Aは、ロアコネクターシステムがあることを示しています。



A カナダのみ

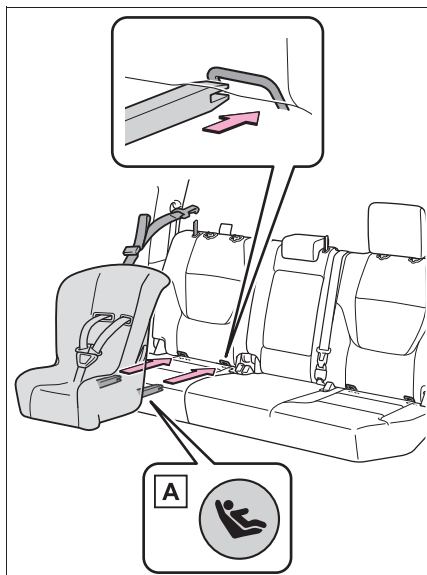
- ▶ リジッドロアアタッチメント付き

3 バックルを LATCH アンカーに固定する

カナダオーナー：

チャイルドシートのシンボル

A は、ロアコネクターシステムがあることを示しています。



A カナダのみ

- 4** チャイルドシートにトップテザーストラップが付いている場合は、トップテザーストラップを締める (→P.54)
- 5** 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認する (→P.63)

 知識

■ アンカーに関する法令・規制

LATCH システムは FMVSS225 または CMVSS210.2 に適合しています。

FMVSS213 または CMVSS213 規格に適合するチャイルドシートを使用できます。

本車両は SAE J1819 に適合するように設計されています。

 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- LATCH アンカーを使用する場合は、アンカー周辺に異物がないこと、およびシートベルトがチャイルドシートの後ろに引っかかっていないことを必ず確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- リヤ中央席にはチャイルドシートを取り付けることはできません。LATCH アンカーを使用してリヤ中央席にチャイルドシートを取り付けないでください。

警告

- リヤシートにチャイルドシートを固定する場合、一部のタイプでは、チャイルドシートの隣の座席でシートベルトを装着すると、チャイルドシートに干渉したり、シートベルトの効果に影響を与えたりすることがあり、正しく装着できない場合があります。シートベルトが肩から腰にかけてしっかりと装着されていることを確認してください。装着できない場合、またはチャイルドシートの装着を妨げる場合は、別の座席に移動してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートを調整した場合は、チャイルドシートの固定状態を再度確認してください。

チャイルドシートをシートベルトで固定する

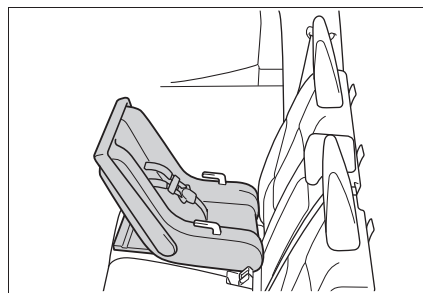
幼児または乳児用のチャイルドシートは、シートベルトの腰ベルト部分で座席に適切に固定されなければならない。

■ シートベルトを使用したチャイルドシートの取り付け（チャイルドシートロック機能付きベルト）

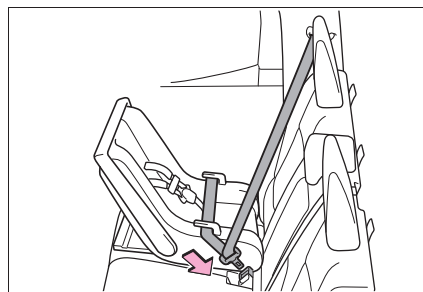
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

■ 後ろ向き — Infant seat（インファントシート）／ Convertible seat（コンバーチブルシート）

- 1 チャイルドシートを車両の後方を向くようにリヤシートに設置する

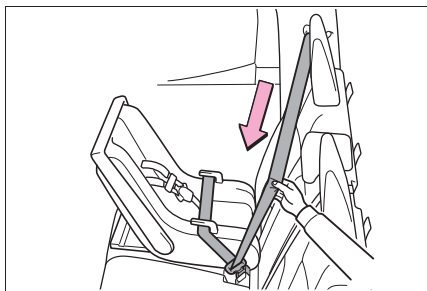


- 2 シートベルトをチャイルドシートに通し、プレートにバックルに挿入してください。ベルトがねじれていないことを確認してください。



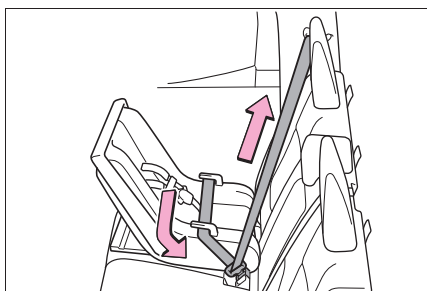
- 3 肩部ベルトを最後まで引き出し、少しもどしてください（ロックモード）。ロックモード

ではベルトを引き出すことはできません。



- 4** チャイルドシートをリヤシートに押さえ付けながら、肩部ベルトを巻き取らせ、チャイルドシートが確実に固定するまで操作する

肩部ベルトが完全に巻き戻り、ベルトにたるみがなくなった後、ベルトが引き出せないことを確認してください。



- 5** 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認する (→P.63)

■ 前向き — Convertible seat (コンバーチブルシート)

リヤシートにチャイルドシートを取り付ける前に：

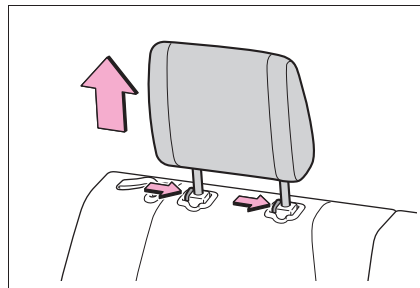
チャイルドシートにトップテザーストラップが付いている場合は、トップテザーストラップを取り付けた後にチャイルドシートを取り付けてください。(→P.54) また、取り付けに関してはチャイルドシート製造元の取扱説明書に従ってください。

1 シートを調整する

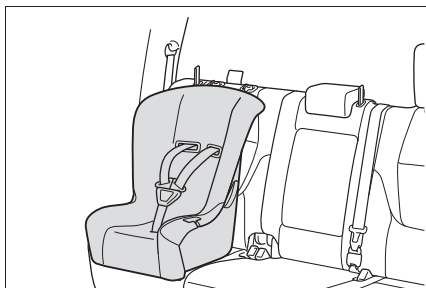
助手席を使用するとき：

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席の調整について P.52 を参照してください。

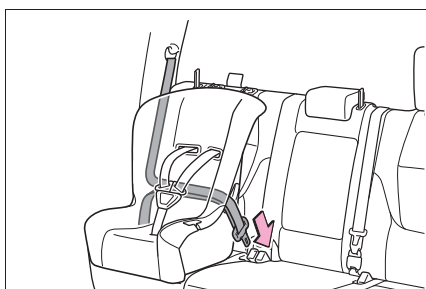
- 2** ヘッドレストがチャイルドシートの取り付けに干渉し、かつヘッドレストを取りはずせる場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→P.134)



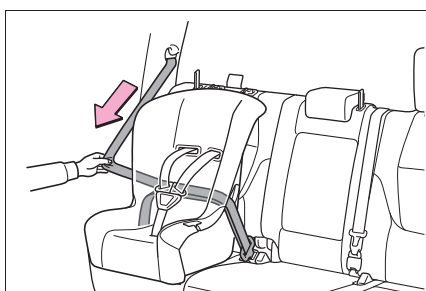
- 3** チャイルドシートを車両の前方を向くように設置する



- 4** シートベルトをチャイルドシートに通し、プレートにバックルに挿入してください。ベルトがねじれていないことを確認してください。

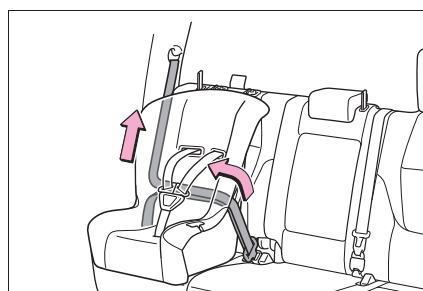


- 5** 肩部ベルトを最後まで引き出し、少しもどしてください（ロックモード）。ロックモードではベルトを引き出すことはできません。



- 6** チャイルドシートをリヤシートに押さえ付けながら、肩部ベルトを巻き取らせ、チャイルドシートが確実に固定するまで操作する

肩部ベルトが完全に巻き戻り、ベルトにたるみがなくなった後、ベルトが引き出せないことを確認してください。

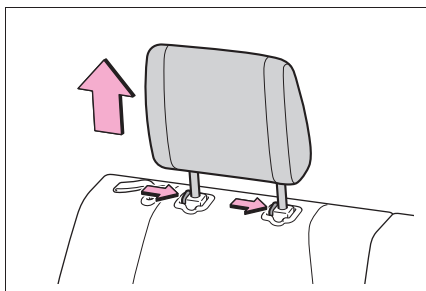


- 7** チャイルドシートにトップテザーストラップが付いている場合は、トップテザーストラップを締める（→P.54）
- 8** 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認する（→P.63）

■ Booster seat（ブースターシート）

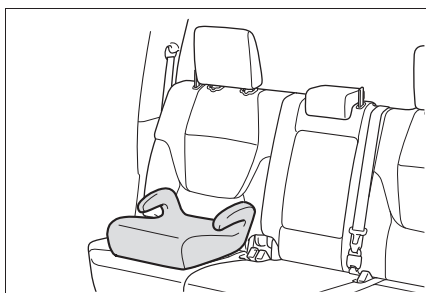
- 1** やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席の調整について P.52 を参照してください。
- 2** ハイバックタイプ：ヘッドレストがチャイルドシートの取り付けに干渉し、かつヘッドレストを取りはずせる場合は、ヘッド

レストを取りはずしてください。(→P.134)

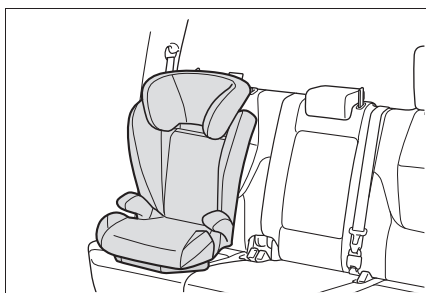


3 チャイルドシートを車両の前方を向くように設置する

▶ ブースタータイプ



▶ ハイバックタイプ



4 お子さまをチャイルドシートに座らせてください。製造元の指示に従ってシートベルトをチャイルドシートに装着し、プレートをバックルに挿入してください。ベルトがねじれていないことを確認してください。

肩ベルトがお子さまの肩に正しく装着され、腰ベルトができるだけ低い位置にあることを確認してください。(→P.29)

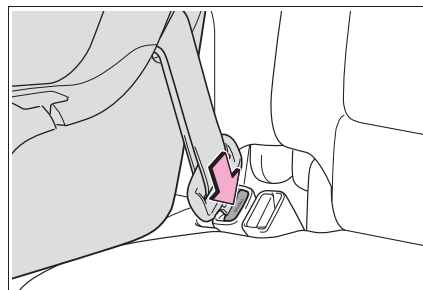


■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がる場合があります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。



 警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- Booster seat（ブースターシート）を使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトが首にかからないようにし、肩からずり落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

- リヤシートにチャイルドシートを固定する場合、一部のタイプでは、チャイルドシートの隣の座席でシートベルトを装着すると、チャイルドシートに干渉したり、シートベルトの効果に影響を与えたりすることがあり、正しく装着できない場合があります。シートベルトが肩から腰にかけてしっかりと装着されていることを確認してください。装着できない場合、またはチャイルドシートの装着を妨げる場合は、別の座席に移動してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートの中央席にチャイルドシートを取り付けるときは、リヤシートの位置と背もたれの角度をあわせてください。リヤシートの位置や背もたれの角度が違くとチャイルドシートを正しく取り付けられず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを調整した場合は、チャイルドシートの固定状態を再度確認してください。

■Booster seat（ブースターシート）を取り付けるとき

シートベルトのロック機構が作動しないように肩部ベルトをすべて引き出さないでください。ベルトがロックされるとベルトが緩まなくなりお子さまにけがや不快な思いをさせるおそれがあります。（→P.31, 33）

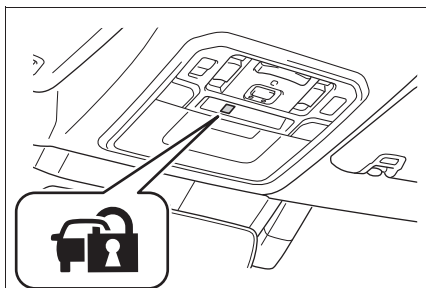
エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

■ 認証情報

→P.510

⚠ 注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはテールゲートが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき（ドアは再び自動的に施錠されます。）
- ボンネットが開けられたとき

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

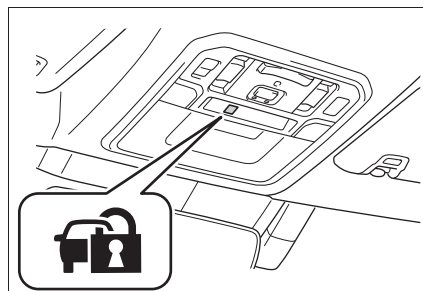
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとパノラマムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラームを設定するには

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはテールゲートを解錠する
- エンジンスイッチをACCまたはONにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

□ 知識

■ メンテナンスについて

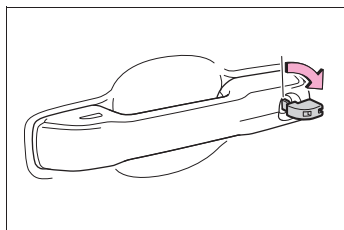
オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。

オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

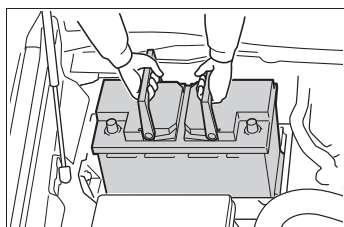
- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



- 車内に残った人が、ドア・ボンネット・パワーテールゲート★を開けたり、解錠したとき



- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき (→P.462)



- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- バッテリーあがりなどで充電・交換したとき



注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

走行に関する情報表示

2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	68
計器類（4.2 インチディスプレイ装着車）	73
計器類（フル液晶ディスプレイ装着車）	77
マルチインフォメーションディスプレイ	81
ヘッドアップディスプレイ	89
燃費画面	93

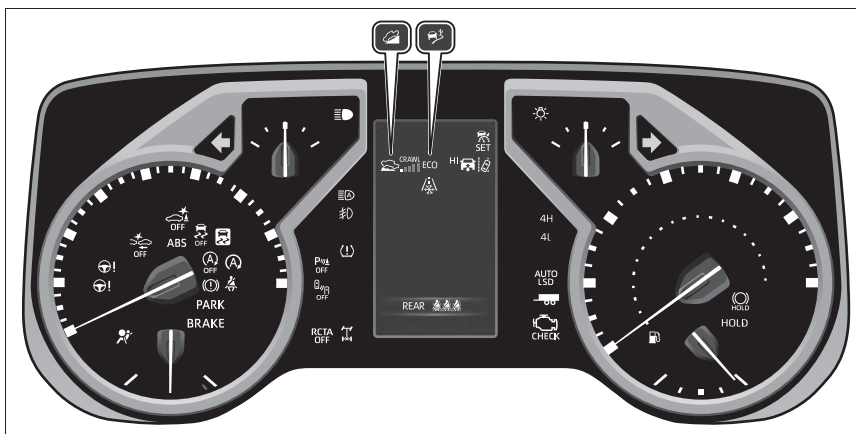
警告灯／表示灯

メーター・オーバーヘッドコンソールパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

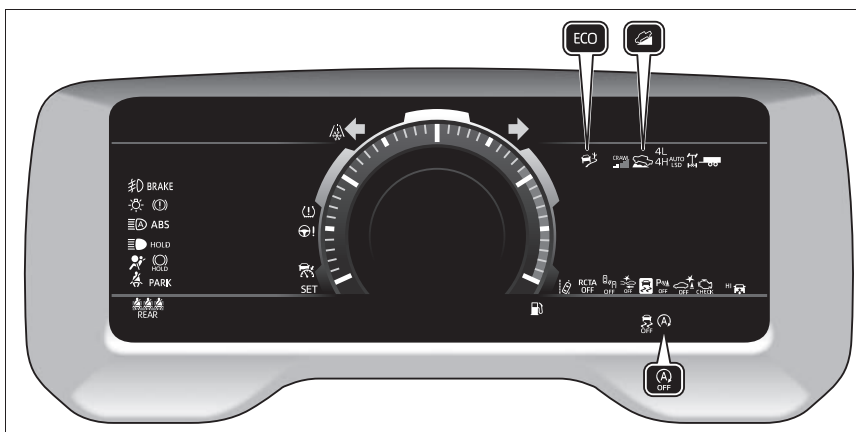
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

▶ 4.2 インチディスプレイ装着車



メーターや一部のインジケーターで使用される単位は、対象地域によって異なる場合があります。

▶ フル液晶ディスプレイ装着車



メーターや一部のインジケーターで使用される単位は、対象地域によって異なる場合があります。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

ブレーキ警告灯 ※¹
(→P.432)ブレーキ警告灯 ※¹
(→P.432)ブレーキ警告灯 ※¹
(→P.432)高水温警告灯 ※²
(→P.432)充電警告灯 ※²
(→P.432)油圧警告灯 ※²
(→P.433)エンジン警告灯 ※¹
(→P.433)エンジン警告灯 ※¹
(→P.433)SRS エアバッグ/プリテンションナー警告灯 ※¹
(→P.433)ABS & ブレーキアシスト警告灯 ※¹ (→P.433)ABS & ブレーキアシスト警告灯 ※¹ (→P.433)パワーステアリング警告灯 ※¹ (→P.434)パワーステアリング警告灯 ※¹ (→P.434)PCS 警告灯 ※¹
(→P.434)LTA 表示灯 ※³
(→P.434)Stop & Start キャンセル表示灯 ※¹ (→P.434)クリアランスソナー OFF 表示灯 ★※⁴ (→P.435)PKSB OFF 表示灯 ★※¹ (→P.435)“RCTA OFF” 表示灯 ★※¹ (→P.435)スリップ表示 ※¹
(→P.436)ペダル誤操作警告灯 ※²
(→P.436)ブレーキホールド作動表示灯 ※¹ (→P.436)

パーキングブレーキ表示灯 (→P.437)



パーキングブレーキ表示灯 (→P.437)



リヤデフロック作動表示灯 ★ (→P.437)

タイヤ空気圧警告灯 ※¹
(→P.437)燃料残量警告灯
(→P.437)



運転席・助手席シートベルト非着用警告灯
(→P.438)



リヤ席シートベルト非着用警告灯 (→P.438)



エアサスペンション異常表示灯★※³
(→P.438)



トレーラーブレーキ警告灯★ (→P.439)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※² メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※³ 4.2 インチディスプレイ装着車：マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※⁴ クリアランスソナーが ON の状態でエンジンスイッチを ON にすると、クリアランスソナー OFF 表示灯が点灯します。数秒後に消灯します。

警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.178)



(Type A)

ヘッドランプ表示灯
(→P.185)



(Type B)

尾灯表示灯 (→P.185)



ハイビーム表示灯
(→P.187)



オートマチックハイビーム表示灯 (→P.188)



フロントフォグランプ表示灯★ (→P.188)



スマートエントリー&スタートシステム表示灯 ※¹
(→P.169)



クルーズコントロール表示灯 ※² (→P.225)



レーダークルーズコントロール表示灯 ※² (→P.225)



クルーズコントロールセット表示灯 ※² (→P.225)



(※³)

LTA 表示灯 ※² (→P.202, 218)



クリアランスソナー OFF 表示灯★※^{4, 5} (→P.248)



PKSB OFF 表示灯★※^{4, 6} (→P.261)



(点滅)

スリップ表示灯 ※⁶
(→P.343)

	VSC OFF 表示灯 ※4, 6 (→P.343)		“SPORT S+” モード表示 灯★※2 (→P.326)
	PCS 警告灯 ※4, 6 (→P.205)		“COMFORT” モード表示 灯★※2 (→P.326)
	BSM ドアミラーインジケー ター★※6, 7 (→P.241, 254)		“CUSTOM” モード表示灯 ★※2 (→P.326)
	BSM OFF 表示灯★※4, 6 (→P.242)		ダウンヒルアシストコント ロールシステム表示灯★※2, 6 (→P.339)
	“RCTA OFF” 表示灯★※4, 6 (→P.255)		エアサスペンション表示灯 ★※2 (→P.323)
	Stop & Start 表示灯 ※6 (→P.235)		“4H” 表示灯★ (→P.328)
	Stop & Start キャンセル表 示灯 ※4, 6 (→P.235)		“4L” 表示灯★ (→P.328)
	ブレーキホールドスタンバイ 表示灯 ※6 (→P.182)		“AUTO LSD” 表示灯★※6 (→P.330)
	ブレーキホールド作動表示灯 ※6 (→P.182)		リヤデフロック作動表示灯★ (→P.331)
	セキュリティ表示灯 ※8 (→P.6465)		クローलコントロール表示灯 ★※2, 6 (→P.333)
	低温表示灯 ※2, 9 (→P.7478)		クローलコントロール速度レ ベル表示灯★※2 (→P.333)
	パーキングブレーキ表示灯 (→P.179)		DIRT モード表示灯★※2 (→P.336)
	パーキングブレーキ表示灯 (→P.179)		SAND モード表示灯★※2 (→P.336)
	“ECO” モード表示灯 ※2 (→P.326)		MUD モード表示灯★※2 (→P.336)
	“SPORT” モード表示灯 ★※2 (→P.326)		DEEP SNOW モード表示灯 ★※2 (→P.336)
	“SPORT S” モード表示灯 ★※2 (→P.326)		ROCK モード表示灯★※2 (→P.336)
			MOGUL モード表示灯★※2 (→P.336)



“TOW HAUL” 表示灯★※2
(→P.176)



“TOW+” 表示灯★※2
(→P.176)



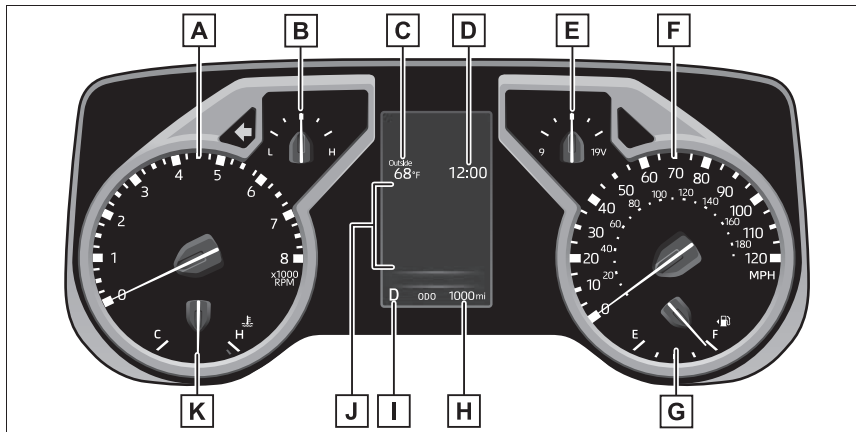
“AIR BAG ON/
OFF” 表示灯 ※4, 8
(→P.44)

- ★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。
- ※1メッセージと一緒にマルチインフォ
メーションディスプレイに表示されま
す。
- ※24.2 インチディスプレイ装着車：マル
チインフォメーションディスプレイに
表示されます。
- ※3システムの作動状態により、表示色と
点灯・点滅の状態が変化します。
- ※4システムが OFF のときに点灯します。
- ※5クリアランスソナーが ON の状態でエ
ンジンスイッチを ON にすると、クリ
アランスソナー OFF 表示灯が点灯し
ます。数秒後に消灯します。
- ※6作動確認のためにエンジンスイッチを
ON にすると点灯し、数秒後またはエ
ンジンを始動すると消灯します。点灯
しない場合や点灯したままのときはシ
ステム異常のおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてくださ
い。
- ※7ドアミラーに表示されます。
- ※8オーバーヘッドコンソールパネルに表
示されます。
- ※9外気温が約 37 °F (3 °C) 以下のと
き、約 10 秒間点滅後に点灯します。

計器類（4.2 インチディスプレイ装着車）

走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について



メーターや一部のインジケーターで使用される単位は、対象地域によって異なる場合があります。

A タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

B 油圧計

エンジンオイルの圧力を示します。

C 外気温（→P.74）

D 時計（→P.74）

表示される時刻はマルチメディアシステムに連動しています。詳しくは別冊 “マルチメディア取扱説明書” を参照してください。

E 電圧計

充電状態を示します。

F スピードメーター

車両の走行速度を示します。

G 燃料計

燃料残量を示します。

H オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.75)**I** シフトポジション・ギヤ段表示

選択したシフトポジションまたはギヤ段を示します。(→P.173)

J マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.81)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.442)

K 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■時計の設定画面

マルチインフォメーションディスプレイの  を選択したときに時計設定の項目が表示される場合は、システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 12 mph [20 km/h] 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “-” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 外気温を -40 °F (-40 °C) ~ 122 °F (50 °C) のあいだで表示します。
- 外気温が約 37 °F (3 °C) 以下のときは、外気温表示の横に  が点滅し、

そのあと点灯します。

■液晶ディスプレイについて

→P.82

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの  から計器類の表示を変更できます。(→P.85)

 警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンプレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意**

■ **エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の表示がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.464）

■ **電圧計**

エンジン回転中に電圧計が 19 V 以上、または 9 V 以下を示すときは、バッテリーや充電系統の異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **油圧計**

エンジン回転中に油圧計の値が低下したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイルが減っていないのに油圧が低下する、またはオイルを補給しても油圧が上昇しないときは、潤滑系統の異常が考えられるため、トヨタ販売店にご連絡ください。

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ **表示項目**

● **オドメーター**

走行した総距離を表示します。

● **トリップメーター A／トリップメーター B**

リセットしてからの走行距離を表示しま

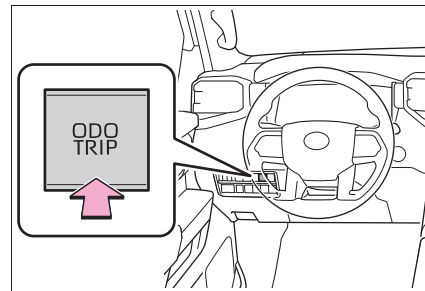
す。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

● **次のエンジンオイル交換までの距離**

オイル交換が必要になるまでの走行距離を表示します

■ **表示の切りかえ**

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にもどります。



■ **割込表示**

状況によって、次の内容が一時的に表示されることがあります。

● **次のエンジンオイル交換までの距離**

次のエンジンオイル交換までの走行距離を表示します。この表示は、次の状況で表示されます。

- エンジンスイッチを ON にしたとき
- オイル交換を間もなく実施する必要がある、または実施が必要であることを示す警告メッセージが表示されたとき

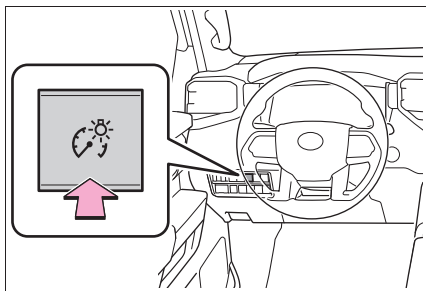
インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整することができます。

ボタンを押すと、インストルメントパネル照明の明るさを調整することができます。

短押し：明るさレベルが 1 階変化します。

長押し：ボタンを離すまで明るさレベルが連続で変化します。



知識

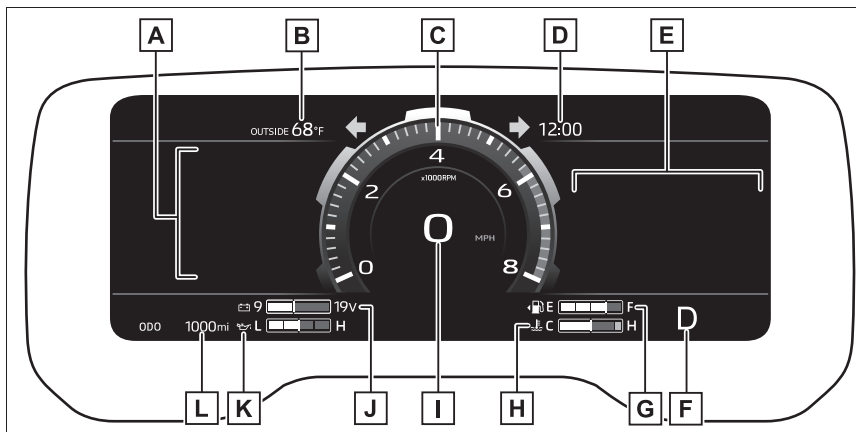
■メーター照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

計器類（フル液晶ディスプレイ装着車）

走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について



メーターや一部のインジケーターで使用する単位は、対象地域によって異なる場合があります。

A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.81)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.442)

B 外気温 (→P.78)

C タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

D 時計 (→P.78)

表示される時刻はマルチメディアシステムと連動しています。詳細は “マルチメディア取扱説明書” をご参照ください。

E 各種情報ゲージ

運転者にさまざまな車両状態のデータを表示します。(→P.80)

F シフトポジション・ギヤ段表示

選択したシフトポジションまたはギヤ段を示します。(→P.173)

G 燃料計

燃料残量を示します。

H 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

I スピードメーター

車両の走行速度を示します。

J 電圧計

充電状態を示します。

K 油圧計

エンジンオイルの圧力を示します。

L オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.79)

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■時計の設定画面

マルチインフォメーションディスプレイの  を選択したときに時計設定の項目が表示される場合は、システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 12 mph [20 km/h] 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 外気温を -40 °F (-40 °C) ~ 122 °F (50 °C) のあいだで表示します。

- 外気温が約 37 °F (3 °C) 以下のときは、外気温表示の横に  が点滅し、そのあと点灯します。

■液晶ディスプレイについて

→P.82

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの  から計器類の表示を変更できます。(→P.85)

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意**

■ **エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の表示がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.464）

■ **電圧計**

エンジン回転中に電圧計が 19 V 以上、または 9 V 以下を示すときは、バッテリーや充電系統の異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **油圧計**

エンジン回転中に油圧計の値が低下したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイルが減っていないのに油圧が低下する、またはオイルを補給しても油圧が上昇しないときは、潤滑系統の異常が考えられるため、トヨタ販売店にご連絡ください。

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ **表示項目**

● **オドメーター**

走行した総距離を表示します。

● **トリップメーター A／トリップメーター B**

リセットしてからの走行距離を表示しま

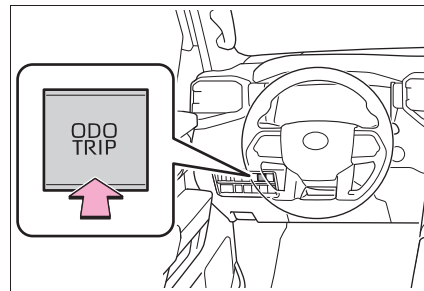
す。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

● **次のエンジンオイル交換までの距離**

オイル交換が必要になるまでの走行距離を表示します。

■ **表示の切りかえ**

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にもどります。



■ **割込表示**

状況によって、次の内容が一時的に表示されることがあります：

● **次のエンジンオイル交換までの距離**

次のエンジンオイル交換までの走行距離を表示します。この表示は、次の状況で表示されます：

- エンジンスイッチを ON にしたとき
- オイル交換を実施する必要がある、または実施が必要であることを示す警告メッセージが表示されたとき

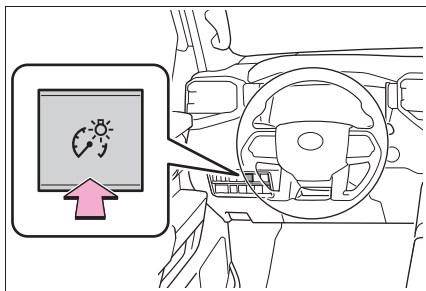
インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整することができます。

ボタンを押すと、インストルメントパネル照明の明るさを調整することができます。

短押し：明るさレベルが1段階変化します。

長押し：ボタンを離すまで明るさレベルが連続で変化します。



知識

■ メーター照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

各種情報ゲージ

各種車両情報を表示します。

■ 表示項目

● ブーストメーター

過給圧を表示します。

● 傾斜計

車両の傾き具合の目安を表示します。

● Tow ゲージ

過給圧、エンジンオイル油温、トランスミッション油温を表示します。

● OFF

表示が OFF になります

■ 表示項目の変更

- 1 メーター操作スイッチの < または > を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの ^ または v を押して “Customize Right Side” を選択し、OK スイッチを長押しする。
- 3 変更したい項目を選択し、OK スイッチを押す。

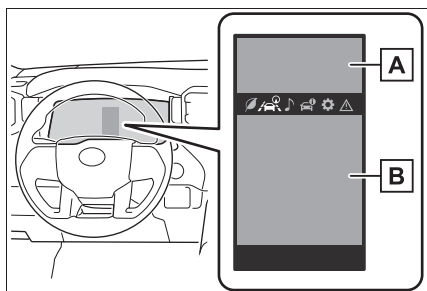
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、各システムの設定などを変更することもできます。

ディスプレイの表示とメニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示

▶ 4.2 インチディスプレイ装着車



A 走行支援システム表示エリア

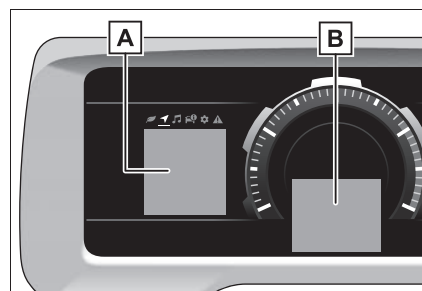
-  以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動していると、システムの作動状況を表示します。
- ・ LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.213)
 - ・ レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) (→P.225)
 - ・ RSA (ロードサインアシスト) ★ (→P.222)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

B コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

▶ フル液晶ディスプレイ装着車



A 走行支援システム表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

B 走行支援システム表示エリア

- ・ LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.213)
- ・ レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) (→P.225)
- ・ RSA (ロードサインアシスト) ★ (→P.222)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ メニューアイコン一覧

メーター操作スイッチの < または > を押すとメニューアイコンが表示されます。

▶ 4.2 インチディスプレイ装着車

-  走行情報表示 (→P.83)
-  運転支援機能情報表示 (→P.84)
-  オーディオシステム連携表示 (→P.84)
-  車両情報表示 (→P.84)
-  設定 (→P.85)
-  警告メッセージ (→P.87)

▶ フル液晶ディスプレイ装着車

-  走行情報表示 (→P.83)
-  ナビゲーションシステム連携表示 (→P.84)
-  オーディオシステム連携表示 (→P.84)
-  車両情報表示 (→P.84)
-  設定 (→P.85)
-  警告メッセージ (→P.87)

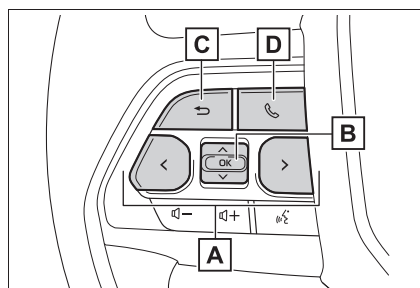
 知識

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A 画面のスクロール※・表示内容の切りかえ※・カーソルの移動

B 短押し：決定

長押し：リセット・詳細項目表示

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊“マルチメディア取扱説明書”を参照してください。

※ 画面のスクロールや表示の切りかえなどが可能な画面では、スクロールバー、または表示可能な画面数を示す丸いアイコンが表示されます。

 警告

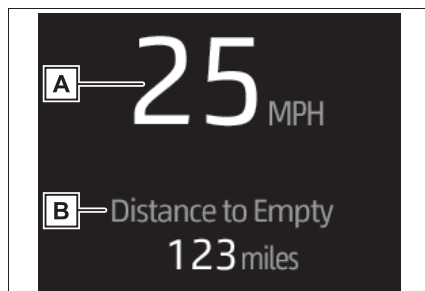
■ 走行中の警告

安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、走行中は画面を見続けしないでください。

走行情報表示画面について

燃費に関するさまざまな情報を表示します。

■ デジタル車速表示／航続可能距離（4.2 インチディスプレイ装着車のみ）



A 車速表示

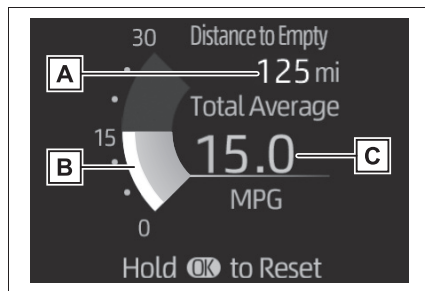
現在の車速を表示します。

B 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→P.84）

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。



A 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。（→P.84）

B 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

C リセット後平均燃費

平均燃費をリセットするには、メーター操作スイッチのOKを長押しします。

平均燃費の表示は、メニューアイコンの⚙から変更することができます。（→P.85）

● 始動後平均燃費

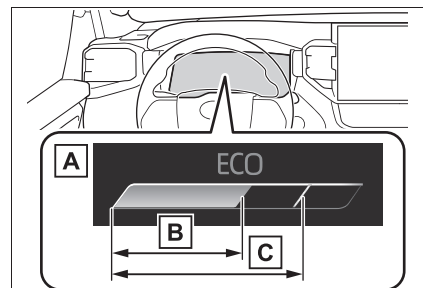
エンジン始動後の平均燃費を表示します。

● 給油後平均燃費

給油後の平均燃費を表示します。

■ エコドライブインジケーター／航続可能距離

● エコドライブインジケーター



A エコドライブインジケーター

ゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

B 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。

C エコ運転の範囲

● 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。表示される数値は参考として利用してください。
(→P.84)



知識

■ 航続可能距離について

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量のとき、表示が更新されないことがあります。給油の際は、エンジンスイッチを OFF にしてください。エンジンスイッチを OFF にせずに給油すると、表示が更新されないことがあります。
- “Refuel” と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。その場合は、すみやかに給油してください。

運転支援機能情報表示画面について（4.2 インチディスプレイ装着車のみ）

■ 運転支援機能情報

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーンレーシングアシスト）（→P.213）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.225）

■ ナビゲーションシステム連携表示

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

- ルート案内表示
- コンパス（ヘッドアップ表示）

ナビゲーションシステム連携表示（フル液晶ディスプレイ装着車のみ）

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

- ルート案内表示
- コンパス（ヘッドアップ表示）

オーディオシステム連携表示

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

車両情報表示について

■ トレーラーブレーキ

トレーラーブレーキ制御状態とトレーラータイプ※を表示します。

※ トレーラーを選択するには、OK メーター操作スイッチを長押しします。
(→P.86)

■ トレーラーモード BSM

トレーラーの長さ※とトレーラーの死角状態を表示します。
(→P.241)

※ トレーラーを選択するには、OK メーター操作スイッチを長押しします。
(→P.86)

■ 傾斜計 (4.2 インチディスプレイ装着車のみ)

車両の傾き具合の目安を表示します。

■ ドライブインフォメーション

“Drive Info Items” の設定で選択した項目 (平均車速・走行距離・走行時間) を上下に 2 つ、表示させることができます。

各情報の内容は、“Drive Info Type” の設定 (始動後・リセット後) との組み合わせによって変化します。(→P.85)

表示される情報は、参考としてご利用ください。

表示できる組み合わせは次のとおりです。

● “Trip”

- ・ “Average Speed” : エンジン始動後の平均車速を表示 ※
- ・ “Distance” : エンジン始動後の走行距離を表示 ※
- ・ “Total Time” : エンジン始動後の経過時間を表示 ※

※ エンジンを停止するたびに、表示がリセットされます。

● “Total”

- ・ “Average Speed” : リセット後の平均車速を表示 ※
- ・ “Distance” : リセット後の走行距離を表示 ※
- ・ “Total Time” : リセット後の経過時間を表示 ※

※ リセットするには、リセットしたい項

目を表示中にメーター操作スイッチの OK を長押しします。

■ タイヤ空気圧表示

各タイヤの空気圧を表示します。

設定について

■ 変更できる項目 (メーター表示)

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位を選択することができます。

● メータータイプ (フル液晶ディスプレイ装着車のみ)

メインダイヤルのタイプをスピードメーターまたはタコメーターに変更することができます。

● / (走行情報表示画面設定)

・ 燃費グラフ
平均燃費の表示を始動後／リセット後／給油後から選択することができます。
(→P.83)

● / (オーディオ設定)

オーディオ連動表示の表示・非表示を選択することができます。

● / (車両情報表示画面設定)

次の設定を変更することができます。

・ ドライブインフォメーションタイプ
始動後／リセット後から選択することができます。

- ・ドライブインフォメーション項目

1 行目と 2 行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

● 割込表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● マルチインフォメーションディスプレイの消灯

マルチインフォメーションディスプレイを非表示にすることができます。

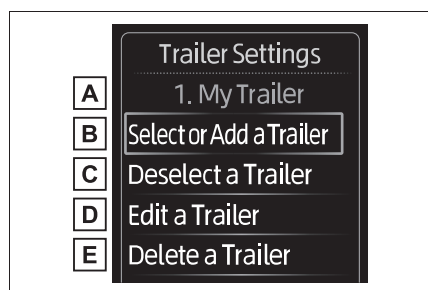
再度表示させるにはいずれかのメーター操作スイッチを押してください。

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

■ トレーラータイプの設定の変更

● トレーラー設定画面



- A** 現在選択されているトレーラーの名前を表示（トレーラーがまだ選択されていない場合は “No Trailer Selected” と表示されます。）

- B** 新しいトレーラーの追加／保存済みトレーラーの選択
- ・ 最大 10 台のトレーラーを保存できます。

- ・ トレーラー名、長さ、ヒッチタイプ、ブレーキタイプ、車軸数を選択します。
- ・ 設定できるトレーラーは、車両に搭載されているトレーラーシステムによって異なります。（トレーラーブレーキコントローラー、トレーラーバックアップガイド、トレーラーモード BSM）

C 選択されているトレーラーの解除

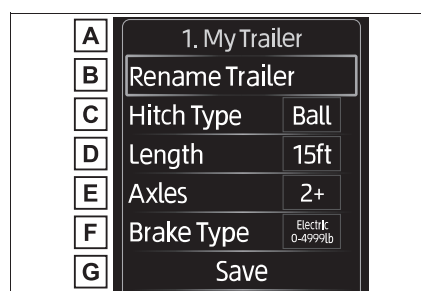
- ・ 4 ピントレーラーコネクタが接続されていないときに使用します。（4 ピントレーラーコネクタを接続していない場合はトレーラーブレーキコントローラーでは自動検出できません）

D 保存済みトレーラーの編集（名称、長さ、ヒッチタイプ、ブレーキタイプ、車軸数）

- ・ 編集可能なトレーラーは、車両にどのトレーラーシステムが搭載されているかによって異なります。（トレーラーブレーキコントローラー、トレーラーバックアップガイド、トレーラーモード BSM）

E 保存したトレーラーの削除

● トレーラー詳細画面



- A** 現在追加または編集集中のトレーラーの名前を表示します。
- B** トレーラーの名前を変更します。

す。

- C** トレーラーのヒッチタイプをボールヒッチ（従来型）、グースネック、またはフィフスホイールから選択します。ただし、グースネックとフィフスホイールトレーラーは、一部の機能（トレーラーバックアップガイドおよびトレーラーモードBSM）ではサポートされていません。

- D** トレーラーの長さを変更します。正確な長さが記載されていない場合は、トレーラーの実際の長さを最も近い値に切り上げてください。

“Auto” で長さ検出も選択できます。

- E** 車軸の数を変更する。

- F** トレーラーのブレーキタイプ（電動または電動油圧）と重量を変更する。またはトレーラーのトレーラーブレーキを OFF にします。

- G** トレーラー情報を保存する。
トレーラーの値にエラーがある場合は、値を再選択するか、トレーラーを削除して再度保存してください。エラーが解決しない場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

■ 変更できる項目（機能の切り替え・車両設定）

→P.475

□ 知識

■ 設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

⚠ 警告

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

警告メッセージ表示画面について

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→P.442）

Stop & Start システムの情報

- Stop & Start システム作動時間
(始動後) / 状態通知

Stop & Start システムの作動によりエンジンが停止してからの現在の時間を表示します。

また、Stop & Start システムの状態を割込表示で表示します。(→P.238)

- Stop & Start システムの設定

エアコンの“A/C”スイッチがONのときに、Stop & Start システムが作動する時間は、マルチインフォメーションディスプレイの  から変更できます。

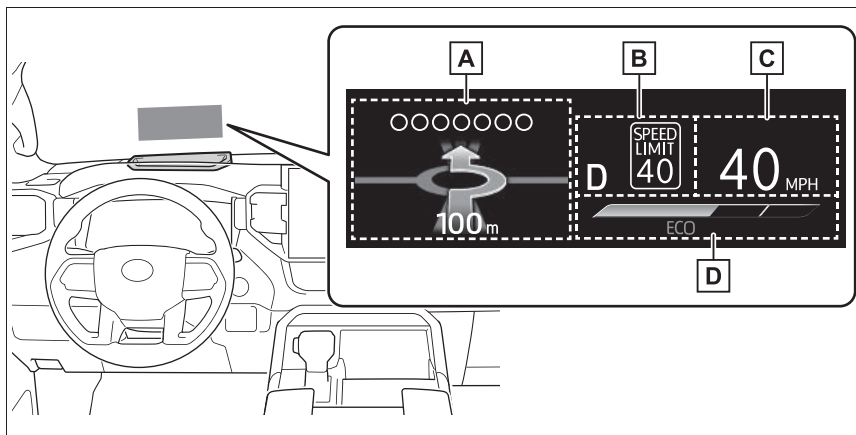
(→P.238)

ヘッドアップディスプレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

- A** 運転支援システム表示エリア★／ナビゲーションシステム連携表示エリア（→P.91）
- B** シフトポジション／RSA（ロードサインアシスト）表示エリア★（→P.173, 222）
- C** 車速表示
- D** エコドライブインジケーター／外気温表示エリア（→P.92）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ヘッドアップディスプレイの作動条件
エンジンスイッチがON のとき

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整する

か、サングラスをはずしてください。

■ 交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

⚠ 警告

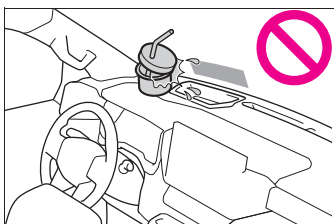
■ ヘッドアップディスプレイを使用するときは

- 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあります。

⚠ 注意

■ ヘッドアップディスプレイ映写部について

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかる、装置が故障の原因になります。



- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

マルチインフォメーションディスプレイの から “HUD Main” を選択します。(→P.477)

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

メーター操作スイッチの OK を押すごとにヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。

■ ヘッドアップディスプレイの設定変更

メーター操作スイッチの OK を長押しすると次の設定を変更できます。

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● 表示内容

次のいずれかから表示する項目を選択することができます。

- ・ 表示なし
- ・ エコドライブインジケータ表示
- 次の内容の表示／非表示を設定することができます。
 - ・ 目的地案内
 - ・ 運転支援システム表示

- ・ コンパス（ヘッドアップ表示）
- ・ オーディオシステム表示
- 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。



■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■ 表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。



警告

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

運転支援システム表示エリア★／ナビゲーションシステム連携表示エリア

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 運転支援システム状況表示

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.213）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.225）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

■ ナビゲーションシステム連携表示エリア

ナビゲーションシステムと連携してルート案内を表示します。

- 交差点名
- 目的地案内
- コンパス（ヘッドアップ表示）

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.202）
- LTA（レーントレーシングアシ

スト) (→P.213)

- PKSB (パーキングサポートブレーキ) ★ (→P.259)
- ブレーキオーバーライドシステム (→P.162)
- ドライブスタートコントロール (→P.167)

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ⚠ / ⓘ アイコン

これらのアイコンはマルチインフォメーションディスプレイに連動しています

⚠: マスターワーニングアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。(→P.442)

ⓘ: インフォメーションアイコン

マルチインフォメーションディスプレイにアドバイスポップアップが表示されたときに表示されます。

■ 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。(マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容)

■ オーディオシステム表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

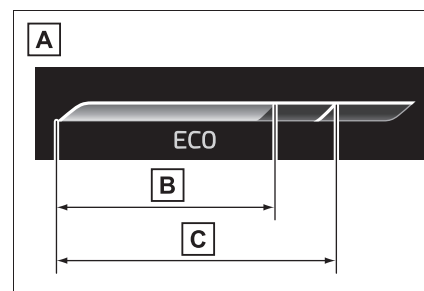
□ 知識

■ 割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

エコドライブインジケーター／外気温表示エリア

■ エコドライブインジケーター



A エコドライブインジケーターゾーン表示

B 現状のアクセル開度

C エコ運転の範囲

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイのエコドライブインジケーターと同様です。詳しくは、P.83 を参照してください。

■ 外気温表示

エンジンスイッチを ON にしたとき、または低温表示が点滅しているときに表示されます。

知識

■ 外気温表示について

- 外気温が約 37°F (3℃) 以下のとき、低温表示灯が約 10 秒間点滅し、外気温が非表示になります。
外気温が約 41°F (5℃) 以上になると再度外気温が表示されます。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 16 mph [25 km/h] 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

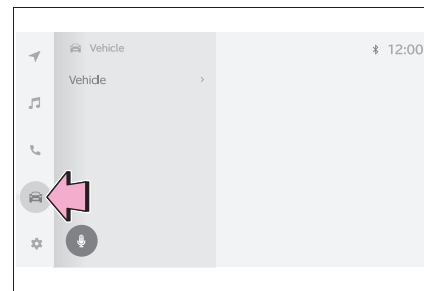
燃費画面

燃費に関する情報をマルチメディアディスプレイに表示します。

燃費画面の表示のしかた

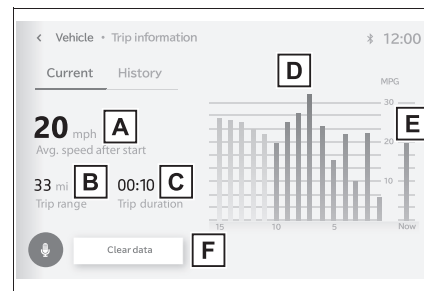
■ 瞬間燃費画面

- 1 メインメニューの  にタッチする。



- 2 “Trip information” にタッチする。

瞬間燃費画面以外が表示されたときは、“Current” にタッチします。



A エンジン始動後平均車速

B 航続可能距離

C エンジン始動後経過時間

2

走行に関する情報表示

D 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費
(平均燃費)

E 瞬間燃費

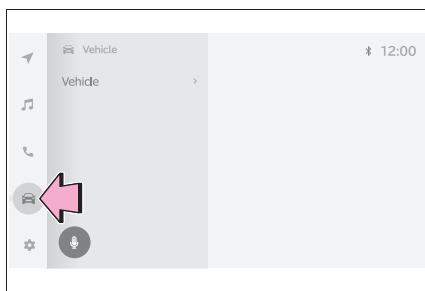
F 履歴消去

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

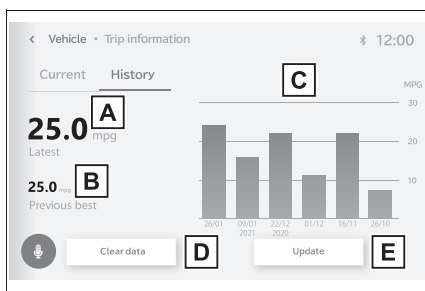
■ 燃費履歴画面

1 メインメニューの  にタッチする。



2 “Trip information” にタッチする。

燃費履歴以外が表示されたときは、“History” にタッチします。



A 最新値表示

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴消去

E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 知識

■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“Update”を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

“Clear data”を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

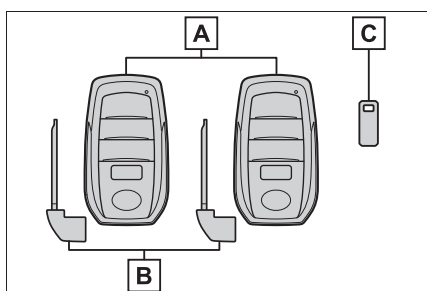
表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

3-1. キー	
キー	96
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア（フロントドア・リヤドア）	99
パワーランニングボード	103
テールゲート	106
パワーベッドステップ	117
スマートエントリー&スタートシステム	119
3-3. シートの調整	
フロントシート	124
リヤシート	126
パワーイージーアクセスシステム／ ポジションメモリー／メモリー コール機能	129
ヘッドレスト	133
3-4. ハンドルの位置・ミラー	
ハンドル	136
インナーミラー	138
デジタルインナーミラー	139
ドアミラー	147
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	150
パワーバックウインドウ	153
パノラマムーンルーフ	154

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.119)
- ・ワイヤレス機能の作動 (→P.97)

B メカニカルキー

C キーナンバープレート



知識

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 電子キーを長時間使用しないときは、節電モードにすることで電池の消耗を

抑えることができます。(→P.121)

- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・作動範囲が狭くなった
 - ・電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 3 ft (1 m) 以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ 電池の交換方法

→P.414

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “A New Key has been Registered Contact Your Dealer for Details” と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。

電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

**注意****■キーの故障を防ぐために**

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 3.9 in. (10cm) 以上離して携帯してください。3.9 in. (10cm) 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

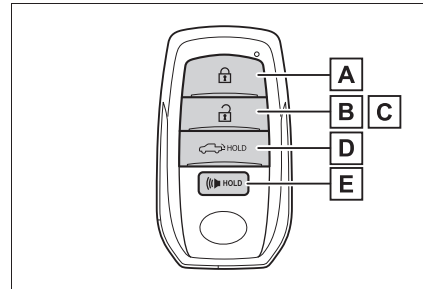
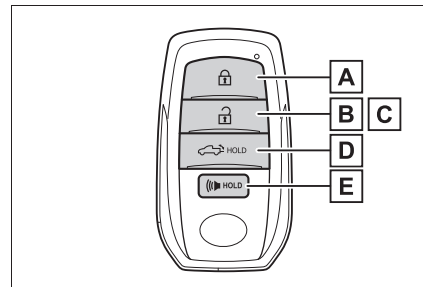
→P.458

■電子キーを紛失したとき

→P.457

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。

▶ パワーテールゲート非装着車**▶ パワーテールゲート装着車**

A 全ドアおよびテールゲートを施錠する (→P.99)

B 全ドアおよびテールゲートを解錠する (→P.99)

C ドアガラスとパノラマムーンルーフ★を開く ※ (→P.99)

D テールゲートを開く、または、パワーテールゲート★の開閉とパワーベッドステップ★の展開 ※ (→P.107, 118)

E アラームを鳴らす

※ トヨタ販売店で設定変更が必要です。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

3

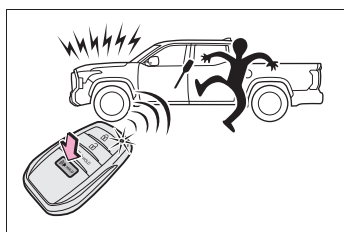
運転する前に

知識

■盗難防止（パニック）モード

（HOLD ボタンを約 1 秒以上押すと、アラームが断続的に鳴り、ライトが点滅して、車両への不正な侵入や破損を抑止します。

電子キーのいずれかのスイッチを押すと、アラームは停止します。

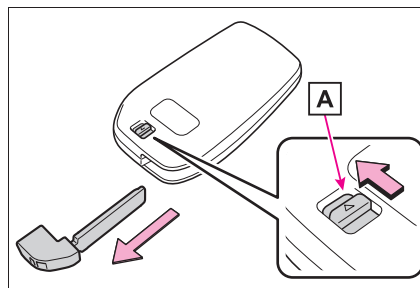


メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバー **A** をスライドさせてキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P.458）



知識

■駐車場などでキーを預けるとき

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.457

■不正キーの使用について

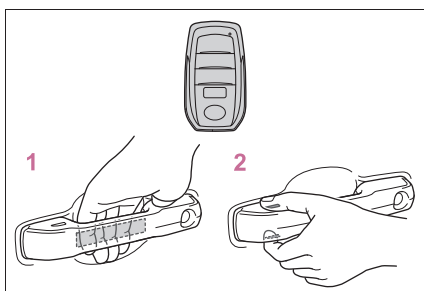
指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



- 1 運転席ドアハンドルを握るとドアが解錠されます。運転席ドアハンドルを約 2 秒間握り続けると、全ドアが解錠されます。助手席のドアハンドルを握ると、全ドアが解錠※されます。

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

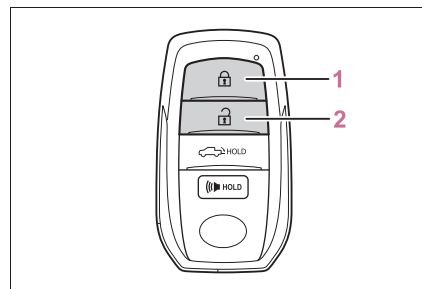
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

- 2 ドアハンドル上部、または、下部のロックセンサー部（ドアハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

※ ドアの解錠方法は変更することができます。

■ ワイヤレス機能を使用する



- 1 全ドアおよびテールゲートを施錠する

ドアとテールゲートが必ず施錠されたことを確認してください。

- 2 全ドアおよびテールゲートを解錠する

ボタンを押すと運転席ドアが解錠されます。5 秒以内に再度ボタンを押すと、他のドアも解錠されます。

押し続けるとドアガラスとパノラマムーンルーフ★が開きます。※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 エンジンスイッチを OFF にする

- 2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに  ボタンと同時に、

 HOLD ★、 HOLD ★、または

 HOLD のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと5秒以上間隔をあけてから手順2を行ってください)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
 車外：3回鳴動 室内：1回鳴動	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 助手席のドアハンドルを握ると全ドアとテールゲートの解錠
 車外：2回鳴動 室内：1回鳴動	フロントドアのドアハンドルを握ると全ドアとテールゲートの解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。( ボタンを押して60秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます) オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→P.65)

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないこ

とがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)

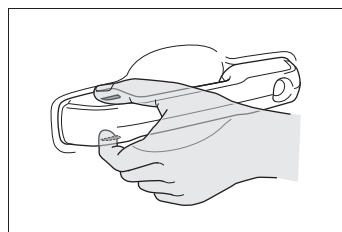
ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約60秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル上部のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上部のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、上部と下部の両方のロックセンサーにふれてください。



■ドアオープン警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようすると、警告ブザーが約5秒間連続して鳴ります。ブザーを止めるには、ドアを完全に閉めてから、再度施錠してください。

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.65)

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.121

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.458)

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.414)

■バッテリーがあがったとき

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアの施錠・解錠ができなくなります。メカニカルキーで施錠・解錠してください。(→P.458)

■リヤシートリマインダー機能

- リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからエンジンスイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ・リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にエンジンを始動した
- ・エンジンがかかっている状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

- リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使いによっては、リヤシートに荷物などを置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

- リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。(→P.475)

■カスタマイズ機能

一部の機能はカスタマイズ可能です。(→P.475)

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない

特に、フロントドアはロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

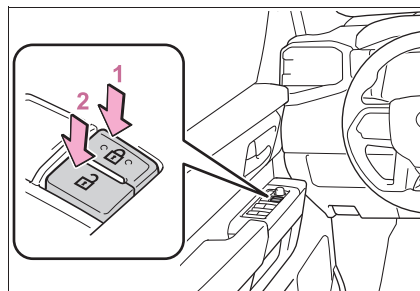
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

車内から解錠／施錠するには

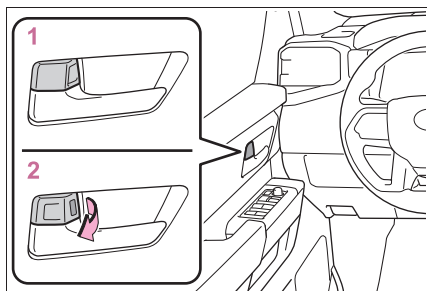
■ ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

フロントドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



■ キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアを閉める

エンジンスイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

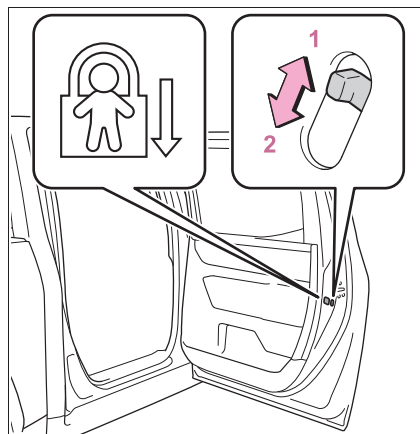
■ 半ドア走行時警告ブザー

ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 3 mph (5 km/h) をこえると警告ブザーが鳴ります。

開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

チャイルドプロテクター

施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.475 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 12 mph (20 km/h) 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	シフトレバーを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。

機能	作動内容
シフト操作連動アンロック	シフトレバーをPにしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチをOFFにしてから約45秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

パワーランニングボード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーランニングボードは、車内からのスイッチ操作、もしくはドアの開閉に連動して展開・格納します。

また、約 3 mph (5 km/h) 以上で走行すると自動的に格納されます。

⚠ 警告

■ パワーランニングボードの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パワーランニングボードの作動中はすべての乗員と周囲の人がパワーランニングボードに手をふれたり、体の一部がボードと車両のあいだに挟まれないようにしてください。
- 乗り降りする前に、パワーランニングボードが完全に展開／格納したことを確認してください。パワーランニングボード作動中に乗り降りすると、作動が停止することがあります。
- スイッチを操作するときは周囲の人やものに注意してください。パワーランニングボードが展開／格納すると、周囲の人やものにぶつかるおそれがあります。

3

運転する前に

警告

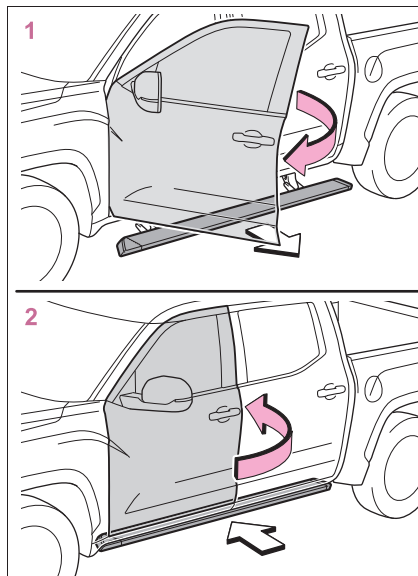
- パワーランニングボードを清掃するときやジャッキアップ前、または車両の下に何かものを置く前、パワーランニングボードが正常に作動していない場合は必ずパワーランニングボードの作動を OFF にしておいてください。
- お子さまにパワーランニングボードを操作させないでください。パワーランニングボードを操作することで周囲の人にパワーランニングボードがぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

体の一部を挟んだりしないでください。

挟まれたものの形状によっては、挟み込み防止機能が作動しないおそれがあります。

ドア連動機能

- 1 ドアを開ける：パワーランニングボードが展開されます。
- 2 ドアを閉める：パワーランニングボードが格納されます。

知識**挟み込み防止機能**

パワーランニングボード展開時に障害物に接触すると格納されます。格納時に障害物がパワーランニングボードと車両のあいだに挟まると、パワーランニングボードが展開されます。

パワーランニングボード作動中に 3 回連続で障害物を検知すると、パワーランニングボードはその障害物が接触している位置で停止します。障害物を取り除いたあと、停止している側のドアを開閉するかスイッチを操作すると、パワーランニングボードが再度展開／格納されます。

自動格納機能

次のときは、安全のためパワーランニン

グボードが自動で格納されます。

- パワーランニングボードが完全に格納されていない
- 車速が約 3 mph (5 km/h) 以上のとき

車速が約 3 mph (5 km/h) 未満になってもパワーランニングボードは再び展開しません。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Running Board Unable to Deploy” が表示されたときは

パワーランニングボードが完全に展開されない可能性があります。

再度ドアを開閉するかスイッチ (→P.105) を操作し、パワーランニングボードを完全に展開してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Power Steps Unable to Retract” が表示されたときは

パワーランニングボードが完全に格納されない可能性があります。

パワーランニングボードと車両のあいだに何も挟まっていないことを確認してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Power Steps System Malfunction See Owner’s Manual” が表示されたときは

パワーランニングボードに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パワーランニングボードに雪や泥が付着したり、凍結しているときは

パワーランニングボードが正常に作動しない場合があります。

ボードを使用前に、ボードが完全に展開されていることを確認してください。

パワーランニングボードが正常に作動しない場合は、スイッチを “OFF” にして

使用を中止してください。

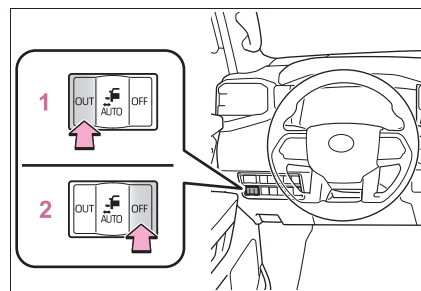
■ バッテリーを脱着したときは

パワーランニングボードが完全に展開／格納していない場合、最初の操作で正しく作動しないことがあります。ただし、2回目以降は正常に動作します。

■ 車両に乗り降りするときは

衣服や靴が車両下部に接触して汚れないように注意してください。

車内からパワーランニングボードを展開／格納するには



1 両側のパワーランニングボードを展開する

2 両側のパワーランニングボードを格納する

パワーベッドステップもスイッチ操作に連動します。(→P.117)

スイッチを中立位置にすると、パワーランニングボードが AUTO モードになります。AUTO モードでは、ドアの開閉に連動して作動します。

“OUT” 側にとするとパワーランニングボードとパワーベッドステップの両方が展開します。すでに展開している場合は作動しません。

“OFF” 側にとすると、パワーランニングボードおよびパワーベッドステップの両方が格納されます。すでに格納されている場合は作動しません。

知識

■ 自動格納機能

次の場合、安全のためパワーランニングボードは自動的に格納します。

- 車速が約 3 mph (5 km/h) 以上になると自動で格納されます。

テールゲート

テールゲートは次の方法で施錠・解錠、および開閉することができます。

⚠ 警告

■ 運転するとき

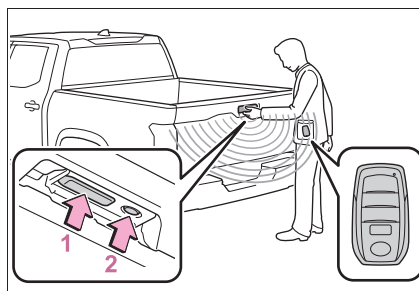
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テールゲートが開いている状態で走行しないでください。
- リヤステップバンパーに人を乗せないでください。

テールゲートを解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



- 1 テールゲートを解錠する（パワーテールゲート非装着車）または、テールゲートを開閉します（パワーテールゲート装着車）

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 すべてのドアとテールゲートを施錠する

テールゲートが確実にロックされていることを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.97

テールゲートを開閉するには (パワーテールゲート非装着車)

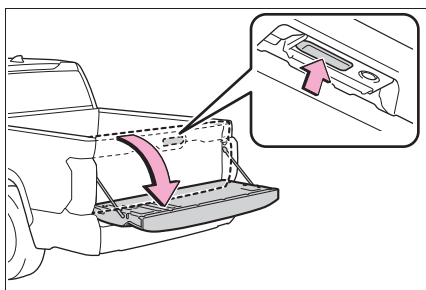
■ テールゲートを開ける

- ▶ ハンドルスイッチを使用して開閉する

テールゲートを解錠してから操作してください。

テールゲートオープナースイッチを押したまま、テールゲートをゆっくり開ける

サポートケーブルがテールゲートを水平に保持します。

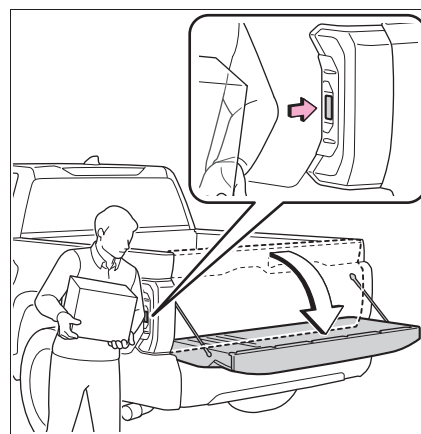


- ▶ テールゲートリリーススイッチを使用して開閉する

電子キーを携帯して、左側テールランプにあるテールゲートオープナースイッチを押す

テールゲートは自重によって開きます。

サポートケーブルがテールゲートを水平に保持します。



- ▶ ワイヤレス機能を使用して開閉する★

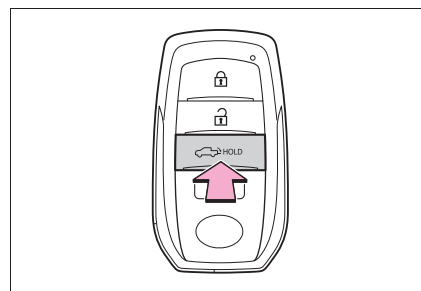
スイッチを押し続ける ※

テールゲートは自重によって開きます。

サポートケーブルがテールゲートを水平に保持します。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



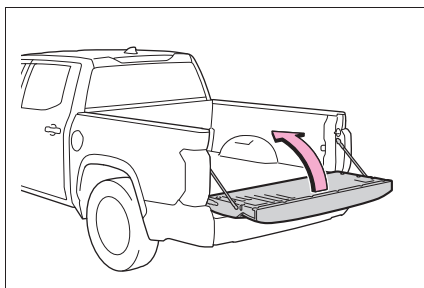
■ テールゲートを閉める

テールゲートを持ち上げて閉める

テールゲートを閉じたあとは、手前に引いてしっかりとロックされていることを確認します。

3

運転する前に



⚠ 警告

■ テールゲート開閉について（テールゲートリリーススイッチおよびワイヤレスリモコン）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 上り坂では、テールゲートリリーススイッチや電子キーのスイッチを押すと、テールゲートが突然開くことがあります。テールゲートが完全に開いていることを確認してください。
- 下り坂では、テールゲートリリーススイッチや電子キーのスイッチを押しても、テールゲートが開きにくい場合があります。テールゲートが完全に開いていることを確認してください。

⚠ 注意

■ テールゲート開閉について（テールゲートリリーススイッチおよびワイヤレスリモコン）

- 周囲の安全を確認し、障害物や持ち物に接触しないことを確認してください。

- テールゲートが凍結していないか、開閉が妨げられていないか確認してください。
- テールゲートリリーススイッチ付近に強い衝撃が加わった場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- テールゲートリリーススイッチにシールなどを貼ったり塗装したりしないでください。
- テールゲートにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けしないでください。

■ テールゲートを閉じたあとは

手前に引いてしっかりとロックされていることを確認してください。

📖 知識

■ テールゲート開放警告の設定変更について

テールゲートを開いたまま放置すると、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイの  から設定を変更できます。 

Alert を選択し、設定を変更してください。（→P.479）

■ カスタマイズ機能

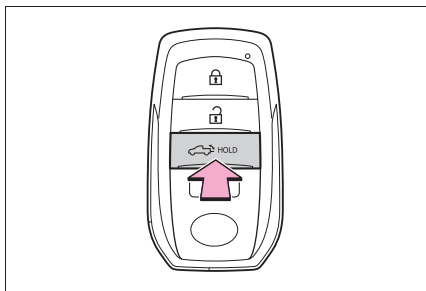
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.475）

テールゲートを開閉するには （パワーテールゲート装着車）

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

スイッチを押し続ける

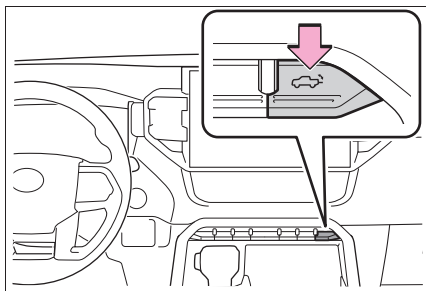
パワーテールゲートが自動で開閉します。開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、パワーテールゲートは反転作動します。



■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを押し続ける

パワーテールゲートが自動で開閉します。開閉作動中にスイッチを押すと、作動が反転します。作動が反転した状態から再度スイッチを 2 回押すと、パワーテールゲートは停止します。



■ テールゲートを開ける

テールゲート解錠時：

テールゲートオープナースイッチを押す

テールゲート施錠時：

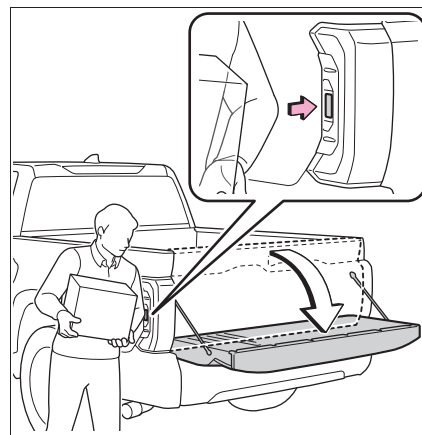
電子キーを携帯して、テールゲートオープナースイッチを押す

パワーテールゲートが自動で開きます。

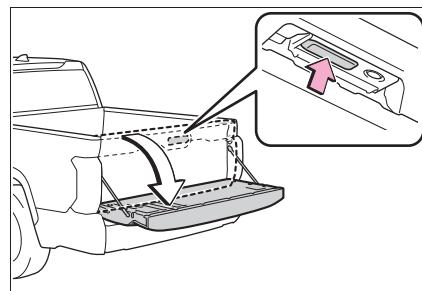
パワーテールゲートの開閉中にスイッチを押すと、動作が反転します。さらに 2 回反転操作を行うと、スイッチの機能は停止します。スイッチを再度有効にするには、テールゲートを手動で閉めてください。

サポートケーブルがテールゲートを水平に保持します。

▶ テールランプのテールゲートオープナースイッチ



▶ テールゲートハンドルのテールゲートオープナースイッチ

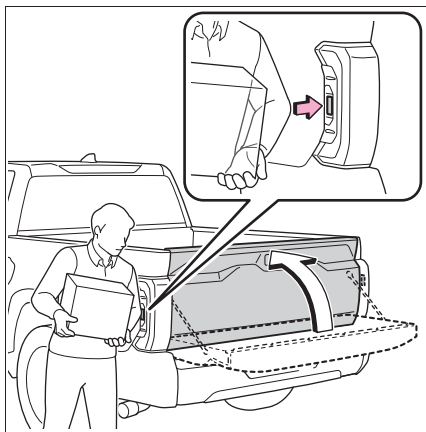


■ テールゲートを閉じる

▶ テールランプのテールゲートオープナースイッチを使用する
スイッチを押す

パワーテールゲートが自動で閉じます。

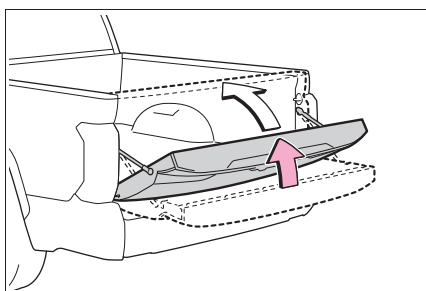
開閉作動中にスイッチを押すと、作動が反転します。作動が反転した状態から再度スイッチを2回押すと、パワーテールゲートは停止します。



▶ クローズアシスト

テールゲートが全開の状態から、手または膝を使って約 0.8in. (2cm) 以上持ち上げます。

テールゲートのクローズアシスト機能が作動し、パワーテールゲートが自動的に完全に閉まります。



■ テールゲート開放警告の設定変更について

テールゲートを開いたまま放置すると、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示

されます。

マルチインフォメーションディスプレイの から設定を変更できます。

Alert を選択し、設定を変更してください。(→P.479)

■ テールゲートクローザー

テールゲートが半ドア状態になったとき、テールゲートクローザーが作動し自動で完全に閉まります。

エンジンスイッチがどの状態であっても、テールゲートクローザーは作動します。

■ バッテリー節電機能

エンジンスイッチが OFF の状態で、テールゲートが8時間以上開いたままの場合、クローズアシスト機能が作動しないことがあります。

その際は、ドアの解錠または電子キーを携帯した状態でドアを開ける(→P.120)と、システムが再起動し、クローズアシストが作動します。

■ パワーテールゲートの作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

● パワーテールゲートの作動が ON のとき (→P.113)

● テールゲートが解錠されているとき

ただし電子キーを携帯してテールゲートハンドルやテールランプのオープナースイッチを押したときは、テールゲートが施錠されていてもパワーテールゲートが作動します。(→P.109)

● 車速が約 2 mph (3 km/h) 未満のとき

■ パワーテールゲートの作動について

● 作動開始時に非常点滅灯が2回点滅します。

- 電子キーを携帯した状態であれば、他のドアが施錠されていてもテールゲートを操作できます。
- パワーテールゲートの作動が OFF のときは、パワーテールゲートは作動しませんが、オープナースイッチを押すことで手動で開閉できます。
- パワーテールゲートが自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感知すると、作動が停止します。
- 荷物がテールゲートに押し付けられていたり、寄りかかっているとテールゲートが急に開くおそれがあります。操作前に荷物を持ち上げるか位置を変更するなどしてください。また、99lbf (441N、45kgf) 以上でテールゲートを開けようとすると通常より速く開くことがあります。

■ 挟み込み防止機能

パワーテールゲートの左右端部には、センサーが付いています。

テールゲートを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。(→P.445)

■ パワーテールゲートの初期化

テールゲートを脱着したときやバッテリーを再接続した場合は、パワーテールゲートを適切に作動させるために、初期設定としてテールゲートを手動で一度全閉にしてください。

■ 手動モード

次の条件ではパワーテールゲートは手動モードに切りかわります：

- ・ 挟み込み防止機能が作動したとき
- ・ マルチインフォメーションディスプレイでパワーテールゲートシステムが OFF にされたとき

- ・ パワーテールゲートが故障したとき
- ・ テールゲートを脱着（コネクター接続済み）後、テールゲートを閉じていないとき
- ・ バッテリー再接続後、テールゲートを閉じていないとき

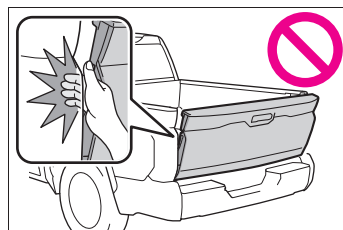
■ カスタマイズ一部の機能はカスタマイズ可能です。

(カスタマイズ可能な機能：→P.475)

⚠ 警告

■ テールゲートクローザーについて

- テールゲートが半ドア状態になったとき、テールゲートクローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



- テールゲートクローザーは、テールゲートの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■ パワーテールゲートについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

警告

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワーテールゲートの作動を OFF にすると、作動が停止し手動で操作する必要があります。上り坂では、テールゲートが突然開くおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止するため、手動で操作する必要があります。上り坂では、テールゲートが突然開くおそれがあるので十分注意してください。
- テールゲート開閉中に、テールゲートの端に無理な力をかけないでください。テールゲートが急に開くおそれがあります。
- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止するため、手動で操作する必要があります。上り坂では、テールゲートが突然開くおそれがあるので十分注意してください。
- ・自動作動中、障害物に干渉したとき
- ・エンジン停止時でパワーテールゲートが自動作動しているときに、エンジンスイッチを ON にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、テールゲートが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意**■テールゲートクローザーの故障を防ぐために**

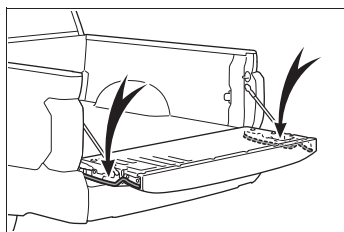
テールゲートクローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、テールゲートクローザーの故障の原因になります。

■パワーテールゲートの故障を防ぐために

- パワーテールゲートを作動させる前に、凍結によるテールゲートの貼り付きがないことを確認してください。テールゲートに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

⚠ 注意

- パワータールゲート左右端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。



パワータールゲートの設定を変更するには（パワータールゲート装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から設定を変更できます。🚗を選択し、設定を変更してください。

パワータールゲートの設定を変更した場合、エンジンスイッチを OFF にしても設定内容はリセットされません。設定をもとにもどすには、再度、マルチインフォメーションディスプレイの設定操作が必要です。

テールゲートの取り外し

■ テールゲートを取り外す前に

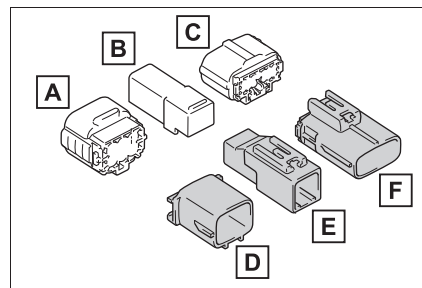
テールゲートを取り外す前に、テールゲート開放警告およびパワータールゲート★の作動を OFF にしてください。（→P.108）

コネクターカバー ※ については、テールゲートを取り外す際に配線

のコネクターが汚れるのを防ぐために使用します。

※ コネクターカバーについては、トヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A コネクターカバー（タイプ A）

B コネクターカバー（タイプ B）

C コネクターカバー（タイプ C）

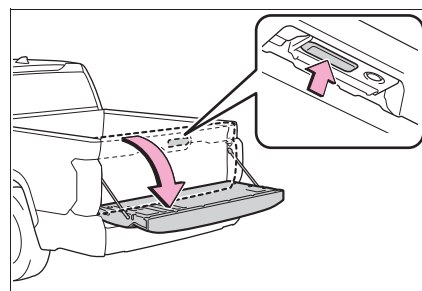
D コネクターカバー（タイプ D）

E コネクターカバー（タイプ E）

F コネクターカバー（タイプ F）

使用しないときは、コネクターカバーをビニール袋に入れ、グローブボックス内に保管してください。

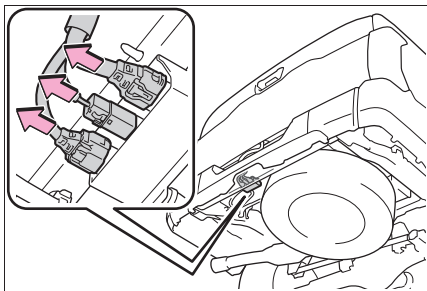
1 テールゲートを開ける



3

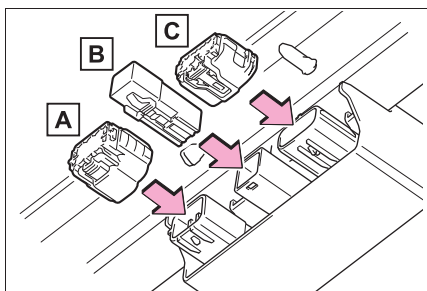
運転する前に

2 コネクターを取りはずす



3 車両側のコネクターに、コネクターカバー（タイプ A、B、C）を取り付ける

各コネクターは形状が異なるため、対応するコネクターにそれぞれのカバーを取り付けてください。

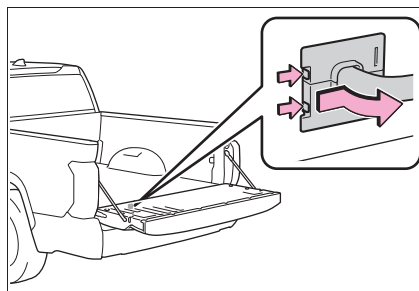


A コネクターカバー（タイプ A）

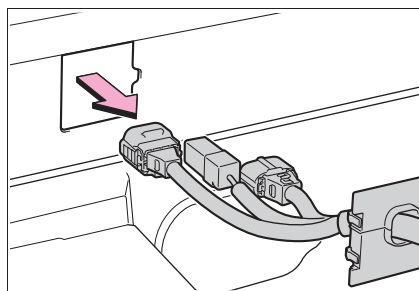
B コネクターカバー（タイプ B）

C コネクターカバー（タイプ C）

4 荷台にあるプラスチック製の配線用プロテクターにある爪を押しながら引き出す

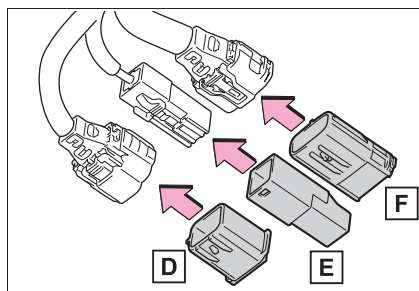


5 荷台から配線を引き出す



6 テールゲート側の配線にコネクターカバー（タイプ D、E、F）を取り付ける

各コネクターは形状が異なります。対応するコネクターに、それぞれのコネクターカバーを取り付けてください。



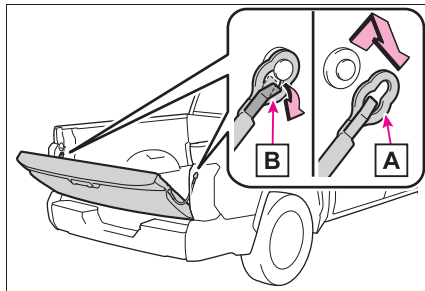
D コネクターカバー（タイプ D）

E コネクターカバー（タイプ E）

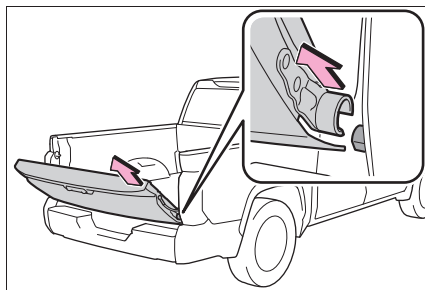
F コネクターカバー (タイプF)**■ テールゲートの取りはずし**

- 1** テールゲートの両側にあるフックからサポートケーブルのブラケットをはずせる角度まで開く。
サポートケーブルはブラケットを持ち上げながらスライドさせてはずす。

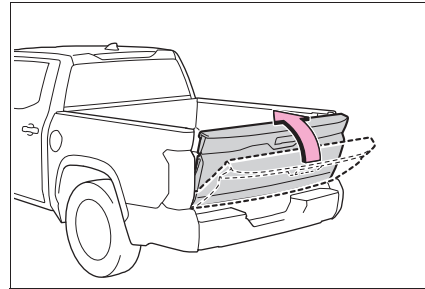
ブラケットを取りはずすには、ブラケットのクリップを引き上げながら、ブラケットをフックからはずす。

**A** サポートケーブルブラケット**B** クリップ

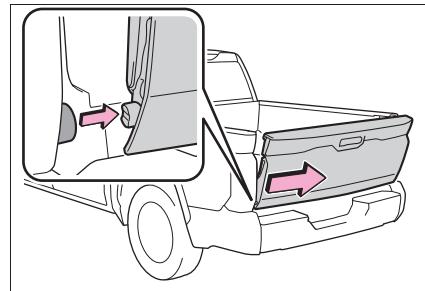
- 2** テールゲートを約 45° の角度に傾け、右側を持ち上げながら、テールゲートの右側をフックから取りはずす



- 3** テールゲートを約 15° の角度まで持ち上げる



- 4** テールゲートを少し右にスライドさせながら、左側をフックから取りはずす



テールゲートを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

⚠ 警告**■ テールゲートを取りはずす前に**

バックアップカメラと車両側の配線を取りはずしてください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

3

運転する前に

⚠ 注意**■ テールゲート側の配線の損傷を防ぐために**

テールゲートを開ける前に、ワイヤーハーネスを全て引き出さないでください。

■ カメラレンズの損傷を防ぐために

取りはずしたテールゲートは、バックアップカメラのレンズが上向きになるように保管してください。

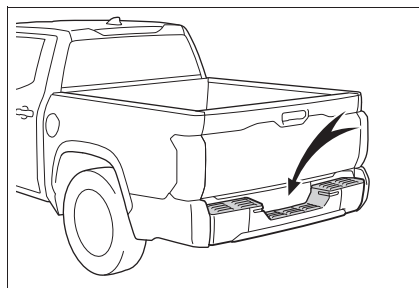
📖 知識**■ テールゲート取りはずし後**

テールゲートが取りはずされているあいだは、エンジンスイッチを ON にするたびにテールゲートが開いていることを知らせるアイコンが表示されます。

このアイコンは、メーター操作スイッチの  を押す、もしくはカスタマイズ設定から解除できます。(→P.108, 110)

■ パワータールゲートの初期化

→P.111

**⚠ 注意****■ リヤステップバンパーの損傷を防ぐために**

同時に複数の人がリヤステップバンパーに乗らないでください。

リヤステップバンパー

車両後部を保護し、荷物を積むときの踏み台として使用できます。

リヤステップバンパーに乗るときは、図に示した部分を使用してください。

パワーベッドステップ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーベッドステップは、テールゲートの開閉に連動して展開・格納します。

また、約 3 mph (5 km/h) 以上で走行すると自動的に格納されます。



知識

■自動格納機能

次のときは、安全のためパワーベッドステップが自動で格納されます。

- 車速が約 3 mph (5 km/h) 以上のとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “Power Steps Unable to Retract” が表示されたときは

パワーベッドステップが完全に格納されない可能性があります。

パワーベッドステップと車両のあいだに何も挟まっていないことを確認してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “Power Steps System Malfunction See Owner’s Manual” が表示されたときは

パワーベッドステップに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。



警告

■パワーベッドステップの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パワーベッドステップの作動中はすべての乗員と周囲の人がパワーベッドステップに手をふれたり、体の一部がステップと車両のあいだに挟まれないようにしてください。
- 乗り降りする前に、パワーベッドステップが完全に展開／格納したことを確認してください。パワーベッドステップ作動中に乗り降りすると、作動が停止することがあります。
- スイッチを操作するときは周囲の人やものに注意してください。パワーベッドステップが展開／格納すると、周囲の人やものにぶつかるおそれがあります。
- パワーベッドステップを清掃するときやジャッキアップ前、車両の下に何かものを置く前、またはパワーベッドステップが正常に作動していない場合は必ずパワーベッドステップの作動を OFF にしてください。

警告

- お子さまにパワーベッドステップを操作させないでください。パワーベッドステップが人にぶつかり、重傷を負うおそれがあり、場合によっては死亡することもあります。

挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

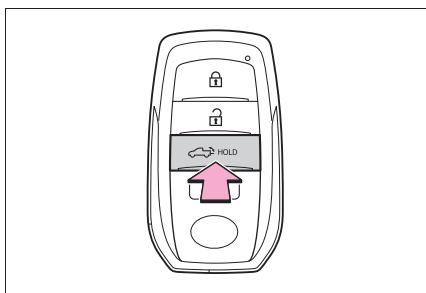
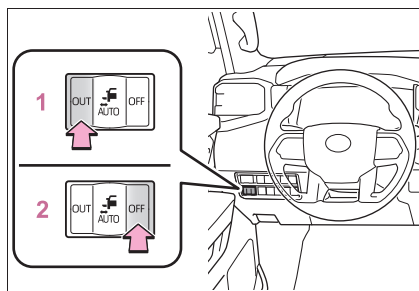
体の一部を挟んだりしないでください。
挟まれたものの形状によっては、挟み込み防止機能が作動しないおそれがあります。

ワイヤレスリモコンによるパワーベッドステップを開閉するには

スイッチを押す

パワーベッドステップは、テールゲートの開閉と連動して展開・格納されます。

ボタンを押す前に、パワーベッドステップスイッチが AUTO モードになっていることを確認してください。

**車内からパワーベッドステップを展開／格納するには**

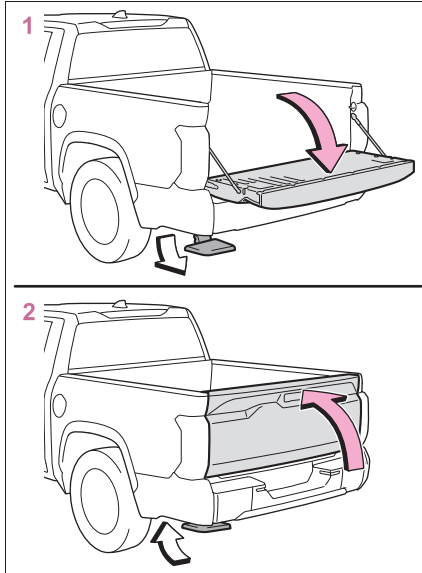
- 1 パワーベッドステップを展開する
- 2 パワーベッドステップを格納する

スイッチを中立位置にすると、パワーベッドステップは AUTO モードになります。AUTO モードでは、テールゲートの開閉に連動して作動します。

“OUT” 側にするとパワーランニングボードとパワーベッドステップの両方が展開します。車両の速度が 3 mph (5 km/h) 以下の場合にのみ操作してください。

“OFF” 側にすると、パワーランニングボードおよびパワーベッドステップの両方が格納されます。すでに格納されている場合は作動しません。

テールゲート連動機能



- 1 テールゲートを開ける：ステップが展開されます。
- 2 テールゲートを閉める：ステップが格納されます。

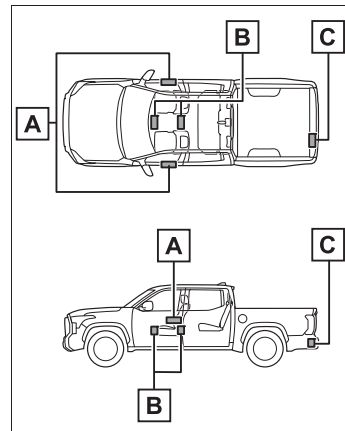
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する (→P.99)
- テールゲートを施錠・解錠する (→P.106)
- エンジンを始動する (→P.169)

知識

■ アンテナの位置



A 車外アンテナ（フロントドア）

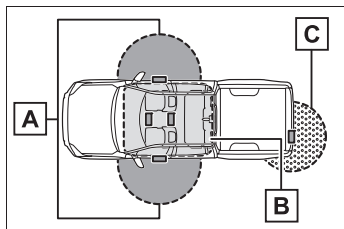
B 車室内アンテナ

C 車外アンテナ（リヤバンパー）

3

運転する前に

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



■ A ドアの施錠・解錠時

フロントドアのドアハンドルから周囲約 2.3 ft. (0.7 m) 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

■ B エンジン始動時またはエンジンスイッチ

チ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ C テールゲート（パワーテールゲート非装着車）を開ける、または、パワーテールゲート（パワーテールゲート装着車）の開閉

テールゲートの解錠ボタンから周囲約 2.3 ft. (0.7 m) 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P.442）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

● 車外から警告音が 5 秒鳴る

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときに施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

● 車内から警告音が鳴り続ける

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを ACC にした（エンジンスイッチが ACC のとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを OFF にした	運転席ドアを閉める

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Smart Key System Malfunction See Owner’s Manual” と表示されたとき

システムに異常がある可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Key Detected in Vehicle” と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
- ・ 車の外約 6 ft. (2 m) 以内に電子キー

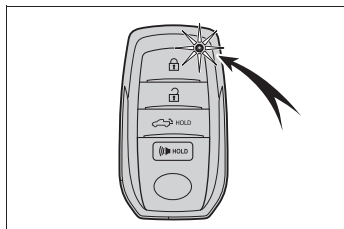
- を 10 分以上放置した
- ・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■ 電子キーを節電モードにするには

- 節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケーターが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー & スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動

しない場合があります。(対処方法：→P.458)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
 - 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
 - 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
 - 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
 - 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
 - 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
 - ウィンドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
 - 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合
 - コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき
- #### ■ ご留意いただきたいこと
- 電子キーが作動範囲内 (検知エリア内) にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎて

- いる、または地面の近くや高い場所にある
- ・電子キーが地面付近や高い位置、またはリヤバンパー中央付近に近すぎる場合
 - ・エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
 - 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。
 - 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。
 - 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。(ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 60 秒後に自動で施錠します)
 - ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。(ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます)
 - 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
 - ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。
 - 電子キーを携帯したまま洗車をする、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・キーを車両から約 6 ft. (2 m) 以上離れた場所に置く (盗難に注意し保管してください)
 - ・電子キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する (→P.121)
 - 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。
 - ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
 - すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
 - 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。
- 長期間運転しないとき**
- 盗難防止のため、電子キーを車両から 6 ft. (2 m) 以上離しておいてください。
 - あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。
 - 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.121)

■ システムを正しく作動させるために

- 電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないとき

- ドアの施錠・解錠：→P.458
- エンジンの始動：→P.459

■ カスタマイズ機能

一部の機能はカスタマイズ可能です。(→P.475)

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

- ドアの施錠と解錠、テールゲートを開ける
ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使う。(→P.99, 107, 108, 458)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切り替え：→P.459
- エンジンの停止：→P.170

■ 認証情報

→P.510

警告

■ 電波がおよぼす影響について

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ(→P.119)から離れてください。電波が植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。必要に応じてスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。電波の周波数や送信タイミングなどの詳細についてはトヨタ販売店にお問い合わせください。その上で、スマートエントリー&スタートシステムを無効にすべきかどうか、医師に相談してください。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

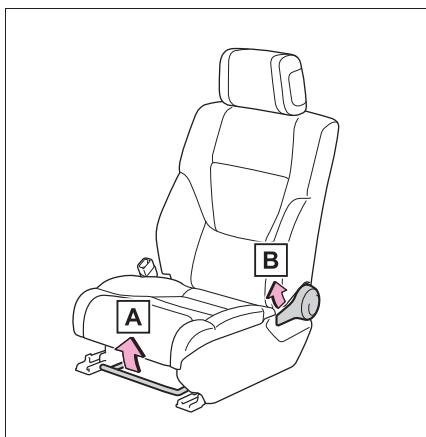
スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

シートの前後・上下位置などの調整ができます。正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。

調整するには

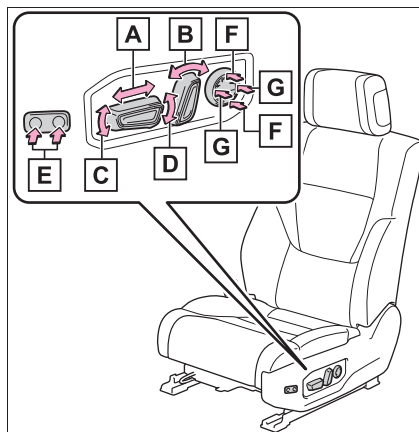
▶ マニュアルシート装着車



A 前後位置調整

B リクライニング調整

▶ パワーシート装着車



A 前後位置調整

B リクライニング調整

C クッション前端的上下調整

D シート全体の上下調整

E クッションの長さ調整★

F 腰部上下調整（ランバーサポート）★

G 腰部調整（ランバーサポート）

★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■シートを調整するときは

- 周囲の人やものがシートに挟まらないよう注意してください。
- ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。

■ パワーイージーアクセスシステム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。
(→P.129)

⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 運転中はシートの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- マニュアルシート装着車：シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

フロントシートリフレッシュシステム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エアの作動による押圧機能を備

えたりフレッシュシステムが装備されています。コースと作動の強さをお好みにより調整することができます。

1 マルチメディアディスプレイのメインメニューで  にタッチし、サブメニューの“Seat controls” タッチする

2 “Massage” にタッチする

3 運転席または助手席を選択する

4 コースを選択する

● “Centripetal”

シートクッションの前部から背もたれの一部まで順番に行います。

● “Centrifugal”

背もたれの一部からシートクッションの前部まで順番に行います。

● “Upper body”

背もたれの一部から上部まで順番に行います。

● “Lower body”

シートクッションの前部から後部まで順番に行います。

● “Lumbar”

背もたれ腰部の一部から上部まで順番に行います。

5 お好みの強さを選択するには

 (作動) を選択する

5段階から選択することができます。

作動を停止するには、 (非作動) を選択してください。

シートに乗員がいないときは、リフレッシュシステムを使用しないでください。

知識

■ 作動条件

- エンジンスイッチが ON のとき
- 助手席：シートが乗員の重量を検知しているとき

一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉する、またはエンジンスイッチを OFF にするまで、検知状態が継続します。

■ 自動停止機能

作動開始から約 15 分で自動的に停止します。

警告

■ 走行中の留意事項

走行中に運転席のリフレッシュシステムを使用したり、設定を調整しないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ フロントシートリフレッシュシステムのご使用について

- 妊娠中のかた、出産直後のかた、静養を要する疾患（心臓疾患）のあるかたは、使用する前に必ず医師に相談してください。
- お子さまは使用しないでください。
- 食後や飲酒後、または長時間の使用は避けてください。
- 使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

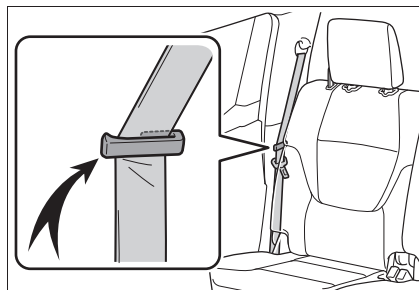
リヤシート

リヤシートの背もたれは倒すことができます。また、シートクッションは持ち上げることができます。

背もたれを倒す・もどす

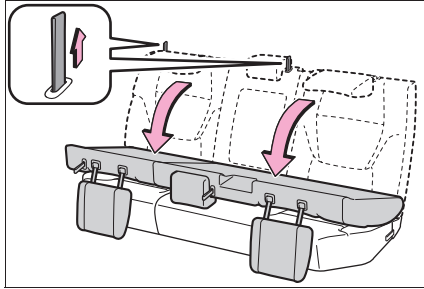
■ 背もたれを倒す

- 1 フロントシートを前方に移動する（→P.124）
- 2 リヤアームレストを格納する★（→P.384）
- 3 リヤシートのシートベルトバックルとリヤシート中央席のシートベルトを格納する（→P.31, 32）
- 4 リヤシートのシートベルトをベルトハンガーに挟む



- 5 リヤシート中央席のヘッドレストをいちばん下まで下げ、リヤシート外側席のヘッドレストは折りたたんでください（→P.133）
- 6 ロック解除ストラップを引き上げながら、背もたれを前方に倒す

背もたれはそれぞれ倒すことができます。

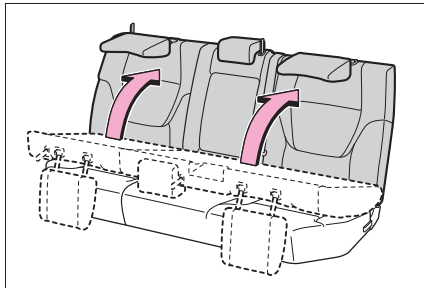


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 背もたれをもとにもどす

1 背もたれがロックされる位置までおこす

シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。



2 リヤシート外側席のヘッドレストを元の位置にもどしてください (→P.133)

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ リヤシートを倒すときは

- 走行中に背もたれを操作しない。

- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションをPにする。

- 倒した背もたれの上に人を乗せて走行しない。

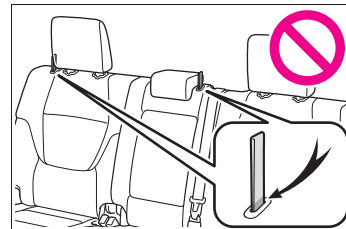
- 右側のリヤシートを倒した状態で、リヤシート中央席に人を座らせないでください。右側のリヤシートを倒すとシートベルトのバックルが使用できなくなります。

- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する。

- リヤシートを折りたたむ前に、フロントシートの位置を調整してください。フロントシートがリヤシートに干渉しないようにしてください。

■ 背もたれをもとにもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する。シートが確実に固定されていないときは、ロック解除ストラップに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。

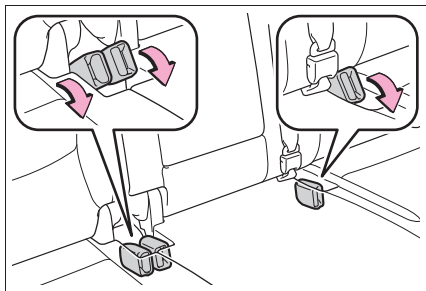
シートクッションを持ち上げる・もどす

■ シートクッションを持ち上げる

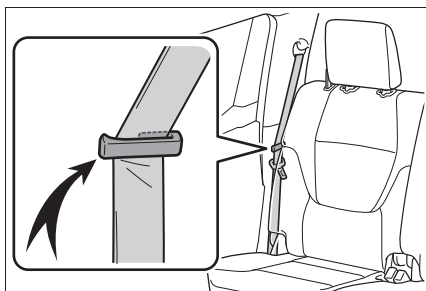
- 1 フロントシートを前方に移動する (→P.124)

2 リヤアームレストを格納する
(→P.384) ★

3 リヤシートのシートベルトバックルを格納する

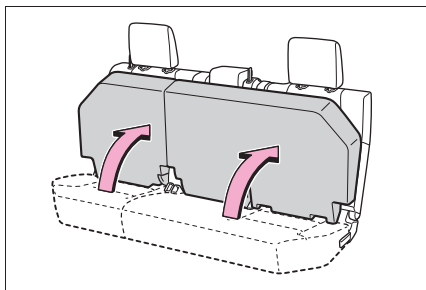


4 リヤシートのシートベルトをベルトハンガーに挟む



5 シートクッションを持ち上げる

シートクッションはそれぞれで持ち上げることができます。

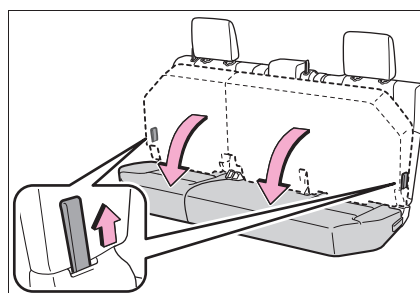


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ シートクッションをもとにもどす

ストラップを引きながら、もう片方の手でシートクッションをゆっくりとおろす

シートベルトがねじれたり、背もたれに挟み込まれていないかを確認してください。



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートクッションを持ち上げるとき

- 走行中に操作をしない。
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする。
- 収納ボックスの上に人を座らせないでください。
- 右側のシートクッションを持ち上げた状態で、リヤ中央シートに人を座らせないでください。右側のシートクッションを持ち上げた状態ではシートベルトのバックルが使用できなくなります。
- シートクッションを持ち上げる前に、フロントシートの位置を調整してください。フロントシートがリヤシートに干渉しないようにしてください。

⚠ 警告

■ シートクッションをもとにもどすとき

- シートのあいだに手や足などを挟まないよう注意する。
- シートベルトがねじれていたり、シートクッションに挟み込まれていないか確認する。

パワーイージーアクセスシステム★／ポジションメモリー★／メモリーコール機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

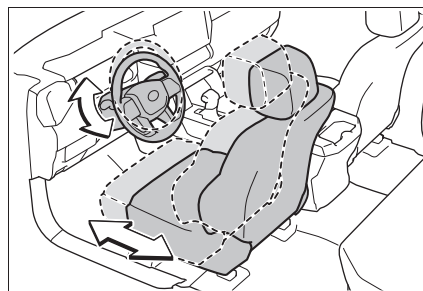
自動で運転席・ハンドル・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、2パターンまで登録できます。

ドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。



次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

3

運転する前に

- シフトポジションを P にする
- エンジンスイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす

次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- ・ エンジンスイッチを ACC または ON にする
- ・ シートベルトを着用する

知識

■ パワーイーゼリアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイーゼリアクセスシステムが作動しない場合があります。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.475)

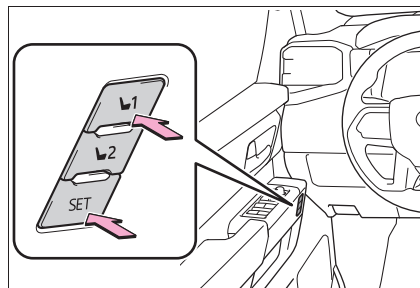
ドライビングポジションを登録する／呼び出すには（ポジションメモリー）

■ 登録方法

- 1 シフトポジションが P にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチを ON にする
- 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する
- 4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 または 2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

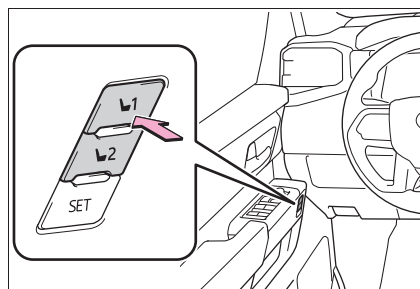
すでに同じボタンに登録されている場合

は、上書きされます。



■ 呼び出し方法

- 1 シフトポジションが P にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチを ON にする
- 3 1 または 2 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 または 2 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■登録できるシート位置 (→P.124)

次のシート位置が登録できます。

- 前後位置調整
- リクライニング調整
- クッション前端の上下調整
- シート全体の上下調整
- クッションの長さ調整★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

■ポジションを呼び出すとき

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

■登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

電子キーにドライビングポジションを登録／呼び出し／解除するには（メモリーコール機能）

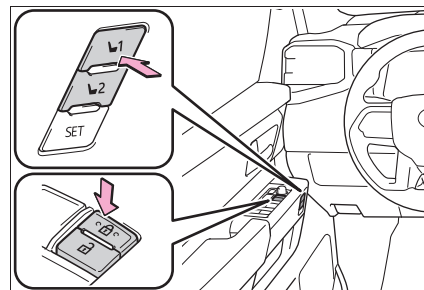
■登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 または 2 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

- 1 シフトポジションが P にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチを ON にする
- 3 登録させたいドライビングポジション（1 または 2）を呼び出す
- 4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



3

運転する前に

■ 呼び出し方法

- 1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

- 2 エンジンスイッチを ACC または ON にするか、シートベルトを着用する

シートおよびハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。車内にキーが2つ以上あると、正確に解除できません。

- 1 シフトポジションが P にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチを ON にする
- 3 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約3秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
- 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー&スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.475)

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠ 警告

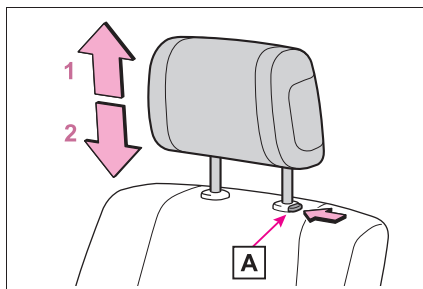
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

調整するには

■フロントシート



1 上げる

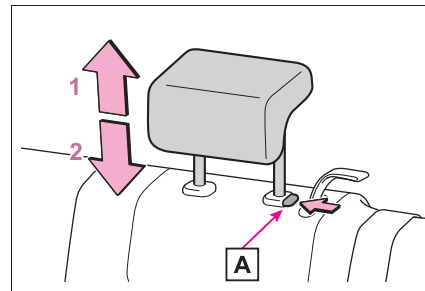
ヘッドレストを引き上げます。

2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。

■リヤシート

▶ 中央席



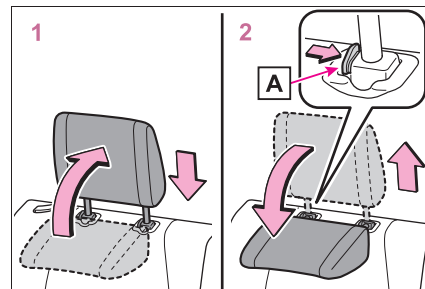
1 上げる

ヘッドレストを引き上げます。

2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。

▶ 外側席



1 使用位置

ヘッドレストを使用位置まで持ち上げてから、下に押し下げてください。

2 格納位置

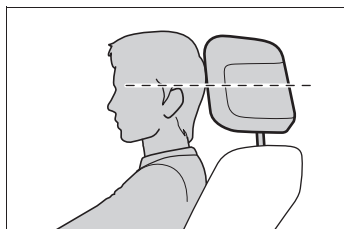
解除ボタン[A]を押しながらヘッドレストを持ち上げて前方に倒してください。

3

運転する前に

知識

■ ヘッドレストの高さについて（フロントシート）



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上あたりになるよう調整してください。

■ リヤ中央席について

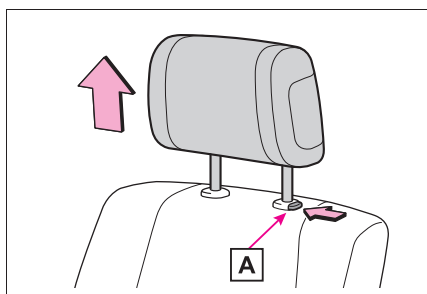
使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには

■ フロントシート

解除ボタン[A]を押しながらヘッドレストを引き上げます。

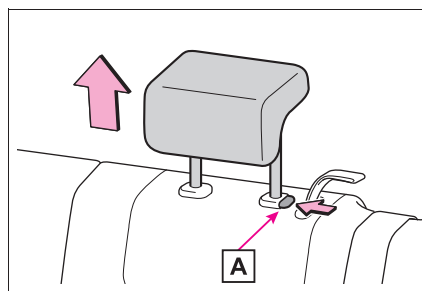
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。
(→P.124)



■ リヤシート

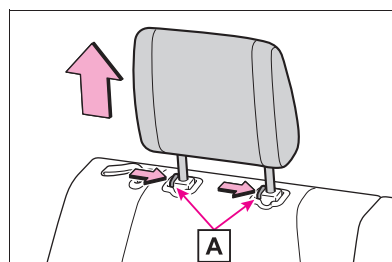
▶ 中央席

解除ボタン[A]を押しながらヘッドレストを引き上げます。



▶ 外側席

両側の解除ボタン[A]を押しながらヘッドレストを引き上げます。

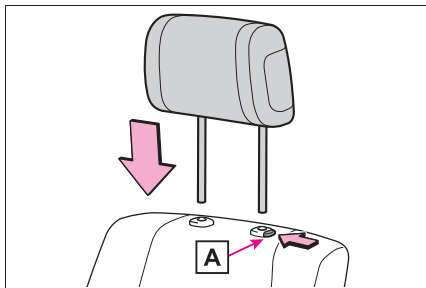


ヘッドレストを取り付けるには

■ フロントシート

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作してください。

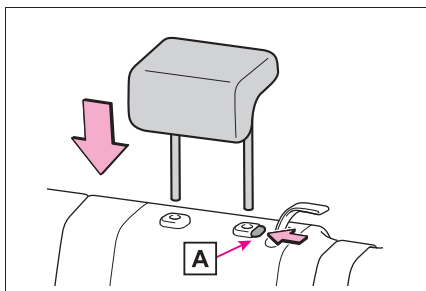


■ リヤシート

▶ 中央席

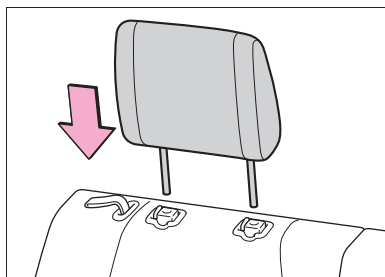
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタン **A**を押しながら操作してください。



▶ 外側席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

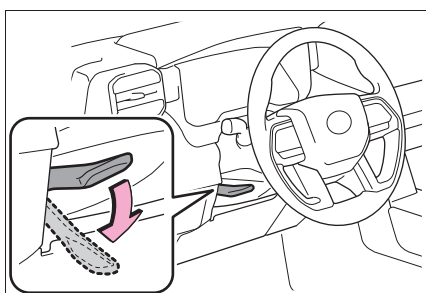


ハンドル

調整のしかた

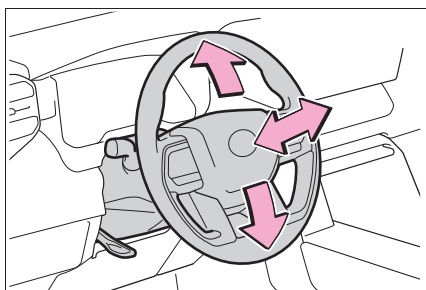
- ▶ マニュアルチルト&テレスコピックステアリング装着車

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



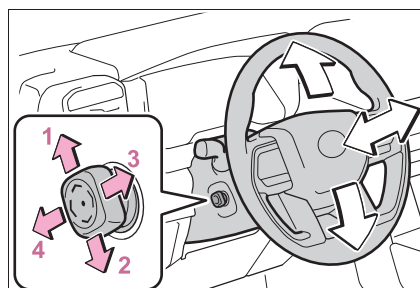
- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



- ▶ 電動チルト&テレスコピックステアリング装着車

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



- 1 上方へ
2 下方へ
3 手前へ
4 前方へ

知識

■ハンドル位置調整の作動条件（電動チルト&テレスコピックステアリング装着車）

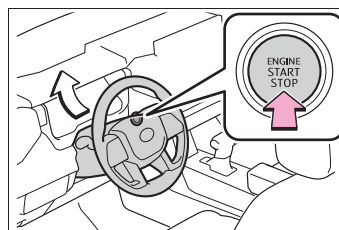
エンジンスイッチが ACC または ON のとき ※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■オートチルトアウェイ機能（電動チルト&テレスコピックステアリング装着車）

エンジンスイッチを OFF にすると、乗降りがしやすいようにハンドルが自動で動きます。

エンジンスイッチを ACC または ON にするともとの位置にもどります。



■ ハンドル位置の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）

好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.129）

■ パワーイージーアクセスシステム（ドライビングポジションメモリー装着車）

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。（→P.129）

■ ハンドル位置を調整したあとは（マニュアルチルト&テレスコピックステアリング装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

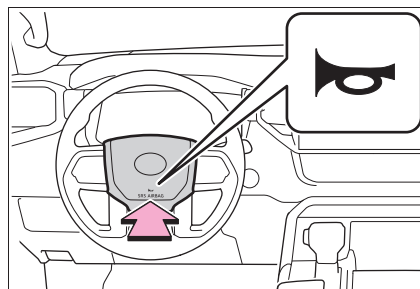
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.475）

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



3

運転する前に

⚠ 警告**■ 走行中の留意事項**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは（マニュアルチルト&テレスコピックステアリング装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー★

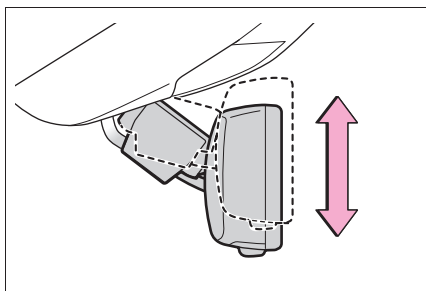
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。



警告

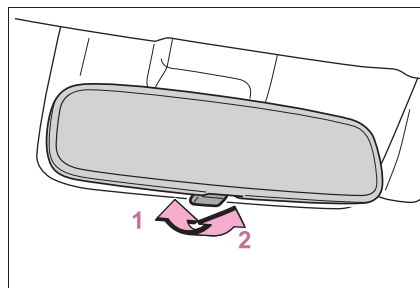
■ 走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

▶ 手動防眩タイプ装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



1 通常使用時

2 防眩時

▶ 自動防眩タイプ装着車

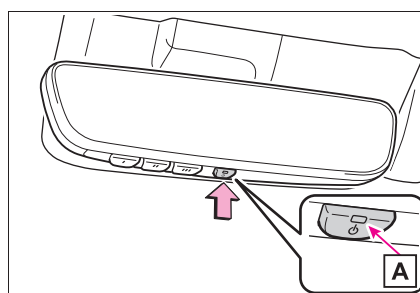
後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の ON/OFF を切りかえる

ON のときはインジケーター **A** が点灯します。

エンジンスイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

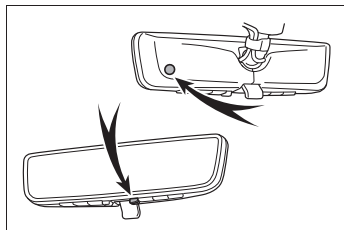
ボタンを押すと OFF になりインジケーター **A** が消灯します。



 知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩タイプ装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



デジタルインナーミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切り替えレバーを操作することで、鏡面ミラーモードからデジタルミラーモードに切り換えることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

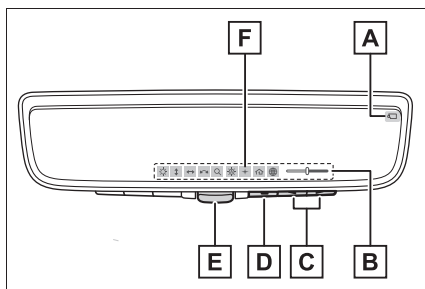
 警告

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。（→P.141）
- ・ 鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
- ・ デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

各部の名称

**A** カメラインジケータ

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン (→P.141) 調整ゲージが表示されます。

C 選択／調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

D メニュースイッチ

調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

E 切りかえレバー

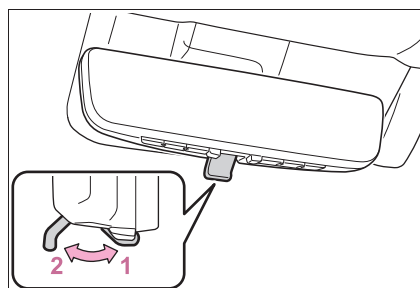
デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

F デジタル防眩モードインジケータ

デジタルミラーモード時、防眩機能がONに設定されていることを示します。(→P.141)

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。

**1** デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイにが表示されます。

2 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。

知識

■ デジタルミラーモードの作動条件

エンジンスイッチがONのとき
エンジンスイッチをONからOFFまたはACCにすると、数秒後に表示が消えます。

■ デジタルミラーモードについて

- ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴やほこりが付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。
- ディスプレイが反射して見えにくい場合は、サンシェード（パノラマムーンルーフ装着車）を閉めてください。
- 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 映像の色と実際の色が異なって見える
 - ・ 後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
 - ・ 周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のち

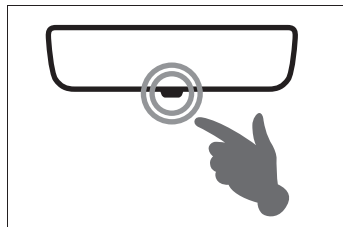
らつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。

- デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。
- 体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

■ システムに異常が発生したとき

デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。切り換えレバーを操作し、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

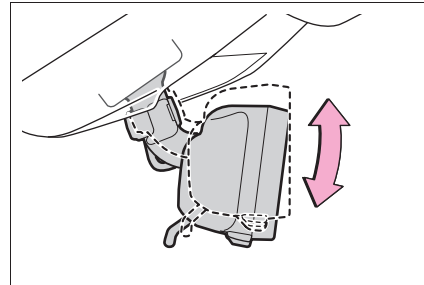


調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

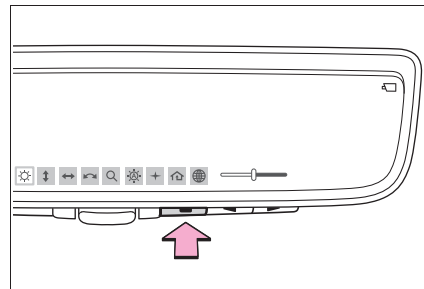
光学ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON/OFF ができます。

- 1 メニュースイッチを押す
調整アイコンが表示されます。



- 2 メニュースイッチをくり返し押して、調整したい項目（調整アイコン）を選択する

- 3  または  を押して、設定を変更する

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。
	自動防眩機能の ON/OFF を切りかえることができます。※ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 エンジンスイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。 光学ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。
	デジタル防眩モードの ON/OFF を切りかえることができます。 ON にすることで、夜間にディスプレイの表示映像の明るさを抑えて表示し、後続車のヘッドランプのまぶしさを抑えます。

※ 光学ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。

■ 自動防眩機能の ON/OFF 切りかえ（光学ミラーモード）

光学ミラーモードの自動防眩機能の ON/OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、光学ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

▶ デジタルミラーモード使用時
→P.141

▶ 光学ミラーモード使用時

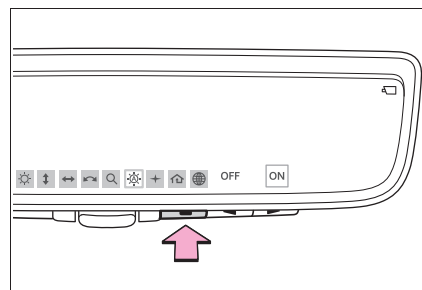
1 メニュースイッチを押す

アイコンが表示されます

2 メニュースイッチを数回押し

て、を選択します

設定画面が表示されます。



3  または  を押して、

自動防眩機能の ON/OFF を切りかえる

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、設定画面の表示が消えます。

□ 知識

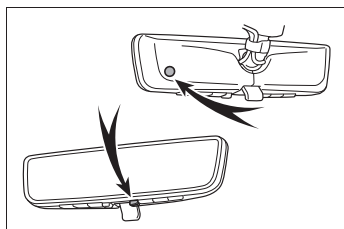
■ ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- ディスプレイ表示の調整を限界値まで行くと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。

- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。
- デジタル防眩モードは周囲が暗い場所でのみ働き、周囲の照度環境によっては映像の明るさが抑えられず、後続車のヘッドランプのまぶしさが低減できない場合があります。

■ センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■ 安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

お手入れについて

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなる場合があります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

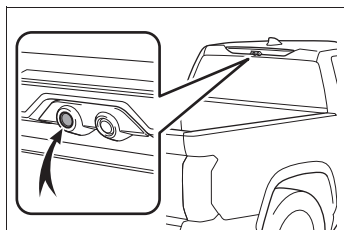
■ カメラのお手入れについて

カメラレンズに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。

□ 知識

■ カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



⚠ 注意

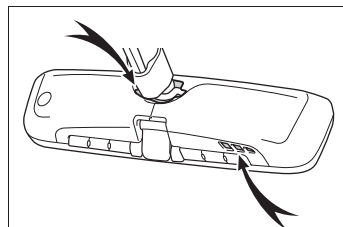
■ デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

- ミラーをふくときはシンナー・ベンジン・アルコールなどの溶剤を使用しないでください。変色・劣化・故障の原因になります。
- ミラーの近くでは、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こしたりしないでください。故障や車両火災につながるおそれがあります。
- ミラー本体の取りはずし・分解・改造はしないでください。

■ カメラの故障や誤作動を防ぐために

- デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
 - ・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。
 - ・ カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
 - ・ カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、車両後方の状態を鮮明に見ることができなくなるおそれがあります。

- ・ カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- ・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- ・ 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながるおそれがあります。



故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	光学ミラーモードに切りかえてください。 （パノラマムーンルーフ装着車：天井からの光があたっているときは、サンシェードを閉めてください）
	●夜間など暗いところで使用した ●テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ●カメラ付近の温度が高い、または低い ●外気温が低い ●雨天時など湿度が高い ●太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ●蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した ●排気ガスが映り込んでいる	光学ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）
ディスプレイに表示される映像が見にくい	カメラレンズに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着している	●光学ミラーモードに切りかえてください。 ●大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像がずれている	カメラ部に強い衝撃が与えられた	光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に  が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の  が消灯した		
ディスプレイ上に  が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い (徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます)	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 (ミラーの温度が下がると  が消えます) ミラーの温度が下がっても  が消えない場合は、光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 (メニュースイッチを約 10 秒間押し続けることで、光学ミラーモードに切りかえることができます)

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

知識

■ 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

警告

■ 走行中の留意事項

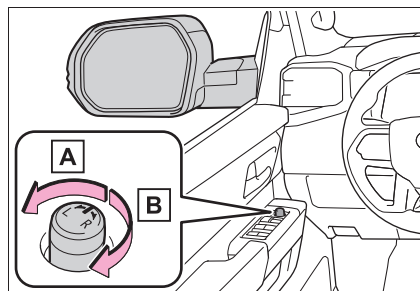
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

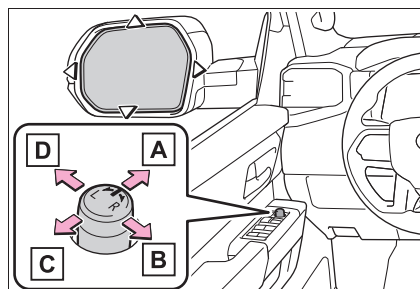
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす



A 左

B 右

- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

■ 鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

3

運転する前に

■ミラーが曇ったとき

リヤウィンドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取り除くことができます。(→P.356)

■ミラー角度の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.129)

■自動防眩機能★※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ミラーには自動防眩機能（左側のみ）が付いています。

インナーミラーを自動モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→P.138)

⚠ 警告

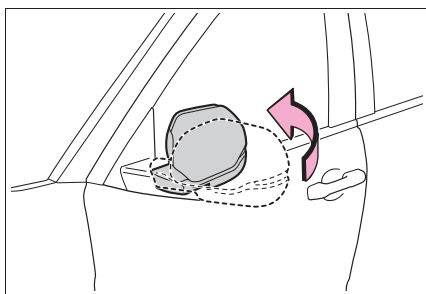
■ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

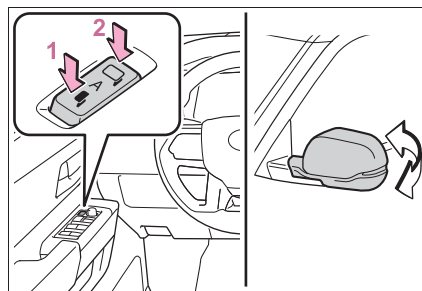
ドアミラーを格納・復帰するには

▶ 車外から

手で後方に押し格納する



▶ 車内から★



1 ミラーを格納する

2 ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“A”）にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■寒冷時に“オート作動”で使用するとき

寒冷時に“オート作動”で使用していると、ドアミラーが凍結して、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪を取り除いたあと、“マニュアル作動”で作動させるか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.475)

⚠ 警告

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

リバース連動機能★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

ミラー選択スイッチの L または R
どちらかが選択されているときは、
後退時に鏡面が下向きになり、下
方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミ
ラー選択スイッチの選択が解除さ
れた状態にしてください。

**■ 後退時に下向きになる角度を調
整するときは**

シフトポジションを R にした状態
で鏡面位置を調整することで、下
向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトポジションを R に
するたびに、その角度で作動しま
す。

通常時（シフトポジションが R 以外のと
き）の鏡面位置を基準に下向きに動く角
度を記憶するため、調整後に通常時の鏡
面位置を変更すると、それに伴って後退
時の鏡面位置も変化します。

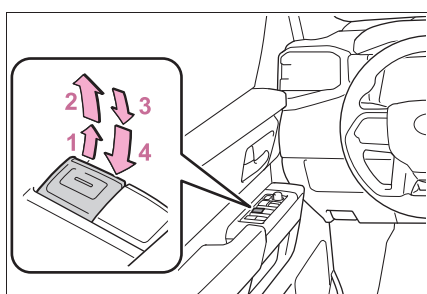
通常時の鏡面位置を変更したときは、後
退時に下向きになる角度も調整してくだ
さい。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスは次のように動きます：



- 1 閉める
- 2 自動全閉 ※
- 3 開ける
- 4 自動全開 ※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだにフロントドアを開けると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 エンジンスイッチを ON にする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。＊（→P.458）
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉することができます。＊（→P.99）
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを開けると、オートアラームが作動することがあります。（→P.65）

＊ トヨタ販売店で設定が必要です。

■ 窓開警告機能

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

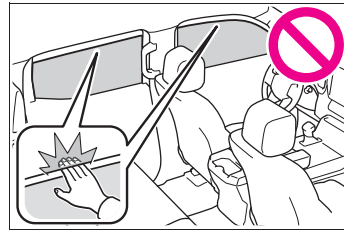
一部の機能はカスタマイズ可能です。（→P.475）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.152）
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



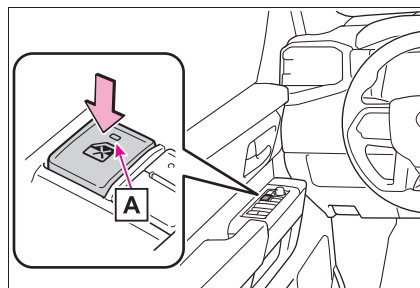
- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告**■ 挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

**知識****■ 作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■ バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON する必要があります。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケータ **A** が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。

ウインドウロックスイッチが ON の場合でも、運転席側のスイッチから運転席以外のドアガラスも開閉することができます。

パワーバックウィンドウ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

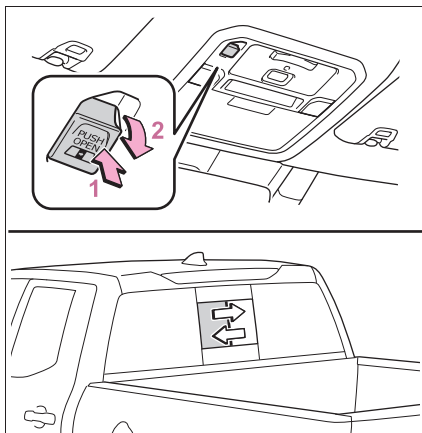
■ 走行中の注意

バックウィンドウは閉じたままにしてください。

荷物が飛び出すのを防ぐとともに、排気ガスの車内への流入を防ぐことができます。

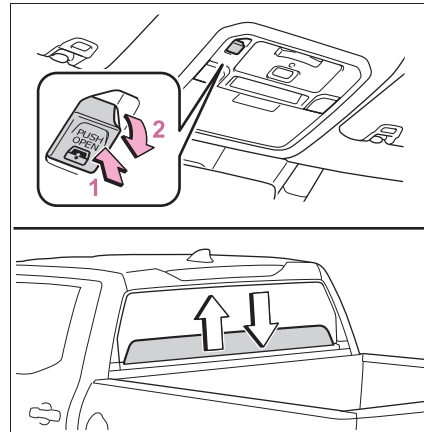
パワーバックウィンドウを開閉するには

▶ タイプ A



- 1 開ける
- 2 閉める

▶ タイプ B



- 1 開ける
- 2 閉める

📖 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ エンジン停止後のパワーバックウィンドウ操作

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 43 秒間はパワーバックウィンドウを開閉できます。ただし、そのあいだにフロントドアを開けると作動しなくなります。

⚠ 警告

■ バックウィンドウを閉めるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

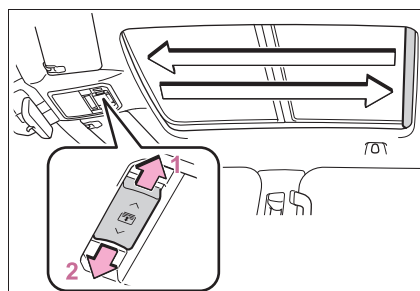
警告

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのパワーバックウィンドウ開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはパワーバックウィンドウの操作をさせないでください。お子さまや他の人がパワーバックウィンドウに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- パワーバックウィンドウを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パノラマムーンルーフ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

頭上のスイッチでパノラマムーンルーフと電動サンシェードの操作ができます。

電動サンシェード・パノラマムーンルーフを操作するには**■ 電動サンシェードを開閉するには****1 開ける ※**

スイッチを後方方向に押し続けると、自動で全開します。

2 閉める ※

スイッチを前方方向に押し続けると、自動で全閉します。

パノラマムーンルーフが完全に閉まっていないときは、電動サンシェードが閉まる前にパノラマムーンルーフが閉まります。

※ 途中で停止するときは、 スイッチをもう一度どちらかの方向に押して離します。

■ パノラマムーンルーフをチルトアップ／ダウンするには

チルトアップするには、ROOFスイッチ

チを押す ※

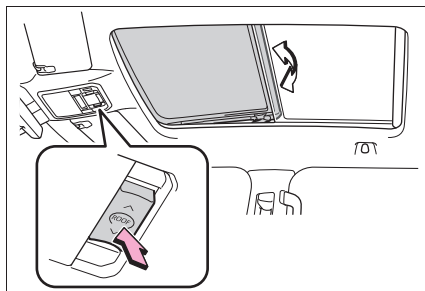
パノラマムーンルーフをチルトアップすると、電動サンシェードがルーフの半分の位置まで開きます。

※ 途中で停止するときは、ROOFスイッチをもう一度軽く押してください。

チルトダウンするには、ROOFスイッチ

チを押し続ける

パノラマムーンルーフがチルトアップしている状態のときに、チルトダウンできます。



■ パノラマムーンルーフを開閉するには

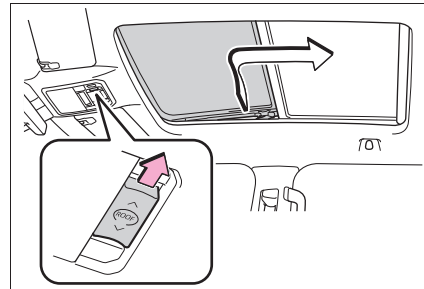
開ける ※

ROOFスイッチを後方方向に押し続けると、パノラマムーンルーフと電動サンシェードが自動で開きます。

チルトアップした状態からでも開くことができます。

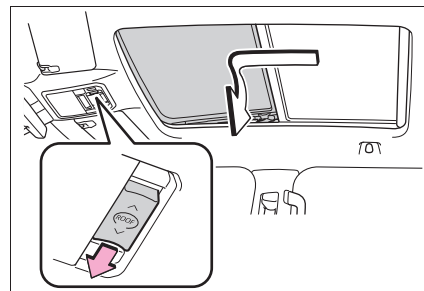
※ 途中で停止するときは、ROOFスイッチをもう一度どちらかの方向に押して離し

ます。



閉める

ROOFスイッチを前方方向に押し続けると、パノラマムーンルーフが自動で閉じます。



□ 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はパノラマムーンルーフ・電動サンシェードの開閉ができます。ただし、そのあいだにフロントドアを開閉すると作動しくなくなります。

■ 挟み込み防止機能

次の状況で異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

- パノラマムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするとき

- 電動サンシェードを閉めるとき

■ パノラマムーンルーフと電動サンシェードの両方を閉じるには

 スイッチを前方方向に押す。

電動サンシェードがルーフの半分の位置まで閉まった後、いったん停止し、パノラマムーンルーフが閉じます。その後、電動サンシェードが全閉します。

■ ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでパノラマムーンルーフを開けることができます。＊ (→P.458)
- ワイヤレスリモコンでパノラマムーンルーフを開閉できます。＊ (→P.97)
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能でパノラマムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。 (→P.65)

＊ トヨタ販売店で設定変更が必要です。

■ パノラマムーンルーフまたは電動サンシェードが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

- 1 車を停止する
- 2 ROOFスイッチを前方方向に押して、パノラマムーンルーフを閉じてください。
- 3 ROOFスイッチを前方方向に押し 15 秒間保持してください。約 10 秒後にガラスが前方方向へ移動し、ストッパーに当たって停止した後、閉じる位置へとどります。

- 4 5 秒以内に、再度  スイッチを前方方向に押し続けてください。電動サンシェードが全開位置まで移動し停止します。続いて、パノラマムーンルーフが全開後に閉まります。最後に電動サンシェードが閉じます。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パノラマムーンルーフ開警告機能

エンジンスイッチが OFF でパノラマムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

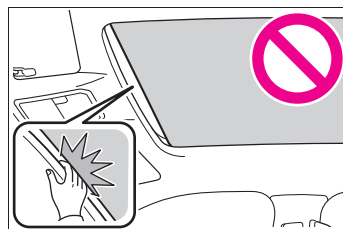
一部の機能はカスタマイズ可能です。 (→P.475)

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 電動サンシェードを開閉するとき

- 電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



⚠ 警告

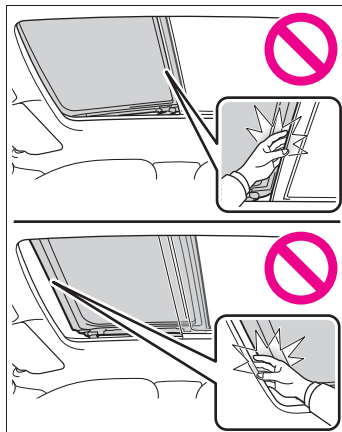
- お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■ パノラマムーンルーフを開けているとき

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ パノラマムーンルーフを開閉するとき

- 運転者は、パノラマムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはパノラマムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- パノラマムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってパノラマムーンルーフを操作するときは、パノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたすらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、パノラマムーンルーフ・電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側と電動サンシェードのすき間にはふれないでください。手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

**注意****■パノラマムーンルーフの損傷を防ぐために**

- 開く前は、開口部付近に石や氷などの異物がないことを確認してください。
- パノラマムーンルーフの表面・端面には、硬いものをぶつけないでください。
- パノラマムーンルーフは車両の外側に開くため、車高が高くなります。パノラマムーンルーフを開けた状態での開閉操作や走行時（低いガレージに入れるときなど）はご注意ください。

■洗車後や雨が降ったあとなどは

パノラマムーンルーフを開く前にルーフに付いた水をふき取ってください。そのまま開くと、車内に水が入るおそれがあります。

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 161

荷物を積むときの注意 168

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ 169

オートマチックトランスミッション 173

方向指示レバー 178

パーキングブレーキ 179

ブレーキホールド 182

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 185

フォグランプスイッチ 188

AHB（オートマチックハイビーム） 188

ワイパー&ウォッシャー 191

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 195

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense 198

PCS（プリクラッシュセーフティ） 202

LTA（レーントレーシングアシスト） 213

RSA（ロードサインアシスト） 222

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） 225

Stop & Start システム 235

BSM（ブラインドスポットモニター） 241

クリアランスソナー 247

RCTA（リアクロストラフィックアラート） 254

PKSB（パーキングサポートブレーキ） 259

パーキングサポートブレーキ（静止物） 264

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両） 267

バックガイドモニター 269

パノラミックビューモニター 280

マルチテレインモニター 312

電子制御エアサスペンション 323

ドライブモードセレクトスイッチ 326

4WD システム 328

AUTO LSD 330

リヤデフロック	331
クロールコントロール	333
マルチテレインセレクト	336
ダウンヒルアシストコントロールシ ステム	339
運転を補助する装置	342
アクティブフロンツポイラー	347
4-6. 運転のアドバイス	
寒冷時の運転	349

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンを始動する

→P.169

■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
- 2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する (→P.179)

パーキングブレーキがオートモードの場合、シフトレバーを P 以外の位置にシフトすると、パーキングブレーキは自動的に解除されます。(→P.179)

- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

Stop & Start が作動している場合、ブレーキペダルを踏むとエンジンが停止します。(→P.235)

- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。(→P.173)

■ 駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

- 2 パーキングブレーキをかけて (→P.179)、シフトレバーを P にする (→P.173)

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してください。

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

- 3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

- 4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする

ヒルスタートアシスト制御が作動します。

- 2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける (→P.179)

- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

- 4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを解除し発進する (→P.179)

パーキングブレーキ自動解除機能 (→P.180)

□ 知識

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください

い。

- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき
- “TOW HAUL” モードまたは “TOW+” モードが選択されている状態でブレーキペダルを踏んだとき★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 慣らし運転について

お車の寿命をのばすために、次の注意事項を守ることをお勧めします。

- 最初の 200 miles (300 km) の間：急ブレーキは避ける
- 最初の 500 miles (800 km) の間：トレーラーをけん引しない
- 最初の 1000 miles (1600 km) の

間：

- ・ 極端な高速走行は避ける
- ・ 急加速は避ける
- ・ 低速ギアでの連続運転はしない
- ・ 長時間にわたり一定速度での運転はしない

■ エンジン停止前のアイドリング運転について

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

車両停止時にエンジンをアイドリング状態にするには、Stop & Start キャンセルスイッチを無効にしてください。

(→P.235)

(Stop & Start システムが ON のときは、車両停止時に Stop & Start システムによりエンジンが停止します。)

運転条件	アイドリング時間
通常の市街地走行	不要
高速走行（約 50 mph [80 km/h] の定速走行）	不要
急勾配の坂道走行、または 62 mph (100 km/h) 以上での連続走行（サーキット走行など）	約 1 分

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

警告

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.426 を参照してください。

- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.173)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 制限速度をこえて運転しないでください。法定速度で許可されている場合でも、高速走行対応タイヤを装着していない限り、85 mph (140 km/h) をこえて運転しないでください。85 mph (140 km/h) をこえて運転すると、タイヤの破損による制御不能、さらには事故につながるおそれがあります。そのような速度で運転する前に、必ずタイヤ販売店にご相談いただき、車両のタイヤが高速走行対応タイヤかどうかを確認してください。
- 電子制御サスペンション搭載車において、水深約 20 in. (500 mm) をこえる深水域を走行する場合は、車高調整スイッチで車高を“HI”モードに設定後、車高調整モード選択スイッチを押して手動モードに切り替えてください。車両速度は 18 mph (30 km/h) 以下で走行してください。車高が“HI”モードであっても、水深約 28 in. (700 mm) をこえる水域は走行しないでください。(→P.323)
- すべりやすい路面を運転するとき
- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

警告

● 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

● 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

● シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

● 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

● 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

● 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

● 走行中にシフトレバーをNに入れると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

● アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

● 空ぶかしをしないでください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

● 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

警告

- 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。

直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

- 4WD 車：4WD スイッチを操作した際、“4L” 作動表示灯が点灯または消灯する前にシフトレバーを操作すると、トランスファーの切りかえが完了せず、シフトポジションに関係なく駆動軸が拘束されません。（表示灯が点滅し、ブザーが鳴ります）
この場合、シフトレバーをPに入れても車両が動くおそれがあり危険です。必ず、トランスファーの切りかえを完了させてください。
(→P.328)

 警告**■ 仮眠するとき**

必ずエンジンを停止してください。エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けないでください。

 注意

- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。
- 高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P.446 を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー（4WD車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

急発進および後退速度の抑制
(ドライブスタートコントロール)

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

- ・ R に切りかえたとき※
- ・ P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

 知識

■ ドライブスタートコントロールについて

TRAC の作動を停止（→P.343）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRAC の作動を停止してください。（→P.343）

また、次のときは急発進の抑制制御は作動しません。

- 4WD スイッチが“4L”か“4H”にあるとき（4WD 車のみ）
- AUTO LSD モードのとき★
- マルチテレインセレクトを選択しているとき★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

荷物を積むときの注意

保管上の注意事項、積載量および積荷に関する次の情報に注意してください

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- フロントシートのうしろに、背もたれより高い位置にものを置かないでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転手の足元
 - ・ 助手席やリヤシート（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ フタのない小物入れ／トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

- 荷台に人を乗せないでください。
乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

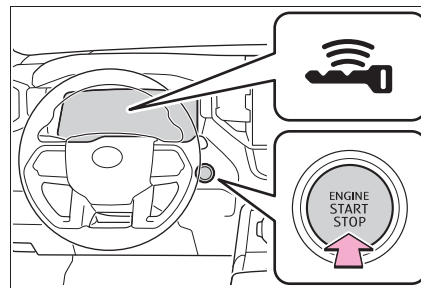
エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.179）
メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。表示されないと、エンジンは始動しません。
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。
完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
エンジンスイッチのどのモードからでも

エンジンを始動できます。



知識

■エンジンが始動しないとき

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.64）
トヨタ販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■バッテリーがあがったとき

スマートエントリー&スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するは、P.460 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.96

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.121

■ご留意いただきたいこと

→P.121

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Smart Key System Malfunction See Owner’s Manual” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Check Fuel Cap” が表示されたときは

→P.196

■ 電子キーの電池交換

→P.414

■ エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合や早く連続して押した場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動させようとする場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待つてから操作してください。

■ カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.458 を参照してください。



警告

■ エンジンを開始するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ エンジンを開始するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

エンジンを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→P.179)、シフトレバーを P の位置にする

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

- 3 エンジンスイッチを短く確実に押す

エンジンが停止し、メーター表示が消灯します。

- 4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの “ACCESSORY” や “IGNITION ON” の表示が消灯していることを確認する

知識

■ エンジン自動停止機能

- シフトレバーが P の位置にあり、エンジンが長時間かけっぱなしになった場合、自動的にエンジンを停止する機能が装備されています。
- シフトレバーが P の位置でエンジンをかけたままにすると、約 1 時間後に自動的にエンジンが停止します。
- ブレーキペダルを踏むか、シフトレバーを P 以外の位置にすると、自動停止機能のタイマーはリセットされます。
- 駐車後、室内のドアロックスイッチ（→P.101）で施錠するか、外側からメカニカルキーで施錠した場合は、エンジン自動停止機能は無効になります。運転席ドアを開けると、自動停止機能のタイマーは再び有効になります。

警告

■ 緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→P.426）ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、シフトレバーを N にしてエンジンスイッチを短く確実に押してください。

■ 駐車するとき

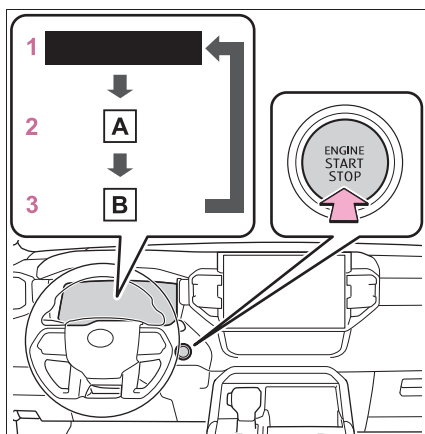
排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 換気が悪い場所や車庫内など囲まれた場所ではエンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入るおそれがあります。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



A “ACCESSORY”

B “IGNITION ON”

1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイは表示されません。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイに “ACCESSORY” が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイに “IGNITION ON” が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときは ON のままになり、OFF になりません。



知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、20 分以上 ACC か 1 時間以上 ON（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの “ACCESSORY” または “IGNITION ON” の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときにエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに “IGNITION ON” が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを短く確実に押す

- 4 マルチインフォメーションディスプレイの“ACCESSORY”または“IGNITION ON”の表示が消灯していることを確認する

 注意

■バッテリーあがりを防止するために
シフトレバーがP以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがP以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがONのままとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

オートマチックトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
S	Sモード走行 ※2 (→P.175)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常はDポジションを使用してください。
※2 Sモードではシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

 知識

■下り坂での運転

下り坂では、エンジンブレーキを効かせるために、自動的にシフトダウンする場合があります。
シフトダウンが行われると、エンジン回転数が高くなる場合があります。

■オートマチックトランスミッションの保護制御

- ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状態が続くと、トランスミッションが高温になり損傷

するおそれがあります。
このとき、トランスミッションが損傷しないように、ギヤ段が一時的に固定される場合があります。
トランスミッションの温度が下がるとギヤ段の固定は解除され、通常作動にもどります。

- トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに“Transmission Oil Temp. High Stop in a Safe Place and See Owner's Manual”が表示されます。
ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーをPにして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待ちます。しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。表示が消えないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）作動状態での走行時

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

- Sモードで走行中に、9、8、7、6、5、または4速にシフトダウンした場合。（→P.175）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.167

■AI-SHIFT

AI-SHIFTは、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。

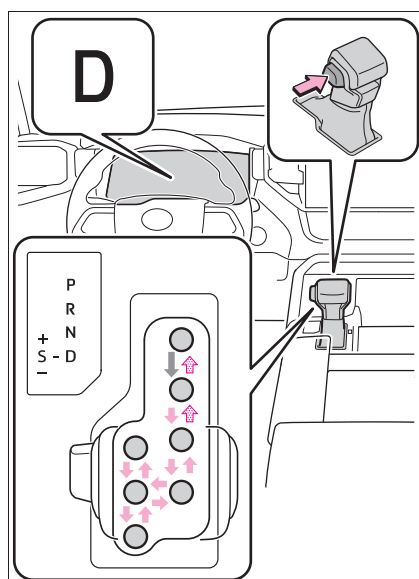
AI-SHIFTは、シフトレバーがDまたはSのときに、AIシフトが自動的に作動します。

⚠ 警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトレバーの動かし方



← エンジンスイッチがONの状態
で、ブレーキペダルを踏んだ状態
でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

← シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

← シフトレバーのボタンを押さず
そのまま操作します。

PとDのあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行って

ください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを最初に押してもシフトロックは解除されません。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防止するためのシステムです。

エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

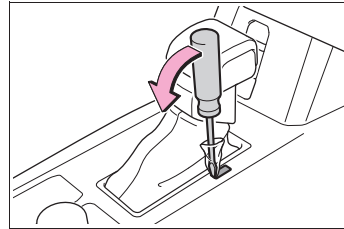
ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

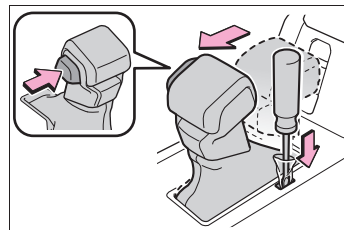
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることが出来ます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバールを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す
シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

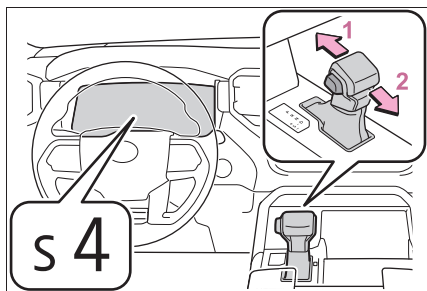
■ドライブモードセレクト

→P.326

Sモードでのシフトレンジ選択

シフトレバーが S の位置にあるとき、シフトレバーは次のように操

作できます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

選択されたシフトポジション（S1 から S10）がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

S モードでの初期シフトポジションは、車速に応じて自動的に 4、5、6、7、または 8 速に設定されます。

ただし、シフトレバーが D ポジションにあるときに AI-SHIFT が作動した場合、初期シフトポジションは 4 速に設定されることがあります。（→P.174）

知識

■S モードについて

- エンジンブレーキ力は、10 段階から選択が可能です。
- シフトポジションの数字の小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。
- エンジンのオーバーレブを防ぐため、自動的にシフトアップする場合があります。
- オートマチックトランスミッションを保護するため、トランスミッションフルードの温度が高い場合は、自動的に高いシフトポジションを選択します。
- シフトポジションが 9 速以下のとき、シフトレバーを “+” 側へ保持すると

10 速に設定されます。

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。

■シフトレバーを S にしても、S インジケータが点灯しないとき

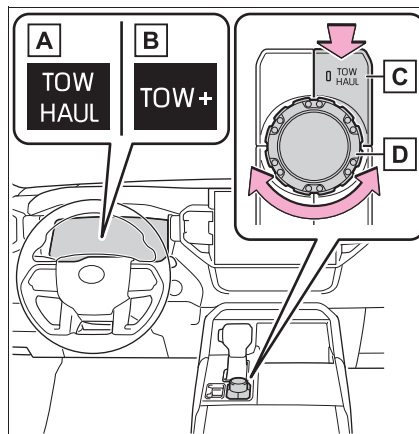
システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

TOW HAUL スイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トレーラーをけん引する場合や重い荷物を運搬する場合は、TOW HAUL または TOW+ モードを使用してください。

TOW HAUL または TOW+ モードを ON にすると、エンジン、トランスミッション、操舵機能がトレーラーのけん引に適した状態に切りかわります。



A TOW HAUL インジケータ

B TOW+ インジケーター**C** TOW HAUL スイッチ**D** モード選択スイッチ

- 1 TOW HAUL スイッチを押します。

TOW HAUL インジケーターが点灯します。

もう一度スイッチを押すとモードが解除されます。

- 2 モードセレクトスイッチを回して TOW HAUL または TOW+ モードを切りかえます。

TOW HAUL モードより強いけん引力が必要な場合は、TOW+ モードを使用してください。(→P.177)

TOW+ インジケーターが点灯します。

- TOW+ モードは、けん引重量が 5,000 lb. (2,268kg) をこえるトレーラーをけん引する場合に使用します。

 知識**■TOW HAUL および TOW+ モードの自動解除**

TOW HAUL および TOW+ モードは、次の条件で解除されます。

- 4WD スイッチ★が 4L の場合
- ドライブモードセレクト★またはマルチレインセレクト★が選択されている場合

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

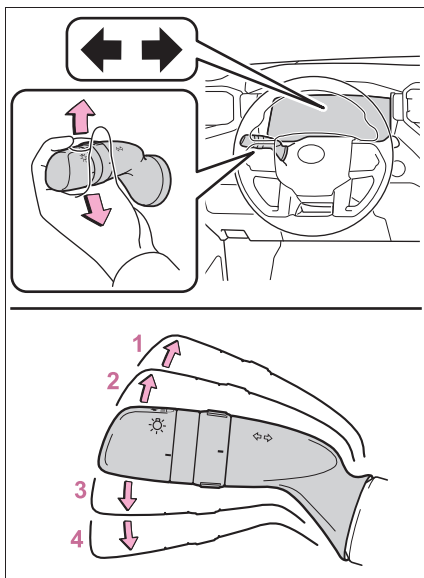
■TOW HAUL モードと TOW+ モードの違いについて

けん引するトレーラーの重量に応じて、各モードを使い分けることをおすすめします。

- TOW HAUL モードは、けん引重量が 5,000 lb. (2,268kg) 未満のトレーラーをけん引する場合に使用します。

方向指示レバー

操作のしかた



- 1 右折
- 2 右側へ車線変更（レバーを途中で動かして離す）
右側方向指示灯が 3 回点滅します。
- 3 左側へ車線変更（レバーを途中で動かして離す）
左側方向指示灯が 3 回点滅します。
- 4 左折

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

各方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

■車線変更を行う前に方向指示灯が消灯した場合

レバーをもう一度操作してください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.475）

パーキングブレーキ

自動または手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

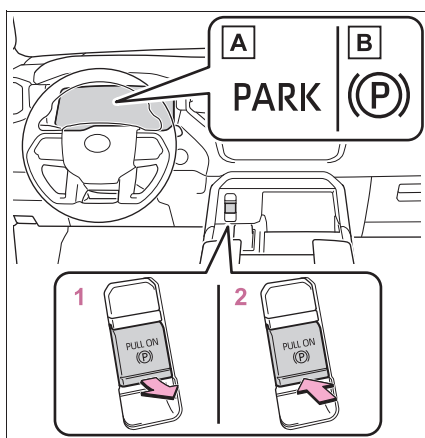
オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。

また、オートモードのときでも手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



A タイプ A

B タイプ B

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるとき、スイッチを引き

続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

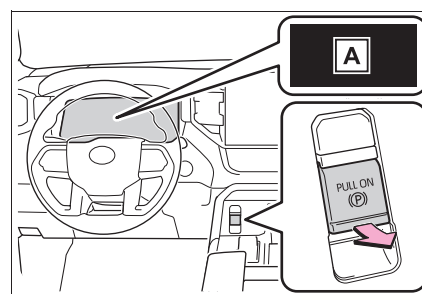
- ・ブレーキペダルまたはアクセルペダルを踏みながら操作してください。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。
- ・パーキングブレーキ自動解除機能 (→P.180)

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.437)

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける



A “EPB Shift Interlock Function Activated”

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

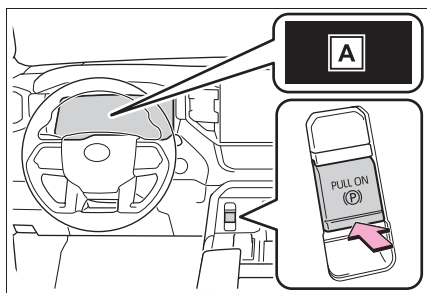
- シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

- シフトレバーをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモードを OFF にする

停車中にブレーキペダルを踏みながら、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。



A “EPB Shift Interlock Function Deactivated”



■ パーキングブレーキの作動

- エンジンスイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- エンジンスイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■ パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルをゆっくり踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトレバーが 前進もしくは後退の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している。

パーキングブレーキ自動解除機能が作動しない場合、手動で解除してください。

■ パーキングブレーキ自動作動機能について

次の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- ブレーキを踏んでいないとき
- 運転席のドアが開いているとき
- 運転席のシートベルトを装着していないとき
- シフトレバーがPまたはN以外にあるとき
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯しているとき

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Parking Brake Temporarily Unavailable” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Parking Brake Unavailable” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。
- パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■ 駐車するとき

→P.161

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“Parking Brake ON”が表示されます。（車速が 3 mph [5 km/h] をこえたとき）

■ ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P.432

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.350

⚠ 警告

■ 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけてください。

車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告メッセージを確認してください。

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

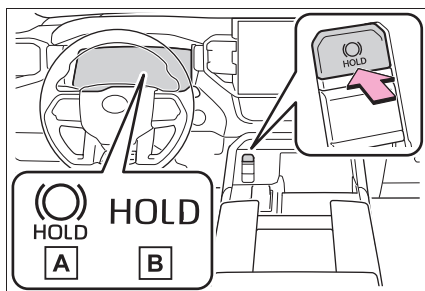
ブレーキホールド

シフトレバーが D・S または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または S のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）**A** が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）**B** が点灯します。



 知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- パーキングブレーキがかかっている

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む（シートベルトが着用されていない場合や、ドアが開いている場合、シフトレバーが P または N になっている場合は、パーキングブレーキは解除されません。）
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯

が消灯したことを確認してください。
(→P.179)

■ トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Brake Hold Malfunction Press Brake to Deactivate Visit Your Dealer” “Brake Hold Malfunction Visit Your Dealer” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて
操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキホールドシステムと他制御を同時に作動させた場合

次のいずれかのときは、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- “Brake Hold Unavailable, See the Owner’s Manual”
- ・ ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動中に、ブレーキホールドスイッチを押したとき
- ・ 4WD スイッチが 4L モードで、ブレーキホールドスイッチを押したとき
- “Brake Hold Unavailable, Press

Brake to Deactive.”

- ・ ブレーキホールドシステムが作動中に、DAC/CRAWL スイッチを操作したとき
- ・ ブレーキホールドシステムが作動中に、4WD スイッチを 4L モードにしたとき

ブレーキホールドシステムは、ダウンヒルアシストコントロールシステムまたは 4WD スイッチが 4L モードと同時に作動させることができません。

ブレーキペダルを踏んだ状態でブレーキホールドスイッチを押し、ブレーキホールドシステムを OFF にしてください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.436

⚠ 警告

■ 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

■ すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

**注意****■ 駐車するとき**

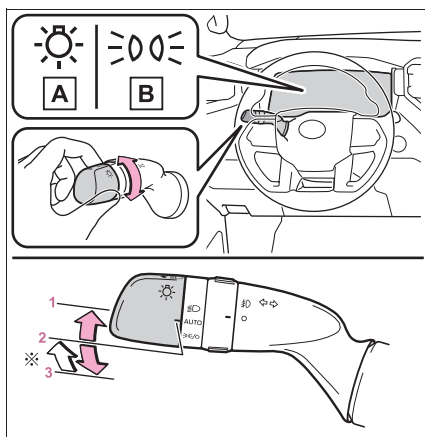
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように $\odot$ スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを **3** $\odot$ の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTO の位置へ戻ります。

A タイプ A

B タイプ B

1 $\equiv$ サイドマーカーランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプとヘッドランプを点灯

2 AUTO 上記すべてのランプとデイトタイムランニングランプ

(→P.185) を自動点灯・消灯

3 $\odot$ /O 保持しているときのみ消灯

知識

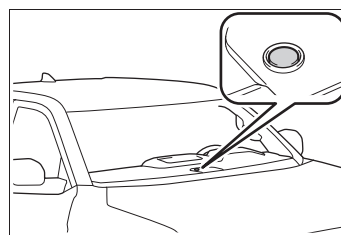
■ AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ デイトタイムランニングランプ機能

- 一部グレードのデイトタイムランニングランプはヘッドランプと同じランプを使用し、減光して点灯します。
- 日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、次の条件がすべて満たされたとき、自動的にデイトタイムランニングランプが点灯します。(デイトタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。)
- ・ エンジンが始動している
- ・ パーキングブレーキが解除されている
- ・ ランプスイッチが **AUTO** ※ の位置になっている
- ※ 周囲が明るい場合
- デイトタイムランニングランプは点灯後、パーキングブレーキを再度かけても点灯したままになります。

■ ライトセンサーについて



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえざられると、自動点灯・

消灯機能が正常に働かなくなります。

■ ランプ消し忘れ防止機能

- ヘッドランプ点灯時：エンジンスイッチを ACC、または OFF にして運転席ドアを開閉すると、30 秒後にヘッドランプおよび尾灯が消灯します。

(すべてのドアを閉めた後にキーの

を押すと、ランプはすぐに消灯します。)

- 尾灯のみ点灯時：エンジンスイッチを ACC、または OFF にして運転席ドアを開けると、尾灯は自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを OFF にしてから  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ランプが点灯している状態でエンジンスイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ ドアを解錠するとき（おむかえ照明機能）★

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯と尾灯が自動で点灯します。
ランプスイッチが AUTO の位置にあり、周囲が暗い場合にこの機能が作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートレベリングシステム★

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸

を自動で調整します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが

AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

エンジンスイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき

- ドアを開閉したとき

■ カスタマイズ機能

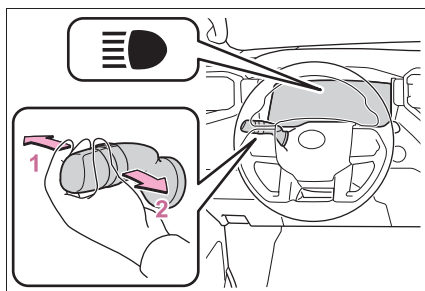
機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.475)



注意

■ バッテリーあがりを防止するために

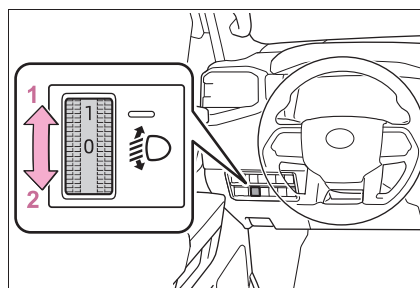
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないください。

ハイビームにするには**1** ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

**1** 上向きに調整**2** 下向きに調整**手動光軸調整ダイヤル★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

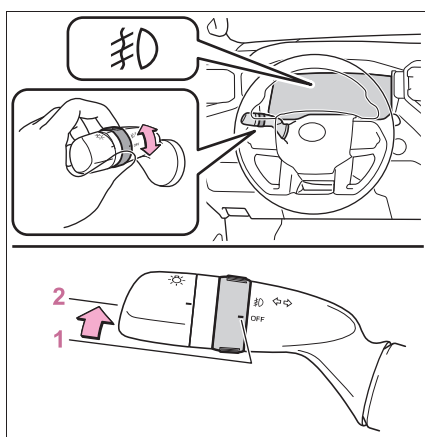
車両に荷物が無い場合、ダイヤルをできるだけ0に近い位置にしておいてください。荷物が増えるにつれて通行人や対向車がまぶしくならないように数字が大きくなる方向に調整してください。

フォグランプスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを点灯させます。

操作のしかた



1 OFF ※1/ ○ ※2 フロントフォグランプを消灯する

2 ㊦ フロントフォグランプを点灯する

※1タイプ A

※2タイプ B



知識

点灯条件

車幅灯が点灯しているとき、またはヘッドランプがロービームで点灯しているときに使用できます。

AHB (オートマチックハイビーム)

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

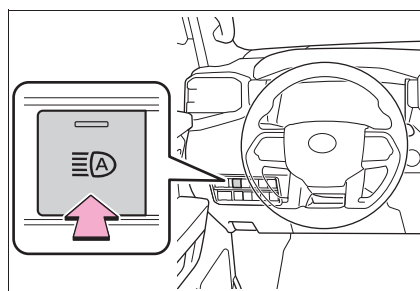
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

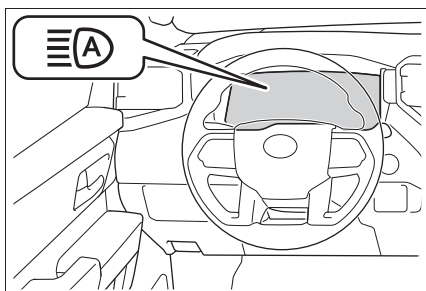
オートマチックハイビームを使うには

1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチを ㊦ または AUTO の位置にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームが有効になり、AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ ハイビームとロービームの自動切り換え条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。(約 1 秒後)
 - ・ 車速が約 21 mph (約 34 km/h) 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 17 mph (約 27 km/h) 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■ 前方カメラの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき

- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ 前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ 前方カメラが極端に高温になっているとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸が

- ずれているとき
- ・ 先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・ カーブが多い道路を走行しているとき
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■ センサーの感度を一時的に下げる

センサーの感度は一時的に下げることができます。

- 1 以下の条件を満たしている間は、エンジンスイッチを OFF にしてください

- ランプスイッチが  または

AUTO の位置にあるとき

- ランプスイッチはロービームの位置にあるとき
 - オートマチックハイビームスイッチが ON のとき
- 2 エンジンスイッチを ON にする
 - 3 手順 2 から 60 秒以内に、ランプスイッチのレバーをハイビームの位置に押し込み、元の位置に素早く 10 回引いた後、レバーを元の位置にしたままにする
 - 4 感度に変更されると、AHB 表示灯が 3 回点灯および消灯します

車両が停止しているときでも、オートマ

チックハイビーム（ヘッドランプ）が点灯する場合があります。

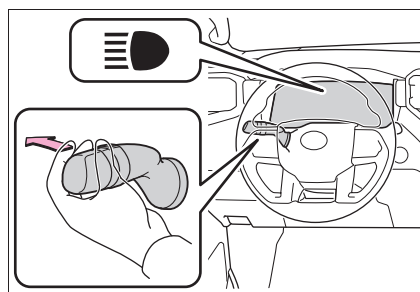
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、レバーをもとの位置にもどします。

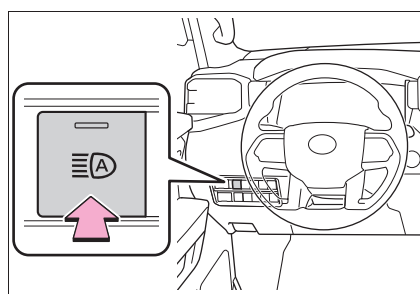


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

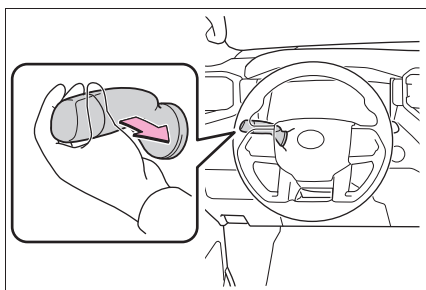
オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



知識

■ 一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

ワイパー&ウォッシャー

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

⚠ 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているときは

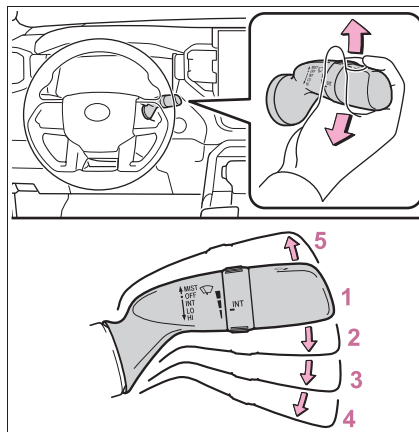
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

▶ 間欠時間調整式ワイパー

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。



1 OFF ※¹ / ○ ※² 停止

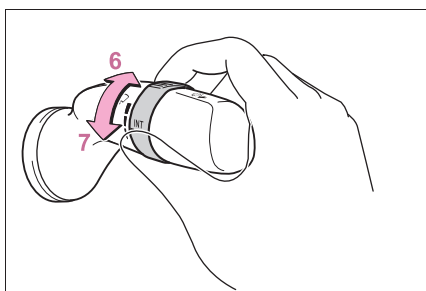
2 INT ※¹ / ※² 間欠作動

3 LO ※1/▼※2 低速作動

4 HI ※1/▼※2 高速作動

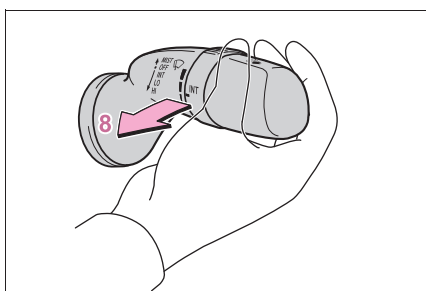
5 MIST ※1/△※2 一時作動

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。



6 間欠ワイパーの作動頻度 (増)

7 間欠ワイパーの作動頻度 (減)



8 ウォッシャー液を出す

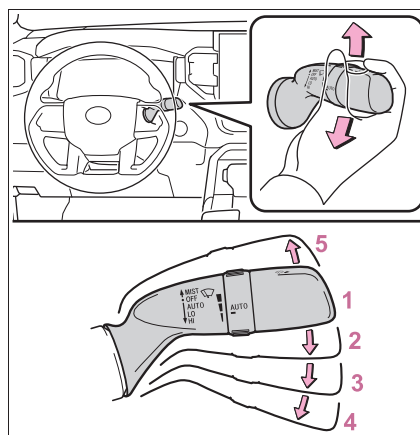
レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。
(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません。)

※1タイプ A

※2タイプ B

▶ 雨滴感知式ワイパー

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



1 OFF ※1/○※2 停止

2 AUTO AUTO モード

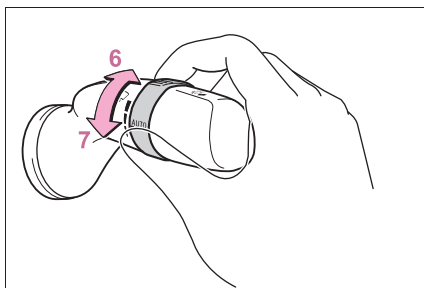
雨を検知すると、ワイパーが自動で作動します。雨滴量と車速に応じてワイパー作動間隔を自動で調整します。

3 LO ※1/▼※2 低速作動

4 HI ※1/▼※2 高速作動

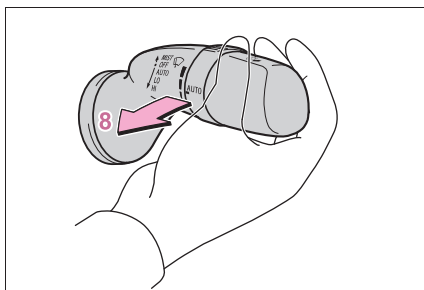
5 MIST ※1/△※2 一時作動

AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません。）

※¹タイプ A

※²タイプ B



知識

■ 作動条件

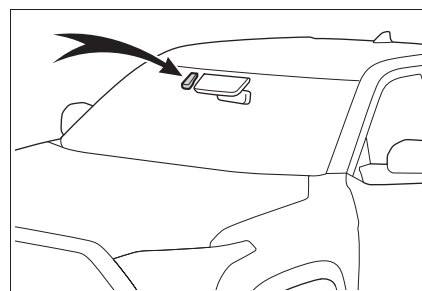
エンジンスイッチが ON のとき

■ 車速による作動への影響（雨滴感知式ワイパー装着車）

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■ 雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。
光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- エンジンスイッチが ON のときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが1回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が 185° F (85° C) 以上または 5° F (-15° C) 以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠ 警告

■ AUTO モード時のワイパー作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

 警告**■ウォッシャーを使用するとき**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

燃料タンクのキャップを開けるには、以下の手順に従ってください。

給油する前に

- エンジンスイッチを OFF にし、すべてのドアと窓が閉まっていることを確認してください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

→P.470

■ 無鉛ガソリン用燃料タンク

誤った給油を防ぐため、お車には無鉛ガソリン用燃料ポンプの専用ノズルに対応した燃料タンク開口部が設けられています。

警告

■ 給油するとき

給油するときは、以下の注意事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
 - キャップはつまみ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
 - 体内の静電気を放電していない人を開いた燃料タンクに近づけないでください。
 - 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
 - 燃料補給中は喫煙しないでください。燃料に引火し、火災の原因となる可能性があります。
 - 車内に戻ったり、静電気を帯びている人や物にふれたりしないでください。静電気が発生し、発火の危険が生じる可能性があります。
- 給油するとき**
燃料タンクからの燃料のあふれを防ぐため、以下の注意事項を守ってください。
- 燃料ノズルを燃料給油口にしっかりと差し込んでください。

⚠ 警告

- 燃料ノズルが自動的にカチッと音がして外れたら、給油を中止してください。
- 燃料タンクに燃料を満タンにしないでください。

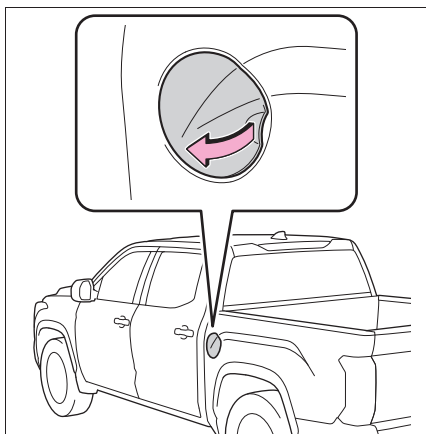
⚠ 注意**■ 給油するとき**

給油するときは燃料をこぼさないでください。

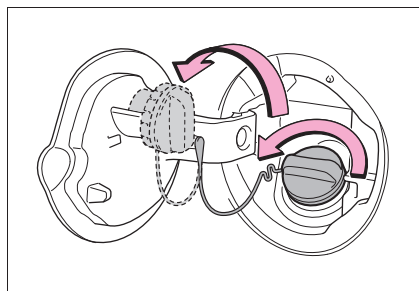
燃料をこぼすと、排出ガス浄化装置が異常作動したり、燃料系統の部品や車両の塗装面が損傷するなど、車両に損傷を与える可能性があります。

給油口を開けるには

- 1 給油扉のドアを開きます。

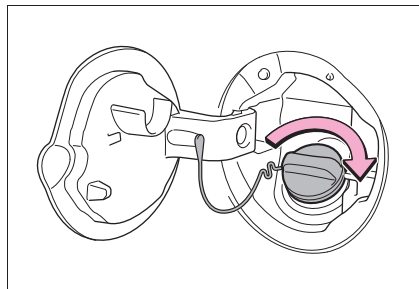


- 2 燃料タンクキャップをゆっくり回して開け、燃料給油口のホルダーに差し込みます。

**給油口を閉めるには**

給油後、燃料タンクのキャップをカチッという音がするまで回してください。

キャップを外すと、反対方向に少し回転します。

**□ 知識**

- マルチインフォメーションディスプレイに“Check Fuel Cap”と表示された場合は

燃料タンクキャップが緩んでいる可能性があります。エンジンスイッチを OFF にし、キャップの状態を確認して、しっかりと締め直してください。メッセージが消えない場合は、数秒待ってからエンジンスイッチを再度 OFF にしてください。

**警告****■ 燃料タンクキャップを交換する際は**

トヨタ純正の燃料タンクキャップ以外は使用しないでください。

車両専用のものを使用してください。

火災などの原因となり、死亡または重傷につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
→P.202
- LTA（レーントレーシングアシスト）
→P.213
- AHB（オートマチックハイビーム）
→P.188
- RSA（ロードサインアシスト）★
→P.222
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
→P.225

⚠ 警告

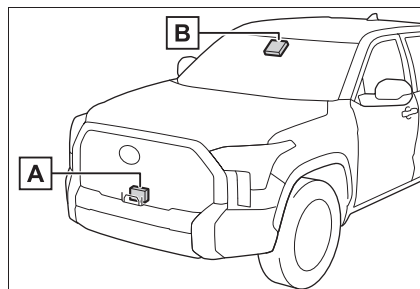
■ Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限りがあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

⚠ 警告

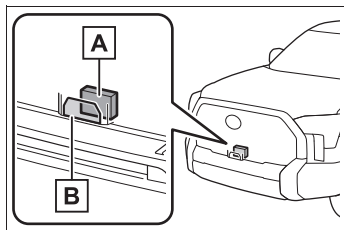
■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

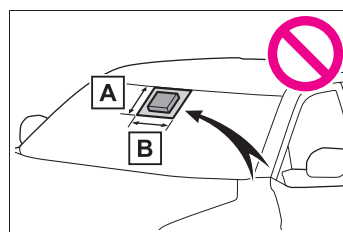
- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
 - ・ フロントバンパーを交換したとき

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
 - ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A フロントウインドウガラス上端から
前方カメラ下端より下約 0.4 in. (約 1 cm) まで

B 約 7.9 in. (約 20 cm) (前方カメラ中心から左右約 4.0 in. [約 10 cm])

⚠ 警告

- 前方カメラ前部のフロントウィンドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウィンドウガラスの曇りを取る：→P.356）
- 前方カメラ前部のフロントウィンドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウィンドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウィンドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウィンドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウィンドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

□ 知識**■ レーダーの取り扱い**

→P.511

■ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

- 次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く （フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.356）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外の時	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周囲の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周囲の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“Pre-Collision System Radar In Self Calibration Unavailable See Owner’s Manual” が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

- 次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ 炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外の時
- ・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
- ・ 車両周囲の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
その場合には“Pre-Collision System Unavailable See Owner’s Manual” が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.202）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.205）

システムの作動対象

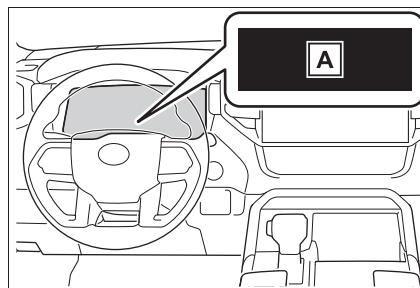
システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



A “BRAKE!”

■ プリクラッシュブレーキアシスト

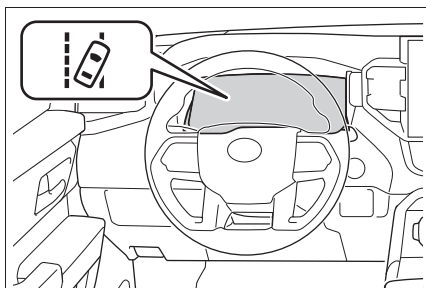
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 緊急時操舵支援

衝突する可能性が高く自車線内に回避するための十分なスペースがあるとシステムが判断した場合で、運転者の回避操舵があったとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。作動時には、表示灯が緑色に点灯します。

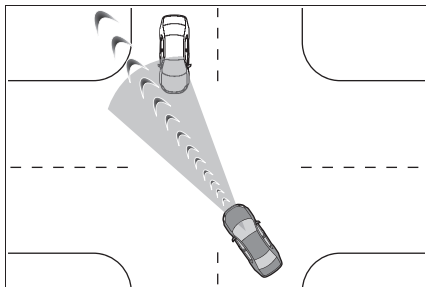


■ 交差点右左折支援

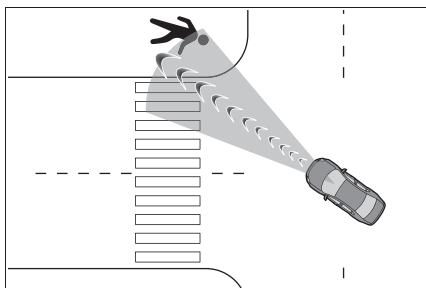
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



- 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）



■ サスペンションコントロール★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→P.342）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりするとおそれ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき：（→P.208）
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：（→P.210）

警告

- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模した物など）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **プリクラッシュブレーキについて**
- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。
- **緊急時操舵支援について**
- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
- ・ 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
- ・ 緊急時操舵支援はシステムがトレーラーの接続を検知すると、自動的に解除されます。
- ・ 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。
- ・ 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

■ **プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- トレーラー、または他の車両をけん引しているときは、次の条件をすべて満たしている場合を除きます。
 - ・ けん引するトレーラーが、トヨタ純正の TBC ECU に正しく接続されているとき
 - ・ 車両が、凍結した道路やひどくぬれた道路などの滑りやすい路面を走行していないとき

⚠ 警告

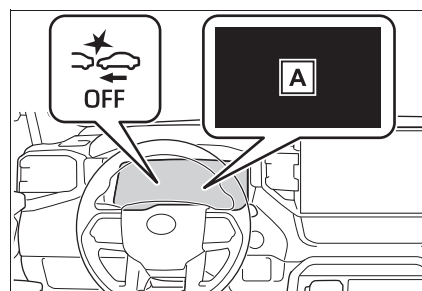
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき
- 車両をリフトアップするとき、次の場合を除きます。
 - ・ トヨタ純正リフトアップキットを使用する場合、タイヤ高を含め最大 4 in. (101 mm) までリフトアップできます。社外品リフトキットを使用すると、システム性能が低下するおそれがあります。

プリクラッシュセーフティの設定変更**■ プリクラッシュセーフティの ON/OFF を変更する**

マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.482) から、プリクラッシュセーフティの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



A “Pre-Collision System
OFF”

■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

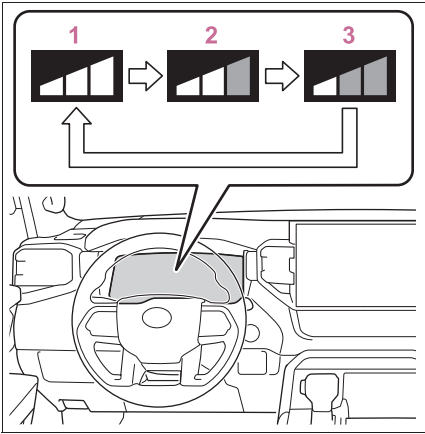
マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.482) から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、

プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると “ 中間 ” に戻ります。

衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

“ 遅い ” を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。



- 1 早く
- 2 中間
初期設定
- 3 遅い

知識

■ プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- ・ バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- ・ シフトレバーが R のとき
- ・ VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 7 ～ 110 mph (約 10 ～ 180 km/h)	約 7 ～ 110 mph (約 10 ～ 180 km/h)
自転車・歩行者	約 7 ～ 50 mph (約 10 ～ 80 km/h)	約 7 ～ 50 mph (約 10 ～ 80 km/h)

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 20 ～ 110 mph (約 30 ～ 180 km/h)	約 20 ～ 110 mph (約 30 ～ 180 km/h)
自転車・歩行者	約 20 ～ 50 mph (約 30 ～ 80 km/h)	約 20 ～ 50 mph (約 30 ～ 80 km/h)

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 7 ～ 110 mph (約 10 ～ 180 km/h)	約 7 ～ 110 mph (約 10 ～ 180 km/h)
自転車・歩行者	約 7 ～ 50 mph (約 10 ～ 80 km/h)	約 7 ～ 50 mph (約 10 ～ 80 km/h)

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

緊急時操舵支援はシステムがトレーラーの接続を検知すると、自動的に解除されます。

作動対象	自車速度	相対速度
歩行者	約 31 ～ 50 mph (約 50 ～ 80 km/h)	約 31 ～ 50 mph (約 50 ～ 80 km/h)

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ ブレーキペダルを踏む

● 交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
車両	約 7 ～ 15 mph (約 10 ～ 25 km/h)	約 20 ～ 35 mph (約 30 ～ 55 km/h)	約 25 ～ 50 mph (約 40 ～ 80 km/h)
歩行者	約 7 ～ 15 mph (約 10 ～ 25 km/h)	-	約 7 ～ 15 mph (約 10 ～ 25 km/h)

● 交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

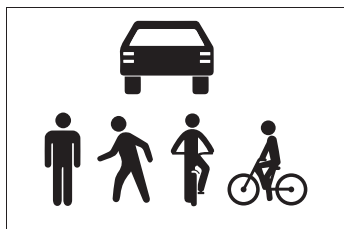
方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

システムがトレーラーを検出した場合、交差点支援は車両および歩行者に対して無効になります。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 15 mph (約 15 ～ 25 km/h)	約 20 ～ 28 mph (約 30 ～ 45 km/h)	約 28 ～ 43 mph (約 45 ～ 70 km/h)
歩行者	約 7 ～ 15 mph (約 10 ～ 25 km/h)	-	約 7 ～ 15 mph (約 10 ～ 25 km/h)

■ 作動対象の検出

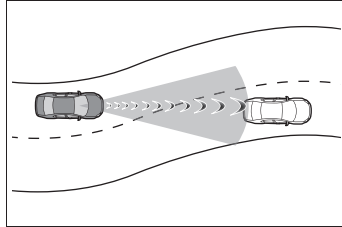
大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。(→P.210)
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



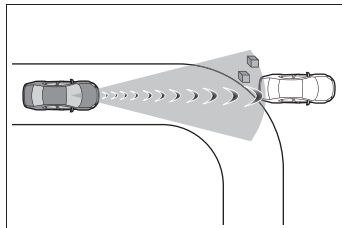
■ 衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき

● 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

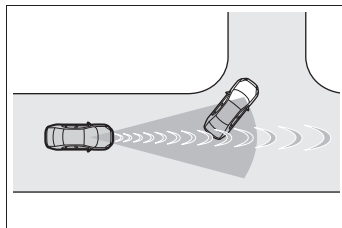
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



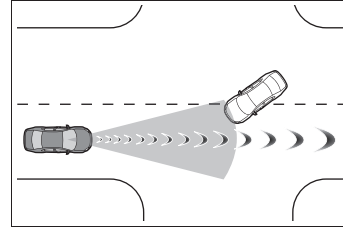
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



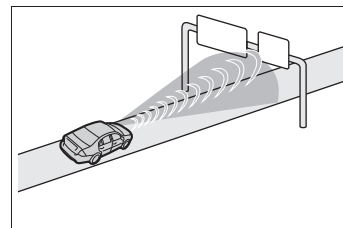
- ・ 自車の前方に作動対象との区別がつかにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



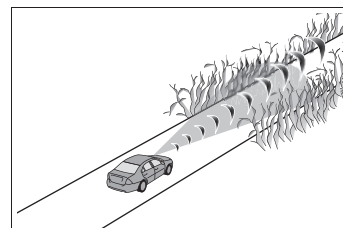
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・ 自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

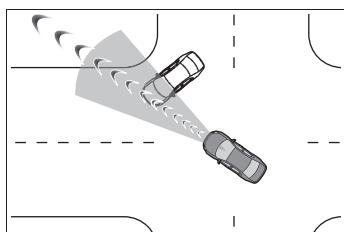
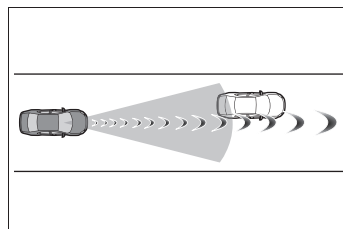


- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 洗車機を使用するとき
- ・ 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき

- ・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、わだちのある雪道など）
- ・右左折中に、対向車や横断歩行者が自車の前方を通過したとき
- ・右左折中に、対向車または横断歩行者のすぐ手前を通過しようとしたとき
- ・右左折中に、対向車または横断歩行者が、自車進路に入る手前で停止したとき
- ・交差点内で右左折中に、対向車が右折または左折をしたとき
- ・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・作動対象に急接近したとき
- ・作動対象が自車の中心軸からずれているとき

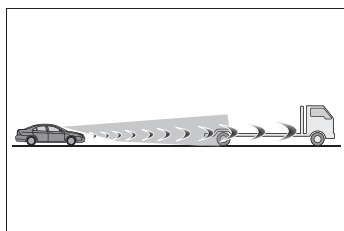


- ・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- ・社外品のリフトアップキットを使用して車両をリフトアップしたとき
- ・車両を 4in. (101 mm) 以上リフトアップしたとき
- ・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、わだちのある雪道など）
- ・他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
- ・作動対象が複数重なっているとき
- ・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき

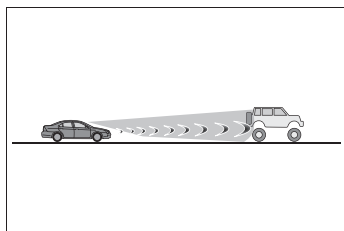
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・自車や作動対象がふらついているとき

- ・ 前方車両がオートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

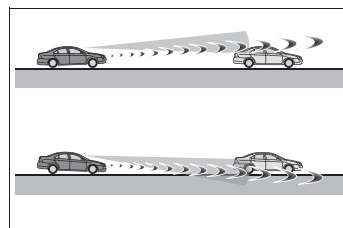


- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき

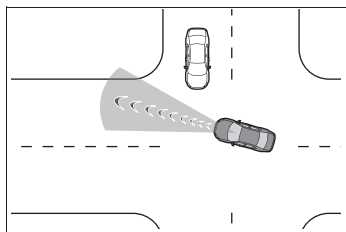


- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- ・ 歩行者・自転車運転者の大きさが約 3.2 ft. (約 1 m) 以下、または約 6.5 ft. (約 2 m) 以上のとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき

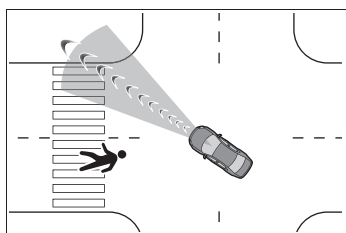
- ・ 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってから数秒間
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき
- ・ 右左折中に、対向車が自車の走行する車線よりも2つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・ 右左折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



- ・ 社外品のリフトアップキットを使用して車両をリフトアップしたとき
- ・ 車両を 4 in. (101 mm) 以上リフトアップしたとき
- 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
 - ・ 車線を区切る白（黄）線が認識できない（かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど）とき
 - ・ 車線幅が狭いとき、または広いとき
 - ・ 工事の補修跡などで、道路面に濃淡の模様があるとき
 - ・ 自車の前方中央付近にいる歩行者と衝突するとき
 - ・ 対象に近づきすぎたとき
 - ・ 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
 - ・ 対向車がいるとき
 - ・ VSC が作動しているとき
- 例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
 - ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）

- ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
- ・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
- ・ 道路面に深いわだちがあるとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 左右に傾きのある道路を走行しているとき
- ・ トレーラーや他の車両をけん引しているとき
- ・ 車両をリフトアップしているとき

■ VSC を停止したとき

- VSC の作動を停止（→P.343）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “VSC Turned OFF Pre-Collision Brake System Unavailable” が表示されません。

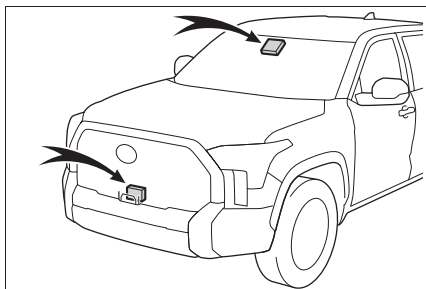
LTA（レーントレーシングアシスト）

機能概要

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



警告

■ LTA をお使いになる前に

● LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

● 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● トヨタ純正 TBC ECU に接続可能なトレーラーを接続した場合、LTA がトレーラーの接続を検出すると、車線維持支援機能が自動的に解除されます。

その他のトレーラー接続時に車線維持支援機能が自動的に解除されない場合は、車線維持支援機能を OFF にしてください。

トレーラーの接続を解除し、エンジンスイッチを OFF にすると、再度、車線維持支援機能を ON にできます。

● この車両には、特定の条件下でトレーラーを検出できる ATD（オートトレーラーデテクション）機能が搭載されています。トレーラーが検出されると、車線維持支援機能は OFF になります。

一部の状況では、実際にはトレーラーが接続されていないにもかかわらず、誤ってトレーラーを検出する可能性があります。その場合でも、車線維持支援機能は OFF になります。

車線維持支援機能を再度有効にするには、エンジンスイッチを一度 OFF にし、その後 ON にしてください。

警告

- 次のような状況では、トレーラーを誤検出する可能性があります。
駐車場やキャンプ場などの混雑した環境、渋滞・ドライブスルー・縦列駐車などの他の車両に接近しているとき

- 車両をリフトアップしている状態では、トヨタ純正のリフトアップキット（タイヤの高さを含め最大 4 in. [101 mm] まで）を使用していない限り、車線維持支援機能および車線逸脱抑制機能を使用しないでください。社外品のリフトアップキットを使用すると、システムの性能が低下するおそれがあります。

■ LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき
- トレーラー、または他の車両をけん引しているときは、次の条件をすべて満たしている場合を除きます。
 - ・ けん引するトレーラーが、トヨタ純正の TBC ECU に正しく接続されているとき

- 車両をリフトアップするとき、次の場合を除きます。

- ・ トヨタ純正リフトアップキットを使用する場合、タイヤ高を含め最大 4 in. (101 mm) までリフトアップできます。社外品リフトキットを使用すると、システム性能が低下するおそれがあります。

■ LTA の故障、または誤作動を防ぐために

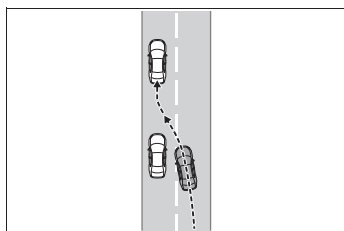
- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（フルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウィンドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

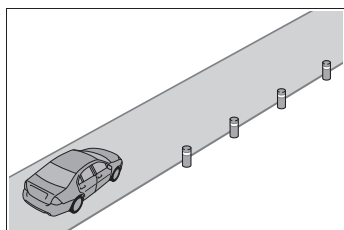
次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずハンドル操作で進路を修正してください。

警告

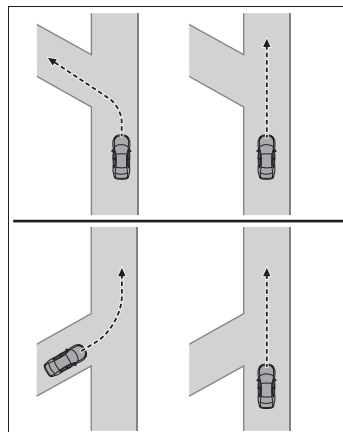
- 先行車追従表示中 (→P.218) に、先行車が車線変更したとき (先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります)



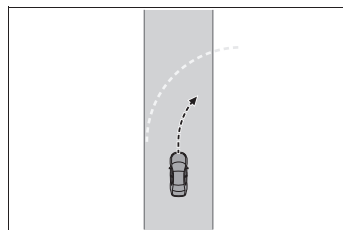
- 先行車追従表示中 (→P.218) に、先行車がふらついたとき (先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります)
- 先行車追従表示中 (→P.218) に、先行車が車線から逸脱したとき (先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります)
- 先行車追従表示中 (→P.218) に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき (先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります)
- 急カーブを走行しているとき
- 路側物に白 (黄) 線と見間違えるような構造物や模様があるとき (ガードレール・反射ポールなど)



- 分岐・合流路などを走行するとき



- 道路の修復で、アスファルト修復後や白 (黄) 線の跡が残っているとき



- 白 (黄) 線に平行するような影がある、または白 (黄) 線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白 (黄) 線がない場所を走行するとき
- 白 (黄) 線がかすれている、またはキャッツアイ (道路鉄) や置き石などがあるとき
- 白 (黄) 線が砂ぼこりなどで見えにくい、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき (白線にくらべて認識率が低下することがあります)

警告

- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき

- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- トレーラー、または他の車両をけん引しているときは、次の条件をすべて満たしている場合を除きます。
 - ・けん引するトレーラーが、トヨタ純正の TBC ECU に正しく接続されているとき
- 車両をリフトアップするとき、次の場合を除きます。
 - ・トヨタ純正リフトアップキットを使用する場合、タイヤ高を含め最大 4 in. (101 mm) までリフトアップできます。社外品リフトキットを使用すると、システム性能が低下するおそれがあります。

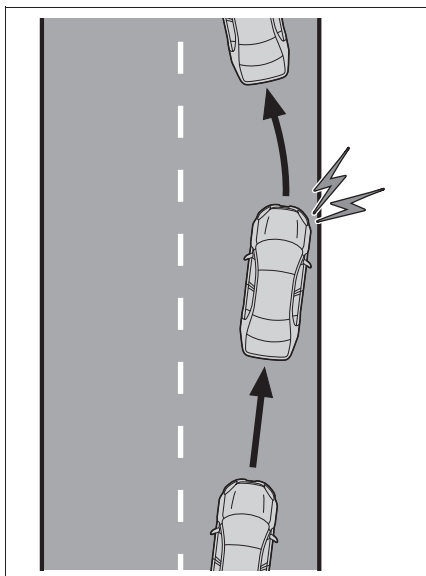
LTA に含まれる機能**■ 車線逸脱警報機能**

車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったとき、またはハンドルに振動があったとき、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路[※]内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

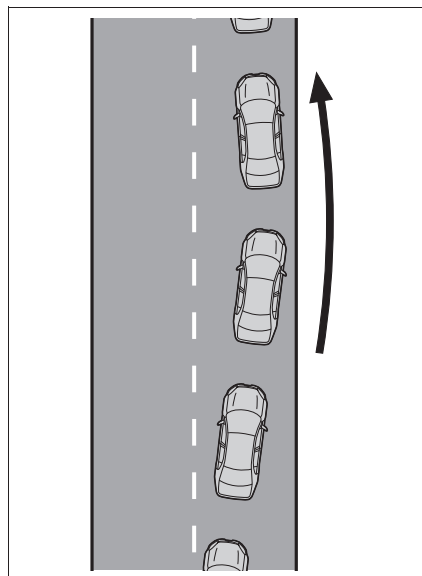
※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ 車線逸脱抑制機能

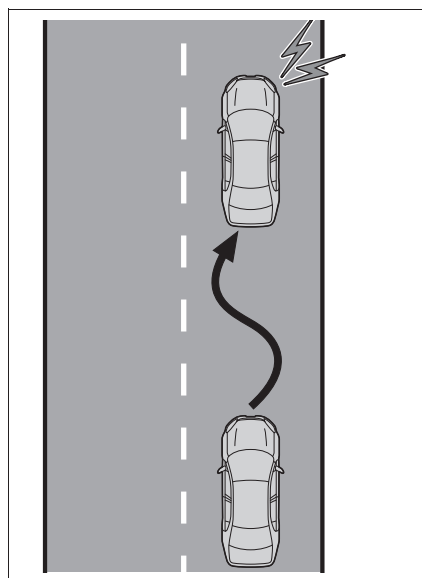
車両が車線または走路から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとしてシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

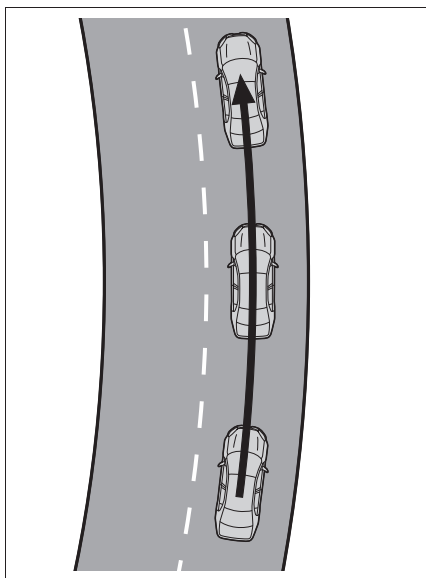


■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。



LTA スイッチを押す

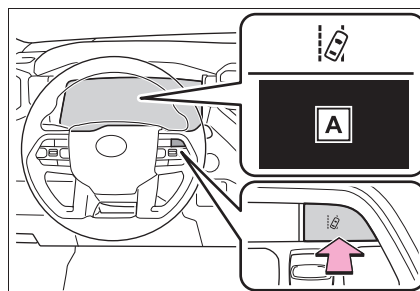
LTA スイッチを押して、LTA システムを ON にしてください。

LTA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

LTA スイッチを再度押して、LTA システムを OFF にしてください。

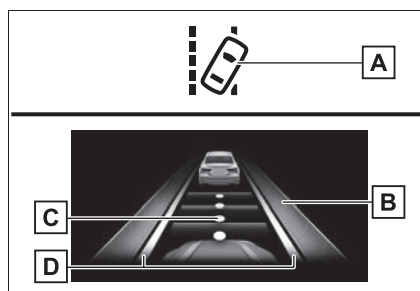
LTA システムが ON または OFF にされ

たとき、次にエンジンを始動した際にも、LTA システムはそのときの状態を継続します。



A “LTA Steering Assist
Active Lane Centering
Active”

マルチインフォメーションディスプレイ表示



A LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示

されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

C 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

D 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場

合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路

※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LTA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 32 mph (約 50 km/h) 以上のとき※¹
- ・ システムが白（黄）線または走路※²を認識しているとき（白〔黄〕線または走路※²が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 9.8 ft. (約 3 m) 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.222）

※¹ 車線維持支援機能が作動中は約 30 ft. (約 50 km/h) 以下でも作動します。

※²アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・一定以上の加減速がないとき
- ・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ABS・VSC・TRAC・PCS が作動していないとき
- ・TRAC または VSC を OFF にしていないとき
- ・手放し運転に対する注意喚起が行われていないとき (→P.221)

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・手放し運転に対する注意喚起が行われていないとき  で “Sway Warning” を “ON” に設定しているとき (→P.483)
- ・車速が約 32 mph (約 50 km/h) 以上のとき
- ・車線の幅が約 9.8 ft. (約 3 m) 以上のとき
- ・システムの異常が検知されていないとき (→P.222)

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・LTA を ON にしているとき
- ・マルチインフォメーションディスプレイの  で “Lane Center” を “ON” に設定しているとき (→P.483)
- ・システムが白 (黄) 線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき (先行車が二輪車の場合を除く)

- ・レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) が車間制御モードで作動しているとき
- ・車線の幅が約 10 ~ 13 ft. (約 3 ~ 4 m) のとき
- ・方向指示レバーを操作していないとき
- ・急カーブを走行していないとき
- ・システムの異常が検知されていないとき (→P.222)
- ・一定以上の加減速がないとき
- ・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ABS・VSC・TRAC・PCS が作動していないとき
- ・TRAC または VSC を OFF にしていないとき
- ・手放し運転に対する注意喚起が行われていないとき (→P.221)
- ・車線中央付近を走行しているとき
- ・車線逸脱抑制機能が作動していないとき
- ・車両がトレーラーをけん引していないとき、または緊急でけん引中ではないとき

■機能の一時解除

- 作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。(→P.219)
- 車線維持支援機能作動中に、作動条件 (→P.219) が満たされなくなった場合、ハンドル振動または “Alert” とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。また、カスタマイズ設定で “警報手段” を  に設定している場合は、ブザーの代わりにハンドル振動でお知らせします。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

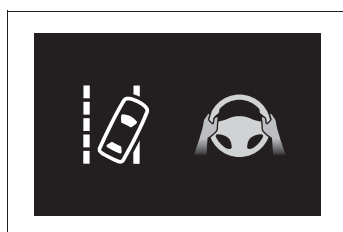
- 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。
- これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- 車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。
- BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。
- 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

また、“警報手段”を $\langle\langle\text{警報手段}\rangle\rangle$ に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

- 車線維持支援機能作動中にカーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

- 車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

また、“警報手段”を $\langle\langle\text{警報手段}\rangle\rangle$ に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。



車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

- “LTA Malfunction Visit Your Dealer”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- “LTA Unavailable”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

- “LTA Unavailable at Current Speed”

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。
(カスタマイズ一覧：→P.483)

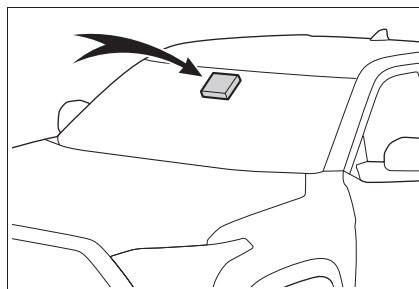
RSA (ロードサインアシスト) ★ ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 日本国内においては正しく機能しないことがあります。

機能概要

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音もしくはハンドルの振動で運転者に告知します。

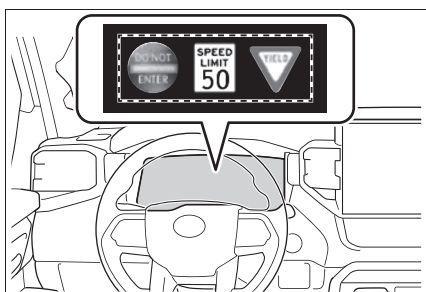
警告**■ RSA をお使いになる前に**

RSA システムのみに依存してはいけません。RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

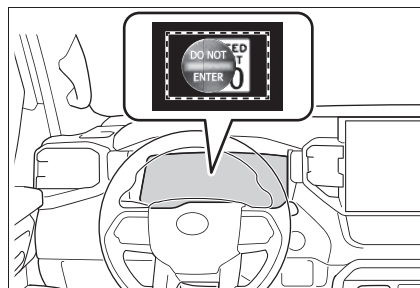
前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

- 運転支援機能情報を選択したときは、最大 3 つの標識を表示できます。（→P.81）



- 運転支援機能情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。（→P.81）

- ・ 最高速度標識
- ・ 車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。



最高速度



車両進入禁止



一時停止



ゆずれ

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。

- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■ 設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して  RSA”、を選択し、**OK**を押す

■ RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

次の状況では、一時停止や徐行の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。ただし、これ

らはシステムの異常ではありません。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼っているとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 本線を走行中であっても、側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行中、出口の道路の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■ 速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチを OFF にすると、次にエンジンスイッチを ON にしたときには再度同じ標識が表示されます。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“RSA Malfunction Visit Your Dealer”が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.483)

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

機能概要

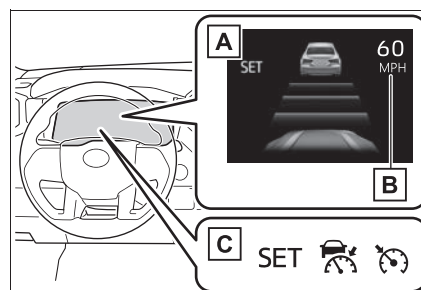
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→P.228）
- 定速制御モード（→P.231）

システムの構成部品

■ メーター表示

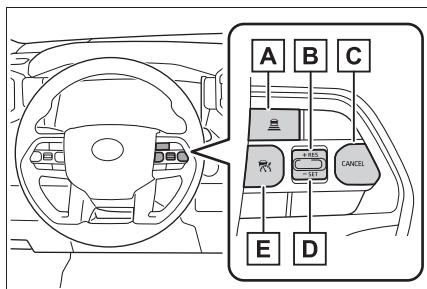


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



- A** 車間距離切りかえスイッチ
- B** “+RES” スイッチ
- C** キャンセルスイッチ
- D** “-SET” スイッチ
- E** クルーズコントロールメインスイッチ

警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.233
 - ・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.234

● 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

● システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

⚠ 警告

● 運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口

● センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

● レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき

● ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき

● トレーラー、または他の車両をけん引しているときは、次の条件をすべて満たしている場合を除きます。

・ けん引するトレーラーが、トヨタ純正の TBC ECU に正しく接続されているとき

● 接近警報がひんぱんに鳴るとき

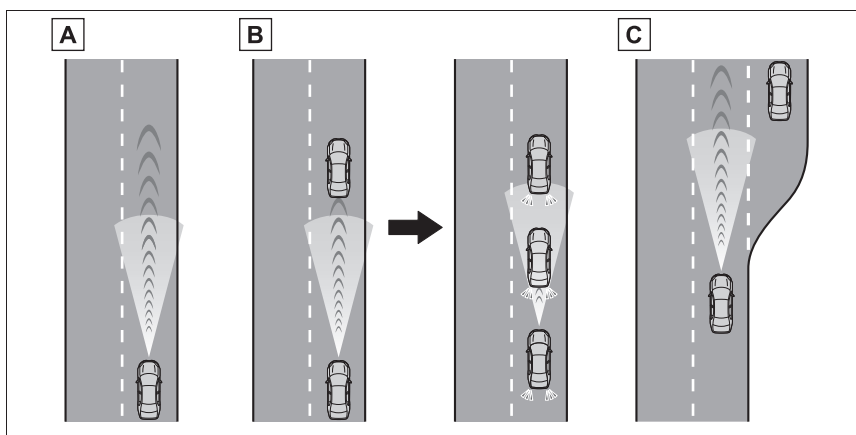
● 車両をリフトアップするとき、次の場合を除きます。

・ トヨタ純正リフトアップキットを使用する場合、タイヤ高を含め最大 4 in. (101 mm) までリフトアップできます。社外品リフトキットを使用すると、システム性能が低下するおそれがあります。

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 328 ft. (100 m) 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行—追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の车速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“+RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

50 mph (80 km/h) 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

このシステムが追い越し車線を識別する方法は、車両のハンドルの位置のみに基づいて決定されている場合があります（左ハンドルか右ハンドルか）。車両が通常走行する地域と追い越し車線の位置が異なる地域で運転される場合、追い越し車線とは逆方向に方向指示レバーを操作したときに、車両が加速することがあります。（例：ドライバーが通常、追い越し車線が右側の地域で運転しているが、その後、追い越し車線が左側の地

域へ移動した場合、右側の方向指示灯を作動させたときに車両が加速する可能性があります。)

C 加速走行：

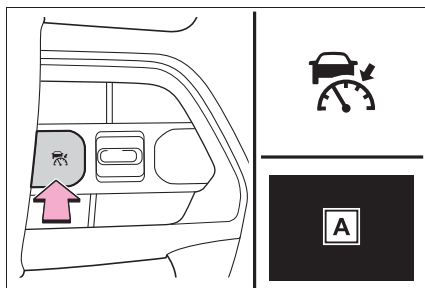
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

- 1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF にするには再度スイッチを押します。

クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。(→P.231)



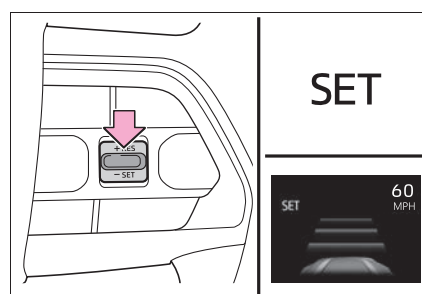
A “Radar Ready”

- 2 希望の車速 20 mph (約 30 km/h 以上) までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールの“SET”表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行

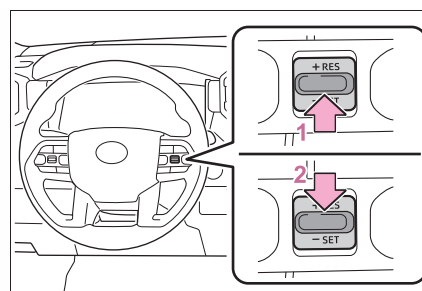
できます。



設定速度をかえる

■ スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+RES”スイッチまたは“-SET”スイッチを押します。



- 1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

- 2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに、1 mph (1.6 km/h)^{*1} または 1 km/h (0.6 mph)^{*2}

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、1 mph (1.6 km/h)^{*1} または 1 km/h (0.6 mph)^{*2} ずつ

定速制御モード (→P.231) では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1 mph (1.6 km/h)^{*1} または 1 km/h (0.6 mph)^{*2}

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

^{*1} 設定速度が “MPH” で表示されているとき

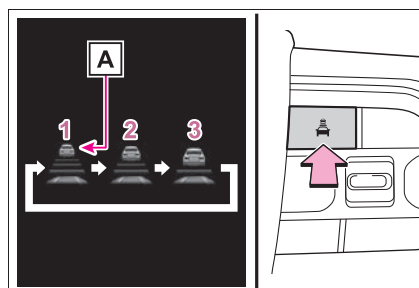
^{*2} 設定速度が “km/h” で表示されているとき

■ アクセルペダルで設定速度を上げる

- 1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する
- 2 “-SET” スイッチを押す

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

先行車がいる場合、先行車マーク **A** も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。（車速 50 mph [80 km/h] で走行している場合）

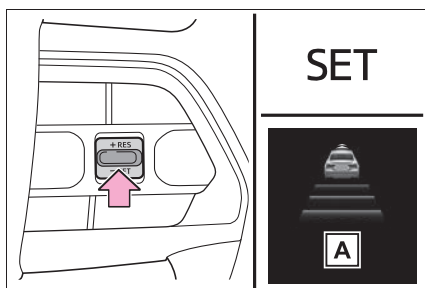
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 160 ft. (50 m)
中間	約 130 ft. (40 m)
短い	約 100 ft. (30 m)

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

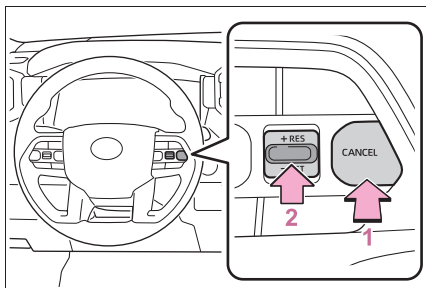
先行車の発進後、“+RES” スイッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



- A** “Operate Cruise switch or Accelerator Pedal to Resume”

制御を解除する・復帰させる

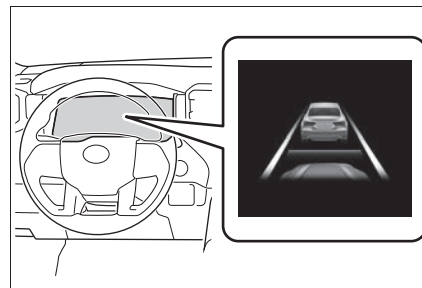


- 1** 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。(車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません)
- 2** 制御を復帰させるには、“+RES” スイッチを押す

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペ

ダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

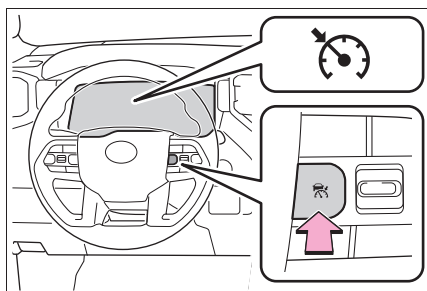
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1** クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



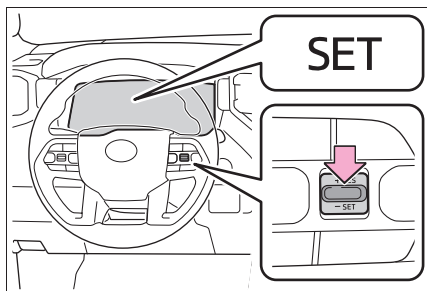
2 希望の車速（約 20 mph [30 km/h] 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロール “SET” 表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる：→P.229

制御を解除する・復帰させる：→P.231



■ 設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。
- 車速が約 20 mph (30 km/h) 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。（ただし車速が約 20 mph [30 km/h] 未満で設定したときは、設定速度が約

20 mph [30 km/h] に設定されます）

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 追従走行中の停車制御について

- 制御停車中に “+RES” スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約 3 秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- VSC が作動したとき
 - TRAC が一定時間作動したとき
 - TRAC または VSC を OFF にしたとき
 - センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
 - 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
 - クルーズコントロールシステム作動中に、センターデフのロック／ロック解除が 5 秒以内に完了しないとき
 - パーキングブレーキが作動したとき
 - 急坂路で制御停車したとき
 - 制御停車中に次を検出したとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用していない
 - ・ 運転席ドアが開いた
 - ・ 車両が停止したあと約 3 分経過した
- 上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障して

いる可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 10 mph (16 km/h 以上) 低下したとき
- 車速が約 20 mph (30 km/h) 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRAC が一定時間作動したとき
- TRAC または VSC を OFF にしたとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：ブリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- クルーズコントロールシステム作動中に、センターデフのロック/ロック解除が 5 秒以内に完了しないとき
- パーキングブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除される場合は、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

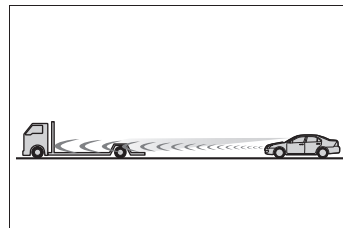
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P.200, 442）

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

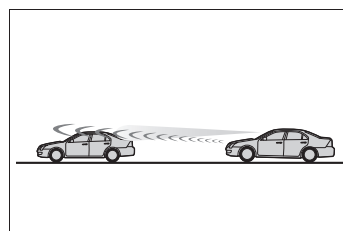
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.231）も作動しないおそれがあります。

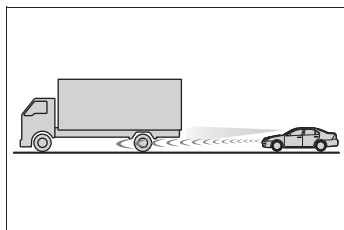
- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき

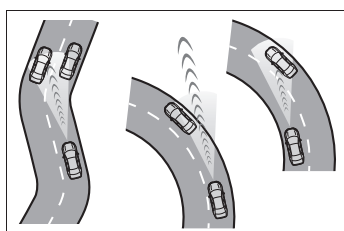


- 車両がトレーラーをけん引しているとき、または緊急でけん引しているとき
- 車両をリフトアップするとき、次の場合を除きます。
 - ・ トヨタ純正リフトアップキットを使用する場合、タイヤ高を含め最大 4 in. (101 mm) までリフトアップできます。社外品リフトキットを使用すると、システム性能が低下する可能性があります。

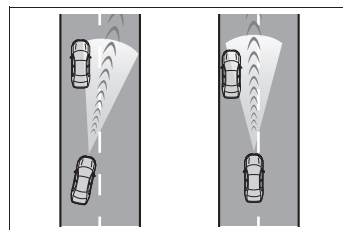
■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルを操作）してください。センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき
- トレーラー、または他の車両をけん引しているときは、次の条件をすべて満たしている場合を除きます。
 - ・ けん引するトレーラーが、トヨタ純正の TBC ECU に正しく接続されているとき
- 車両をリフトアップするとき、次の場合を除きます。
 - ・ トヨタ純正リフトアップキットを使用する場合、タイヤ高を含め最大 4 in. (101 mm) までリフトアップできます。社外品リフトキットを使用すると、システム性能が低下する可能性があります。

Stop & Start システム

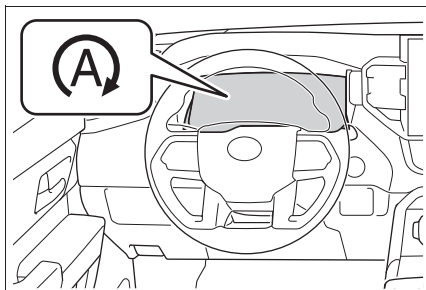
赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

Stop & Start システムの作動

■ エンジンが停止する

シフトポジションをDで走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start システムによるエンジン停止中は表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

エンジンが再始動すると表示灯は消灯します。

■ ブレーキホールドシステムが作動しているとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキペダルから足を離しても、エンジン

停止状態を継続します。

- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、アクセルペダルを踏むと、エンジンが再始動します。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、エンジンが自動的に再始動してもブレーキホールドシステムによるブレーキ保持は継続します。但し、ブレーキホールドシステムの作動条件（→P.182）が満たされなくなった場合を除きます。

■ レーダークルーズコントロールシステム（全車速追従機能付き）が作動しているとき

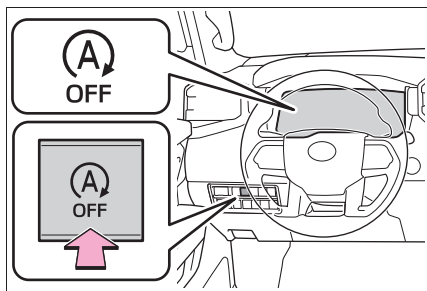
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）による停車時、ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが自動的に停止します。
- 先行車が発進すると、エンジンが再始動します。
- Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動してもレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）による停車は継続します。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押して下さい。Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、

Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



知識

■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしても、一度エンジンスイッチを OFF にしてからエンジンを始動することによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

知識

■ 使用にあたり知っておいていただきたいこと

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押した場合、エンジンは自動で再始動しないため、通常のエンジン始動操作（→P.169）でエンジンを始動してください。
- Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリソケットやアクセサリコンセントなどが使用できないことがあります。が異常ではありません。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 長時間停車する場合などには、エンジンスイッチを OFF にしエンジンを停止してください。
- Stop & Start システムの作動によるエンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にハンドルが重く感じることがあります。

■ 作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
 - ・ 一度、走行したあと
 - ・ ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき（レーダークルーズコントロールシステム〔全車速追従機能付き〕による停車中を除く）
 - ・ シフトポジションが D のとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ 走行モードが“4H”または“4L”を選択していないとき（4WD 車）

- ・マルチテレインセレクトが作動していないとき★
 - ・フロントデフロスターが OFF のとき
 - ・アクセルペダルを踏んでいないとき
 - ・エンジンが十分暖まっているとき
 - ・外気温が 23° F (-5° C) 以上のとき
 - ・ボンネットが閉まっているとき (→P.237)
 - ・“TOW HAUL” または “TOW+” が作動していないとき★
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが異常ではありません
- ・エアコンを使用しているとき
 - ・定期的な充電中のとき
 - ・バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化）
 - ・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・エンジン再始動後の経過時間が短いとき
 - ・渋滞などで、断続的に停車するとき
 - ・エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
 - ・勾配が急な坂道で停車したとき
 - ・ハンドル操作をしているとき
 - ・標高が高いとき
 - ・バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
 - ・バッテリーを脱着した後、しばらくの期間
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。
(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
- ・エアコンを ON にしたとき
 - ・フロントデフロスターを ON にしたとき
 - ・シフトレバーを D または P 以外にしたとき
 - ・シフトレバーを P 以外にしたとき (P レンジで Stop & Start システムによるエンジン停止中)
 - ・運転席シートベルトをはずしたとき
 - ・運転席ドアを開けたとき
 - ・走行モードが “4H” または “4L” を選択しているとき (4WD 車)
 - ・マルチテレインセレクトが作動しているとき★
 - ・“TOW HAUL” または “TOW+” が作動しているとき★
 - ・Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
 - ・ハンドルを操作したとき
 - ・アクセルペダルを踏んだとき
 - ・坂道などで車両が動き出したとき
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。
(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
- ・ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
 - ・エアコンを使用しているとき
 - ・エアコンに関わる操作をしたとき（デフロスタースイッチなど）
 - ・バッテリーの充電量が低下しているとき
- ボンネットを開けたとき
- Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作

(→P.169) でエンジンを始動してください。

- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコン作動について

オート設定でエアコンを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、停止したりすることがあります。

空調の効きを優先したいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

- フロントウインドウガラスが曇ったとき

フロントデフロスターと送風を ON にしてください。(→P.356)

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

- エアコン吹き出し口から臭いが発生したとき
- ・ Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムの作動を非作動にしてください。

■ エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間の長さの切りかえについて

メーターディスプレイの  画面

(→P.484) から、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さを切りかえることが

できます。(エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません)

■ アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→P.88

■ メーターディスプレイのメッセージについて

次のとき、メーターディスプレイに



と、メッセージが表示されること

があります。

- Stop & Start システムによるエンジン停止が行われなとき



“Press Brake More to

Activate”

- ・ ブレーキペダルを踏む力が足りない

→ ブレーキペダルを踏み足すと作動します。



“Non-Dedicated Battery”

- ・ Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある

→ Stop & Start システムが作動しません。トヨタ販売店で点検を受けてください。



“Battery Charging”

- ・ バッテリーの充電量が低下している可能性がある

→ バッテリー充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

- ・リフレッシュ充電中の可能性がある
- 最大 1 時間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。
- ・長期間（1 時間以上）にわたって継続的に表示される
- バッテリー劣化の可能性がありますのでトヨタ販売店に相談してください



“Stop & Start Unavailable”

- ・一時的にアイドリングストップを禁止している
- エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。
- ・ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある
- ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にして、30 秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。



“In Preparation”

- ・標高が高い
- ・ブレーキ倍力装置の負圧が低下している
- ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。



“For Climate Control”

- ・外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している
- エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能状態になります。
- ・フロントデフロスターを ON にしている
- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき



“In Preparation”

- ・ブレーキペダルをさらに踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした
- 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。



“For Climate Control”

- ・エアコンを使用している
- ・フロントデフロスターを ON にした



“Battery Charging”

- ・バッテリーの充電量が低下している可能性がある
- エンジンをしばらく作動させることでバッテリーが充電されると作動可能状態になります。

■ ブザーが鳴ったとき

Stop & Start システムによるエンジン停止中、シフトポジションが D レンジでアイドリングストップ中に運転席ドアが開いたときは警告ブザーが鳴ると同時に Stop & Start 表示灯が点滅します。ブザーを止めるには運転席ドアを閉めて下さい。

■ Stop & Start システム保護機能

- 大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。オーディオを再度使用するには、エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上待ってから ACC または ON にしてください。
- バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオが作動しないことがあります。いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返

- ・エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチを OFF にする

■ バッテリーを交換するとき

→P.462

■ Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ メーターディスプレイに “Stop & Start System Malfunction Visit Your Dealer” が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ Stop & Start システムが作動しているとき

換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。エンジンが自動的に再始動する場合がありますため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合がありますため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、必要に応じてブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

⚠ 注意

■ Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているにもかかわらず、メーターディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON のときにインテリアランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているにもかかわらず、メーターディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON のときにインテリアランプが点灯しないとき

BSM（ブラインドスポットモニター）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターは、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

警告

■安全にお使いいただくために

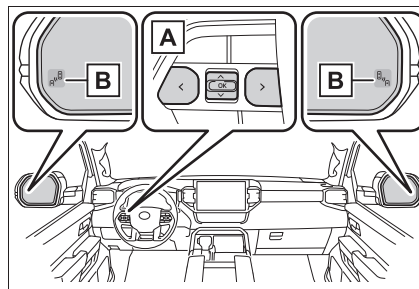
- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

- 車両をリフトアップした場合、次の場合を除きます。
 - ・トヨタ純正リフトアップキットを使用する場合、タイヤ高を含め最大 4 in. (101 mm) までリフトアップできます。社外品リフトキットを使用すると、システム性能が低下するおそれがあります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “Blind Spot Monitor Unavailable” が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。（→P.242）センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Blind Spot Monitor Malfunction Visit Your Dealer” が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.484)

■ 後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

→P.512

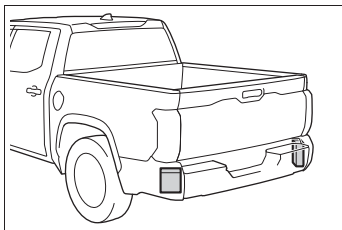
警告

■ システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示(→P.241)とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件(→P.246)でしばらく走行してください(目安: 約 10 分)。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける

センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。

次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

- ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

- センサーを分解しない

- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターの設定変更

■ ブラインドスポットモニターの ON/OFF

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。(→P.82)

- 1 < または > を押して  を選択する

2 へまたは▼を押して “ BSM” を選択し、OKを押す

ブラインドスポットモニターが OFF になると、BSM OFF 表示灯 (→P.70) が点灯します。(エンジンスイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。)

■ トレーラータイプの設定

メーター操作スイッチを使用してトレーラーの種類を選択します。(→P.82)

- 1 < または > を押して  を選択する
- 2 へまたは▼を押して “Trailer Setting” を選択し、OKを長押しする
- 3 画面に従って、希望の設定を選択し、OKを押す (→P.86)



知識

■ オートトレーラーデテクション (ATD)

オートトレーラーデテクション (ATD) は、トレーラーブレーキコントローラー (TBC) またはブラインドスポットモニター (BSM) センサーを使用して、トレーラーが接続されているかどうかを検出します。

- TBC を使用するトレーラーは、7 ピントレーラーブレーキコネクタを使用して検出できます。
- 他の種類のトレーラーも BSM センサーを使用して検出できます。

● BSMまたはTBCでトレーラーが検出されると、RCTA 機能は OFF になります。

● トレーラーが検出されると検出エリアは車両のリアバンパーから最大約 16 ft. (15 m) まで拡大されます。

● トレーラーに7ピンコネクタがない場合、または7ピンコネクタが接続されていない場合、トレーラーは BSM センサーによって検出されます。

この場合、PKSB とクリアランスソナーは OFF になりません。

● 7ピンコネクタを接続しない状態でトレーラーを自動検出するには、車両が 0.6 mph (1 km/h) 以上の速度で少なくとも 10 秒間前進する必要があります。

● ATD 機能は、エンジンスイッチの ON/OFF すること、またはシフトレバーが P または N の位置で車両が 90 秒以上停止した場合に作動します。

● 混雑した駐車場、キャンプ場のような木々に囲まれた場所などやセンサーがトレーラーを十分に検出できないほどの物体が周囲にある場合は、BSM センサーによるトレーラーの検出が遅れることがあります。

■ トレーラーレングスデテクション (TLD)

● トレーラーが検出され、メーター内のトレーラーの長さが “Auto” に選択されている場合、TLD 機能は BSM センサーを使用してトレーラーの長さを推定します。

TLD 機能と検知エリアを使用してトレーラーの長さを推定するには、少なくとも 90 度の旋回を 2 回する必要があります。

トレーラーの長さをマルチインフォメーションディスプレイから手動で入力した場合、検知できる範囲もトレーラーの長さをこえるように調整

されます。

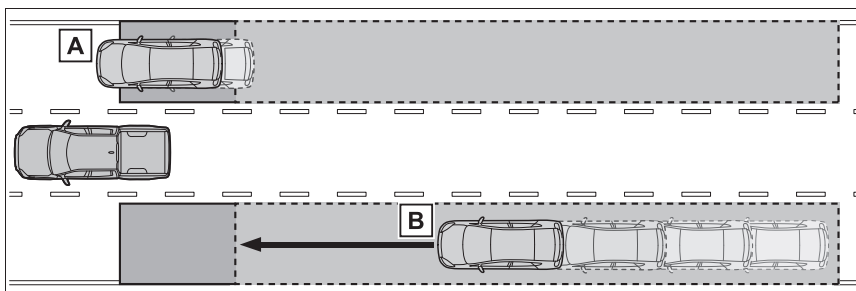
- トレーラーの種類や寸法によっては、TMW 性能が低下する場合があります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

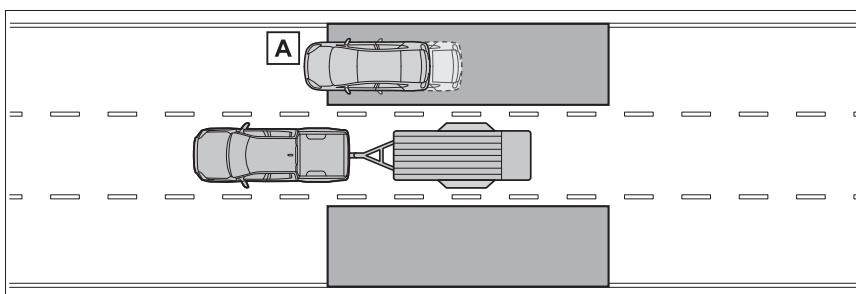
- トレーラーをけん引していないとき



A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

- トレーラーをけん引するとき

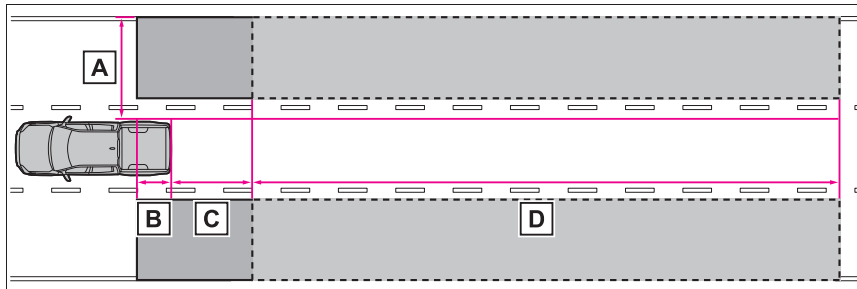


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

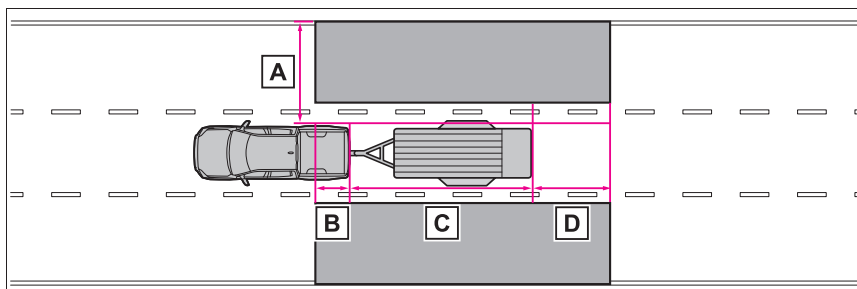
● トレーラーをけん引していないとき



検知できる範囲：

- A** 車両の両側面について、側面から約 1.6 ft. (0.5 m) 離れた面から約 11.5 ft. (3.5 m) の領域 ※¹
- B** リヤバンパーから約 3.3 ft. (1 m) 前方の領域
- C** リヤバンパーから約 9.8 ft. (3 m) 後方の領域
- D** リヤバンパーから後方約 9.8 ft. (3 m) ～ 197 ft. (60 m) の領域 ※²

● トレーラーをけん引するとき



検知できる範囲：

- A** 車両の両側面について、側面から約 1.6 ft. (0.5 m) 離れた面から約 11.5 ft. (3.5 m) の領域 ※¹
- B** リヤバンパーから約 3.3 ft. (1 m) 前方の領域
- C** トレーラー全長 ※³

D トレーラー後端から約 9.8 ft. (3 m) 後方の領域 ※³

※¹ 車両側面から外側に約 1.6 ft. (0.5 m) は検知しません。

※² 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くに
いる状況で点灯・点滅します。

※³ 幅 8.5 ft. (2.59 m) 以上、または長さ 39 ft. (12.0 m) 以上のトレーラーには
対応していません。幅 8.5 ft. (2.59 mm) 以下、長さ 39 ft. (12.0 m) 以下の
ボックストレーラーおよび一部のトレーラータイプの場合でも隣接車線の車両が自
車との速度差が大きいときは、ドアミラーインジケーターの警告が遅れることがあ
ります。

 知識**■ 作動条件**

次の条件をすべて満たしているときに作
動します。

- ブラインドスポットモニターがONのとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 6 mph (10 km/h) 以上のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のよ
うな状況で検知範囲に入った車両を検知
します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追い
こされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他
車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入す
るとき

**■ ブラインドスポットモニターが車両を
検知しない条件**

ブラインドスポットモニターは、次のよ
うな車両や車両以外のものを検知対象と
しません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者な
ど ※
- 対向車

- ガードレール・壁・標識・駐車車両な
どの静止物 ※

- 同じ車線を走行する後続車 ※

- 2 つ隣の車線を走行する他車 ※

- 大きい速度差で自車が追い越す他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあり
ます。

**■ システムが正しく作動しないおそれ
がある状況**

- 次のような状況では車両を正しく検知
しないおそれがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃
などにより、センサーの位置や向きが
ずれているとき
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセン
サーやセンサー周辺のリヤバンパーに
付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまり
などの濡れた路面を走行するとき
- ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接
近するとき
- ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が
大きすぎるとき
- ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほ
とんど等しいとき
- ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲
に他車が存在し続けたとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や

- 道路のくぼみ等を走行しているとき
 - きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
 - テールゲートを開いた状態で運転しているとき、または開いたテールゲートに荷物（木材など）を積んでいるとき
 - テールゲートを開けた状態で走行しているとき、自車と検知エリアに進入してきた車両との間に大きな高さ差があるとき、または開いたテールゲートに木材などの荷物を積んでいるとき
 - ブラインドスポットモニターを ON にした直後
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ガードレールや壁などとの距離が短い状態で、それらが検知範囲に入ったとき
 - 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
 - きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - タイヤがスリップ（空転）しているとき
 - 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - 車両後部にサイクルキャリアなどのアクセサリを装着しているとき
 - トレーラーをけん引しながら交差点を曲がるときに隣接する車両が直進を続けている

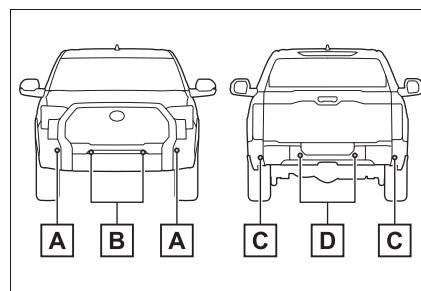
クリアランスソナー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディアディスプレイに距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

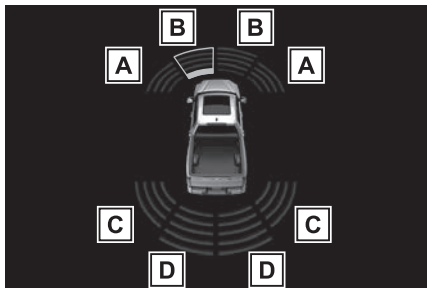
C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

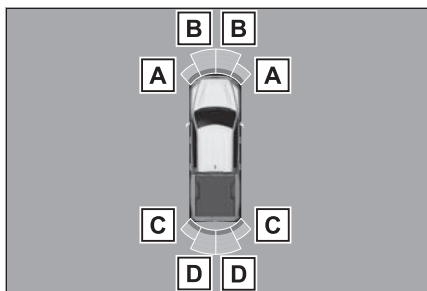
■ 画面

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディアディスプレイに表示されます。（物体までの距離が短くなると、距離表示が点滅することがあります。）

- ▶ マルチインフォメーションディスプレイの表示



- ▶ マルチメディアディスプレイの表示



- A** フロントコーナーセンサー作動表示
B フロントセンターセンサー作動表示
C リヤコーナーセンサー作動表示
D リヤセンターセンサー作動表示

クリアランスソナーの ON/OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.82)

- 1 < または > を押して を選択する
- 2 ^ または v を押して を選択し、OK を押す

クリアランスソナー機能が OFF になっているときは、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.70) が点灯します。

システムを OFF (非作動) にした場合、再度作動するには、マルチインフォメーションディスプレイの から を選択してから ON (作動) にします。

エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません。

知識

■ トレーラーをけん引するとき

7 ピンコネクタが接続され、オートトレーラーデテクション (ATD) (→P.243) が作動すると、リヤセンサーは自動的に OFF になります。

警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限りがあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために必ず次のことをお守りください。

正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。

⚠ 警告

● センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。

● センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。

● 改造・分解・塗装をしないでください。

● ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。

● 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■ 機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。機能が正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 上記の内容が守られないとき

● 純正品以外のサスペンションを取り付けしないでください。

■ 洗車時の注意

センサー部分に水や蒸気を集中的に当てないでください。

センサーが故障する可能性があります。

● 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

● スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

📖 知識

■ 作動条件

● エンジンスイッチが ON のとき

● クリアランスソナー機能が ON のとき

● 車両の速度が約 6 mph (10 km/h) 以下のとき

● シフトポジションが P 以外にあるとき

■ “Parking Assist Unavailable Clean Parking Assist Sensor” とマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

センサーは水滴、氷、雪、汚れなどで覆われている場合があります。システムを正常な状態に戻すには、センサーから水滴、氷、雪、汚れなどを取り除いてください。

また、低温時にはセンサーに氷が付着するため、警告メッセージが表示されたり、センサーが物体を検知できなかったりする場合があります。氷が溶けると、システムは正常に戻ります。

センサーが汚れていなくても警告メッセージが表示される場合は、センサーの故障が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。



■ マルチインフォメーションディスプレイに“Parking Assist Unavailable”と表示されたとき

大雨などの場合、センサー表面を水が流れ続けることがあります。システムが正常であると判断すると、システムは正常状態に戻ります。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 使用中に以下の状況が発生する可能性があります。
 - ・ 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
 - ・ センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。
 - ・ 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 11.9 ft. (30 cm) 以内に接近するおそれがあります。
 - ・ オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
 - ・ 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

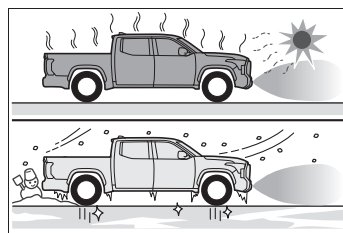
- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの

- 背が高く上部が張り出しているもの

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

車両の状態や周囲の環境によっては、センサーが物体を正しく検知できない場合があります。具体的には、以下のような状況が考えられます。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
 - 特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



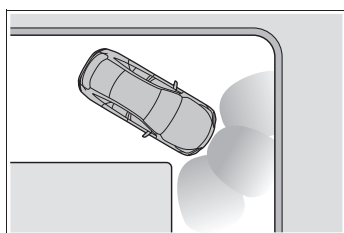
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

- 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けしたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- テールゲートを開けたとき

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

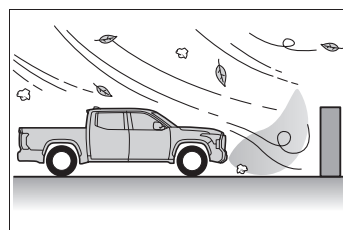
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき

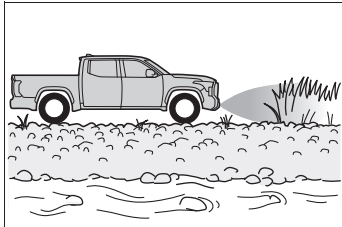


- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴がある場合

- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■けん引しているとき

トレーラーの接続が検出されると、リヤセンサーは OFF になります。

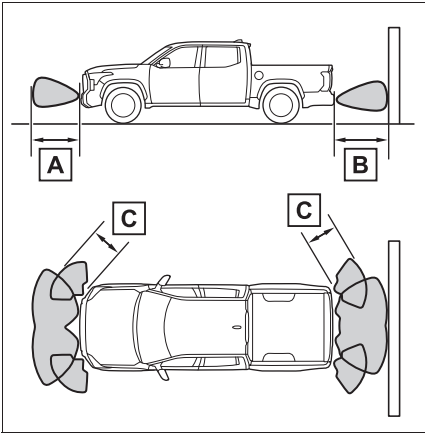
後退時には、リヤセンサーは OFF になりますが、フロントコーナーセンサーは作動します。

■クリアランスソナーの取り扱いについて

→P.514

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 3.3 ft. (100 cm)

B 約 4.9 ft. (150 cm)

C 約 2.0 ft. (60 cm)

検知できる範囲は図のとおりです。

ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンサー： 3.3 ft. to 2.0 ft. (100 cm to 60 cm) ※ リヤセンサー： 4.9 ft. to 2.0 ft. (150 cm to 60 cm) ※	断続音
2.0 ft. to 1.5 ft. (60 cm to 45 cm) ※	早い断続音
1.5 ft. to 1.0 ft. (45 cm to 30 cm) ※	非常に早い断続音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
1.0 ft. to 0.5 ft. (30 cm to 15 cm)	連続音
0.5 ft. (15 cm) 以下	

※ 自動ミュート機能あり (→P.253)

■ ブザー動作と静止物までの距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 1.0 ft. (30 cm) 以下のとき、連続音“ピー”になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)

■ ブザー音量調整

ブザーの音量はマルチインフォメーションディスプレイで調整できます。

メーター操作スイッチを使用して設定を変更します。(→P.82)

- 1 メーター操作スイッチの **＜** または **＞** を押して **⚙** を選択する
- 2 メーター操作スイッチの **へ** または **✓** を押して **P** を選択し、**OK** を押し続ける
- 3 音量を選択して、**OK** を押す
スイッチを押すたびに、音量レベルが

1、2、3 の間で切り替わります。

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

物体を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにミュートボタンが表示されます。ブザーをミュートするには、**OK** ボタンを押してください。

クリアランスソナーと RCTA 機能★のブザーは同時にミュートされます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 次の時、自動でミュート（消音）が解除されます。
- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

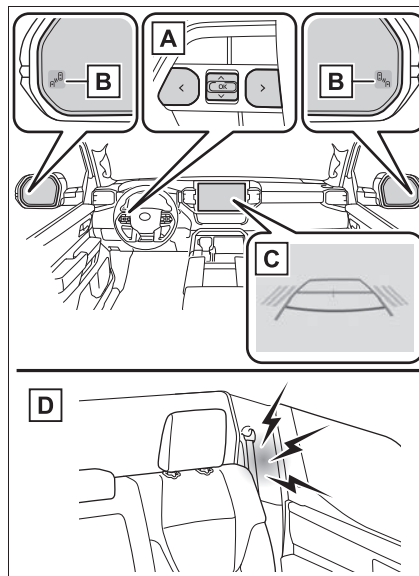
警告

■ システムの使用に関する注意事項

- 本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→P.241）
- 車両をリフトアップした場合、次の場合を除きます。
 - ・ トヨタ純正リフトアップキットを使用する場合、タイヤ高を含め最大 4in. (101 mm) までリフトアップできます。社外品リフトキットを使用すると、システム性能が低下するおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために
→P.242

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

RCTA 機能の ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C マルチメディアディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイに検知した側の RCTA アイコン（→P.255）が点灯します。イラストは両後方から車両が接近している例です。

D RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知すると、ブザーが鳴ります。RCTA 機能が ON になった直後にも約 1 秒間ブザーが鳴ります。

設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。
(→P.82)

1 < または > を押して  選択する

2 へ または ▼ を押して

“RCTA” を選択し、OK を押す

RCTA 機能が OFF の時は、RCTA OFF 表示灯 (→P.70) が点灯します。(エンジンスイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。)

知識

■ トレーラーをけん引するとき

オートトレーラーデテクション (ATD) (→P.243) が作動している場合、機能は自動的に OFF になります。

■ ドアミラーインジケータの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケータが見えづらいたことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Rear Cross Traffic Alert Unavailable” と表示されているとき

センサー電圧が異常になったり、リヤバンパーのセンサー付近に水、雪、泥などが付着している可能性があります。
(→P.242)

センサー付近の水、雪、泥などを取り除けば、センサーは正常に戻ります。また、

極端に暑いまたは寒い天候で使用すると、センサーが正常に機能しない場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Rear Cross Traffic Alert Malfunction Visit Your Dealer” と表示されたときは

センサーの故障または位置ずれの可能性あります。トヨタ販売店で車両を点検してください。

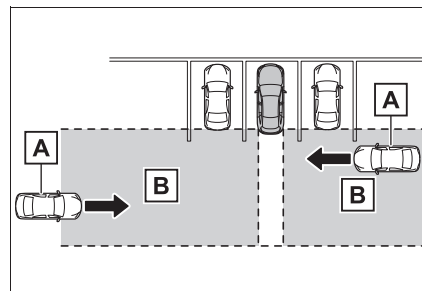
■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.242

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケータとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



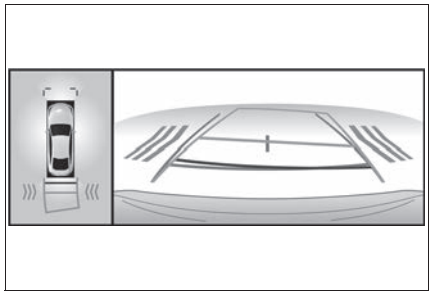
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

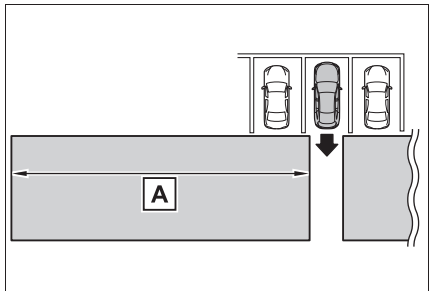
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置でブザーを鳴らします。
例：

接近車両	速度	A 警報距離 (概算)
速い	17 mph (28 km/h)	66 ft. (20 m)
遅い	5 mph (8 km/h)	18 ft. (5.5 m)



■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- エンジンスイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 5mph (約 8km/h) 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 5mph (約 8km/h) ～ 17mph (約 28km/h) のあいだのとき
- トレーラーブレーキコントローラー用の 7ピンコネクタが接続されていないとき★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ブザーの音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

メーター操作スイッチで設定を変更します。(→P.82)

- 1 メーター操作スイッチの < または > を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの ^ または v を押して “RCTA” を選択し、OK を押し続ける

3 OK を押して音量を選択する

スイッチを押すたびに、音量レベルが 1、2、3 の間で切り替わります。

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）ボタンが表示されます。

OK を押すとブザー音がミュートされます。

RCTA と intuitive parking assist は一

括でミュート（消音）されます。

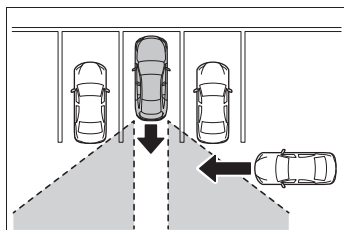
一時ミュート（消音）が解除される時：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

■ システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



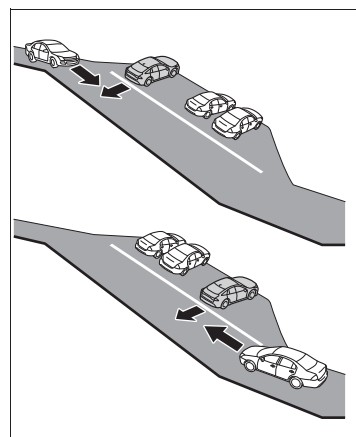
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両※
- センサーと接近車両との距離が近すぎるとき

※ 状況によっては、車両や物体の検知が発生する場合があります。

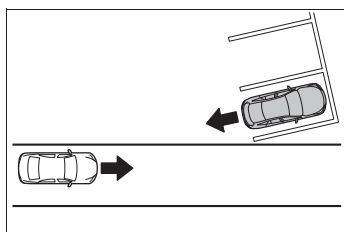
■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

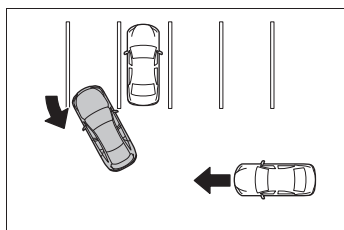
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



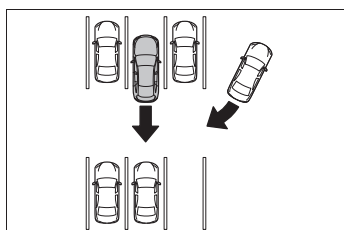
- 斜めの駐車場から出庫するとき



- RCTA 機能を ON にした直後
- RCTA 機能を ON にした状態で、エンジンをかけた直後
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 自車が旋回しているとき



- 旋回しながら車両が近付いてきたとき

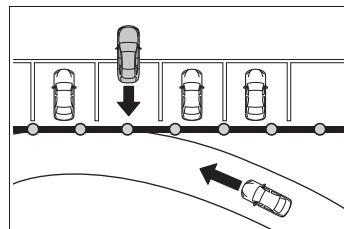


■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

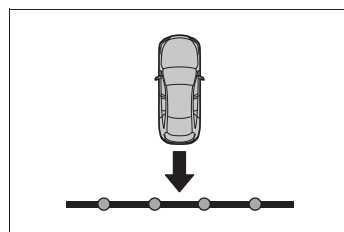
RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- 駐車場に面した道を車両が走行してい

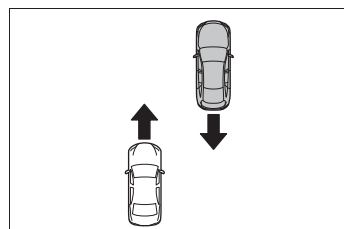
るとき



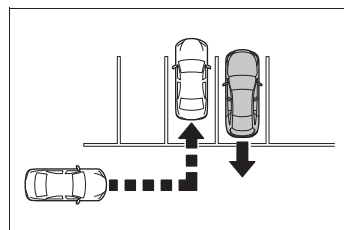
- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体がある

とき

- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- グレーチングや側溝
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パーキングサポートブレーキは、駐車時などの低速走行時や後退時に作動する以下の機能で構成されています。

システムが検知した物体や歩行者との衝突の可能性が高いと判断した場合は、警報を発してドライバーに回避操作を促します。また、システムが検知した物体や歩行者との衝突の可能性が高いと判断した場合は、自動的にブレーキを作動させ、衝突の回避または衝突時の衝撃の軽減を支援します。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）システム

- パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

→P.264

- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

→P.267

 警告**■ システムの使用に関する注意事項**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適切でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

**注意**

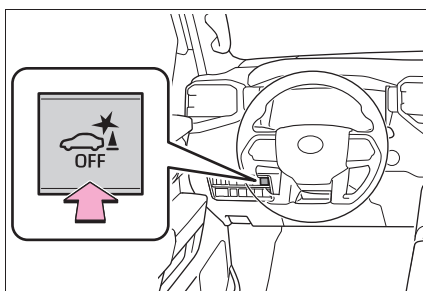
■ マルチインフォメーションディスプレイに “PKSB Unavailable” と表示され、PKSB OFF インジケータが点灯しているとき

エンジンスイッチを ON にした直後にこのメッセージが表示された場合は、周囲に注意しながら慎重に運転してください。システムが正常に戻るまで、しばらく運転する必要がある場合があります。(しばらく運転してもシステムが正常に戻らない場合は、バンパーのセンサーとその周辺を清掃してください。)

システムを作動させるには

スイッチを押すとパーキングサポートブレーキを ON/OFF します。

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）を一括で ON/OFF します。



パーキングサポートブレーキが解除されると、PKSB OFF インジケータが点灯します。(→P.70)

システムを ON(作動)にするには、スイッチをもう一度押します。この方法で OFF(非作動)にした場合、エンジンスイッチを OFF にしてから ON にしてもシステムは復帰しません。

**知識**

■ トレーラーをけん引するとき

7 ピンコネクタが接続され、オートトレーラーデテクション (ATD) (→P.243) が作動している場合、機能は自動的に OFF になります。

■ “4L” モードを選択したとき (4WD モデル)

パーキングサポートブレーキは自動的に解除されます。

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★、マルチメディアディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● エンジン出力抑制制御作動中 (加速制限制御)

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチインフォメーションディスプレイ：“ObjectDetected Acceleration Reduced”

マルチメディアディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★表示例：警告表示なし

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● エンジン出力抑制制御作動中 （出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要
だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示
例：“BRAKE！”

マルチインフォメーションディスプレイ
とヘッドアップディスプレイ★表示
例：“BRAKE！”

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

PKSB OFF 表示灯：消灯

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したと
き：

マルチインフォメーションディスプレイ
とヘッドアップディスプレイ★表示
例：“BRAKE！”

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

PKSB OFF インジケータ表示灯：消
灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したと
き：

マルチメディアディスプレイ表
示：“Press Brake Pedal”

マルチインフォメーションディスプレイと
ヘッドアップディスプレイ★：“Switch
to Brake”（アクセルペダルが踏まれて
いない場合は、“Press Brake Pedal”

と表示されます。）

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

PKSB OFF インジケータ表示灯：点
灯

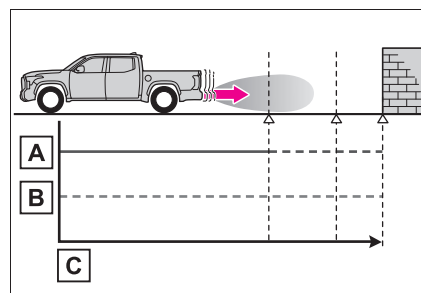
ブザー：ピー（単発音）

システムの概要

パーキングサポートブレーキが検
知物との衝突の可能性があるかと判
断した場合、エンジン出力を制限
し、車速の上昇を抑制します。（エ
ンジン出力制限制御：図 2）

さらに、アクセルペダルを踏み続
けると、自動的にブレーキが作動
し、車速が低下します。（ブレーキ
制御：図 3）

● 図 1（PKSB [パーキングサ ポートブレーキ] 非作動時）

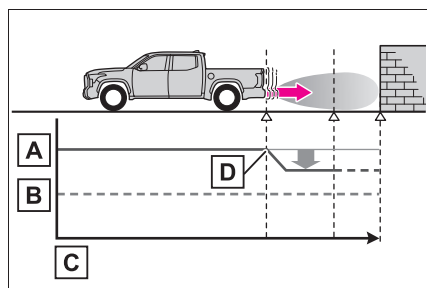


A エンジン出力

B 制動力

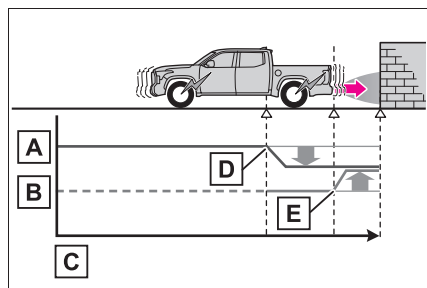
C 時間

● 図 2（エンジン出力抑制制御時）



- A** エンジン出力
- B** 制動力
- C** 時間
- D** エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）



- A** エンジン出力
- B** 制動力
- C** 時間
- D** エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）
- E** ブレーキ制御開始（作動対象と

衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

□ 知識

■ パーキングサポートブレーキが作動したとき

パーキングサポートブレーキの作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキは解除され、PKSB OFF インジケータが点灯します。パーキングサポートブレーキが不必要に作動した場合は、ブレーキペダルを踏むか、約 2 秒間待つことでブレーキ制御を解除できます。その後、アクセルペダルを踏むことで車両を操作できます。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したあとに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を再度 ON にするか、（→P.261）エンジンスイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。

- シフトポジションを P にした
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させた
- 車両の進行方向が切りかわった

■ マルチインフォメーションディスプレイに“PKSB Unavailable”と表示され、PKSB OFF インジケータが点灯しているとき

パーキングサポートブレーキの作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキは解除され、PKSB OFF

インジケーターが点灯します。

- センサー部に水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、作動対象を検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

- センサーの汚れを取り除いても表示が出る時、センサーが汚れていなくても表示がでるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 22mph (約 35km/h) 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

パーキングサポートブレーキ (静止物) ★

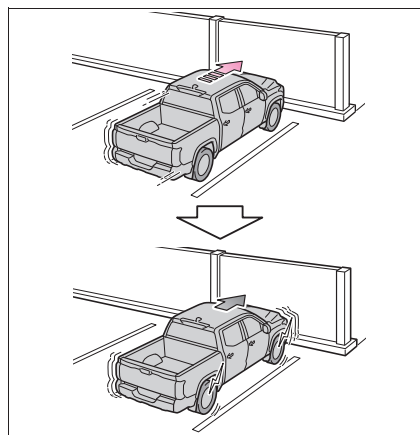
★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤って発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

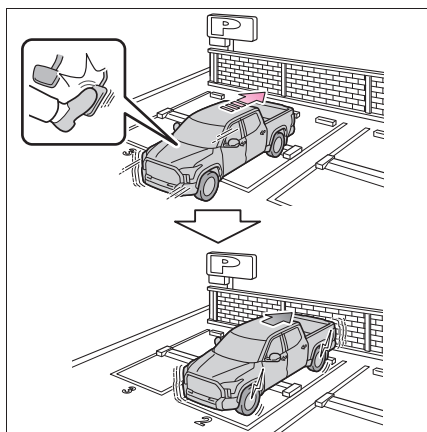
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

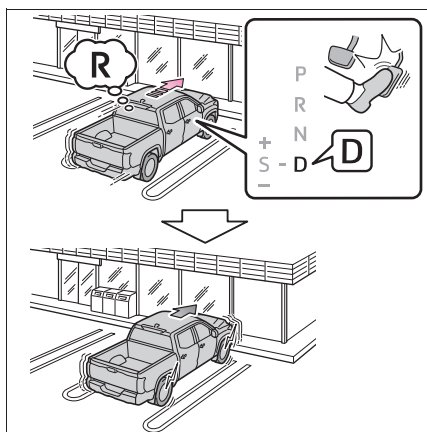
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき



センサーの種類

→P.247

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

以下の注意事項を守ってください。

これを怠ると、車両が安全に運転できなくなり、事故につながる可能性があります。

- センサーを損傷しないようにし、常に清潔に保ってください。
- レーダーセンサーの近くには、ステッカーを貼ったり、バックライト付きナンバープレート（特に蛍光灯タイプ）、フォグランプ、フェンダーポール、無線アンテナなどの電子部品を設置したりしないでください。
- センサー周辺に強い衝撃を与えないでください。衝撃を受けた場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。フロントバンパーまたはリヤバンパーの取り外し、取り付け、または交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。
- センサーを改造、分解、塗装しないでください。
- ナンバープレートカバーを取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■ サスペンションの取り扱い

サスペンションを改造しないでください。車両の高さや傾斜が変化すると、センサーが物体を正しく検知できなくなったり、システムが作動しなくなったり、不必要に作動したりする可能性があります。

⚠ 警告**■ パーキングサポートブレーキが（静止物）不必要に作動した場合（踏切などで）**

踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が不必要に作動した場合、約 2 秒後にブレーキ制御が解除され、前進してその場から退出できます。また、ブレーキペダルを踏むことでもブレーキ制御を解除できます。ブレーキ制御解除後にアクセルペダルを踏むと、前進してその場から退出できます。

■ 洗車時の注意点

センサー部分に水や蒸気を集中的に当てないでください。

センサーが故障する可能性があります。

- 高圧洗浄機を使用して車両を洗浄する際は、センサーに直接水を噴射しないでください。センサーが故障するおそれがあります。
- 車両をスチームで洗浄する際は、スチームをセンサーに近づけすぎないでください。センサーに近づけすぎると、センサーが故障する可能性があります。

□ 知識**■ パーキングサポートブレーキ機能（静止物）作動開始条件**

この機能は、PKSB OFF インジケーターが点灯（→P.70, 435）または点滅しておらず、次の条件がすべて満たされているときに作動します。

- エンジン出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 9mph（約 15km/h）以下
 - ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 6 ～ 13 ft. 先まで [約

2 ～ 4m 先まで]）

- ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ エンジン出力抑制制御作動中
- ・ 接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 6 ～ 13 ft. 先まで [約 2 ～ 4m 先まで]）

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 6 ～ 13 ft. 先まで [約 2 ～ 4m 先まで]）

■ パーキングサポートブレーキ機能の検知範囲（静止物）

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲と異なります。（→P.252）そのため、クリアランスソナーが物体を検知して警告を発しても、パーキングサポートブレーキ（静止物）が作動しない場合があります。

- システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.250

- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.251

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

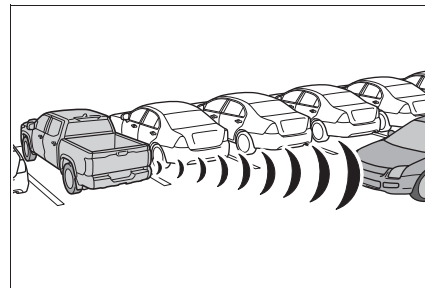
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

- 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.242

警告**■ システムを正しく作動させるために**

後方レーダーセンサーについては、以下の注意事項を必ず守ってください。(→P.242) 守らないと、センサーが正常に作動せず、事故につながるおそれがあります。

- センサーを改造、分解、塗装しないでください。
- リヤレーダーセンサーを純正品以外の部品と交換しないでください。
- 後方レーダーセンサーを損傷しないでください。レーダーセンサーとその周辺を常に清潔に保ってください。
- 後方レーダーセンサー周辺に衝撃が加わると、センサーの故障によりシステムが正常に作動しない場合があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- リヤレーダーセンサーの取り扱い上の注意事項を守ってください。(→P.242)

知識**■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件**

この機能は、PKSB OFF インジケーター(→P.70, 435) が点灯または点滅しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- エンジン出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 9mph（約 15km/h）以下
 - ・ 後側方から接近する車両の車速が約 5mph（約 8km/h）以上
 - ・ シフトポジションが R のとき
 - ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作

が必要とシステムが判断したとき

- ブレーキ制御
 - ・ エンジン出力抑制制御作動中
 - ・ 接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- エンジン出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
 - ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき
- ブレーキ制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
 - ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲とは異なります。(→P.256) そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.257

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.258

バックガイドモニター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バックガイドモニターは後退時（例えばバックで駐車するとき）に車両後方の映像を表示することで運転者を支援する装置です。表示をワイドリヤビューに切りかえることで、より横に広い映像を表示することができます。

知識

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

運転時の注意事項

バックガイドモニターは、後退操作を補助する装置です。後退する際は、必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。車をぶついたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

バックガイドモニターを使用するときは次のことをお守りください。

警告

- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。
- 後退するときは、ブレーキペダルを踏んで速度調整しながら、ゆっくり後退してください。

警告

- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなとき、または路肩に乗り上げそうになったときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- バックガイドモニターの各モードの操作手順はあくまでも一例であり、駐車時の道路事情、路面、車の状況などにより、ハンドル操作のタイミングや操作量は異なります。以上のことを十分理解した上で、バックガイドモニターをご使用ください。
- 駐車するときは、必ず駐車スペースに車を駐車できるかを確認してから後退してください。
- 次のような状況では、バックガイドモニターを使用しないでください。
 - ・ 雪道、凍結した道などのすべりやすい路面
 - ・ タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
 - ・ テールゲートが完全に閉まっていないとき
 - ・ カーブや坂道など平坦やまっすぐではない道路
 - ・ サスペンションを改造している、またはメーカー指定と異なる大きさのタイヤが装着されている場合
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像がうすれたりすることがあります。また、走行中に映像が歪む、または画面から見えなくなることがあります。
必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認してから運転してください。
- タイヤサイズを変更した場合、画面に表示されるガイド線の位置に誤差が生じることがあります。

- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。(→P.275)

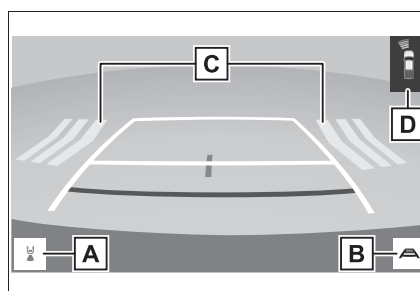
画面表示

エンジンスイッチが ON の状態で、シフトレバーを R に入れると、バックガイドモニターの画面が表示されます。

表示モード切り替えボタンを選択するたびに、モードが下記の通り切りかわります。

リヤビュー：車両の後方映像を表示します。

ワイドリヤビュー：リヤビューカメラの画角を 180° までワイド化した映像を表示します。

**A** 画面モード切りかえボタン

バックビューとワイドバックビューが切りかわります。

B ガイド線切りかえボタン

ガイド線表示モードを切りかえます。(→P.271)

- ・ ボタンを選択するたびに、表示モードが下記の順番で切り替える：

予想進路線表示モード → 駐車ガイド線表示モード → 距離ガイド線表示モード → 中央ガイド線表示モード

C RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

後方からの接近車両をセンサーで検知すると、画面にインジケータが表示され、ブザーが吹鳴します。

D クリアランスソナー★

センサーが障害物を検知すると、画面にインジケータが表示され、ブザーが吹鳴します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.254）およびクリアランスソナー（→P.247）の詳細については、それぞれのページを参照してください。

警告

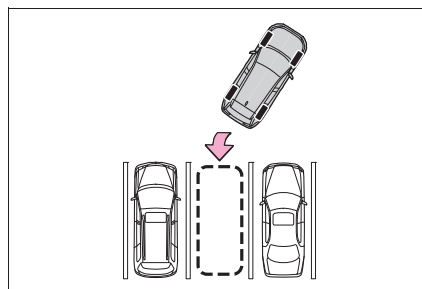
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

バックガイドモニターを解除する

シフトレバーを R 以外にすると、バックガイドモニターは解除されます。

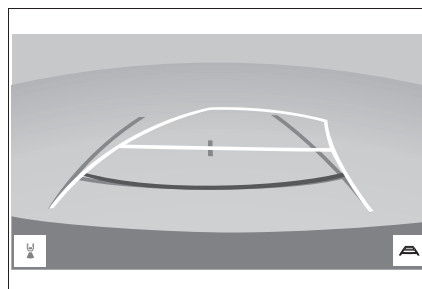
バックガイドモニターを使用する

以下のモードのいずれかを使用してください。



▶ 予想進路線モード（→P.272）

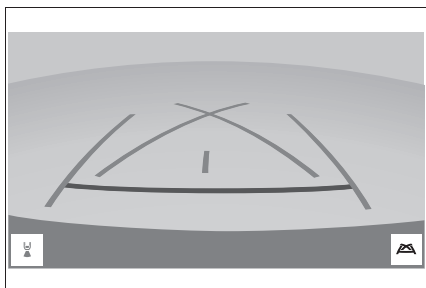
ハンドル操作に連動した予想進路線などが表示されます。



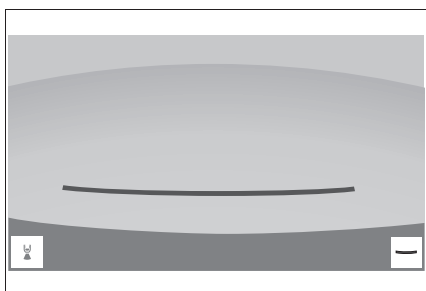
▶ 駐車ガイド線モード（→P.273）

ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されます。

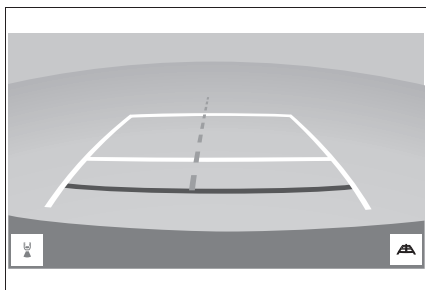
予想進路線表示を必要とせずに駐車できる、車両感覚に慣れた方におすすめします。



- ▶ 距離目安線モード (→P.273)
距離目安線のみが表示されます。
ガイド線を必要としない方におすす
めします。

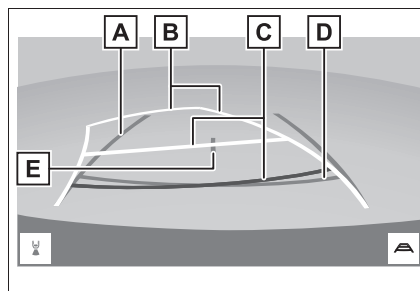


- ▶ 車両中央予想進路線モード
(→P.273)
ハンドル操作に連動して、予想進
路線や車両中央線の目安などが表
示されます。



予想進路線モード

画面説明



A 後方車幅延長線

車をまっすぐ後退させたときの進路の目
安を示します。

B 後方予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安を
示します。

C 後方距離目安線

車の後方の距離を示します。
・ 予想進路線と連動します。
・ リヤバンパー後端の中心位置から約
1.5 ft. (0.5 m) (赤色) / 約 3 ft.
(1 m) (黄色) を示します。

D 後方距離目安線

車両後方との距離を示します。
・ リヤバンパー後端から約 1.5 ft. 先
(0.5 m) (青色) を示します。

E 車両中央線

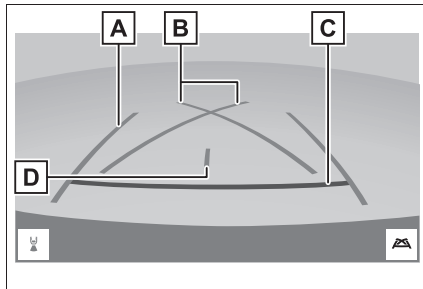
車両の予想される中心位置を示します

警告

ハンドルがまっすぐ（直進状態）で車
幅ガイド線と予想進路線がずれている
ときは、トヨタ販売店で点検を受けて
ください。

駐車ガイド線モード

画面説明

**A** 後方車幅延長線

車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。
 ・ 実際の車幅より広く表示されます。

B 駐車ガイド線

もっとも後方へ小まわりしたときの進路の目安を示します。

C 後方距離目安線

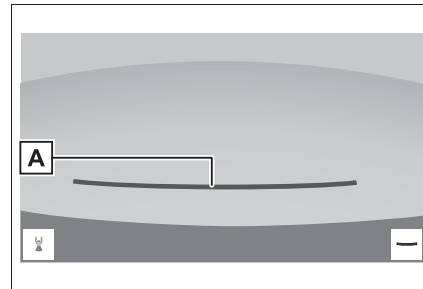
車の後方の距離を示します
 ・ リヤバンパー後端の中心位置から約 1.5 ft. (0.5 m) (赤) の位置を示します。

D 車両中央線

車両の予想される中心位置を示します。

距離目安線モード

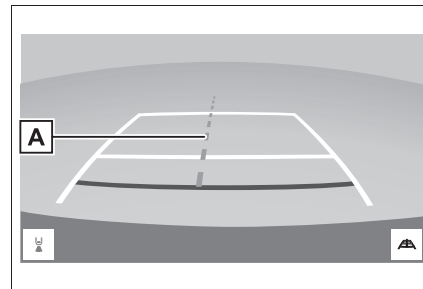
画面説明

**A** 後方距離目安線

車の後方の距離を示します。
 ・ リヤバンパー後端の中心位置から約 1.5 ft. (0.5 m) 先 (赤色) を示します。

車両中央予想進路線モード

画面説明

**A** 車両中央ガイド線

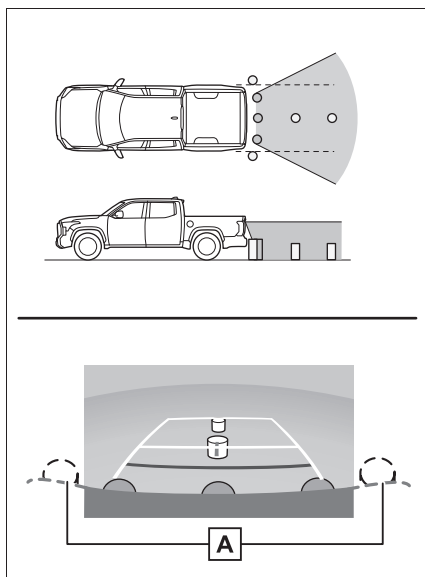
車両の予想される中心位置を示します。

バックガイドモニターの注意事項

画面に映る範囲

バックガイドモニターは、車両後方をバンパーから見たような映像で表示します。

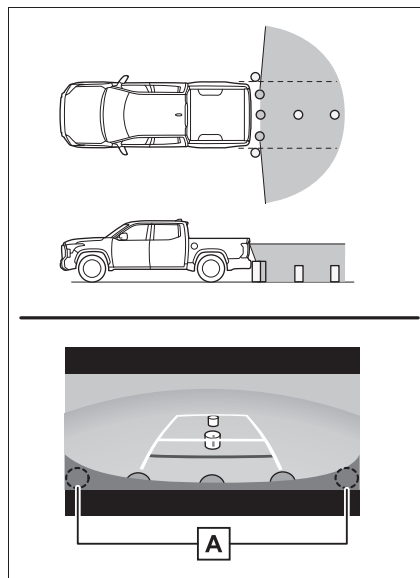
▶ リヤビュー



A バンパーの角

バンパーの両端付近は表示されません。

▶ ワイドリヤビュー



A バンパーの角

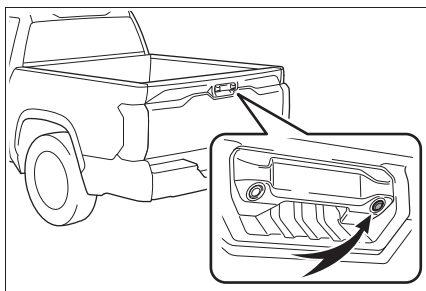
バンパーの両端付近は表示されません。

□ 知識

- バックガイドモニターの画質調整の方法はマルチメディアディスプレイの調整方法と同じです。(マルチメディア取扱説明書を参照)
- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- カメラのレンズ特性により、画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- カメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。

カメラの位置

バックガイドモニターのカメらは、図の位置にあります。



■ カメラの使用について

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。



注意

- バックガイドモニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のことにご注意ください。
- ・ 車両後部に衝撃が加わった場合、カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- ・ カメラ部は防水構造となっています。取りはずし、分解、改造をしないでください。
- ・ カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。

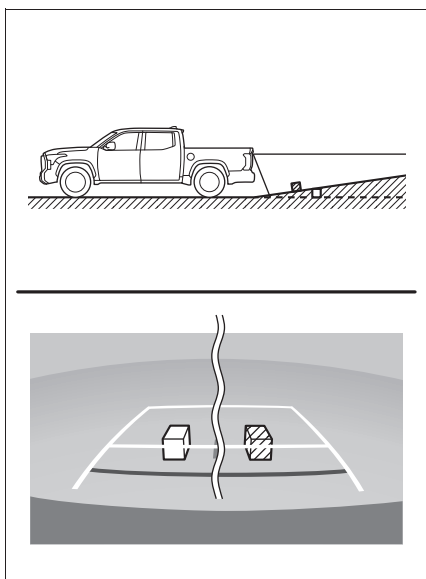
- ・ カメラのカバーは樹脂です。有機溶剤、ボデーワックス、油膜取り剤、ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- ・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- ・ 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。カメラの故障の原因となります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

画面と実際の路面との誤差

- 距離目安線や車幅延長線と駐車スペースの区画線が画面では平行に見えても、実際は平行ではないことがあります。必ず直接確かめてください。
- 車幅延長線と駐車スペース左右の区画線の間隔が画面では左右均等に見えても、実際は左右均等ではないことがあります。必ず直接確かめてください。
- 距離目安線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、次の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離や進路に誤差が生じます。

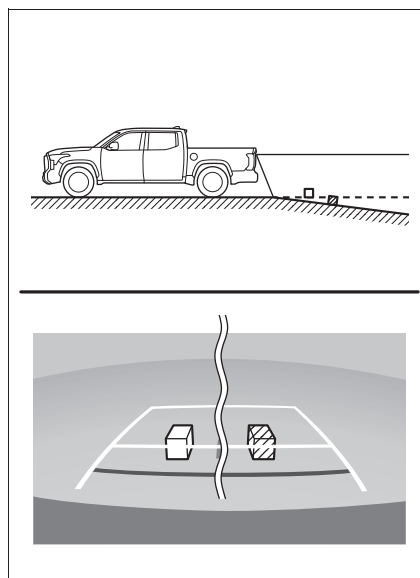
■ 急な上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



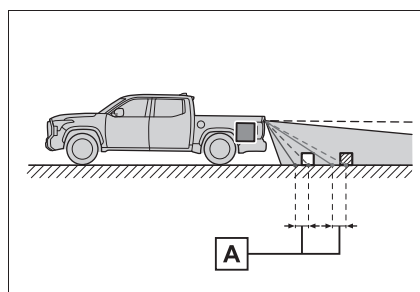
■ 急な下り坂が後方にあるとき

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は、実際より近くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



■ 車が傾いているとき

乗車人数、積載量などにより車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。



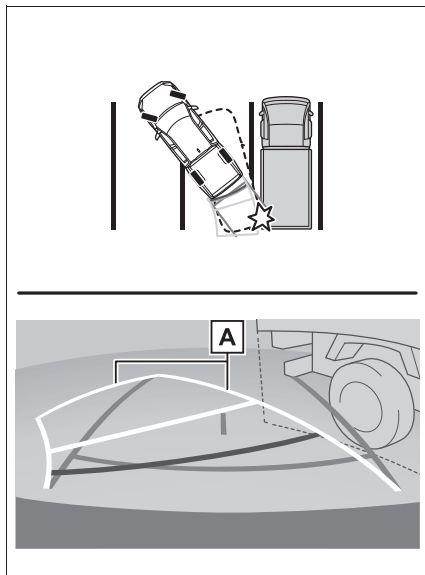
A 誤差

立体物が近くにあるとき

予想進路線は平らな路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断できません。張り出しのある立体物（トラックの荷台など）が近くにあるときは、次のことにご注意ください。

予想進路線について

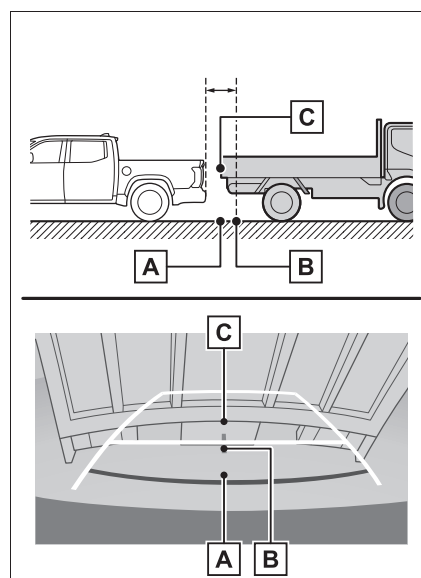
後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。予想進路線を目安にして後退すると、車両がトラックに衝突するおそれがあります。



A 予想進路線

距離目安線

後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線により**B**の位置にトラックが駐車してあるように見えます。しかし実際には**A**の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では**A**が最も近く、**C**が最も遠く見えます。しかし、実際は**A**と**C**は同じ距離で、**B**は**A**と**C**より遠い距離にあります。



知っておいていただきたいこと

異常に気付いた場合は

次のような症状で気になったりお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	対策
画面が見にくい	●夜間など暗いところで使用。 ●レンズ付近の温度が高い、または低い。 ●外気温が低いとき。 ●カメラに水滴がついた。 ●雨天時など湿度が高い。 ●カメラ付近に異物（泥など）がついた。 ●太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった。 ●蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明下で使用した。	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。（カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びバックガイドモニターをご使用ください。） バックガイドモニターの画質調整の方法は、マルチメディアディスプレイの調整と同じです。（詳細はマルチメディア取扱説明書を参照してください。）
画面が不鮮明	カメラのレンズに水滴、雪、泥など異物や汚れが付着している。	大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。
画面がずれている	カメラ部、またはその周辺に強い衝撃を受けた。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
ガイド線が大きくずれる	カメラの位置がずれている。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
	●車が傾いているとき（重い荷物の積載やパンクしてタイヤ空気圧が低いときなど）。 ●傾斜地で使用するとき。	これらが原因の場合、異常ではありません。 車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。

症状	考えられる原因	対策
ハンドルが直進状態であるにもかかわらず予想進路線が動いている	ステアリングセンサーの信号に異常が発生している	トヨタ販売店で点検を受けてください。
ガイド線が表示されない	テールゲートが開いている	テールゲートを閉める。 直らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 が表示される	●バッテリーの脱着中にハンドル操作を行った。 ●バッテリー能力が低下した。 ●バッテリーを脱着した。 ●ステアリングセンサーを脱着した。 ●ステアリングセンサーの信号に異常が発生した。	車を止め、ハンドルを左右いっぱいにまわしてください。 直らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

パノラミックビューモニター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パノラミックビューモニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、バックカメラの映像を合成して画面上につなぎ目のない車両上方からの映像を表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。

エンジンスイッチが ON の状態で、カメラスイッチを押すか、シフトレバーを R にすると、パノラミックビューモニターが表示されます。

モニターには、車両の位置や周囲のさまざまなビューが表示されます。

□ 知識

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

運転時の注意事項

パノラミックビューモニターは、車両周囲確認を補助する装置です。運転する際は、必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認した上で運転してください。車をぶつけ思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。パノラミックビューモニターを使用するときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

- パノラミックビューモニターを過信しないでください。画面上のガイド線の位置は実際の位置と異なる場合があります。ほかの車を運転するときと同じように、必ず注意して運転してください。
- 運転する際は、必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認してから運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。周辺の車両や障害物、人などに接触して事故を起こすおそれがあります。運転する際は、必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。
- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 次のような場合は、パノラミックビューモニターを使用しないでください。
 - ・ 雪道、凍結した道などのすべりやすい路面
 - ・ タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
 - ・ フロントドア、テールゲートが完全に閉まっていないとき
 - ・ カーブや坂道など平坦やまっすぐではない道路
 - ・ サスペンションを改造している、またはメーカー指定と異なる大きさのタイヤが装着されている場合

警告

- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像がうすれたりすることがあります。また、走行中に映像が歪む、または画面から見えなくなることがあります。必ず周囲の安全をインナーミラー、ドアミラーや直接目で確認しながら運転してください。
- タイヤサイズを変更した場合、画面に表示されるガイド線の位置に誤差が生じることがあります。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。(→P.305)
- 画面の表示エリアに社外品が取り付けられている場合

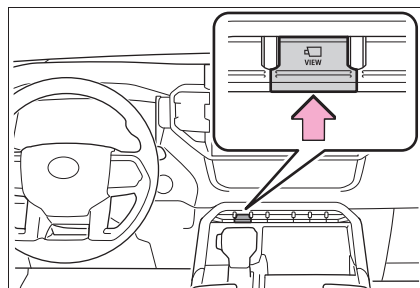
注意

- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビューは、フロントカメラとバックカメラ、左右サイドカメラが撮影した映像を合成処理した映像です。表示可能な範囲や表示内容には限界があるため、パノラミックビューモニターの特性を十分理解した上で使用してください。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビューの四隅には、それぞれのカメラ映像境界位置を中心に映像合成処理領域が存在し、映像の鮮明度が低下することがありますが、故障ではありません。
- それぞれのカメラ付近の照度条件により、シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビューに明暗ができる場合があります。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビューでは、それぞれのカメラの取り付け位置や撮像範囲より上部は表示されません。

- 車両付近には死角があり、パノラミックビューモニターには表示されない領域があります。
- ワイドフロントビューまたはバックビュー、ワイドバックビュー、サイドビューに表示されている立体物が、シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビューでは表示されない場合があります。
- パノラミックビューモニターは、人物や障害物などの立体物が実際と異なって表示される場合があります。(倒れているように表示される場合や、映像合成処理領域付近で消えてしまう場合、映像合成処理領域付近から現れるように表示される場合、表示位置の距離感が実際と異なるなど)
- バックカメラが取り付けられたテールゲート、サイドカメラを内蔵したドアミラーが取り付けられたフロントドアが開いている場合、パノラミックビューモニターは正しく表示されません。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビューに表示される車両アイコンは、コンピューターグラフィックによる画像を表示しているため、実際の車両とは色や形状、大きさなどが異なります。このため、車両付近の立体物が車両と接触しているように見える場合や、立体物との位置関係が実際の位置関係と異なる場合があります。

カメラスイッチについて

カメラスイッチは、図に示されている位置にあります。

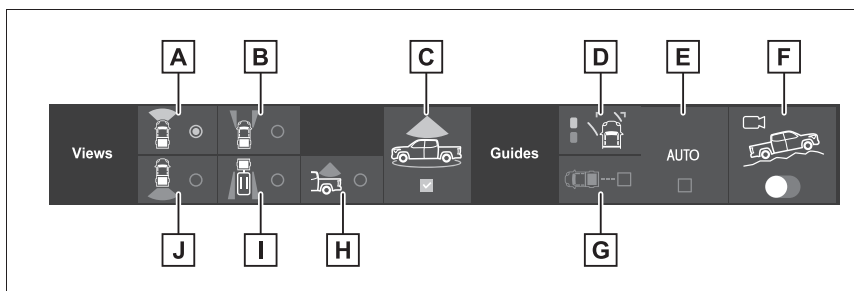


メニューボタンについて

次のボタンから表示される画面を選択することができます。また、ボタンの組み合わせにより、さまざまな画面に切り替えることもできます。

ボタンの表示は、表示されている画面や車速、シフトポジション、車両の装備など、車両の状況によって変化します。

メニューボタンは、シフトレバーが D、N、または R の位置にあるときに表示されます。



- A** フロントビューボタン
- B** フロントスプリットビューボタン
- C** パノラミックビュー ON/OFF ボタン
- D** ガイド線選択ボタン (→P.288, 293)
- E** オートモード ON/OFF ボタン (→P.289)
- F** マルチテレインモニター ON/OFF ボタン (→P.312)
- G** 車両中央線 ON/OFF ボタン (→P.293)
- H** ベッドビューボタン (→P.299)

I リヤスプリットビューボタン

J リヤビューボタン

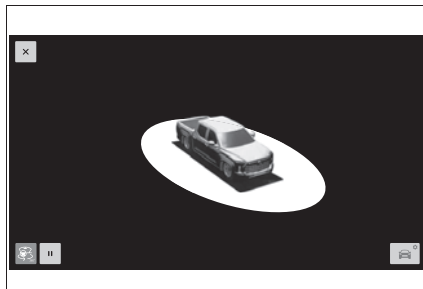
画面表示

車両の周囲を確認する

シフトレバーが P のとき

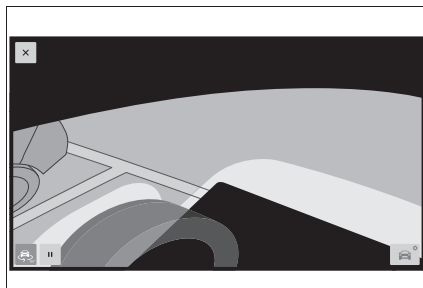
▶ ムービングビュー

 を押す



▶ シースルービュー

 を押す



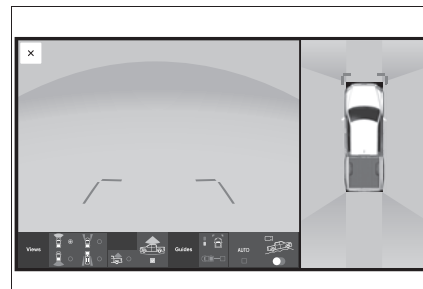
車両前方と周囲を確認する

シフトレバーが P 以外するとき

▶ パノラミックビュー & フロントビュー

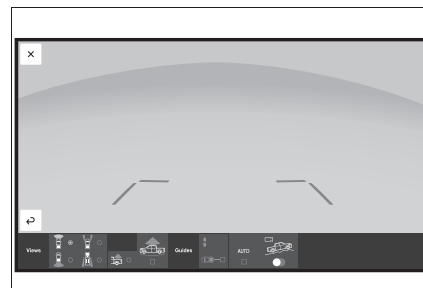
フロントビューボタンを選択し、

パノラミックビューボタンを ON にする



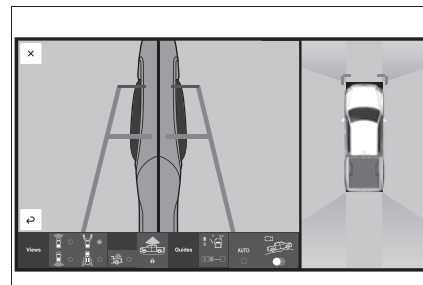
▶ ワイドフロントビュー

フロントビューボタンを選択し、パノラミックビューボタンを OFF にする



▶ フロントスプリットビュー

フロントスプリットビューボタンを選択する



4

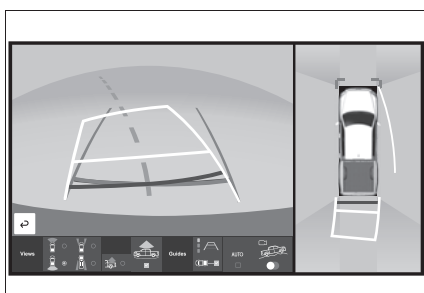
画面

車両後方と周囲を確認する

シフトレバーがP 以外のとき

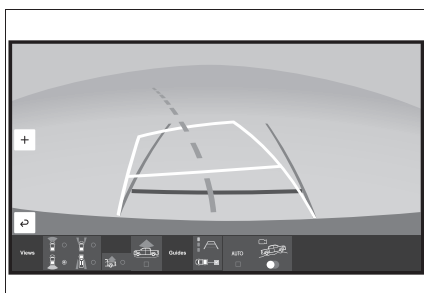
▶ パノラミックビュー & リヤビュー

リヤビューボタンを選択し、パノラミックビューボタンを ON にする。



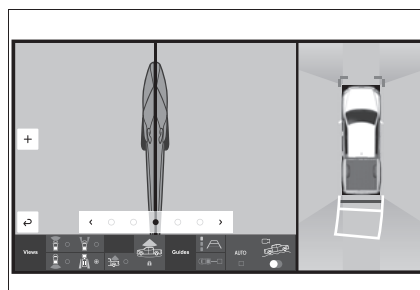
▶ ワイドリヤビュー

リヤビューボタンを選択し、パノラミックビューボタンを OFF にする。

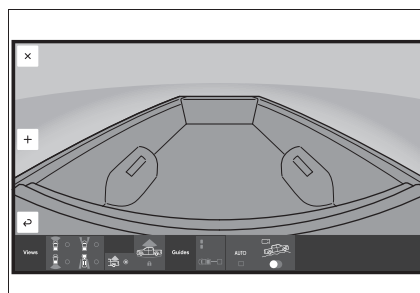


▶ リヤスプリットビュー

リヤスプリットビューボタンを選択する。

**荷台を確認する**

ベッドビューボタンを選択する。

**車両の周囲を確認する**

ムービングビューとシースルービューは、駐車時の車両周囲の確認を補助します。

表示される画面は、4 台のカメラから撮影した車両周辺の映像が合成表示されます。

運転席から見たような映像や、車両周りの斜め上方から見たような映像を表示します。

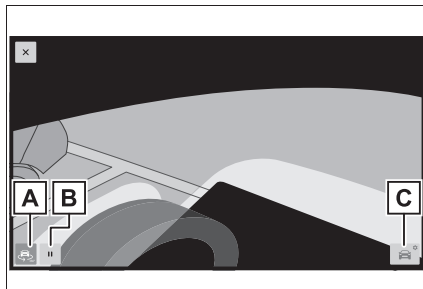
ムービングビュー／シースルービューを表示するには、シフトレバーをP にし、かつクリアランスソナーが ON のときに、VIEW を押してください。

画面表示

▶ ムービングビュー



▶ シースルービュー



[A] 表示モード切りかえボタン

シースルービュー／ムービングビューを切り替えます。

[B] 一時停止／再回転ボタン

回転表示を一時停止、再開する。

回転したいときは  を選択します。

[C] ボデーカラー設定スイッチ

ボデーカラー設定画面が表示され、パノラミックビューモニターで表示される車両のボデーカラーを変更することができます。(→P.300)

知識

画面上の  を押す、または  をもう一度押すことで、直前に表示されていた画面（例えばナビゲーション画面）にもどります。

4

画面

車両前方と周囲を確認する

パノラミックビュー&フロントビュー、ワイドフロントビュー、フロントスプリットビューは、T字交差点や見通しの悪い交差点で発進する際に車両前方と周囲の確認を補助します。

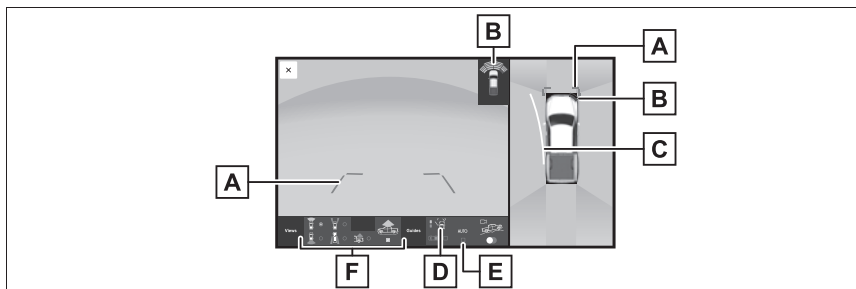
表示させるには、シフトレバーがDまたはN、かつ10 mph (16 km/h) 以下の車速で  を押します。

また、クリアランスソナーが車両前方の静止物を検出した場合にも、この画面が表示されます。(クリアランスソナー連動表示)

画面表示

表示モード切りかえボタンを選択することにより、次のように表示が切りかわります。

▶ パノラミックビュー & フロントビュー

**A** 前方距離目安線

車両前方の距離を表示します。

- ・ バンパー前端から約 3 ft. (1 m) の位置を示します。

B クリアランスソナー

センサーが障害物を検出すると、障害物の方向とおおよその距離が表示され、ブザーが吹鳴します。

C 予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安を表示します。

- ・ 直進状態から 90 度以上ハンドル操作をした場合に表示します。

D ガイド線表示モード切りかえボタン

スイッチを押すたびに、距離目安線表示と予想進路線表示が切り替わります。
(→P.288)

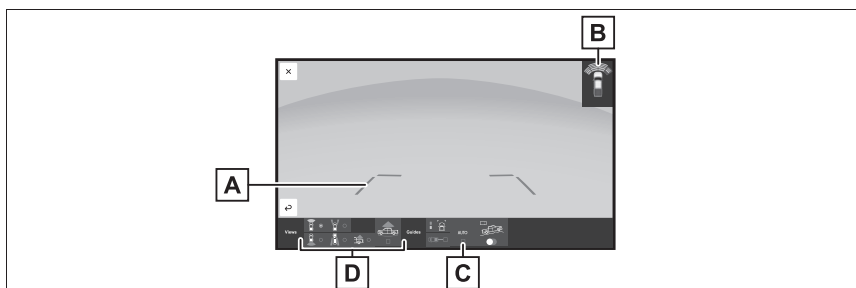
E 自動表示モード切りかえボタン

自動表示モードの ON/OFF を切りかえます。(→P.289)

F 表示モード切りかえボタン

ボタンの組み合わせにより、さまざまな画面に切りかえることができます。

▶ ワイドフロントビュー



A 距離目安線

車両前方の距離を表示します。

- ・ バンパー前端から約 3 ft. (1 m) の位置を示します。

B クリアランスソナー

センサーが障害物を検出すると、障害物の方向とおおよその距離が表示され、ブザーが吹鳴します。

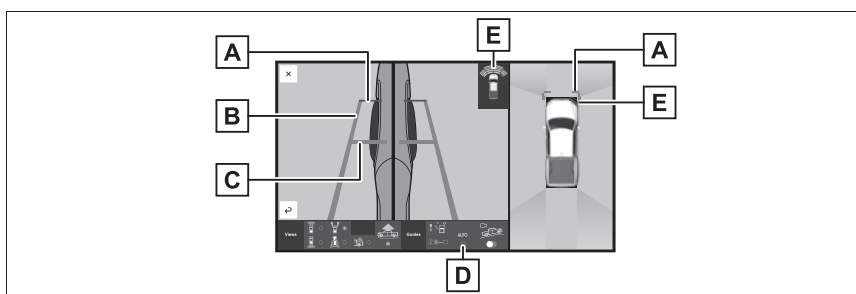
C 自動表示モード切りかえボタン

自動表示モードの ON/OFF を切りかえます。(→P.289)

D 表示モード切りかえボタン

ボタンの組み合わせにより、さまざまな画面に切りかえることができます。

▶ フロントスプリットビュー

**A** 距離目安線

車両前方の距離を表示します。

- ・ スプリットビュー：バンパー前端から約 1.5 ft. (0.5 m) の位置を示します。
- ・ パノラミックビュー：バンパー前端から約 3 ft. (1 m) の位置を示します。

B 車幅平行線

ドアミラーを含めた車両の幅の位置を示します。

C 前輪接地線

前輪が地面に接する位置の位置を示します。

D 自動表示モード切りかえボタン

自動表示モードの ON/OFF を切り替えます。(→P.289)

E クリアランスソナー

センサーが障害物を検出すると、障害物の方向とおおよその距離が表示され、ブザーが吹鳴します。

知識

- 画面上の **x** を押す、または  をもう一度押すことで、直前に表示されていた画面（例えばナビゲーション画面）にもどります。
- クリアランスソナーの詳細については、P.247 を参考にしてください。
- クリアランスソナーの表示位置と、カメラ画像に表示される障害物の位置は一致しません。

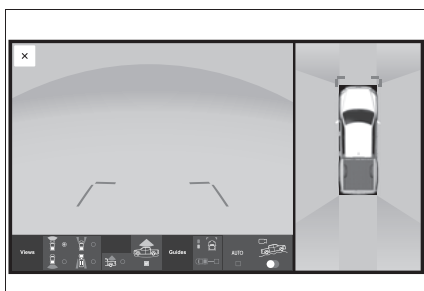
警告

- クリアランスソナーの表示にあるセンサーインジケータが赤色に点灯したり、ブザーが連続して吹鳴した場合は、必ずすぐに車両の周囲を確認し、安全が確保されるまでそれ以上進まないでください。予期せぬ事故が発生する可能性があります。
- クリアランスソナーの表示はカメラ映像の上に重ねて表示されるため、周囲の色や明るさによっては、クリアランスソナーの表示が見えにくい場合があります。

ガイド線表示モード切りかえ（パノラミックビュー&フロントビュー）

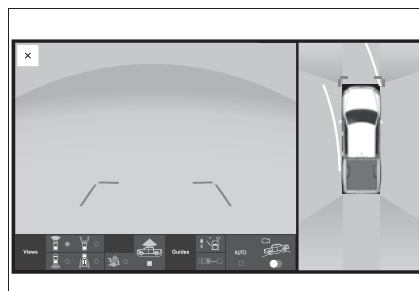
ガイド線表示モード切りかえボタンを選択することにより、表示モードが切りかわります。

▶ 距離目安線



距離目安線のみが表示されます。

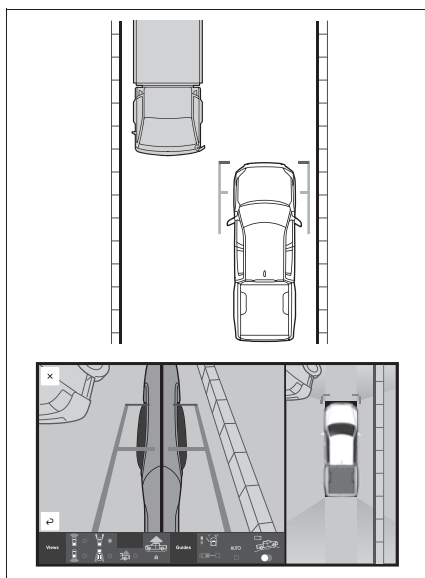
▶ 予想進路線



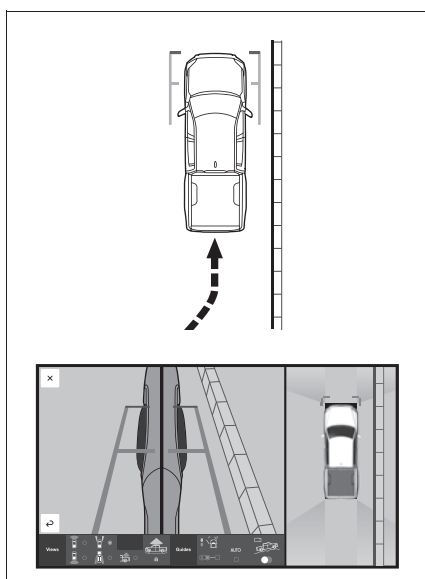
予想進路線に加え、距離目安線に表示されます。

車幅平行線の使い方（フロントスプリットビュー）

フロントスプリットビューは、左右のドアミラーにあるカメラの映像を表示します。この画面は、狭い道路を走行するときなど、車両の側方周囲を確認できるようにすることで、ドライバーの安全運転を補助します。



車幅平行線と、障害物や路肩の縁石などの目標物との位置および距離を確認してください。



- 画面に示されているように、車幅平行線が目標物に重ならないように注意しながら、縁石に沿って停車してください。
- 車幅平行線が目標物に対して平行になっていることを確認してください。

自動表示モードについて

VIEW を操作することによる画面切りかえに加えて、自動表示モードが利用可能です。このモードでは、車速に応じて画面が自動的に切りかわります。

“AUTO” ボタンを選択することにより、自動表示モードが有効 / 無効になります。

自動表示モードでは、モニターは次の状況において自動的に映像を表示します。

- シフトレバーを D または N に入れたとき。
- 車速が約 10 mph (16 km/h) 以下に減速したとき。

車両後方と車両周囲を確認する

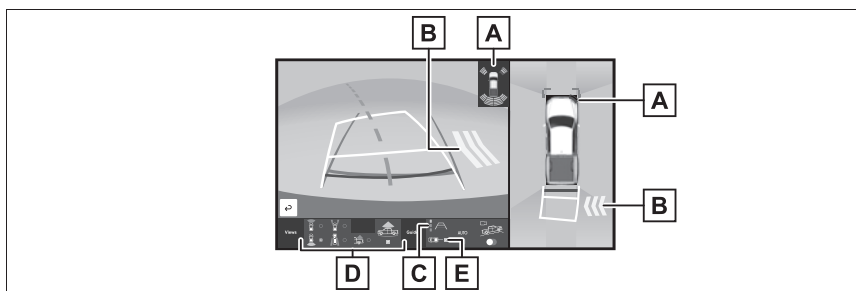
パノラミックビュー & リヤビュー、ワイドリヤビュー、リヤスプリットビュー画面は、駐車するときなどの後退時に後方と周辺の確認を補助します。

シフトレバーを R にすると画面が表示されます。

画面表示

表示モード切りかえボタンを選択することにより、次のように表示が切りかわります。

▶ パノラミックビュー & リヤビュー



A クリアランスソナー

センサーが障害物を検知すると、その障害物の方向とおおよその距離が表示され、ブザーが鳴ります。

B RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

センサーが障害物を検知すると、障害物の方向が表示されブザーが鳴ります。

C ガイド線表示モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびにガイド線表示モードが切り替わります。（→P.293）

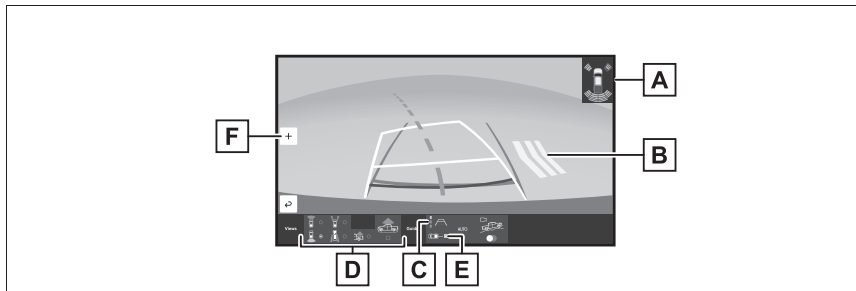
D 表示モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびに、様々な表示に切りかえることができます。

E 車両中央線 ON/OFF スイッチ

車両中央線の ON/OFF を切りかえます。（→P.293）

▶ ワイドリヤビュー

**A** クリアランスソナー

センサーが障害物を検知すると、その障害物の方向とおおよその距離が表示され、ブザーが鳴ります。

B RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

センサーが障害物を検知すると、障害物の方向が表示されブザーが鳴ります。

C ガイド線表示モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびにガイド線表示モードが切り替わります。（→P.293）

D 表示モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびに、様々な表示に切りかえることができます。

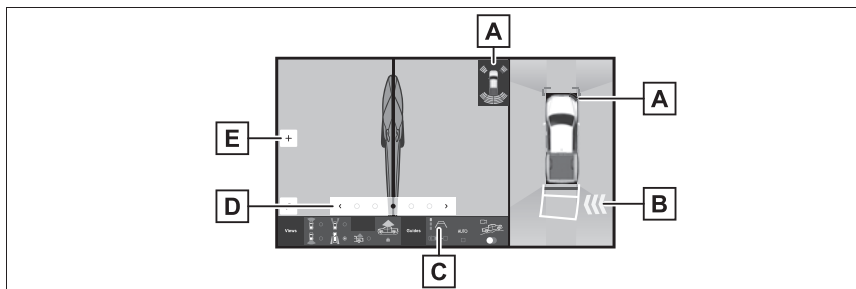
E 車両中央線 ON/OFF スイッチ

車両中央線の ON/OFF を切りかえます。（→P.293）

F ズームスイッチ

スイッチを押すたびに、ワイドリアビューモード・ナローリアビューモード・ヒッチビューモードで切りかわります。（→P.296）

▶ リヤスプリットビュー

**A** クリアランスソナー

センサーが障害物を検知すると、その障害物の方向とおおよその距離が表示され、ブザーが鳴ります。

B RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

センサーが障害物を検知すると、障害物の方向が表示されブザーが鳴ります。

C ガイド線表示モード切りかえスイッチ

スイッチを押すたびにガイド線表示モードが切りかわります。（→P.293）

D カメラ角度調整（→P.296）**E** ズームスイッチ（→P.296）
 知識

- シフトレバーを R 以外にすると、モニターがキャンセルされます。
- クリアランスソナーと RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の詳細については（→P.247, 254）をご覧ください。
- クリアランスソナーの表示位置とカメラ映像に映し出される障害物の位置は合わないことがあります。

 警告

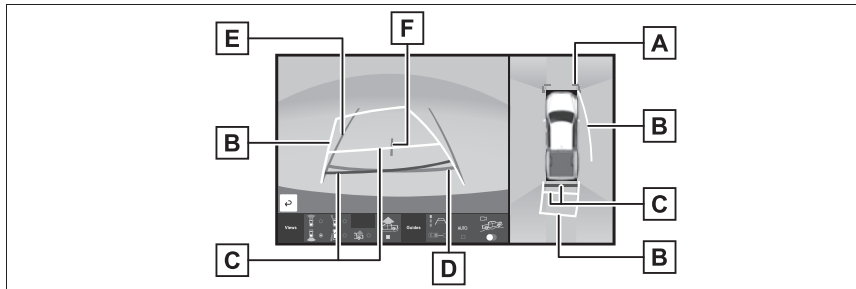
- クリアランスソナーのセンサー表示灯が赤で点灯するとき、またはブザーが継続的に鳴るときは、すぐに車両周囲を確認し、安全が確保できるまでは進まないください。予期せぬ事故が発生するおそれがあります。
- クリアランスソナー、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

画面に表示されるガイド線

ガイド線切りかえボタンを選択することにより、次のように表示が切りかわります。

▶ 予想進路線モード

ハンドル操作に連動した予想進路線などが表示されます。



A 前方距離目安線

車両前方の距離を示します。
・ バンパー前端から約 3 ft. (1 m) の距離を示します。

B 側方予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安を表示します。

C 後方距離目安線

ハンドルを切った際、車両後方の距離を示します。
・ 予測進路線と連動して動きます。
・ バンパー後端から約 1.5 ft. (0.5 m) (赤色) と、約 3 ft. (1 m) (黄色) の距離を示します。

D 後方距離目安線

車両後方の距離を示します。
・ バンパー後端から約 1.5 ft. (0.5 m) (青色) の距離を示します。

E 後方車幅延長線

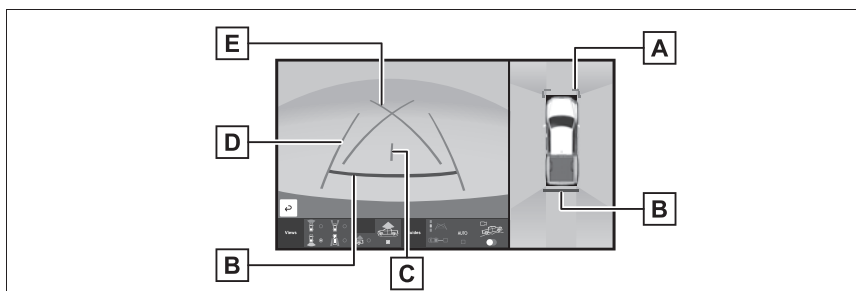
車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。

F 車両中央線

後方車幅延長線の中心位置を示します。

▶ 駐車ガイド線モード

ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されます。予想進路線表示を必要とせずに駐車できる、車両感覚に慣れた方におすすめします。

**A** 前方距離目安線

車両前方の距離を示します。
・ バンパーの前端から約 3 ft. (1 m) の距離を示します。

B 後方距離目安線

車両後方の距離を示します。
・ バンパーの後端から約 1.5 ft. (0.5 m) (赤色) の距離を示します。

C 車両中央線

後方車幅延長線の中心位置を示します。

D 後方車幅延長線

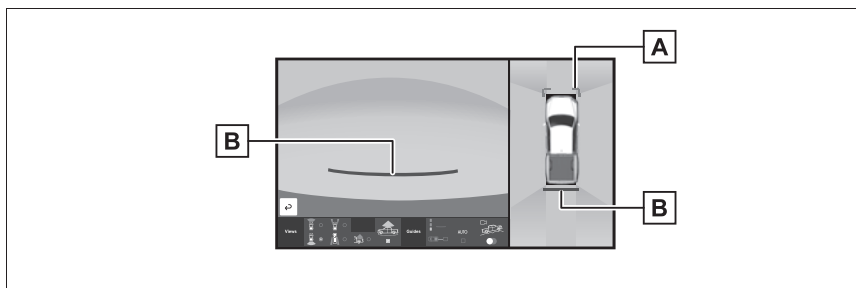
車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。

E 駐車ガイド線

車両後方で最小の回転で可能な進路を示します。

▶ 距離目安線モード

距離目安線のみ表示されるモードです。ガイド線を必要としない方におすすめします。



A 前方距離目安線

- ・車両前端から約 3 ft. (1 m) を示します。

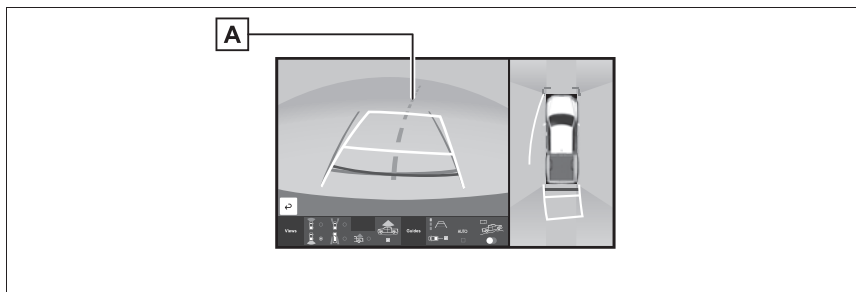
B 後方距離目安線

車の後方の距離を示します。

- ・リヤバンパー後端の中心位置から約 1.5 ft. (0.5 m) 先 (赤色) を示します。

▶ 車両中央予想進路線モード

ハンドル操作に連動して、予想進路線や車両中央線の目安などが表示されます。

**A** 車両中央予想進路線

地面上での推定される車両の中心を示します。

 知識

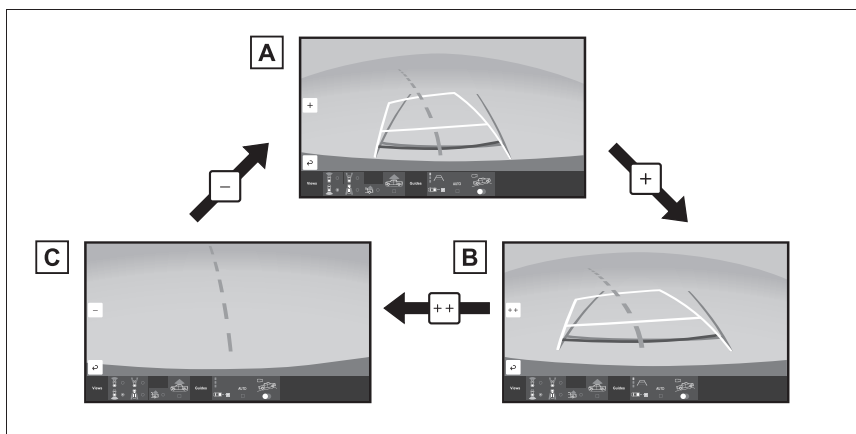
クリアランスソナーの表示位置とカメラ映像に映し出される障害物の位置は合わないことがあります。

 警告

- 車両の状況（乗車人数、荷物の量など）によっては、画面に表示されるガイド線の位置が変化することがあります。進行する前に、必ず車両の周囲を視覚で確認してください。
- ハンドルがまっすぐな状態で、車幅ガイド線と予測進路線が一致していない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 路面が平坦でない（起伏がある）道路や、まっすぐでない（カーブなど）道路では、表示が不正確になるため、このシステムを使用しないでください。

リヤビューモードの変更

ズームボタンを押すたびに、モードは次のように変化します：



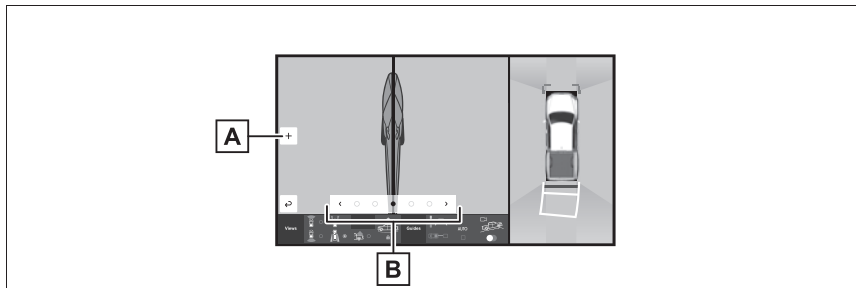
- A** ワイドリヤビュー
- B** ナローリヤビュー
- C** ヒッチズームビュー

知識

- ヒッチズームビューは、車速が約 10 mph (16 km/h) 以上で走行中に  を押すと、一定時間表示できます。
- 画面表示中にスイッチを押すと、ヒッチズームビューとベッドズームビュー (→P.299) を切りかえることができます。

リヤスプリットビューの使用

トレーラーを牽引している場合は、車両後方の見にくい部分を拡大するか、画面表示を変更してください。



A ズームボタン

現在表示されているリヤスプリットビューを拡大できます。

B カメラアングル調整ボタン

カメラの向きを左から右へ 5 段階で変更できます。

駐車時

予想進路線モードを使用して駐車する

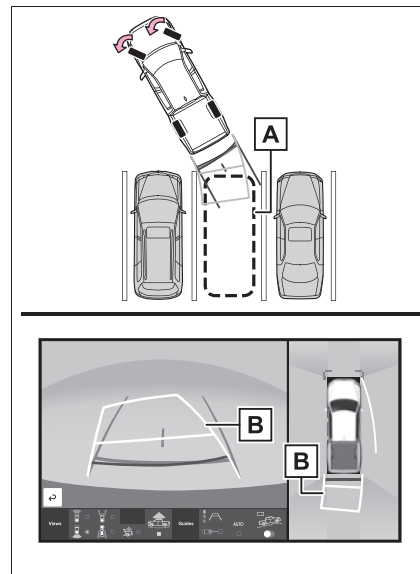
次の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作はすべて左右逆です

1 シフトレバーを R にします。

2 予測進路線が駐車スペースの内側に入るようにハンドルを操作して、ゆっくりと後退します。

4

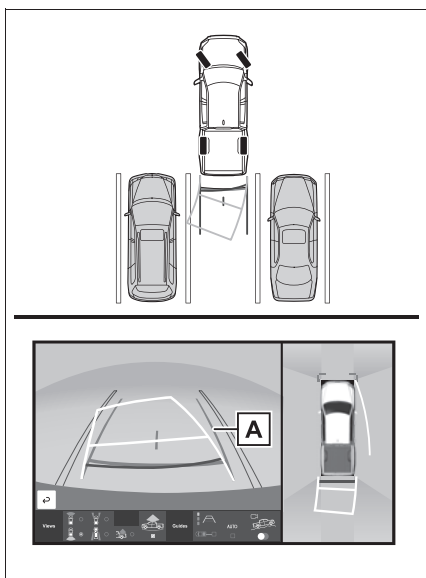
画質



A 駐車スペース

B 予測進路線

- 3** 車両の後部が駐車スペースに入ったら、車幅ガイド線が駐車スペースの左右の区画線の間に入るようにハンドルを操作します。



A 車幅目安線

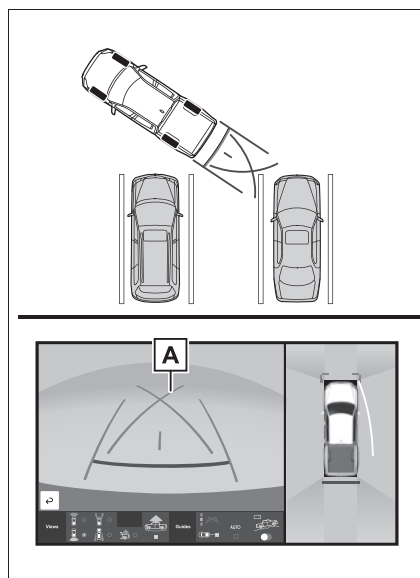
- 4** 車幅延長線と駐車スペースの区画線が平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退します。
- 5** 適切な位置で停車し、駐車を終えます。

駐車ガイド線モードを使用して駐車する

次の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作はすべて左右逆です。

- 1** シフトレバーを R にします。

- 2** 駐車ガイド線が駐車スペースの区画線に合うまで後退したら止まる。



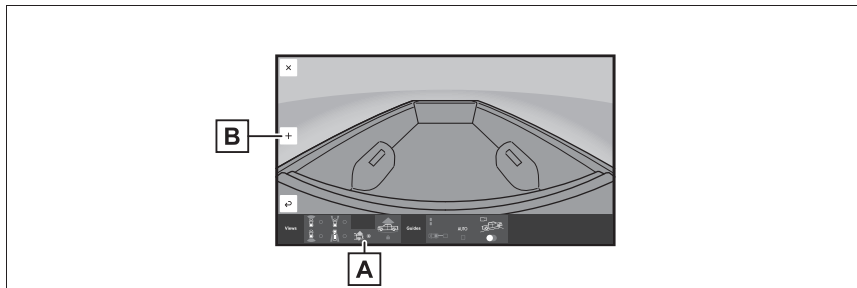
A 駐車ガイド線

- 3** ハンドルを左いっぱいにもわして、ゆっくり後退します。
- 4** 車が駐車スペースと平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退します。
- 5** 適切な位置で停車し、駐車を終えます。

荷台を確認する

荷台の積載物の状態を確認するために使用します。

画面表示



A ベッドビューボタン

B ズームボタン

知識

- ベッドズームビューは、車速が約 10 mph (16 km/h) 以上で走行中に  が押されると、一定時間表示できます。
- 画面表示中にスイッチを押すと、ベッドズームビューとヒッチズームビュー (→P.296) を切りかえることができます。

画面を拡大表示する

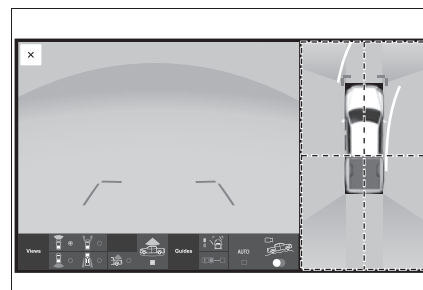
画面に映っているものが小さく見えにくい場合に、画面を拡大して表示させることができます。

パノラミックビューの拡大させたいエリアをタッチします。

表示の拡大

- 1 クリアランスソナーを ON にします。

- 2 拡大したいエリアを選択します。



- パノラミックビューは、車両の前後左右 4 カ所のいずれかを拡大して表示させることができます。

す。
(点線は実際のディスプレイには表示されません)

- 拡大表示を解除するには、再度画面をタッチします。

知識

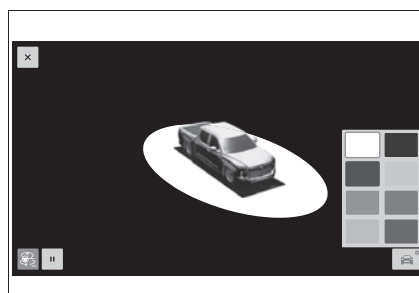
- 次の条件をすべて満たすと拡大機能を使用できます。
 - ・ パノラミックビュー&フロントビュー、またはパノラミックビュー&リヤビューが表示されている。
 - ・ 車速が約 10 mph (16 km/h) 未満のとき。
 - ・ クリアランスソナーが ON になっている
- 次のいずれかの条件を満たすと拡大表示が自動的に解除されます。
 - ・ 車速が約 10 mph (16 km/h) 以上になったとき。
 - ・ クリアランスソナーを OFF にしたとき。
- パノラミックビューの拡大表示は、ガイド線を表示しません。

ボデーカラーを設定する

パノラミックビューモニターに表示される車両の色を変更できます。

パノラマビューモニターに表示されるボデーカラーの変更

- 1 ムービングビュー / シースルービュー画面を表示します。
(→P.284)
- 2  を選択します。
- 3 希望のカラーを選択します。



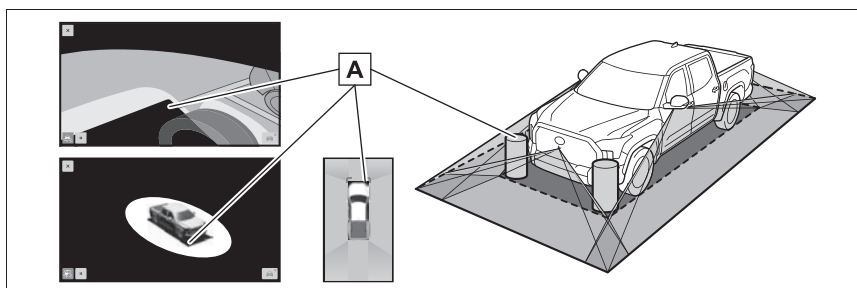
パノラミックビューモニターの注意事項

画面に映る範囲

パノラミックビューの表示範囲

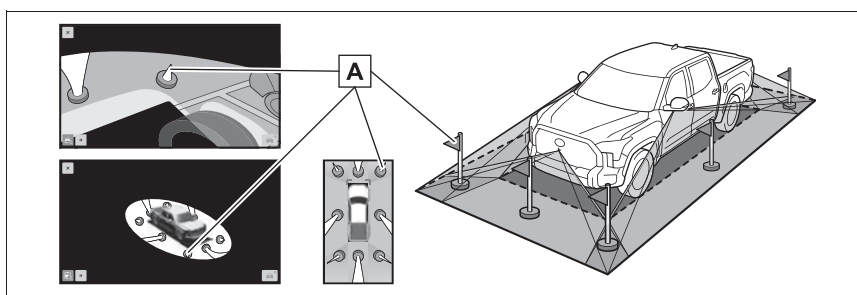
パノラミックビューモニターは、車両周辺の映像を表示します。

パノラミックビューは、平らな路面に基づいて映像を処理・表示するため、路面より高い位置にある立体的な物体（車両のバンパーなど）の正確な位置を表現できません。画面では車両の周辺に何も表示されていないくても、実際には障害物が進路上にあるため、接触することがあります。必ず周囲の安全を直接確認してください。



A 画面に映らない障害物

黒色部分内にある障害物は画面に表示されません。



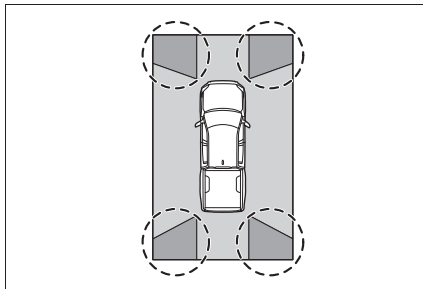
A 画面に映らない部分

路面より高い部分は画面に表示されません。

知識

- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビューは、4つのカメラから得られた画像を平らな路面を基準に加工して表示しているため、次のように表示されることがあります。
 - ・ 立体物が倒れて細長く、もしくは大きく見える。
 - ・ 路面より高い位置にある立体物が実際より遠くに見える、もしくは見えない。
 - ・ 高さのあるものが合成のつぎ目から現れてくるように見える場合がある。
- 照度条件により、カメラごとの映像の明るさにばらつきが出る場合があります。
- 乗員人数、積載状況、ガソリン残量による車体の傾きや車高の変化などにより、表示映像がずれる場合があります。
- ドアやテールゲートが完全に閉まっていないと、表示映像やガイド線が正しく表示されない場合があります。
- 車両アイコンと路面や障害物の位置関係が、実際の位置と異なる場合があります。
- 車両アイコンまわりの黒色部分はカメラに映らない部分です。直接確認してください。

- 図の○部分は画像を合成しているため、映像が見えにくい場合があります。

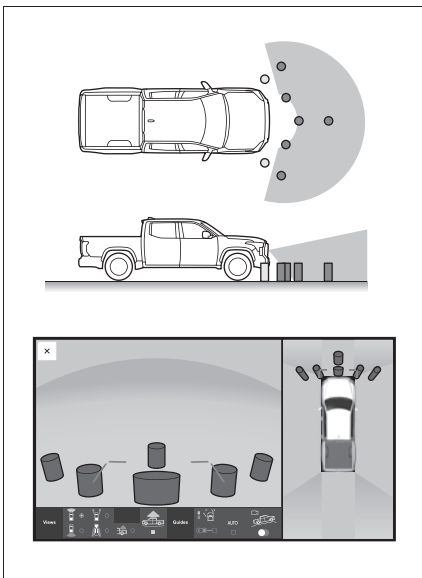


警告

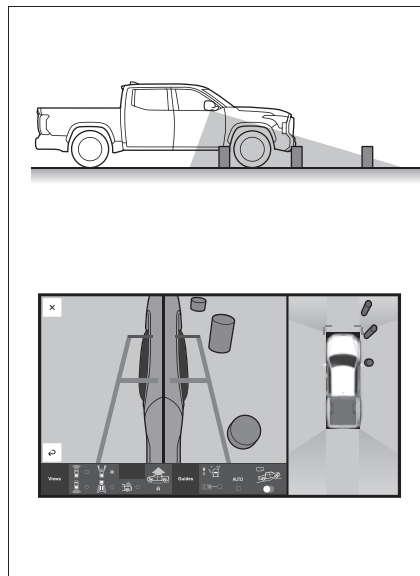
クリアランスソナーの表示にあるセンサーインジケータが赤色に点灯したり、ブザーが連続して吹鳴した場合は、必ずすぐに車両の周囲を確認し、安全が確保されるまでそれ以上進まないでください。予期せぬ事故が発生する可能性があります。

カメラによって捉えられる映像の範囲

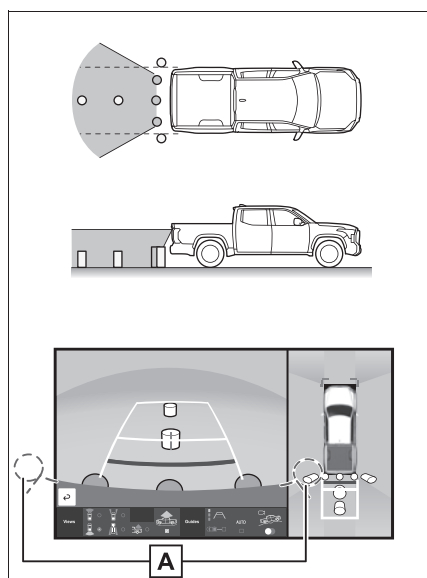
- ▶ パノラミックビュー&フロントビュー



- ▶ フロントスプリットビュー



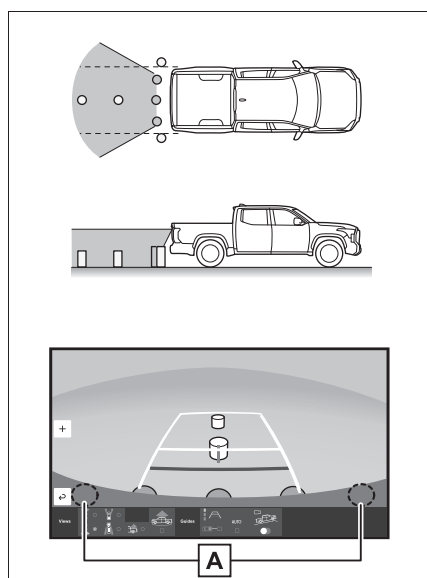
▶ パノラミックビュー&リヤビュー



A 画面に映らない障害物

バンパーの両端付近は画面に映りません。

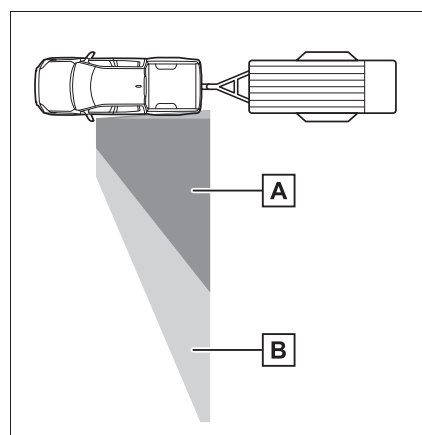
▶ ワイドリヤビュー



A 画面に映らない障害物

バンパーの両端付近は画面に映りません。

▶ リヤスプリットビュー



カメラアングル調整によって、見える範囲が変わります。

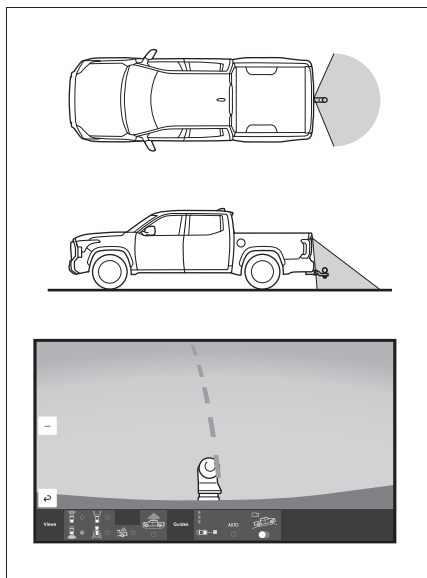
A カメラアングルが中央の場合

(左: 50%/ 右: 50%)

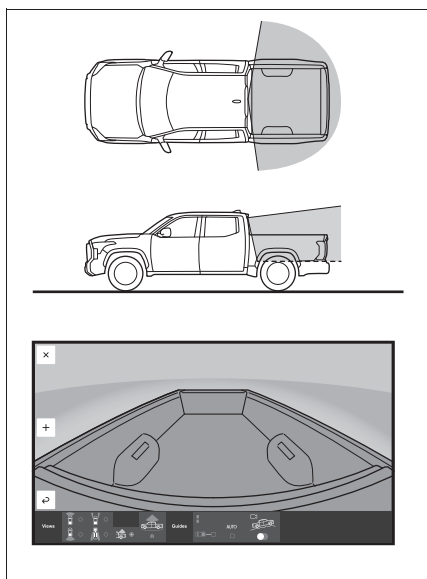
B カメラアングルが左側最大の場合

合 (左: 100%)

▶ ヒッチズームビュー



▶ ベッドズームビュー


 知識

- カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパー

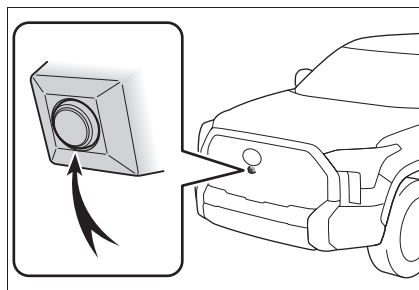
の真下付近にあるものは映し出されません

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- カメラは特殊なレンズを使用しています。画面に表示される映像の距離は、実際の距離と異なります。
- リヤスプリットビューでは、トレーラーのサイズ（長さや高さ）により、死角が生じます。
- ヒッチズームビューでは、字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。
- ベッドズームビューでは、運転席付近の範囲が死角になります。

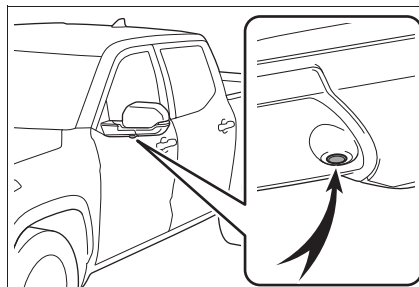
カメラの位置

パノラミックビューモニターの各カメラは図の位置にあります。

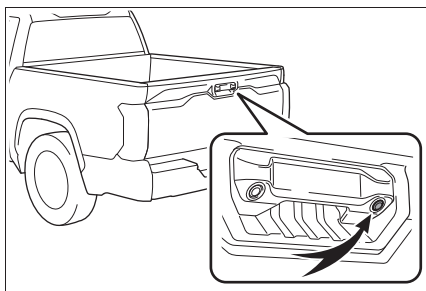
▶ フロントカメラ



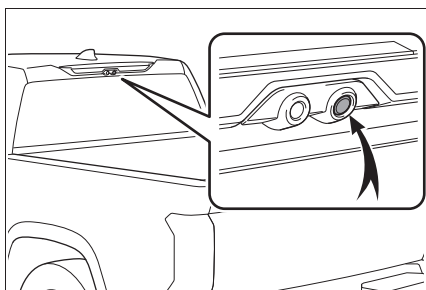
▶ サイドカメラ



▶ バックカメラ



▶ 荷台カメラ



カメラの使用について

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

⚠ 注意

- パノラミックビューモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、以下のことにご注意ください。
- ・ カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。

- ・ カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
- ・ カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
- ・ カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- ・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- ・ 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

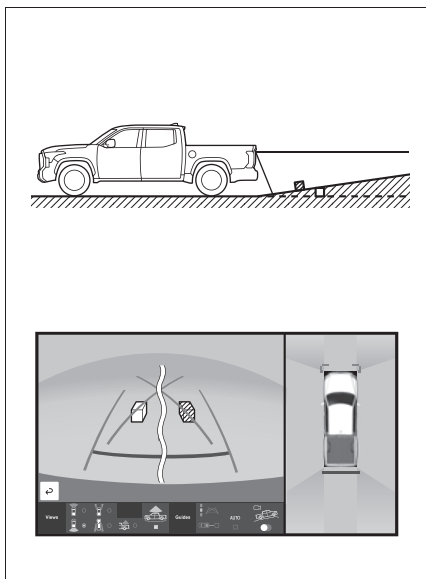
画面と実際の路面との違い

- 距離目安線や車幅延長線と駐車スペースの区画線が画面では平行に見えても、実際は平行ではないことがあります。必ず直接確かめてください。
- 車幅延長線と駐車スペース左右の区画線の間隔が画面では左右均等に見えても、実際は左右均等ではないことがあります。必ず直接確かめてください。

- 距離目安線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、次の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離や進路に誤差が生じます。

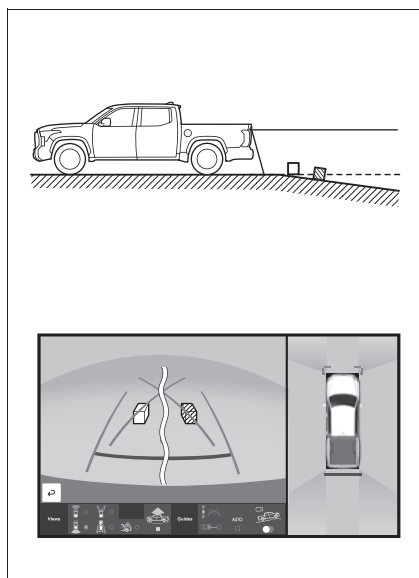
急な上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



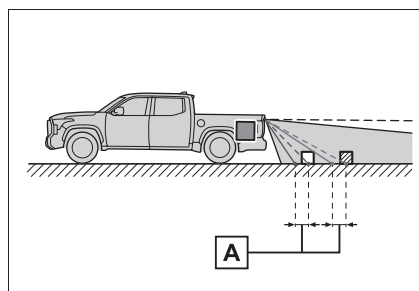
急な下り坂が後方にあるとき

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は、実際より近くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



車が傾いているとき

乗車人数、積載量などにより車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。



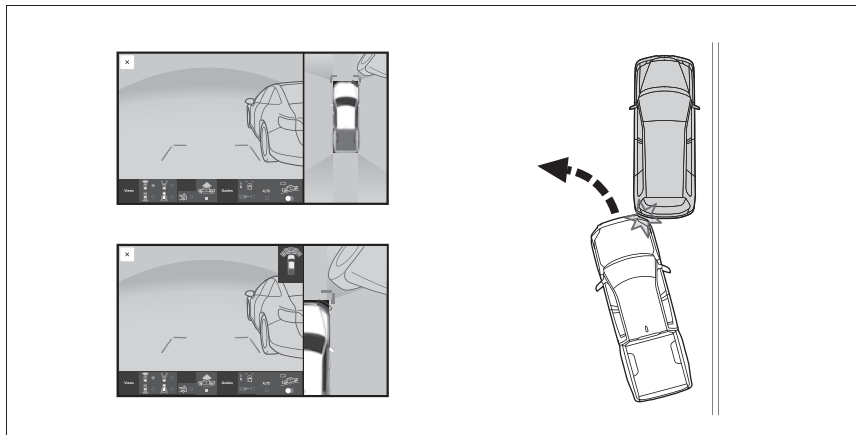
A 誤差

画面上の立体物の歪み

画面に表示されるガイド線は路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断できません。張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、次のことにご注意ください。

パノラミックビュー（拡大表示を含む）の表示

画面では車両のバンパーとのあいだに余裕があり、ぶつからないように見えても、実際には車両が進路上にあるためぶつかることがあります。周囲の安全を直接確認してください。



⚠ 警告

クリアランスソナーの表示が赤色に点灯したときや、ブザーが連続して鳴るときは、必ず直接確認して、それ以上進まないでください。車をぶつけるなど、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

立体物に近づく際

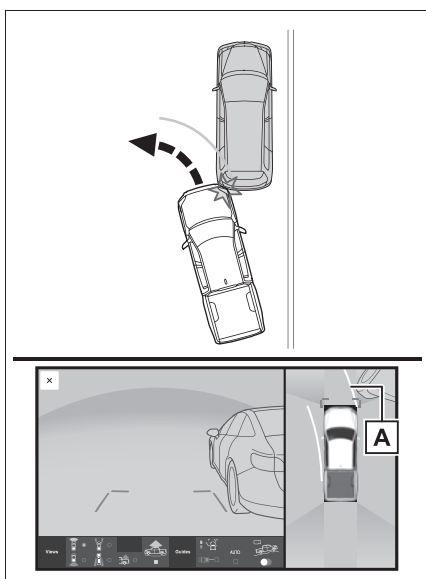
推定進路線は、平らな表面の物体（路面など）を対象としています。推定進路線や距離ガイド線を使用して、立体的な物体（車両など）の位置を判断することはできません。外側に張り出している立体的な物体（トラックの荷台など）に近づく際は、以下の点に注意してください。

⚠ 警告

クリアランスソナーの表示が赤色に点灯したときや、ブザーが連続して鳴るときは、必ず直接確認して、それ以上進まないでください。車をぶつけるなど、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

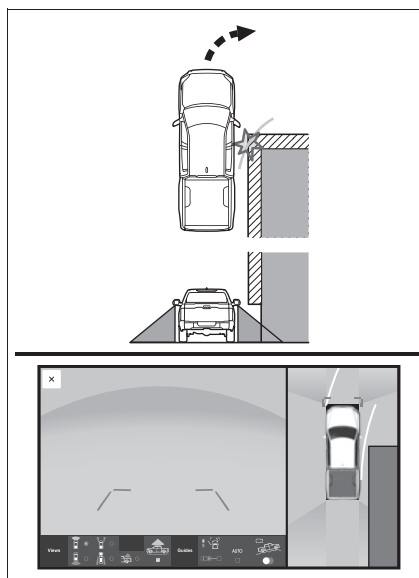
予想進路線について

画面では車両のバンパーが予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際には車両が進路上にあるためぶつかることがあります。周囲の安全を直接確認してください。

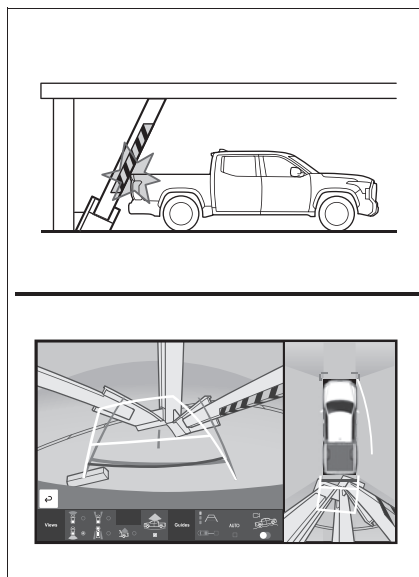


A 推定進路線

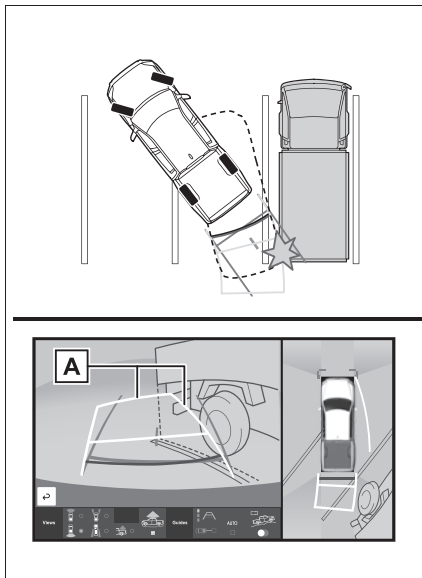
高い位置にある立体的な物体（壁の張り出しやトラックの荷台など）は、画面上に映らない場合があります。周囲の安全を直接確認してください。



パノラミックビューでは倒れた柱がまっすぐでぶつからないように見えても、実際は柱の上部が張り出しているため、ぶつかる可能性があります。後方や周囲の安全を直接確認してください。



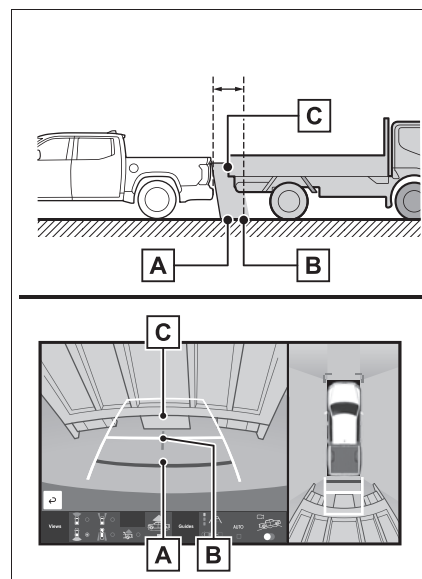
画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。周囲の安全を直接確認してください。



A 予想進路線

距離目安線

画面では、距離目安線により**B**の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には**A**の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では**A**、**B**、**C**の順に近く見えますが、実際の距離は**A**と**C**は同じ距離で、**B**は**A**と**C**より遠い距離にあります。後方や周囲の安全を直接確認してください。



4

運転

知っておいていただきたいこと

故障とお考えになる前に

次のような症状で気になったりお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	対策
画面が見にくい	●夜間など暗いところで使用。 ●レンズ付近の温度が高い、または低い。 ●外気温が低いとき。 ●カメラに水滴がついた。 ●雨天時など湿度が高い。 ●カメラ付近に異物（泥など）がついた。 ●太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった。 ●蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明下で使用した。	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。 カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びパノラミックビューモニターをご使用ください。 パノラミックビューモニターの画質調整の方法は、マルチメディアディスプレイの調整と同じです。（「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。）
画面が不鮮明	カメラのレンズに水滴、雪、泥など異物や汚れが付着している。	大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。
画面がずれている	カメラ部に強い衝撃が与えられた。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
ガイド線が大きくずれる	カメラの位置がずれている。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
	●車が傾いているとき（重い荷物の積載やパンクしてタイヤ空気圧が低いときなど）。 ●傾斜地で使用するとき。	故障を示すものではありません。 車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。

症状	考えられる原因	対策
ハンドルが直進状態であるにもかかわらず予想進路線が動いている	ステアリングセンサーの信号に異常が発生した。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
ガイド線が表示されない	テールゲートが開いている	テールゲートを閉めてください。 症状が改善しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 が表示される	●バッテリーの脱着中にハンドル操作を行った。 ●バッテリー能力が低下した。 ●バッテリーを脱着した。 ●ステアリングセンサーを脱着した。 ●ステアリングセンサーの信号に異常が発生した。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
パノラミックビューの表示を拡大できない	クリアランスソナーが故障しているか、センサーが汚れている可能性があります。	クリアランスソナーの故障に対する修正手順に従ってください。(→P.247)
シースルービュー／ムービングビューが表示されない		

マルチテレインモニター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチテレインモニターは運転者の車両周辺確認を支援します。オフロード運転での状況判断や駐車する時に障害物の有無を確認など、様々な場面で運転者の周辺状況判断を支援します。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

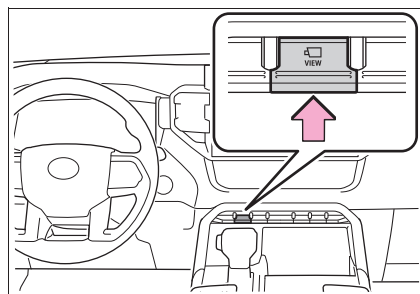
■ マルチテレインモニターシステムを使用するとき

- マルチテレインモニターを過信しないでください。
一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。
- カメラのレンズの特性により、マルチテレインモニター画面に映る人や障害物などは、実際の位置・距離と異なります。必ず周囲の安全を直接確認した上で運転してください。
- 画面だけを見ながら運転することは絶対にしないでください。運転する際、必ず目視やミラーなどで後方や周囲の安全を直接確認し、十分注意したうえで運転してください。

- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れたりすることがあります。
特に動いているものの映像がゆがむ、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- 次のような場合では、マルチテレインモニターを使用しないでください。
 - ・ 路面が凍結している、滑りやすい、または雪が積もっている状態
 - ・ タイヤチェーンまたは非常用タイヤを使っているとき
 - ・ フロントドアまたはテールゲートが完全に閉じていないとき
 - ・ サスペンションが改造されている、または仕様と異なる大きさのタイヤが取り付けられているとき

カメラスイッチ

イラストの位置にカメラスイッチがあります。



□ 知識

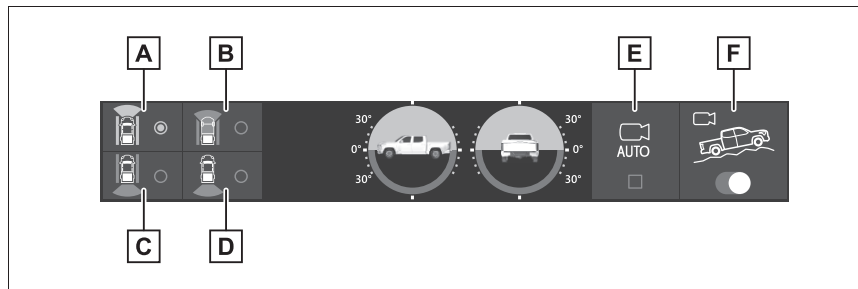
車速が約 10 mph (16 km/h) 以下の時に  を操作すると、マルチテレインモニターが表示されます。

車速が約 10 mph (16 km/h) をこえると、マルチテレインモニターの表示が

キャンセルされます。

メニューボタン

表示される画面を下記のボタン操作で選択することができます。



- A** フロントビュー&両サイドビュー
- B** アンダーフロアビュー&両サイドビュー
- C** リヤビュー&両サイドビュー
- D** ワイドリヤビュー
- E** オートモード ON/OFF ボタン (→P.315)
- F** マルチテレインモニター ON/OFF ボタン

マルチテレインモニターが OFF の時にパノラミックビューモニターが表示されます。(→P.280)

4WD スイッチが4 L または 4 H かつ、マルチテレインモニターが ON のとき

マルチテレインモニターはオフロードに適した画面を表示します。

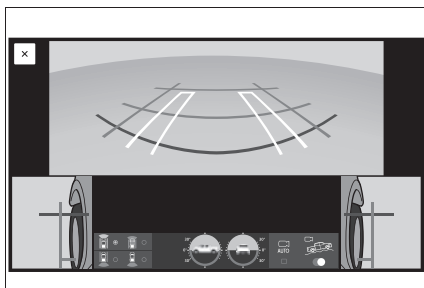
- フロントビューで次のガイド線を確認しながら、運転することができます。
 - ・ 前方にある障害物との距離
 - ・ 予想ガイド線

- サイドビューでタイヤ横周辺の障害物を確認しながら、運転することができます。

車両前方とサイドエリアを確認する

- ▶ フロントビュー&両サイドビュー

フロントビュー&両サイドビューボタンを選択します。

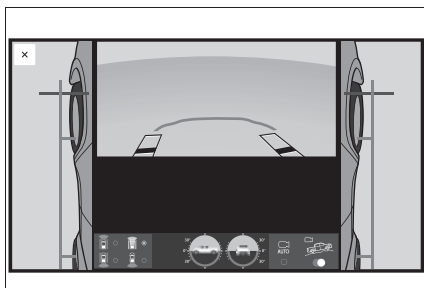


フロントビューとサイドビュー画面をふれると、各表示サイズを変更することができます。

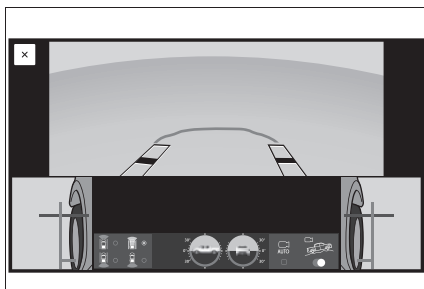
床下透過映像を確認する

- ▶ アンダーフロアビュー&両サイドビュー

アンダーフロアビュー&両サイドビューボタンを選択します。



- ▶ アンダーフロアビュー&両サイドビュー（フロント拡大時）

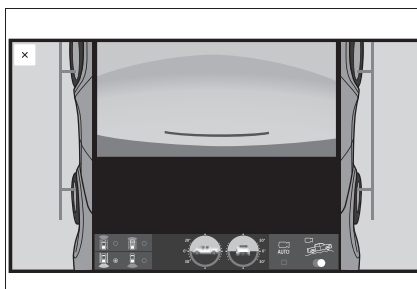


アンダーフロアビューとサイドビュー画面をふれると、各表示サイズを変更する

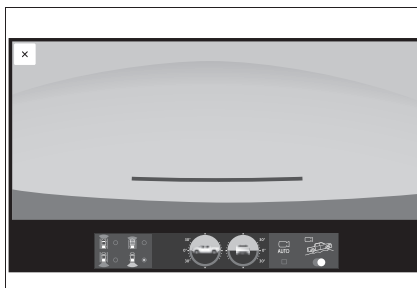
ことができます。

車両後方エリアを確認する

- ▶ リヤビュー&両サイドビュー
- リヤビュー&両サイドビューボタンを選択します。



- ▶ ワイドリヤビュー
- ワイドリヤビューボタンを選択します。



画面をふれると、リヤビュー&両サイドビューとワイドリヤビュー表示を切りかえることができます。

4WD スイッチが 2H または 4 H かつ、マルチテレインモニターが OFF のとき

パノラミックビューモニターが表示されます。(→P.280)

オート表示モード

オート表示モードが ON になっている時、マルチテレインモニター画面で  を操作しなくても、マルチテレインモニター画面が表示されます。

- ・シフトレバーを D または N にしたとき
- ・車速が 10 mph (16 km/h) に減速されたとき

知識

-  を選択するたびに、ON/OFF でオート表示モードが切りかわります。オート表示モードが ON のとき、表示灯が点灯します。
- オート表示モードが ON のときでも、 を押すことで表示を切りかえることができます。

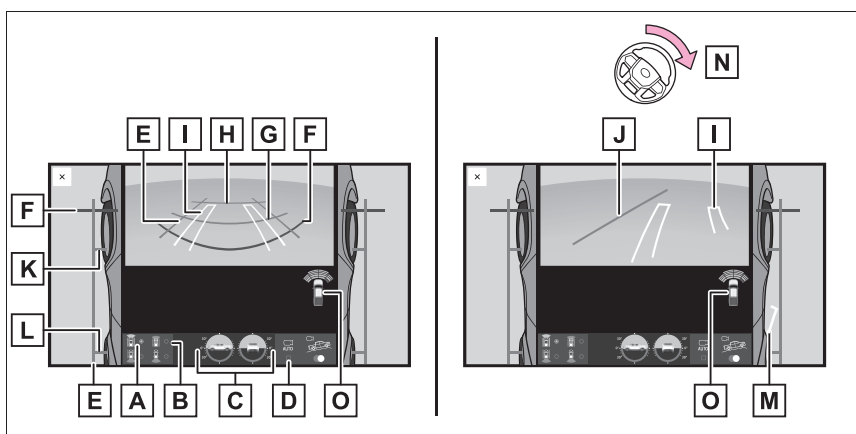
画面表示の見方や機能などについて

4WD スイッチが 4L または 4H かつ、マルチテレインモニターが ON のとき、オフロード走行時の路面状況の把握など、さまざまな走行状況を補助する情報が表示されます。

フロントビュー&両サイドビュー

車両前方付近の状況確認に利用できます。

- 車両前方の映像に加えて、前進方向を決めるときの参考となるガイド線が表示されます。
- ハンドルを約 270° 以上操作しているときは、ガイド線やその他の操舵を支援する機能が自動的に表示されます。



A フロントビュー&両サイドビューボタン

B アンダーフロアビュー&両サイドビューボタン (→P.318)

C 傾斜計／スリップ表示

車両の推定傾斜度、またはタイヤスリップを表示します。(→P.317, 318)

D オート表示ボタン

オート表示モードが ON/OFF で切りかえることができます。(→P.315)

E 車幅延長線 (青)

車幅 (ドアミラーを含む) の目安線を表示します。

F 1.5 ft. (0.5 m) 距離目安線 (赤)

車両前方の距離の目安を表示します。

・バンパー端面から約 1.5 ft. (0.5 m) の位置を表示します。

G 3 ft. (1 m) 距離目安線 (青)

H 6 ft. (2 m) 距離目安線 (青)

I フロントタイヤ進路線 (黄)

ハンドル位置をもとに、フロントタイヤの予想進路を表示します。

J 前進ガイド線 (青)

最も小まわりして前進した場合の軌跡の目安を示します。

K フロントタイヤ接地線 (青)

フロントタイヤが接地する映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

L リヤタイヤ接地線 (青)

リヤタイヤが接地する映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

M リヤタイヤ接地線 (黄)

リヤタイヤが接地する映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

N ハンドルを約 270° 以上操作しているとき

O クリアランスソナー

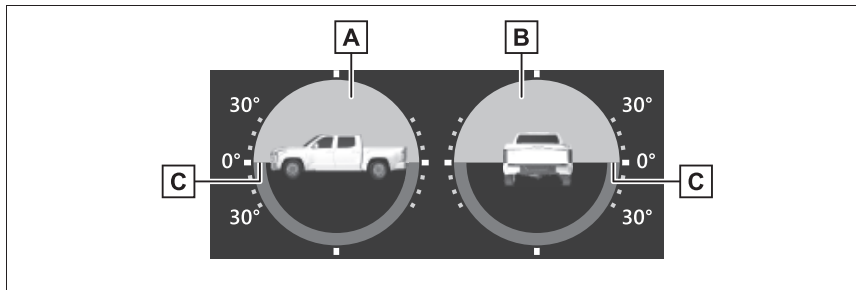
センサーが障害物を検知する時、その障害物への方向とおおよその距離が表示されブザーが鳴ります。

知識

- シフトレバーが R 以外のとき画面が表示されます。
- クリアランスソナーが障害物や他車を検知したとき、傾斜計／スリップ表示エリアにメッセージが表示されます。

傾斜計

傾斜計は 0 度～約 30 度までの範囲で、車両の前後・左右のおおよその傾きを表示します。



A 前後傾斜角目盛り

前後方向の傾きを角度で示します。

B 左右傾斜角目盛り

左右方向の傾きを角度で示します。

C ポインター

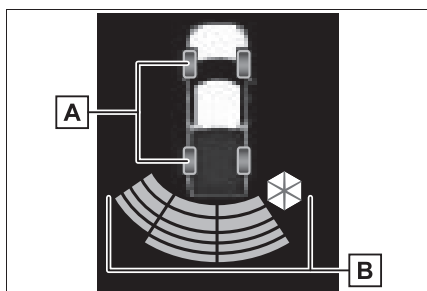
水平状態に対する車両の傾き具合を示します。

知識

- ポインターの移動と車両イメージの回転により、車両の傾きを角度で示します。
- 現在の傾きに応じて、前後・左右傾斜角目盛りの色が変わります。
- エンジンスイッチを ON にしたあと、傾き角度の情報が確定するまでは、傾斜角度が表示されません。
- 傾斜計が示す角度は目安であり、他の計測装置によって計測した角度とは異なる場合があります。

スリップ表示

タイヤの空転を検知すると、空転しているタイヤの位置をお知らせします。

**A** タイヤアイコン

空転しているタイヤが橙色に点滅します。
(クロールコントロール作動中には、全てのタイヤが黄色で示されます。)

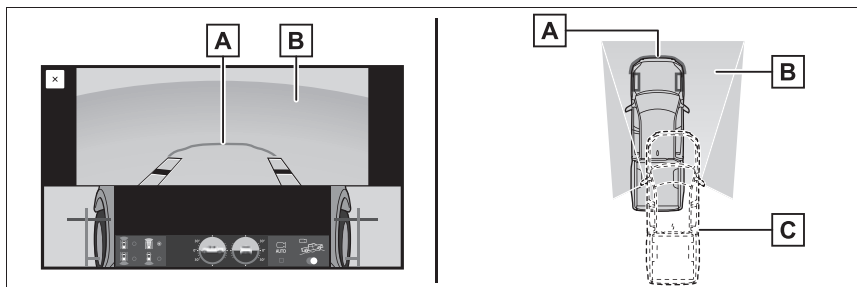
B クリアランスソナーの割り込み

表示

クリアランスソナーが ON のとき、障害物を検知すると表示されます。

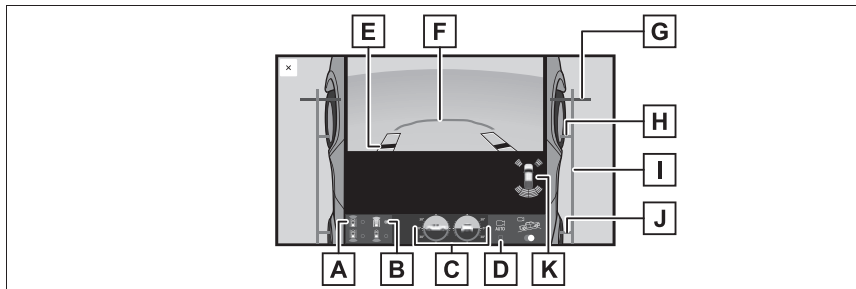
アンダーフロアビュー&両サイドビューについて

現在の車両位置より手前で撮影された映像の上に、現在の車両位置・タイヤ位置より約 32 ft (10 m) 後方を示す線が合成表示され、車両下方の状況や前輪位置の把握などを補助します。

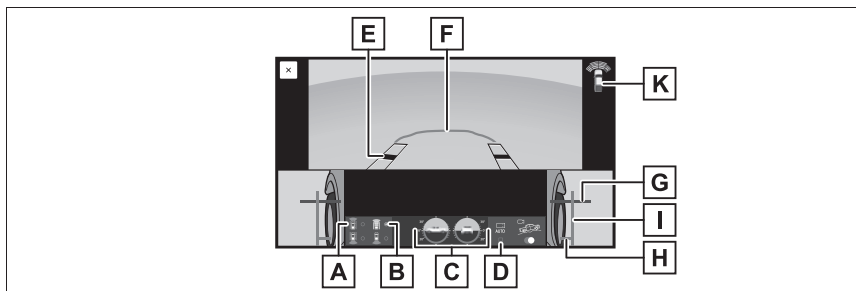
**A** 現在の車両位置**B** アンダーフロアビューで表示される映像（現在の車両位置より約 32 ft. [10 m] 後方で撮像された映像）**C** 映像が撮像された時点の車両位置（現在の車両位置より約 32 ft. [10 m] 後方）

アンダーフロアビューを表示する

▶ アンダーフロアビュー&両サイドビュー



▶ アンダーフロアビュー&両サイドビュー（フロント拡大時）



A フロントビュー&両サイドビューボタン (→P.315)

B アンダーフロアビュー&両サイドビューボタン

C 傾斜計／スリップ表示

車両の傾き具合の目安、またはタイヤスリップを表示します。(→P.317, 318)

D オート表示ボタン

オート表示モードが ON/OFF で切りかえることができます。(→P.315)

E タイヤ位置表示線（黒または白）

タイヤのある位置、および接地面の目安を示します。

F 車両形状線（青）

車両端部の位置の目安を示します。

G 1.5 ft. (0.5 m) 距離目安線（赤または黒）

車両前端からの距離の目安を示します。

・バンパー端面から約 1.5 ft. (0.5 m) の位置を表示します。

H フロントタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

I 車幅線（青）

幅（ドアミラーを含む）のガイド線を表示します。

J リヤタイヤ接地線（青）

リヤタイヤが接地する位置にガイド線を表示します。

K クリアランスソナー

センサーが障害物を検知するとき、その障害物への方向とおおよその距離が表示され、ブザーが鳴ります。

 知識

- シフトレバーが R 以外のときに画面が表示できます。
- アンダーフロアビューが表示されているときに、車速が約 3 mph (5 km/h) 以上になると、画面が自動的にフロントビュー表示に戻ります。
- 次の場合は、アンダーフロアビューボタンを操作することができません。
 - ・ 車両が完全に停車していないとき
 - ・ エンジン始動後、一定の距離以上走行していないとき
 - ・ 4WD スイッチを 4L に切りかえた後、一定の距離以上走行していないとき
- 次の場合では、システムが正常に作動しない、またはアンダーフロアビューに切りかえることができないときがあります。
 - ・ 道路が雪で覆われているとき
 - ・ 夜間で道路に照明がないとき
 - ・ カメラレンズに汚れや異物が付着しているとき
 - ・ 車両の前方に水面（川、水たまりなど）があるとき

 警告

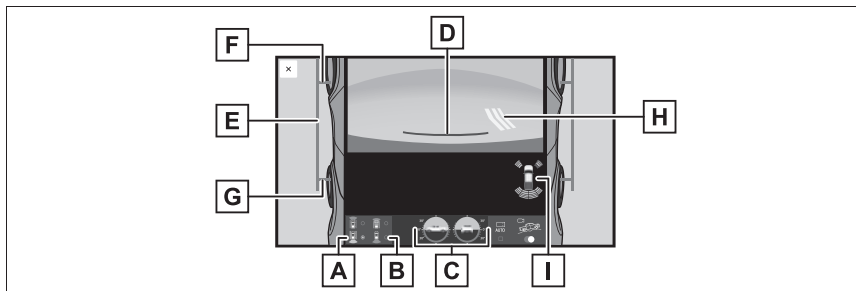
- 乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさ・オプションの装備・指定以外のタイヤやサスペンション等の装着により、タイヤ形状線・車両形状線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。
- 表示される映像は、撮影された過去に撮影された映像で、自車位置から約 32 ft. (10 m) 後方で撮影されたものです。撮影後に物体が移動した場合など、画面に表示される画像は実際の状態と異なる場合があります。

リヤビュー&両サイドビュー／ワイドリヤビュー

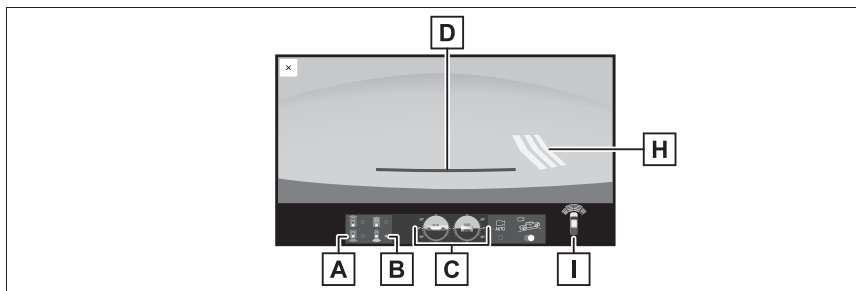
駐車時の安全確認を行うために、車両側方からの映像と後方カメラからの映像を同時に表示するモードです。

シフトレバーが R のとき、画面が表示されます。

▶ リヤビュー&両サイドビュー



▶ ワイドリヤビュー



A リヤビュー&両サイドビュー

B ワイドリヤビューボタン

C 傾斜計／スリップ表示

車両の推定傾斜度、またはタイヤスリップを表示します。(→P.317, 318)

D 1.5 ft. (0.5 m) 距離目安線 (赤)

車両前端からの距離の目安を示します。

・ バンパー端面から約 1.5 ft. (0.5 m) の位置を表示します。

E 車幅ガイド線 (青)

車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。

F フロントタイヤ接地線 (青)

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

G リヤタイヤ接地線（青）

映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

H RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

後方から接近する車両をセンサーが検知すると、後方から接近する車両の方向を表示し、ブザーが鳴ります。

I クリアランスソナー

クリアランスソナーが静止物を検知すると、その障害物への方向とおおよその距離が表示され、ブザーが鳴ります。

 知識

- シフトレバーが R のとき、画面を表示することができます。
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の詳細について（→P.254）
- テールゲートが閉まっていないとガイド線は表示されません。テールゲートを閉めてもガイド線が表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

 警告

タイヤ位置表示線および自車位置表示線は、乗車人数、積載量、路面の勾配、路面状況、周囲の明るさなどにより、実際の自車位置と異なる場合があります。常に周囲の安全を確認しながら運転してください。

マルチテレインモニターの注意事項

→P.300

知っておくべきこと

→P.310

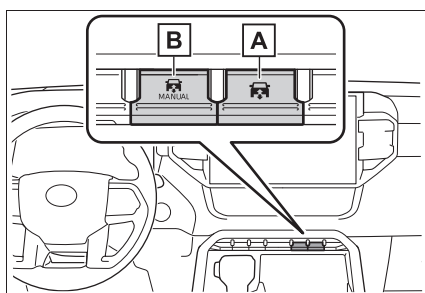
電子制御エアサスペンション★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子制御エアサスペンションにより、ドライバーは車高を制御し、運転状況に合わせて調整することができます。

車高調節スイッチで希望の高さを選択します。

車高調節スイッチ

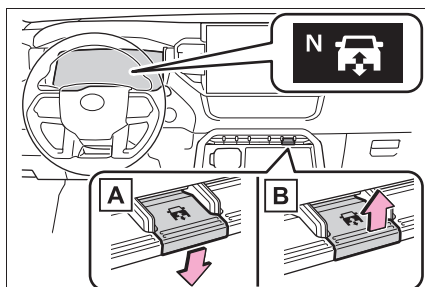


A 車高調整スイッチ

B 車高調整モード選択スイッチ

車高の選択

スイッチを操作すると、車両後部の高さが次のように変化します。



A 低い

B 高い

車高の調整はエンジン始動中のみ可能です。

選択した車高モードはメーターの表示で確認できます。

車高モードの変更中は、選択したモードが点滅します。

■ 車高モード

● N モード（ノーマルモード）：通常走行のときに使用

通常の高さ

● HI モード（ハイモード）：通常の車高より 1.6 in. (40 mm) 高い車高で、悪路走行などに使用

車両の速度が 18 mph (30 km/h) をこえると、HI モードは使用できません。

車速が 18 mph (30 km/h) をこえると、車高は自動的に通常の高さになります。

● LO モード（ローモード）：車への乗り降りや、荷物の積み降ろしのときに使用

通常より 1.2 in. (30 mm) 低い高さ

車両の速度が 8 mph (12 km/h) をこえると、LO モードは使用できません。

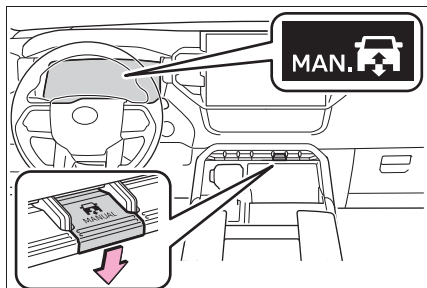
車速が 8 mph (12 km/h) をこえると、車高は自動的に通常の高さになります。

車高制御の停止方法

車高調整モード選択スイッチを押すと、車高は現在の高さに固定されます。

マルチインフォメーションディスプレイに MAN. 表示灯が点灯し、オートレベリ

ング機能が OFF になります。



車高は車高調節スイッチを押すことで変更できます。

スイッチをもう一度押すか、車速が 18 mph (30 km/h) をこえると、車高は自動的に通常の高さになります。



■オートレベリング機能

すべてのモードで乗員数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の高さになるように車高が自動で制御されます。

■HI モード選択時

18 mph (30 km/h) で走行すると、車高は N モードに移行します。

■LO モード選択時

- 車速が 8 mph (12 km/h) をこえると、車高は N モードに移行します。
- 車両への乗り降りや荷物の積み込み、積み下ろしがしやすくなります。

■電子制御エアサスペンションの作動条件

次のときシステムは作動しません。

- 車両の下部が地面に接触しているとき
- サスペンション周辺が凍結しているとき

エアサスペンション表示灯が点滅したあと、消灯し、さらに点灯し続ける場合は、電子制御エアサスペンションが作

動していないことを示します。

一度エンジンを停止したあと、再度始動してください。

■動作音について

電子制御エアサスペンションが作動するとき、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■電子制御エアサスペンション故障警告

電子制御エアサスペンションに異常がある場合、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

その場合、一度エンジンを停止したあと、再度始動してください。警告メッセージが消えれば、システムは正常に作動しています。警告メッセージが引き続き表示される場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■表示灯が点灯したときは

エアサスペンションシステムの故障を示します。

ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。(→P.69, 438)



警告

■車高制御を停止する必要があるとき

オートレベリング機能により車高が変化し、身体の一部が挟まれ、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 浅瀬などの水辺を走行するとき（車高を HI モードにして車高制御を停止し、18 mph [30 km/h] 以下で走行してください。）

警告

- ジャッキアップやタイヤチェーン装着、または輸送のためにチェーンやワイヤーで車両を固定するとき（車高制御を停止してエンジンを停止してください。）
- けん引が必要なとき（車高を N モードにして、車高制御を停止してください。）
- スタックしたとき（車高制御を停止してください。）
- トレーラーを切り離すとき（車高を N モードにして、車高制御を停止してください。）

■ 車高の選択について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車高を下げる前に、車の下を確認して、誰もいないことを確認してください。
- HI モードは、オフロードなどの荒れた路面を走行する場合のみ使用してください。
このモードでは車両の重心が高くなるため、急旋回時に車両が不安定になり、事故につながる可能性があります。
- ルーフキャリアに荷物を積む際は、HI モードを選択しないでください。
このモードでは車両の重心が高くなるため、急旋回時に車両が不安定になり、事故につながる可能性があります。

注意**■ 高さ制限のある場所に駐車するときは**

乗員が降りたときや積荷を降ろしたときは、通常より車高が高めになりますので、高さ制限のある場所では注意してください。

■ LO モードの使用について

凹凸のある路面では、LO モードにしないでください。車が路面に接触し、損傷するおそれがあります。

■ 車高を頻繁に変更すると

コンプレッサーが過熱し、作動が停止する可能性があります。

■ 石の多い悪路を走行するとき

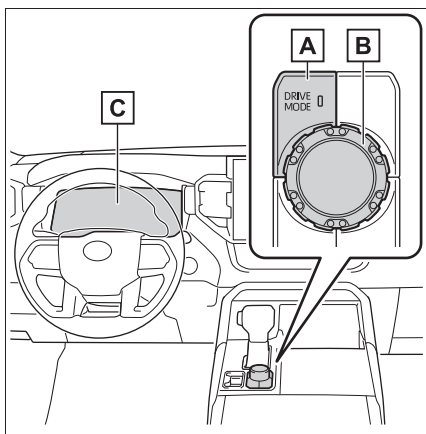
システムが悪路走行と認識するため、車高調整が行われない場合があります。

ドライブモードセレクトスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行・使用状況に合わせて走行モードを選択できます。

システムの構成部品



A DRIVE MODE スイッチ

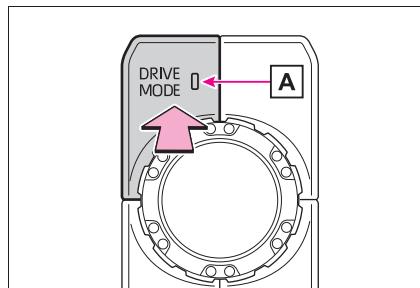
B モードセレクトスイッチ

C マルチインフォメーションディスプレイ (→P.81)

走行モードを選択するには

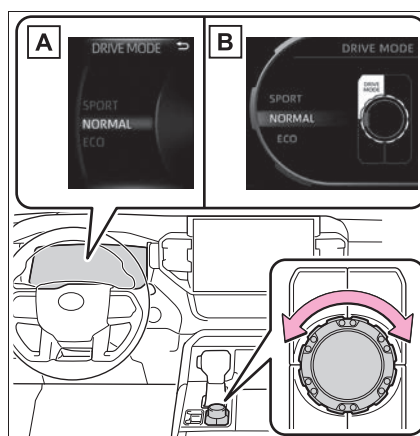
1 DRIVE MODE スイッチを押す

インジケータ—**A**が点灯します。



2 モードセレクトスイッチを左右に操作し、マルチインフォメーションディスプレイ表示からドライブモードを選択する

▶ AVS 非装着車



A マルチインフォメーションディスプレイ (4.2 インチディスプレイ装着車)

B マルチインフォメーションディスプレイ (フル液晶ディスプレイ装着車)

・ NORMAL モード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

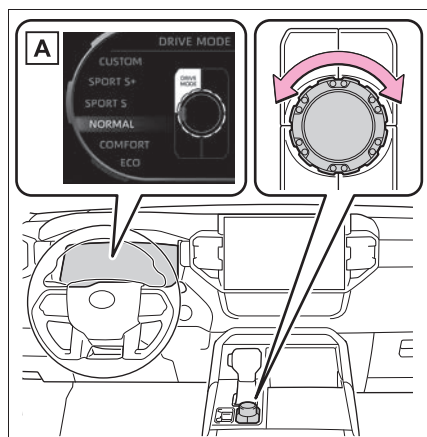
・ ECO モード

スロットル特性をおだやかに設計することで、エコ運転中の運転者のアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房・冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。ECO 表示灯が点灯します。

・ SPORT モード

トランスミッション、エンジンおよびステアリングの制御により、アクセルレスポンスを向上させます。正確なハンドリングが求められる状況、たとえば山道を走行するときなどに適しています。SPORT 表示灯が点灯します。

▶ AVS 装着車



A マルチインフォメーションディスプレイ

・ NORMAL モード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

・ COMFORT モード

サスペンションを制御することにより、より快適な乗り心地になります。市街地走行に適しています。COMFORT 表示灯が点灯します。

・ ECO モード

スロットル特性をおだやかに設計することで、エコ運転中の運転者のアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房・冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。ECO 表示灯が点灯します。

・ SPORT S モード

トランスミッション、エンジンおよびステアリングの制御により、アクセルレスポンスを向上させます。正確なハンドリングが求められる状況、たとえば山道を走行するときなどに適しています。SPORT S 表示灯が点灯します。

・ SPORT S+ モード

トランスミッションとエンジンに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより、操縦性・安定性の確保に貢献し、スポーティな走りを楽しみたいときに適しています。SPORT S+ 表示灯が点灯します。

・ CUSTOM モード

パワートレーン制御、シャシー制御およびエアコン動作の機能をお好みで設定し走行することができます。カスタムモードは、マルチメディアディスプレイのドライブモードカスタマイズ画面でのみ設定できます。CUSTOM 表示灯が点灯します。

知識

■ 作動条件

4WD スイッチが 2H または 4H のとき

■ エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- 風量を調整する (→P.355)
- エコドライブモードを解除する (→P.326)

■ 走行モードの自動解除

次のときは、走行モードが解除されノーマルモードにもどります。

- エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチを ON にしたとき
- 4WD スイッチを 4L にしたとき
- マルチトレインセレクト★を ON にしたとき
- ダウンヒルアシストコントロールシステム★が ON になったとき
- TOW HAUL モードまたは TOW+ モードが ON になったとき★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ カスタマイズ機能

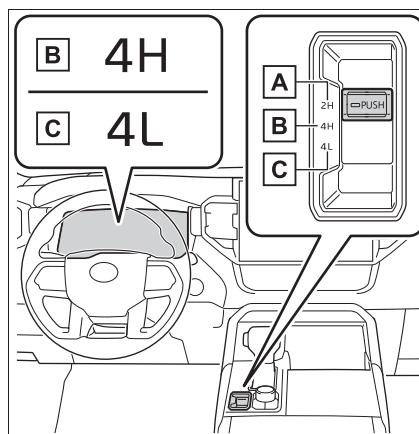
カスタムモードの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→P.485)

4WD システム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

4WD スイッチを操作して駆動系の作動状態を切りかえます。

4WD スイッチ



A 2H (ハイレンジ 2WD・2 輪 駆動)

市街地や高速道路などの乾燥した舗装路面を一般走行する場合に使用します。通常はこの位置で使用します。

B 4H (ハイレンジ 4WD・4 輪 駆動)

悪路・氷雪路・砂地など、すべりやすい路面を走行する場合に使用します。

4H 作動表示灯 (緑色) が点灯します。

C 4L (ローレンジ 4WD・4 輪 駆動)

悪路・砂地・ぬかるみ・深雪路などで特に大きな駆動力を必要とするときなどや急な降坂路を走行するときに使用します。

4L 作動表示灯が点灯します。

2H と 4H の切りかえ

■ 2H から 4H への切りかえ

- 1 車速が 62 mph (100 km/h) 以下であることを確認する
- 2 4WD スイッチを押しながら “4H” に動かす

4H 作動表示灯が点灯します。

■ 4H から 2H への切りかえ

- 1 車速が 62 mph (100 km/h) 以下であることを確認する
- 2 4WD スイッチを押しながら “2H” に動かす

4H 作動表示灯が消灯します。

4H と 4L の切りかえ

■ 4H から 4L への切りかえ

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 シフトレバーを N にする
- 3 4WD スイッチを押しながら “4L” に動かす

4L 作動表示灯が点灯します。

■ 4L から 4H への切りかえ

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 シフトレバーを N にする
- 3 4WD スイッチを押しながら “4H” に動かす

4L 作動表示灯が消灯します。



知識

■ 4L にしたとき

VSC が自動的に OFF になります。

■ 4H 表示灯が点滅したときは

4WD システムが正常に切りかわっていない

可能性があります。そのまま直進しながら加減速または後退をしてください。

■ 4H 表示灯が点灯し、かつ 4L 表示灯が点滅したときは

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従って、シフトレバーを D または R にして、車両をゆっくりと走行させたあと、停車してください。

■ 4H 表示灯が点灯し、かつ 4L 表示灯が点滅してブザーが鳴るときは

シフトレバーが N になっていない、または車両が動いています。車両を完全に停止させ、シフトレバーを N にして、表示灯が点滅しないことを確認してください。

■ 4H 表示灯が点滅し続け、かつ 4L 表示灯が点灯したときは

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従って、シフトレバーを D または R にして、車両をゆっくりと走行させたあと、停車してください。

■ 4H 表示灯が点滅し、かつ 4L 表示灯が点灯してブザーが鳴るときは

シフトレバーが N になっていない、または車両が動いています。車両を完全に停止させ、シフトレバーを N にして、表示灯が点滅しないことを確認してください。

■ 4H と 4L 表示灯が速く点滅しているとき

4WD システムに異常がある可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 4WD 走行について

前輪駆動部品のオイルを循環させるため、月に少なくとも 10 miles (16 km) 程度は 4WD 走行を行ってください。

⚠ 警告

■ 4WD スイッチを 2H から 4H に切りかえるとき

タイヤがスリップしているときには、絶対に 4WD スイッチを操作しないでください。タイヤのスリップや空転が止まってから、4WD スイッチを操作してください。

■ 駐車するときは

4WD スイッチを操作した際、4L 表示灯が点灯または消灯する前にシフトレバーを操作すると、4WD の切りかえが完了せず、シフトポジションに関係なく駆動軸が拘束されません。(表示灯が点滅し、ブザーが鳴ります)
この場合、シフトレバーを P にしても車両が動くおそれがあり危険です。必ず、4WD システムの切りかえを完了させてください。

AUTO LSD ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

AUTO LSD はタイヤの片方のみが空転すると、TRAC によりエンジンやブレーキを制御して駆動力を補助します。
すべりやすい路面や凹凸のある路面などで片方のタイヤが空転した場合のみシステムを使用してください。

AUTO LSD を使用するとき

AUTO LSD は、2WD 車のみで使用できます。

AUTO LSD は、62 mph (100 km/h) 未満で走行しているときに作動します。

AUTO LSD は、次の 2 つの操作で切りかえられます。

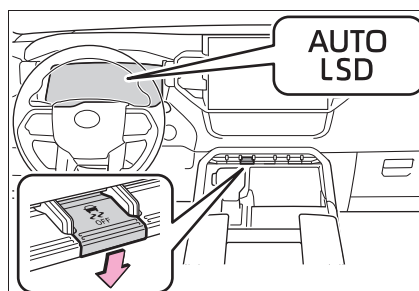
AUTO LSD を ON にするには、

 を押します。

AUTO LSD 表示灯が点灯します。

AUTO LSD を OFF にするには、

もう一度、 を押します。



知識

■ ブレーキシステムが異常過熱したときは

AUTO LSD が停止し、警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに “Traction Control Turned OFF” と表示されます。

安全な場所に停車してください。（この間の通常走行に問題はありません）

しばらくすると、AUTO LSD は作動可能状態となります。

警告

■ 事故を防ぐために

事故を避けるために、以下の点に注意してください。

- すべりやすい路面や凹凸のある路面以外で AUTO LSD システムを使用しないでください。
- 常に AUTO LSD を ON にした状態で走行しないでください。

次のことをお守りいただかないと、ハンドルが重くなるため車のコントロールがしにくくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 運転中の作動について

タイヤがスリップしている状態で AUTO LSD を作動させないでください。タイヤのスリップを止めた状態にしてから、AUTO LSD を ON にしてください。

リヤデフロック★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

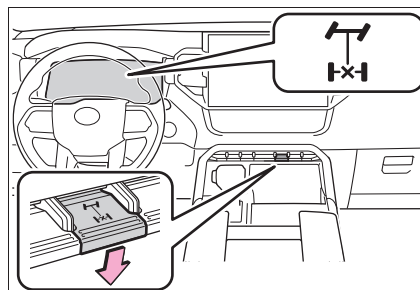
リヤデフロックは、すべりやすい路面や凹凸のある路面でタイヤが空転するときのみ使用してください。特に後輪のいずれか一方が空転しているときに効果を発揮します。

リヤデフロックスイッチ

ON/OFF を切りかえる

スイッチを押すと、リヤデフロック作動表示灯が数秒間点滅し、リヤデフロックが完了すると表示灯が点灯にかわります。表示灯が点灯したら、システムが使用できます。

もう一度押すと、リヤデフロック状態が解除され、表示灯が消灯します。



知識

■ リヤデフロックを使用するときは

- タイヤが止まっていることを確認してからロックしてください。
- 脱出できたら、ただちにリヤデフロック状態を解除してください。

■ リヤデフロックの解除について

リヤデフロックを解除しても作動表示灯が点滅し続ける場合は、車両が動いているときに、周囲の安全を確認の上、ハンドルを少しまわすと、リヤデフロック状態が解除されます。

■ リヤデフロック状態自動解除機能

次のいずれかの操作をすると、リヤデフロック状態が解除されます。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- 4WD スwitch を 2H または 4H に切りかえたとき

■ リヤデフロック使用後は

リヤデフロック作動表示灯が消灯したことを確認してください。

■ リヤデフロック作動表示灯について

- リヤデフロック／解除の作動中は、リヤデフロック作動表示灯が点滅します。
- リヤデフロックスイッチを押しても表示灯の点滅し続けた場合は、車両を完全に停止させてから、もう一度リヤデフロックスイッチを押してください。

以上を実施しても、表示灯が点滅し続けたときは、4WD システムに異常があるおそれがあります。この場合、リヤデフロックの切りかえはできません。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ リヤデフロック状態のときは

リヤデフロック状態のときは、次のシステムが使用できません。

- ABS
- ブレーキアシスト
- VSC
- ダウンヒルアシストアシストコントロール★
- TRAC

★：グレード、オプションなどにより、装

備の有無があります。

⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- すべりやすい路面や凹凸のある路面以外ではリヤデフロックを使用しない
- タイヤの空転が止まるまでリヤデフロックを使用しない
- リヤデフロック状態では、車速約 5 mph (8 km/h) 以上で走行しない
- リヤデフロック状態のまま、走行を続けない

クローलコントロール★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、凹凸の大きなオフロードを一定の低速度で走行でき、すべりやすい路面でのスリップや車輪の空転を最小限に抑え、安定して走行できます。

警告

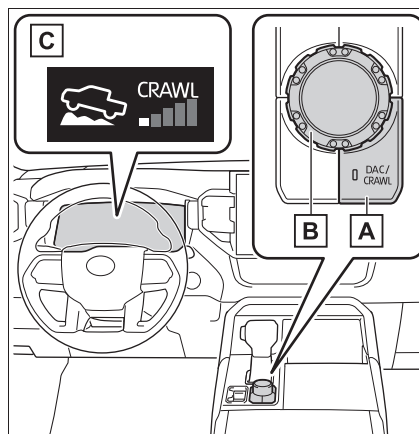
■クロールコントロールをお使いになる前に

クロールコントロールを過信しないでください。車両の限界性能を高めるものではないので、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転に心がけてください。

■正しく作動しないおそれのある状況
次の路面を走行する場合、車両の一定速度を維持できないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 極端な急勾配
- 凹凸の激しい路面
- 積雪路などのすべりやすい路面

システムの構成部品



A DAC/CRAWL スイッチ

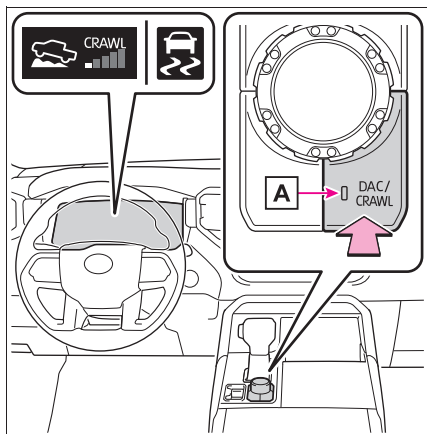
B モードセレクトスイッチ

C 作動表示灯（→P.70）

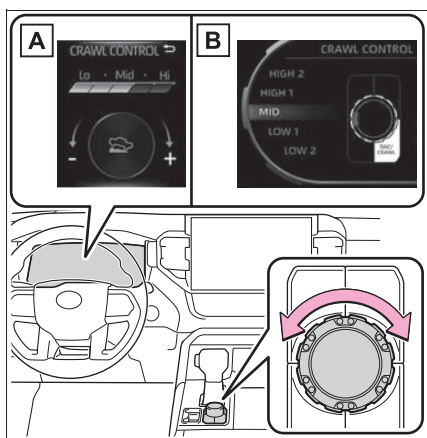
クロールコントロールを作動させるには

1 DAC/CRAWL スイッチを押す
スイッチ上のインジケーター**A**とマルチインフォメーションディスプレイのクロールコントロール表示灯が点灯し、ス

リップ表示灯が点滅します。



2 モードセレクトスイッチを左右に操作し、マルチインフォメーションディスプレイ表示からモードを選択する

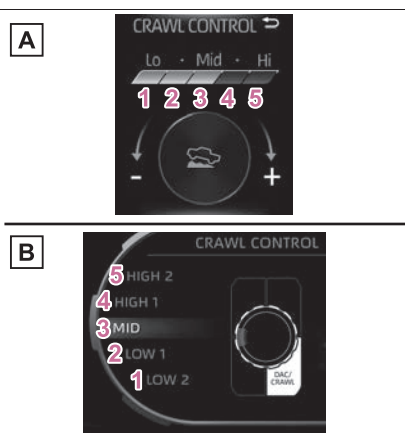


A マルチインフォメーションディスプレイ (4.2 インチディスプレイ装着車)

B マルチインフォメーションディスプレイ (フル液晶ディスプレイ装着車)

選択可能なモード

次の 5 つのモードから路面状況に合わせてモードを選択することができます。



A マルチインフォメーションディスプレイ (4.2 インチディスプレイ装着車)

B マルチインフォメーションディスプレイ (フル液晶ディスプレイ装着車)

1 Lo/LOW 2

岩石路や下り坂を走行するときなどに適しています。

2 Lo-Mid/LOW 1

岩石路・下り坂・凹凸のある登り坂を走行するときなどに適しています。

3 Mid/MID

凹凸のある登り坂を走行するときなどに適しています。

4 Mid-Hi/HIGH 1

凹凸のある登り坂・ガレキ路、雪・泥・砂利・草地などの上を走行するときなどに適しています。

5 Hi/HIGH 2

凹凸のある登り坂・ガレキ路、雪・泥・砂利・草地などの上を走行するときなどに適しています。

クロールコントロールを解除するとき

- ▶ DAC/CRAWL スイッチのインジケータ点灯時

DAC/CRAWL スイッチをもう一度押す

- ▶ DAC/CRAWL スイッチのインジケータ消灯時

DAC/CRAWL スイッチを押してインジケータを点灯している状態にします。

点灯している状態で DAC/CRAWL スイッチをもう一度押す
クロールコントロールが解除されると、クロールコントロール作動表示灯とスリップ表示灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにクロールコントロールが解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。

走行中にクロールコントロールを解除するときは、とくに慎重に運転してください。

知識

■クロールコントロールを使用するときは

クロールコントロールは、マルチセレクションが ON・OFF のどちらでも使用できます。(→P.336)

■クロールコントロールの作動条件

- エンジンがかかっているとき

- シフトレバーが P・N 以外にあるとき
- 4WD スイッチが 4L にあるとき
- 運転席ドアが閉まっているとき

■クロールコントロールの自動解除

次のいずれかのときに、ブザーが継続的に鳴り、クロールコントロール表示灯が点滅後、消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにクロールコントロールが解除されたことを示すメッセージが数秒間表示され、クロールコントロールが解除されます。

- シフトレバーを P または N にしたとき
- 4WD スイッチを 4H にしたとき
- 運転席ドアを開けたとき

■クロールコントロールの機能制限

- 次の場合は、下り坂を一定の速度で降りるようなブレーキ制御はできませんが、上り坂を一定の速度で登るエンジン制御はできません。
 - ・車速が約 6 mph (10 km/h) をこえたとき
- 次の場合は、エンジン制御・ブレーキ制御とも一時的に機能を停止します。この場合、クロールコントロール表示灯が点滅します。
 - ・リヤデフロック状態：車速が約 6 mph (10 km/h) をこえたとき
 - ・リヤデフロックが解除状態：車速が約 15 mph (25 km/h) をこえたとき

■長時間の使用について

- クロールコントロールを長時間連続的に使用すると、ブレーキシステムが異常過熱します。このときは、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせるメッセージが表示され、クロールコントロール表示灯が点滅した後消灯します。一時的にクロールコントロールが作動しなくなりますので、速やかに安全な場所に停車して、表示が消えるまでブレーキ

システムを十分に冷却してください。
また、この間の通常走行は可能です。

- クロールコントロールを長時間連続的に使用すると、オートマチックトランスミッションが異常過熱します。このときは、ブザーが鳴り、クロールコントロールが自動的に解除されます。また、マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせるメッセージが表示されることがあります。この場合は、表示が消えるまで、安全な場所に停車してください。

■ 作動音や振動について

- エンジン始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、クロールコントロールシステムの異常ではありません。
- クロールコントロールが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる

■ システムに異常があるときは

警告灯が点灯、または警告メッセージが表示されます。(→P.432, 442)

マルチトレインセレクト★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチトレインセレクトは、オフロードでの走破性を向上させるシステムです。

あらかじめ用意されたモードの中から、走行する路面状況に適したモードを選択することで、各状況に合わせてブレーキ制御、駆動力制御やステアリングのフィーリングが最適化されます。

⚠ 警告

■ マルチトレインセレクトを使用するときは

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 選択したモードの表示灯が点灯していることを確認してから走行してください。各表示灯が消灯している状態ではマルチトレインセレクトの制御が作動しません。
- 走行モードの切り換え(→P.337)に記載している路面状況は、あくまで参考情報です。路面状況(勾配・路面の摩擦係数・起伏)によっては、十分な効果を発揮できない場合があります。路面状況をよくご確認の上、走行してください。
- マルチトレインセレクトは車両の性能限界を高める装置ではありません。路面状況や走行ルートをあらかじめよく確認した上で、安全に注意して走行してください。

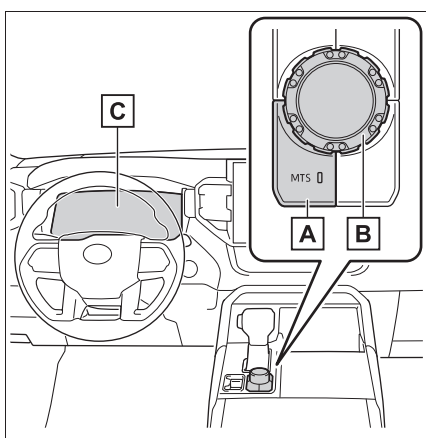


注意

■使用上の注意

マルチトレインセレクトは、オフロード走行を目的としたシステムです。それ以外の状況では使用しないでください。

システムの構成部品



A MTS スイッチ

B モードセレクトスイッチ

C マルチインフォメーションディスプレイ

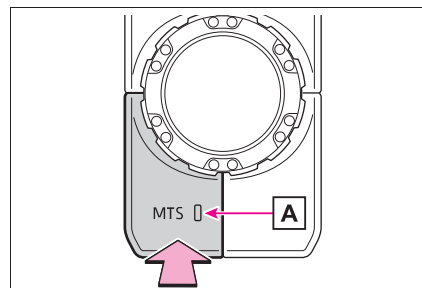
選択しているモードが表示されます。

走行モードの切りかえ

1 MTS スイッチを押す

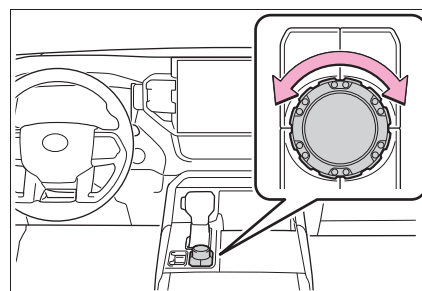
スイッチ上のインジケータ**A**が点灯し

ます。



2 モードセレクトスイッチを左右に操作し、マルチインフォメーションディスプレイ上で走行モードを選択する

4WD スイッチの状態により、次のモードを選択することができます。



▶ 4WD スイッチが 4L のとき

モード		路面状況
	MOGUL	大きな傾斜があるでこぼこ道に適しています
	SAND	砂地路の走行や、滑りやすい路面に適しています
	MUD	泥濘路の走行や、滑りやすい路面に適しています
	ROCK	岩石路の走行に適しています

4

運転

ブレーキ制御が作動すると、スリップ表示灯が点滅します。

▶ 4WD スイッチが 4H のとき

モード		路面状況
	DIRT	未舗装路などの、でこぼこした路面状況に適しています。
	SAND	砂地路などの、滑りやすい路面に適しています。
	MUD	泥濘路などの、滑りやすい路面に適しています。
	DEEP SNOW	深雪路の走行に適しています。

ブレーキ制御が作動すると、スリップ表示灯が点滅します。

SAND・MUD・DEEP SNOW 選択時は、VSC は自動的に OFF になります。(VSC OFF 表示灯が点灯します。)

 知識

■ マルチトレインセレクトについて

マルチトレインセレクトはオフロードでの走破性を高めるため、駆動力を最大限に利用できるように車両を制御します。そのため、マルチトレインセレクトが作動していない状態に比べて、十分な燃費性能が発揮できない場合があります。

■ 機能の自動解除

次のいずれかの場合、マルチトレインセレクトが自動的に解除されます。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- 4WD スイッチが 2H のとき
- 4WD スイッチが 4H のときに TOW HAUL・TOW+ を選択したとき

- 4WD スイッチが 4H のときに DRIVE MODE スイッチを操作したとき

■ マルチトレインセレクトの作動を停止するときは

次の操作を行うとマルチトレインセレクトの作動が停止し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が消えます。

▶ MTS スイッチのインジケータ点灯時
MTS スイッチをもう一度押す。

▶ MTS スイッチのインジケータ消灯時
MTS スイッチを押してインジケータが点灯している状態にします。点灯している状態で再度 MTS スイッチを押す。

■ スタックしたときは

4WD スイッチとリヤデフロックスイッチを切りかえてください。

切りかえについては、次のページを参照してください。

- 4WD システム (→P.328)

- リヤデフロック (→P.331)

■ マルチトレインセレクトでの走行中は

次のようなことが起こる場合がありますが、異常ではありません。

- 車体やハンドルに振動を感じる
- エンジンルーム内から作動音が聞こえる

■ トヨタ販売店で点検が必要なとき

次の場合は、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- スリップ表示灯が点灯している
- MTS スイッチを操作しても、マルチインフォメーションディスプレイに表示灯が表示されない

ダウンヒルアシストコントロールシステム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

急な下り坂を一定の低速度で走行することができます。

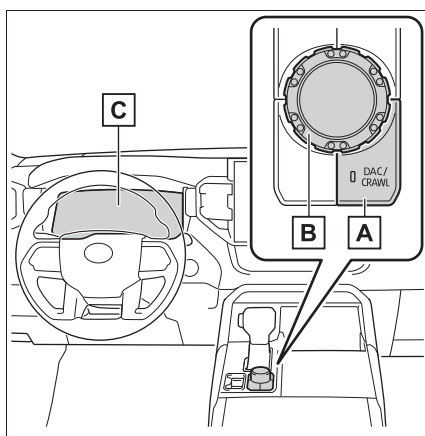
システムは 4WD スイッチが 4H で、ブレーキペダルとアクセルペダルを操作しておらず、かつ車速が 18 mph (30 km/h) 未満のときに使用できます。

警告

■ダウンヒルアシストコントロールシステムを使うときは

ダウンヒルアシストコントロールシステムを過信しないでください。車両性能の限界を高めるためのものではないので、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転を心がけてください。

システムの構成部品



A DAC/CRAWL スイッチ

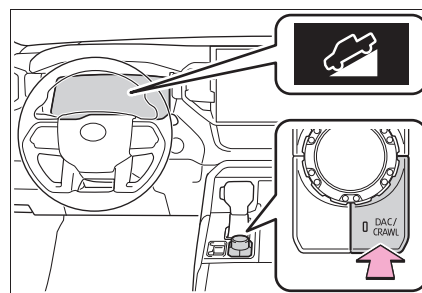
B モードセレクトスイッチ

C マルチインフォメーションディスプレイ

ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

DAC/CRAWL スイッチを押す

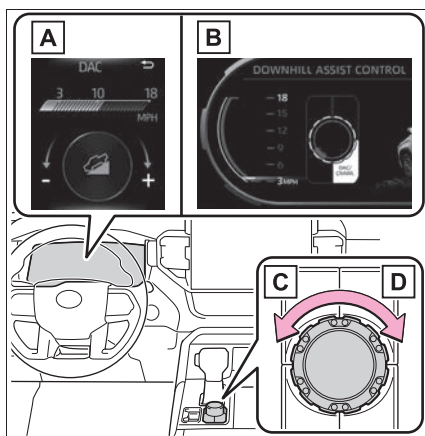
ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯すれば作動可能状態です。システムが作動しているときはスリップ表示灯が点滅します。このとき制動灯とストップランプ・ハイマウントストップランプが点灯します。また、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。



ダウンヒルアシストコントロールシステムの速度を設定する

希望の速度（約 3 mph [4 km/h] ～ 18 mph [30 km/h]）に設定するには、モードセレクトスイッチをまわします。

設定速度はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



A マルチインフォメーションディスプレイ（4.2 インチディスプレイ装着車）

B マルチインフォメーションディスプレイ（フル液晶ディスプレイ装着車）

C 速度を下げる

D 速度を上げる

ダウンヒルアシストコントロールシステムの解除

- ▶ DAC/CRAWL スイッチのインジケータ点灯時

DAC/CRAWL スイッチをもう一度押す

- ▶ DAC/CRAWL スイッチのインジケータ消灯時

DAC/CRAWL スイッチを押してインジケータを点灯している状態にします。

点灯している状態で DAC/CRAWL スイッチをもう一度押す

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

表示灯が点滅している最中はシステムは作動しません。

システムを作動させたいときは、もう一度 DAC/CRAWL スイッチを押します。

知識

■ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

- ダウンヒルアシストコントロールシステムは、TOW HAUL モードや TOW+ モード、ドライブモードセレクト、またはマルチテレインセレクトなどの走行モードにかかわらず使用できます。
- ダウンヒルアシストコントロールシステムはシフトレバーが P 以外のときに作動しますが、システムの効果を十分に発揮するために、低いシフトレンジにすることをおすすめします。

■ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅したとき

- 次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、システムが作動しません。
 - ・ 4WD スイッチを 4H 以外に変更したとき
 - ・ シフトレバーが P にあるとき
 - ・ 車速が約 18 mph (30 km/h) をこえたとき
 - ・ ブレーキシステムが異常過熱したとき
- 次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅しますが、システムは作動します。
 - ・ シフトレバーが N にあるとき
 - ・ DAC/CRAWL スイッチのインジケータ点灯時に DAC/CRAWL スイッチを押したとき

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

■長時間の使用について

ダウンヒルアシストコントロールシステムが長時間作動すると、ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り機能が一時的に停止されます。この場合、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅します。(通常走行は可能です)

しばらくして、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯に変わればシステムが使用可能となります。

■作動音や振動について

- エンジン始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります、異常ではありません。
- ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる

■システムに異常があるときは

次の場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- DAC/CRAWL スイッチを押しても、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない
- スリップ表示灯が点灯する

警告

■正しく作動しないおそれのある状況

次の路面を走行する場合、特に、タイヤのグリップ性能の限界を超えるときや、タイヤが十分に接地していないときは、車両を一定の低速度に維持できないことがあり、乗員が重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 泥、砂利の道路などのすべりやすい路面
- 凍結路
- 凹凸が大きな荒れた路面

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ABS (アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時、またはすべりやすい路面やオフロード (砂利・砂地・泥地など) でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

ABS はマルチテレインセレクトと同期して作動します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ S-VSC (ステアリングアシスト・デッドビークルスタビリティコントロール)

ABS・TRAC・VSC・EPS を協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドルの操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ トレーラースウェイコントロール

トレーラーのふらつきが検知されたとき、各タイヤに対してブレーキ圧を選択的に適用して駆動トル

クを低減することで、運転者がトレーラーのふらつきを制御するのに役立ちます。

■ TRAC (トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ AVS (アダプティブバリアブルサスペンションシステム) ★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定性の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。また、ドライブモードセレクトで走行モードを選択することで減衰力を切り替えたり (→P.326)、4WD スイッチを4L にすることでオフロード走行での乗り心地を確保することができます。 (→P.329)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ EPS (エレクトリックパワーステアリング)

モーターを利用して、ハンドルの操作を補助します。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

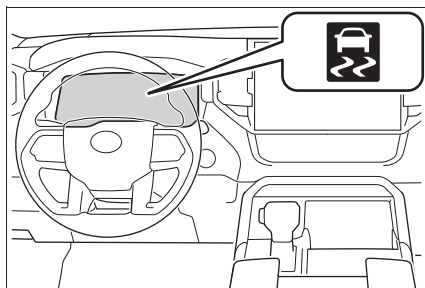
SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御するこ

とで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■ TRAC・VSC・ABS・トレーラースウェイコントロールが作動しているとき

TRAC・VSC・ABS・トレーラースウェイコントロールが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

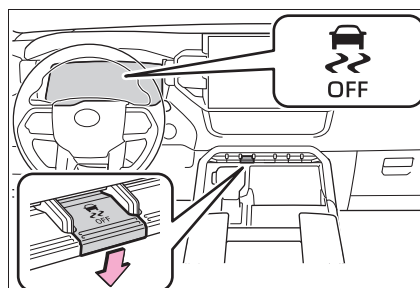


■ TRAC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRAC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRAC を停止するには  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに “Traction Control Turned OFF” と表示されます。もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



■ TRAC・VSC・トレーラースウェイコントロールを停止するには

TRAC・VSC・トレーラースウェイコントロールを停止するには、停車時に

 を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “Traction Control Turned OFF” と表示されます。※

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS も停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.212, 434)

■ を押さなくてもマルチインフォ

メーションディスプレイに TRAC OFF 表示がされたとき

- TRAC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- マルチトレインセレクトが作動している場合、モードによっては VSC OFF スイッチを押していなくても VSC OFF 表示灯が点灯します。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- エンジンスイッチが ON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- エンジンスイッチが OFF

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・トレーラースウェイコントロール・TRAC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後や、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる

■TRAC・VSC・トレーラースウェイコントロールの自動復帰について

TRAC・VSC・トレーラースウェイコントロールを作動停止にしたあと、以下の

ときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- （TRAC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRAC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がる時

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。
ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます

- 車速が約 0 mph (0 km/h) になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき



警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

⚠ 警告

- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロブレーキング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があります

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を抑えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRAC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRAC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRAC、ABS、VSC、トレーラースウェイコントロールが作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRAC や VSC、トレーラースウェイコントロールを OFF にするときは

TRAC や VSC、トレーラースウェイコントロールは駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRAC や VSC、トレーラースウェイコントロールを作動停止状態にしないでください。TRAC や VSC、トレーラースウェイコントロールを作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

トレーラースウェイコントロールは VSC の一部であり、VSC が停止している場合や故障している場合は作動しません。

警告**■ タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）・ロードインデックス（荷重指数）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRAC・VSC・トレーラースウェイコントロールなど、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ トレーラースウェイコントロールに関する注意

トレーラースウェイコントロールシステムは、すべての状況においてトレーラーのふらつきの低減を可能にするものではありません。車両やトレーラーの状態、路面の状態、走行環境といった様々な要因から本システムの効果が得られない可能性があります。トレーラーを適切にけん引する方法については、トレーラーに関する取扱説明書を参照してください。

■ トレーラーがふらつくときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ハンドルをまっすぐ、しっかりと握ってください。ハンドルを操作してトレーラーのふらつきを抑えようとししないでください。

● アクセルペダルから急に足を離さず、徐々に離して速度を落としてください。速度を上げないでください。ブレーキを掛けしないでください。

急ハンドルや急ブレーキをかけなければ車両とトレーラーのふらつきが安定します。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。

システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アクティブフロンツポイラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アクティブフロンツポイラーは、走行中に自動的に作動します。高速走行時の空力性能を向上させ、より安定した乗り心地に貢献します。

知識

■ 作動条件

- アクティブフロンツポイラーは、次の条件を満たすと自動的に作動します。

条件	速度 mph (km/h)
展開する	37 (60) 以上
格納する	25 (40) 未満

走行時は、必ず法定速度を守ってください。

- 外気温が 40°F (5℃) 以上の場合、自動的に作動します。
- けん引モードのときは自動的に格納されます。
- 4H モードまたは 4L モード時は自動的に格納されます。★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムに不具合がある場合は、高速走行を避け、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

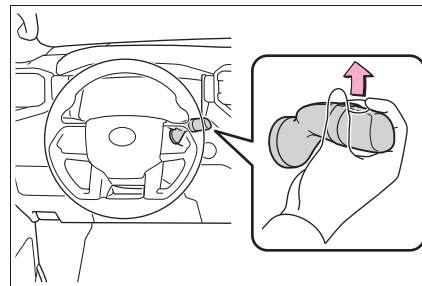
■ システムの損傷を防ぐために

- アクティブフロンツポイラーにアクセサリーやその他の装飾品を取り付けないでください。
- アクティブフロンツポイラーを改造したり、分解したりしないでください。
- アクティブフロンツポイラーに強い衝撃を与えないでください。

アクティブフロンツポイラーを手動で展開する

メンテナンスのためにエンジンアンダーカバーを取り外すには、アクティブフロンツポイラーを展開する必要があります。

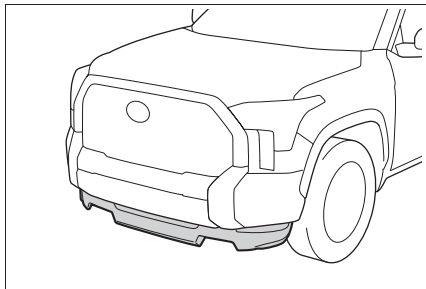
■ アクティブフロンツポイラーをサービスポジションにする



エンジンスイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に、ワイパーレバーを **MIST** ※¹ または **△** ※² の位置に動かし、約 2 秒以上保持してください。アクティブフロンツポイラーがサービスポジションに展開されます。

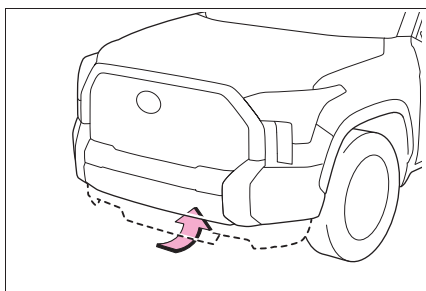
※¹ タイプ A

※2タイプB



■ アクティブフロントスポイラーを格納位置にする

エンジンスイッチをONにし、シフトレバーをRまたはDに入れると、アクティブフロントスポイラーが格納されます。



⚠ 注意

■ アクティブフロントスポイラーの損傷を防ぐために

アクティブフロントスポイラーを手動で展開または格納する前に、周囲に障害物や異物がないことを確認してください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。常に気象条件に適した運転を心がけてください。

冬を迎える前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
 - バッテリーの点検を受けてください。
 - 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）※ を使用してください。
- ※ 285/65R18 のタイヤには、タイヤチェーンを装着することはできません。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。

警告

■ 冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する

- 装着する冬用タイヤの種類に関わらず、75 mph（120 km/h）をこえて運転しないでください。
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する
- 4WD：メーカー、モデル、トレッドパターン、トレッド摩耗が異なるタイヤを混在させないでください。
- **タイヤチェーンを装着するとき（285/65R18 のタイヤ装着車を除く）**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 mph（50 km/h）のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■ 冬用タイヤを修理・交換するときは

冬用タイヤを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。冬用タイヤの取り付け・取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かししたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをP※に入れた状態でシフトレバーが動かないことを確認してください。

※ ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

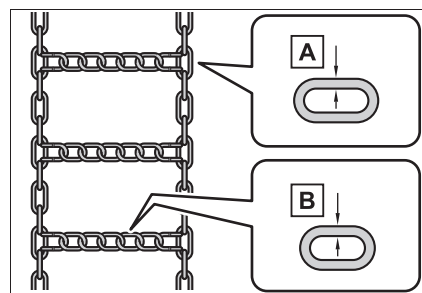
警告**■ 駐車するとき**

パーキングブレーキをかけずに駐車する場合は、必ず輪止めを行ってください。輪止めをしないと、車両が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤチェーンの選び方**▶ 285/65R18 タイヤ非装着車**

タイヤチェーンを装着する際は、正しいサイズのタイヤチェーンを使用してください。

チェーンサイズはタイヤサイズごとに規定されています。



A サイドチェーン（直径 0.2 in. [5 mm]）

B クロスチェーン（直径 0.25 in.
[6.3 mm]）

- ▶ 285/65R18 タイヤ装着車
タイヤと車体の間のスペースが狭いため、タイヤチェーンは装着できません。
スタッドレスタイヤを使用してください。

**タイヤチェーンの使用に関する
規制について（285/65R18 タ
イヤ装着車）**

タイヤチェーンの使用に関する規制は、地域や道路の種類によって異なります。

タイヤチェーンを取り付ける前に、必ず地域の規制をご確認ください。

 知識

■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンの装着および取りはずしの際は、以下の使用方法および注意事項を守ってください。

- タイヤチェーンの装着および取りはずしは、安全な場所で行ってください。
- タイヤチェーンは後輪に装着してください。前輪には装着しないでください。
- 後輪のタイヤチェーンは、できるだけしっかりと締めてください。0.5 ～ 1.0 km 走行したら、チェーンを締め直してください。
- タイヤチェーンの装着は、タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従ってください。

 注意

■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧警告バルブとトランスミッターが正常に機能しない場合があります。

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン 354

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター 361

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 363

5-3. 収納装備

収納装備一覧 366

荷台装備 371

5-4. その他の室内装備の使い方

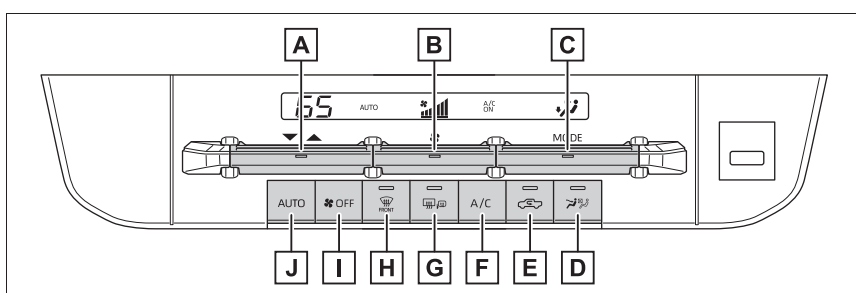
その他の室内装備 376

オートエアコン

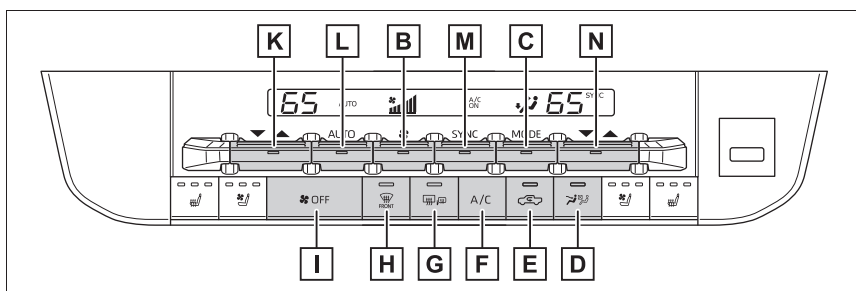
設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて

▶ タイプ A



▶ タイプ B



- A** 温度調整スイッチ
- B** 風量調整スイッチ
- C** 吹き出し口切りかえスイッチ
- D** フロント席集中送風モード（S-FLOW）スイッチ
- E** 内外気切りかえスイッチ
- F** 冷房・除湿スイッチ
- G** リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチ
- H** フロントデフロスタースイッチ

I OFF スイッチ

J AUTO スイッチ（オート設定）

K 運転席側温度調整スイッチ

L AUTO スイッチ

M SYNC（シンクロ）スイッチ（各席連動モード）

N 助手席側温度調整スイッチ

■ 温度を調整する

温度調整スイッチを操作します。
温度を上げるには上に、温度を下げるには下に動かします。

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

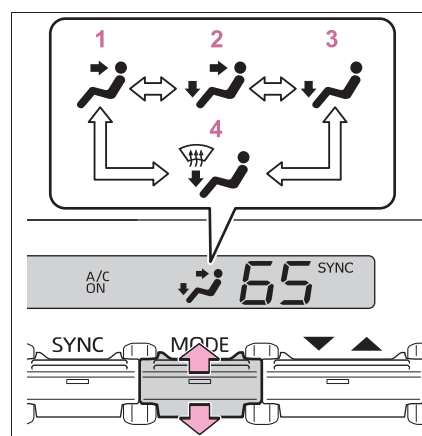
風量調整スイッチを操作します。
上に動かすとファン速度が上がり、下に動かすとファン速度が下がります。

OFF スイッチを押すとファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを操作します。

操作するたびに、次のように切り替わります。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元に送風
- 3 足元に送風
- 4 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

内外気切りかえスイッチを押します。

スイッチを操作するたびに、外気導入モードと内気循環モードが切り替わります。

内気循環モードが選択されると、スイッチのインジケータが点灯します。

■ 冷房・除湿機能を使用する

冷房・除湿スイッチを押します。

機能が ON のときは“A/C ON”インジケーターが点灯します。機能が OFF のときは“A/C OFF”インジケーターが点灯します。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取る

フロントウィンドウガラスとフロントサイドウィンドウの曇り止めに使用します。

フロントデフロスタースイッチを押してください。

内気循環モードを使用する場合は、外気モードスイッチを押してください。(自動的に切り替わる場合があります。)

フロントウィンドウガラスとサイドウィンドウの曇りを素早く除去するには、風量を強くし設定温度を上げてください。

前のモードに戻るには、フロントウィンドウガラスの曇りが取れた状態でフロントデフロスタースイッチをもう一度押します。

フロントデフロスタースイッチが ON のとき、スイッチのインジケーターが点灯します。

■ リヤウィンドウデフォグガー&ミラーヒーター

リヤウィンドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウィンドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウィンドウデフォグガーとミラーヒーターは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

リヤウィンドウデフォグガーとミラーヒータースイッチが ON の場合、リヤ

ウィンドウデフォグガーとミラーヒータースイッチのインジケーターが点灯します。

□ 知識

■ 外気温が 75°F (24℃) をこえ、エアコンが作動している場合

- エアコンの消費電力を抑えるため、エアコンは自動的に内気循環モードに切り替わる場合があります。これにより燃費も向上します。
- エンジンスイッチを ON にすると、内気循環モードが選択されています。

内外気切りかえスイッチを押すことで、いつでも外気モードに切り替えることができます。

■ ガラスの曇りについて

- 車内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口からの空気が除湿され、フロントウィンドウガラスの曇りを効果的に除去できます。
- 冷房・除湿機能を OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環モードを使用すると、ガラスが曇ることがあります。

■ 砂ぼこりなどが立つ道路を走行する場合

すべての窓を閉めてください。窓を閉めたあとも、車両から舞い上がった砂ぼこりなどが車内に吸い込まれる場合は、吸気モードを外気循環モードに設定し、ファン速度を OFF 以外の設定にすることをお勧めします。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ **外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき**
冷房・除湿スイッチを押しても除湿機能が作動しない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭い

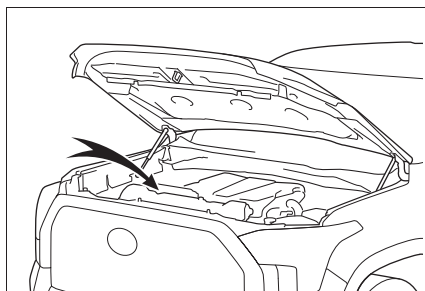
- 車室外の空気を車室内に取り入れたときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく足元からの送風に切りかわったり、送風が停止したりする場合があります。
- 駐車時に自動的に外気導入に切りかわることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■ エアコンフィルター

→P.412

■ エアコンシステムの冷媒

- エアコンシステムの冷媒に関するラベルは、ボンネットの下図に示す位置に貼付されています。



- ラベルに記載されている各記号の意味は次のとおりです。

	注意
	空調システム
	空調システム潤滑油の種類
	エアコンシステムの修理には登録技術者が必要です
	可燃性冷媒

■ カスタマイズ

一部の機能はカスタマイズ可能です。
(カスタマイズ可能な機能：→P.485)

⚠ 警告

■ フロントウィンドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。
外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

**注意****■ エアコンシステムの部品を修理・交換するときは**

修理・交換はトヨタ販売店にご依頼ください。

エバポレーターなどのエアコンシステムの部品を交換する場合は、必ず新品と交換してください。

オート設定で使用する**▶ タイプ A**

- 1 AUTO スイッチを押す
- 2 温度を設定する
- 3 運転を停止するには、OFF スイッチを押す

▶ タイプ B

- 1 AUTO スイッチを押す
- 2 温度を設定する
- 3 運転を停止するには、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

**知識****■ オート設定の作動について**

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

フロント席集中送風モード (S-FLOW)

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。助手席に乗員がいない場合は、運転席のみへの送風に切りかわることがあります。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

作動中は  が点灯します。

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

エアコン操作パネルの  を押して

切りかえます。

- 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯が消灯：全席への送風

**知識****■ 送風の自動制御について**

- 車室内を快適に保つために、エンジン始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。

- エンジン始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■ 送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■ 送風を自動制御にもどすには

- 1 インジケーターが消灯している状態で、エンジンスイッチを OFF にする。
- 2 60 分以上経過後に、エンジンスイッチを ON にする。

各席の設定温度を連動して設定する (SYNC モード) ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

SYNC モードを ON にするには、SYNC スイッチを上または下に操作する

運転席側温度調整スイッチで運転席および助手席の設定温度を調整できます。運転席および助手席の設定温度を別々に設定するには、助手席側温度調整スイッチを操作するか、再度 SYNC スイッチを押してください。

SYNC モードが ON のときは、SYNC スイッチの表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサー

フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

リヤウィンドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチを押す

ウインドシールドデアイサーは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

リヤウィンドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチを ON にすると、ウインドシールドデアイサーも ON になります。

リヤウィンドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチが ON のとき、リヤウィンドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチのインジケーターが点灯します。

⚠ 警告

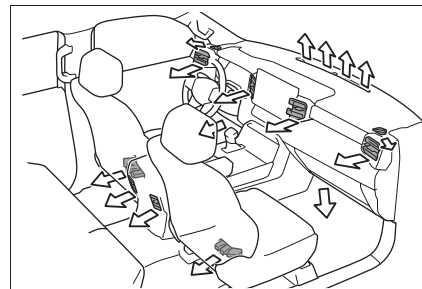
■ ウインドシールドデアイサーが作動しているとき

フロントウィンドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

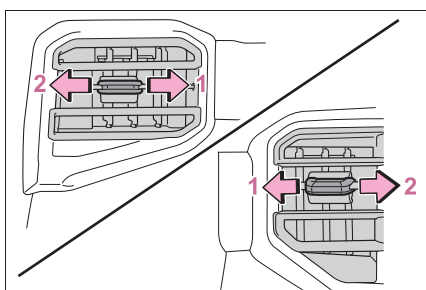
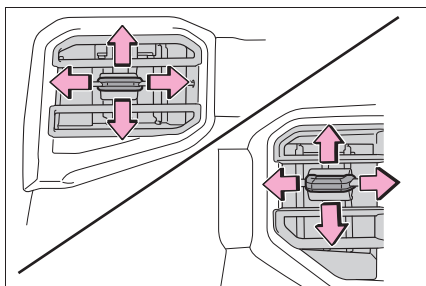
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント

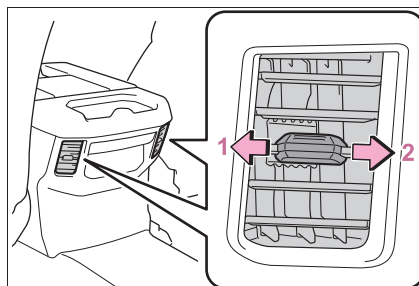
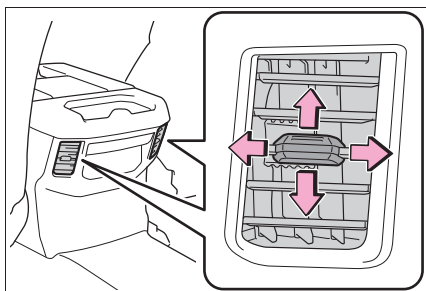
風向きを左または右、上または下に向けます。



- 1 吹き出し口を開ける
2 吹き出し口を閉じる

▶ リヤ

風向きを左または右、上または下に向けます。

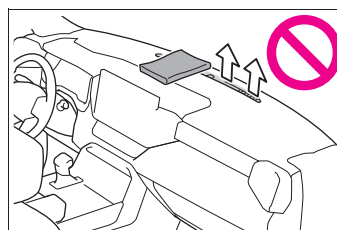


- 1 吹き出し口を開ける
2 吹き出し口を閉じる

警告

■ フロントウィンドウガラスの曇り取りをさまたげないために

インストルメントパネルの上に、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



ステアリングヒーター★／シートヒーター★／シートベンチレーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● フロントシートヒーター／リヤシートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

● フロントシートベンチレーター／リヤシートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくすることができます。

⚠ 警告

■ 低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

■ シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

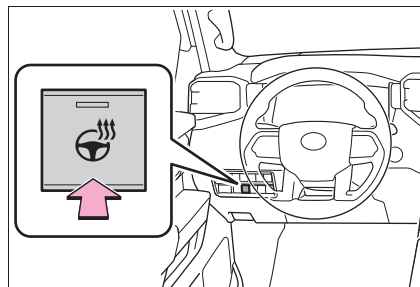
■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で使用しないでください。

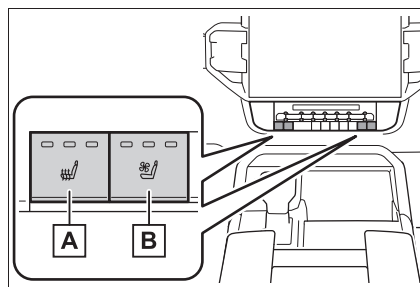
操作スイッチについて

■ ステアリングヒーター

ステアリングヒーターの ON / OFF を切りかえる
ステアリングヒーターが ON のときは、ステアリングヒータースイッチのインジケーターが点灯します。



■ フロントシートヒーター／シートベンチレーター



■ A シートヒーターの ON/OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

Hi (3 個点灯) → Mid (2 個点灯) → Lo (1 個点灯) → OFF

作動中はレベルインジケーター (赤) が点灯します。

■ B ファンの ON/OFF を切りかえる

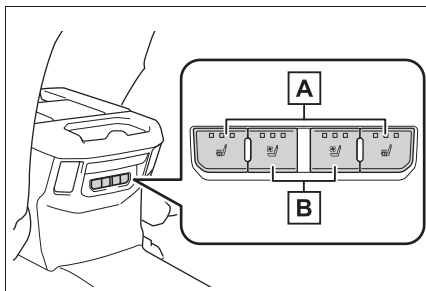
スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

Hi (3 個点灯) → Mid (2 個点灯) → Lo (1 個点灯) → OFF

作動中はレベルインジケーター (青) が点灯します。

■ リヤシートヒーター★ / シートベンチレーター★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ A シートヒーターの ON/OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

Hi (3 個点灯) → Mid (2 個点灯) → Lo (1 個点灯) → OFF

作動中はレベルインジケーター (赤) が点灯します。

■ B ファンの ON/OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

Hi (3 個点灯) → Mid (2 個点灯) → Lo (1 個点灯) → OFF

作動中はレベルインジケーター (青) が点灯します。

■ 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

▲ 警告

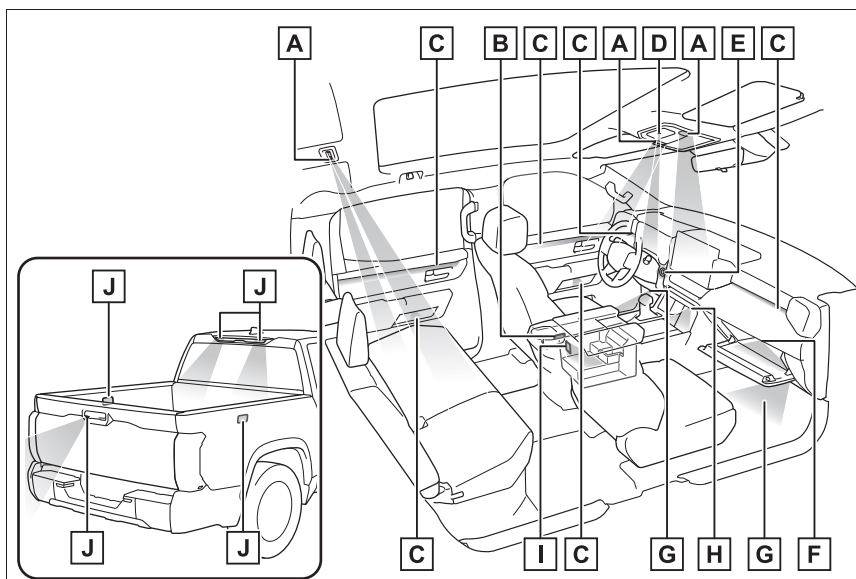
■ 異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 毛布・クッションなどを使用しない
- 長時間連続使用しない

室内灯一覧

室内灯の位置



A インテリアランプ・パーソナルランプ (→P.364)

B ドアカーテシランプ★

C 雰囲気照明★ (→P.364)

D シフトレバー照明★

E エンジンスイッチ照明

F グローブボックス照明★

G 足元照明★

H フロントトレイ照明

I センターコンソール内照明★

J ワークランプ

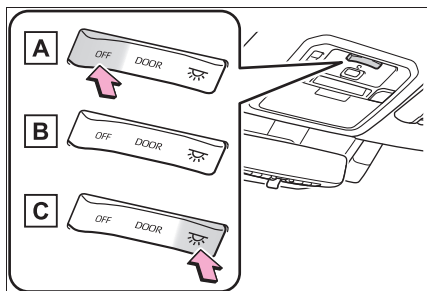
・ カーゴランプ (→P.365)

・ ベッドランプ★ (→P.365)

・ トレーラーヒッチランプ★ (→P.365)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内灯 (メインスイッチ)



A OFF

ランプを消灯する

B DOOR

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

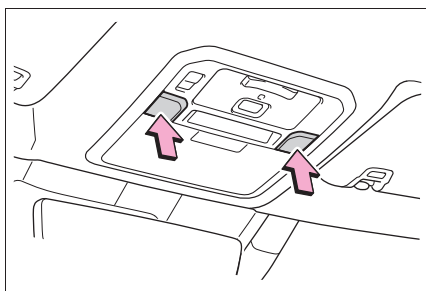
C 点灯

ランプを個別に消灯することはできません

インテリアランプ・パーソナルランプを操作するには

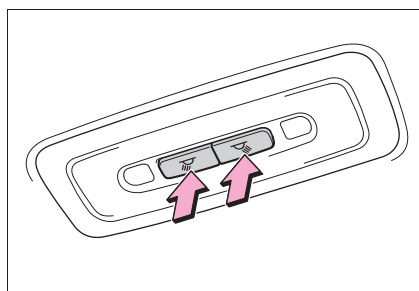
▶ フロント

ランプを点灯・消灯する



▶ リヤ

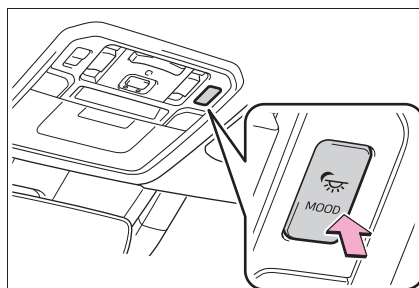
ランプを点灯・消灯する



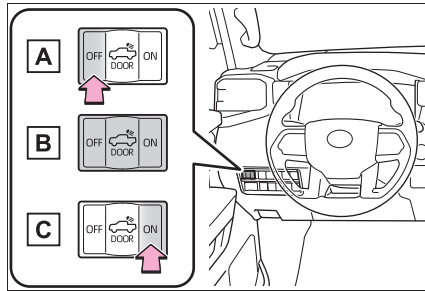
雰囲気照明★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

MOOD を押すたびに、照明の明るさが変わります。



ワークランプ（メインスイッチ）

**A** OFF

ランプを消灯する

B DOOR

カーゴランプおよびベッドランプは、シフトレバーが P・D・R ポジションにあるときに、ドアまたはテールゲートを開閉すると点灯・消灯します。

トレーラーヒッチランプは、シフトレバーが P または R ポジションにあるときに、ドアまたはテールゲートを開閉すると点灯します。トレーラーヒッチランプは、シフトレバーが D ポジションになると消灯します。

C ON

シフトレバーが P または R ポジションにあるときは、カーゴランプ・ベッドランプ・トレーラーヒッチランプが点灯します。シフトレバーが D ポジションにあるときは、カーゴランプとベッドランプのみが点灯します。



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

ドアが完全に閉まっておらず、メインスイッチが DOOR の位置にある場合、次のランプが点灯したままになると、20 分後に自動で消灯します。

- インテリアランプ・パーソナルランプ
- カーゴランプ
- ベッドランプ
- トレーラーヒッチランプ

■SRS エアバッグが作動すると

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、2 次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。

（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.475）

 注意

■バッテリーあがりを防止するために

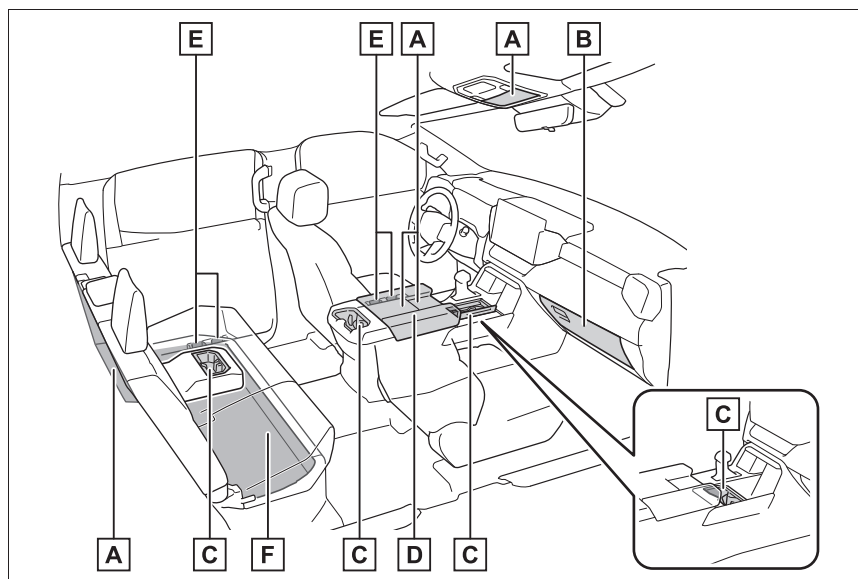
エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

■ランプのレンズの取りはずしについて

インテリアランプとフロントパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

収納装備一覧

収納装備の位置



- A** 小物入れ
- B** グローブボックス
- C** カップホルダー
- D** コンソールボックス
- E** ボトルホルダー
- F** リヤシート小物入れ

⚠ 警告

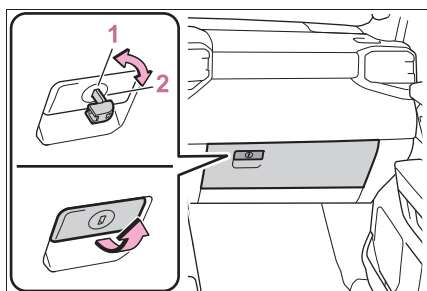
■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままにしていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックスを使うには

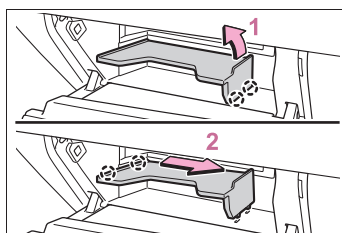
レバーを引き上げて開ける



- 1 メカニカルキーで解錠
- 2 メカニカルキーで施錠

知識**■ グローブボックストレイ**

グローブボックス内のトレイは取りはずすことができます。



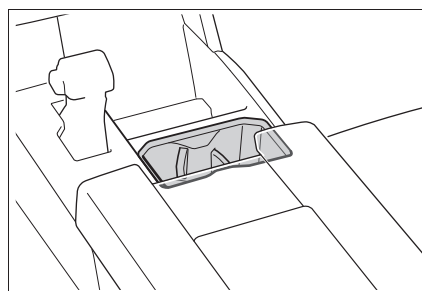
- 1 トレイを持ち上げてツメを取りはずす
- 2 トレイをスライドしてツメを取りはずす

警告**■ グローブボックスを使用しないとき**

グローブボックスを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

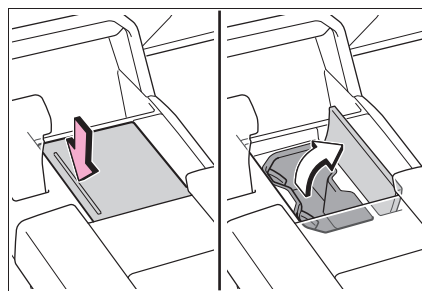
カップホルダーを使うには

▶ フロント（タイプ A）

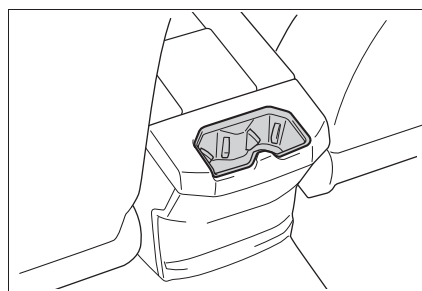


▶ フロント（タイプ B）

押し開ける

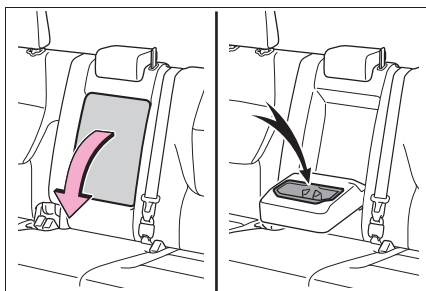


▶ リヤ（タイプ A）



▶ リヤ (タイプ B)

アームレストを手前に倒す

**警告**

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。

急ブレーキや事故により収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。

やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

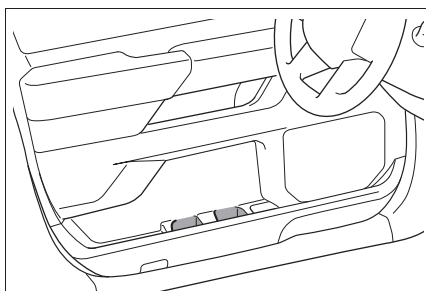
■ 使用しないとき

フタを必ず閉じてください。

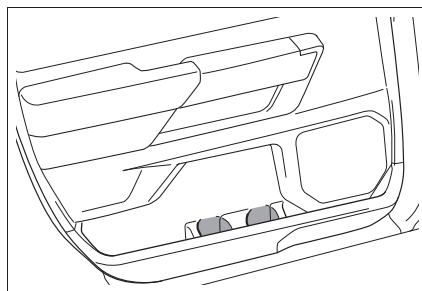
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

ボトルホルダーを使うには

▶ フロント



▶ リヤ★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーにはペットボトル以外のものを置かないでください。

急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。

注意

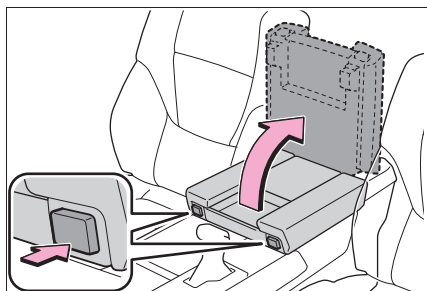
■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。

ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

コンソールボックスを使うには

左右どちらかのボタンを押してフタを開ける

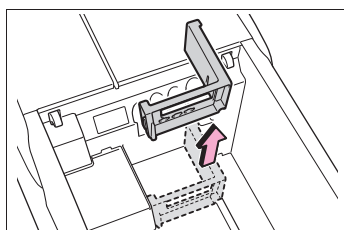


■ コンソールボックス

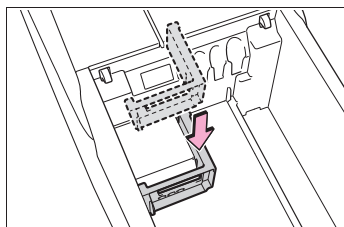
補助ボックスを移動させると、コンソールボックスを開けることができます。

■ コンソールボックス内の仕切りについて

コンソールボックスの仕切りは取りはずすことができます。



取りはずした仕切りは図の位置に収納することができます。



⚠ 警告

■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。

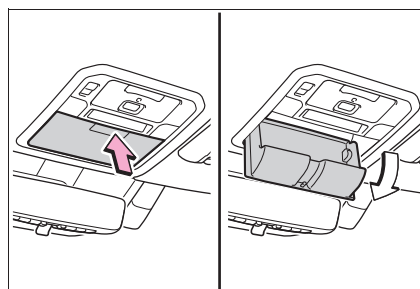
急ブレーキ時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

小物入れを使うには

▶ タイプ A

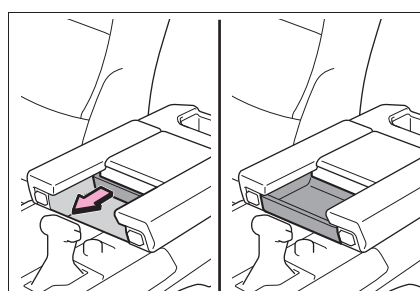
押して開ける

ボックスは、小物を保管することができます。



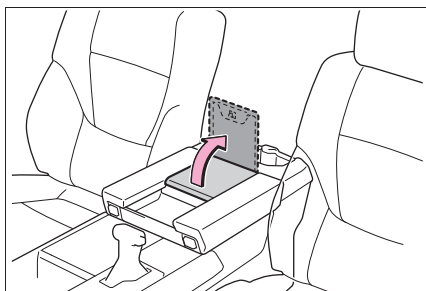
▶ タイプ B

引いて開ける



▶ タイプ C ★

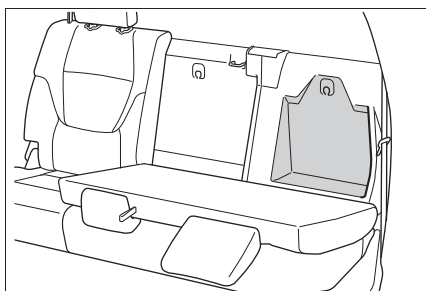
フタを引いて開ける。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ タイプ D ★

後部座席の背もたれを倒す。
(→P.126)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

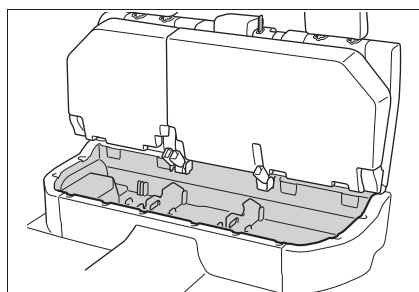
■ 小物入れを使用しないとき

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 収納してはいけないもの (タイプ A)

オーバーヘッドコンソールに 0.4lb.
(0.2kg) 以上のものを入れないでください。
オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

リヤシート小物入れを使うには



■ リヤシート小物入れを開ける

シートクッションを上げる。
(→P.127)

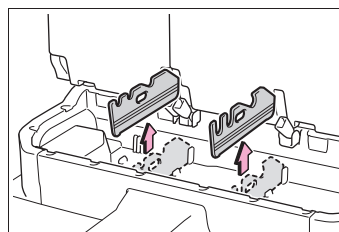
■ リヤシート小物入れを閉める

シートクッションを戻す。
(→P.128)

 知識

■ リヤシート小物入れについて

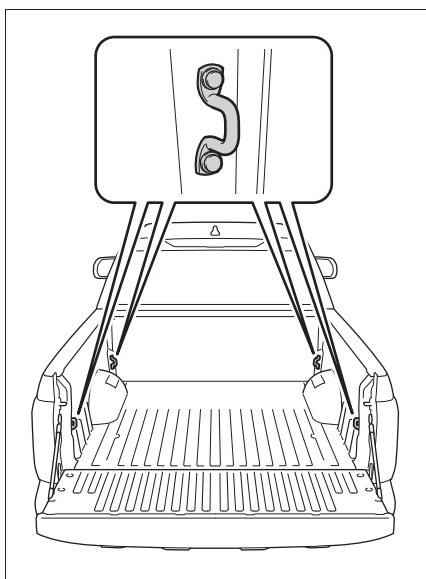
仕切りは取りはずしたり、位置を変更したりできます。



荷台装備

荷物固定用フック

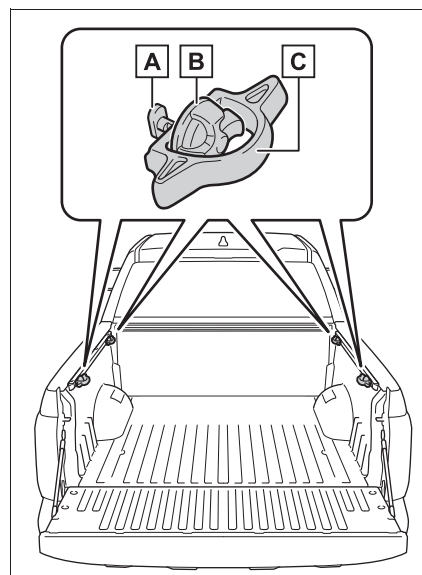
ネットやロープを使って荷物を固定することができます。



荷台

■ 固定用留め具

固定用留め具をお好みの位置に調整して荷物などを固定することができます。



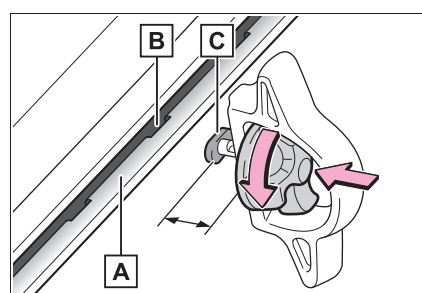
A ロックプレート

B ダイアル

C 固定用留め具

● 固定用留め具の取り付け

- 1 ダイアルを反時計回りにゆるめ、ロックプレートが 0.5 in. (12.7 mm) の隙間ができるように押し下げます。

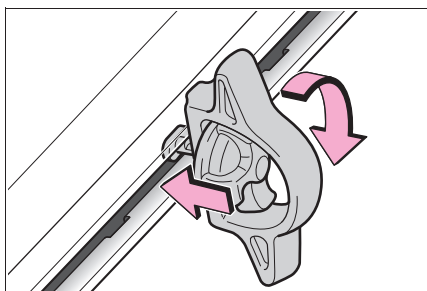


A デッキレール

B 溝

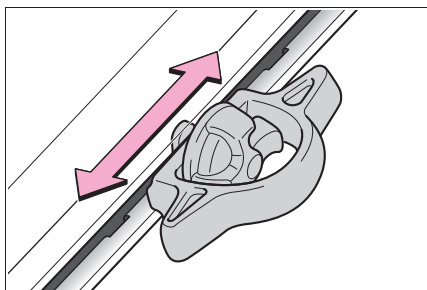
C ロックプレート

- 2 ロックプレートをデッキレールに挿入し、固定用留め具を90°回転させてダイヤルを離します。

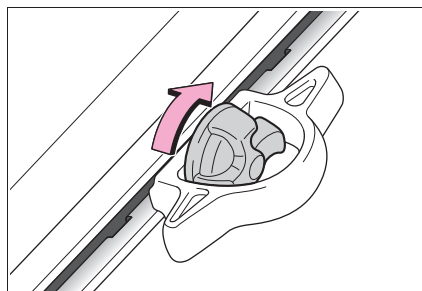


- 3 固定用留め具をデッキレールの溝にはまる位置までスライドさせます。

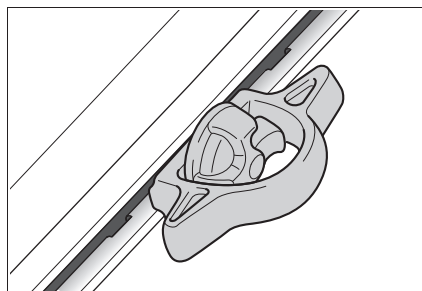
トノカバーを使用する場合、固定用留め具の位置が適切になっており、固定の妨げになっていないことを確認してください。



- 4 ダイヤルを“カチッ”と音がするまで時計回りにまわします。



- 5 固定用留め具をデッキレールの溝にはまり、しっかりと固定されていることを確認してください。



警告

■ 固定用留め具に関する注意事項

- 固定用留め具をデッキレール正しく取り付けれていることを確認してください。

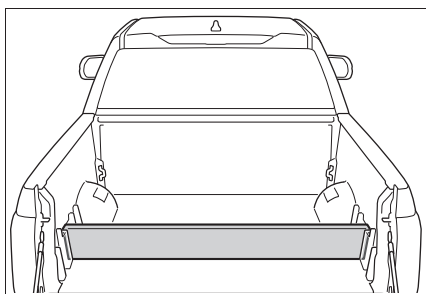
正しく取り付けしていないと、荷物などがしっかり固定され無い可能性があり、急ブレーキ時などに荷物が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

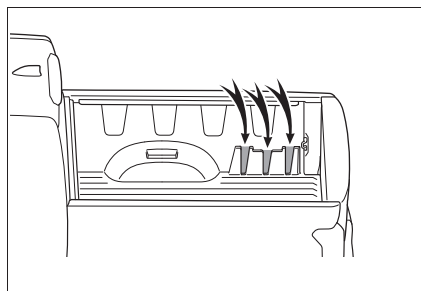
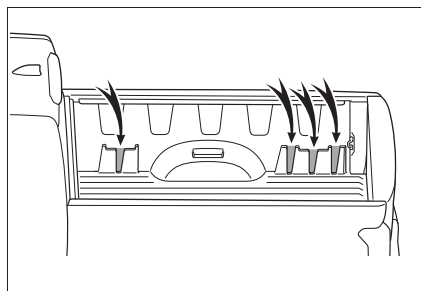
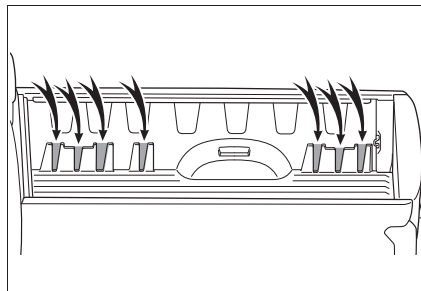
- 固定用留め具に45度をこえる角度や220 lbs (100 kg) をこえる荷重をかけたりすると、固定部品や荷物が損傷する可能性があります。これにより、急ブレーキ時などに荷物が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷物がしっかり固定されていることを確認してください。
荷物などがしっかり固定されていないと急ブレーキ時などに荷物が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- トノカバーを使用する場合、固定用留め具の位置が適切になっており、固定の妨げになっていないことを確認してください。
トノカバーがしっかり固定されていないと走行中にはずれて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

荷台用仕切り板**■ 垂直での取り付け**

荷台の溝を使用して板などで仕切ることができます。

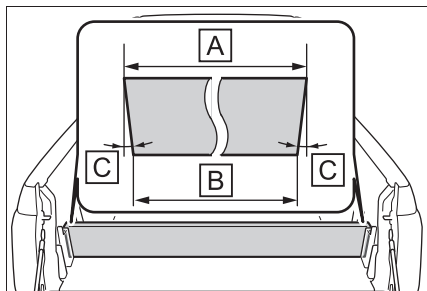


設置位置：

▶ タイプ A**▶ タイプ B****▶ タイプ C**

準備する板の寸法：

次の寸法で 2 x 8 の板を取り付け
できます。



A 62.2 in (1580 mm)

B 60.7 in (1541 mm)

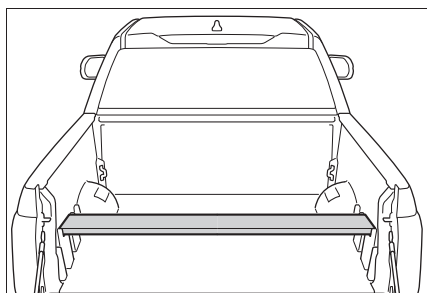
C 6 度

車両に個体差があるため、**A**と**B**の寸法
を測定し、正確な長さを確認してくださ
い。

■ 水平での取り付け

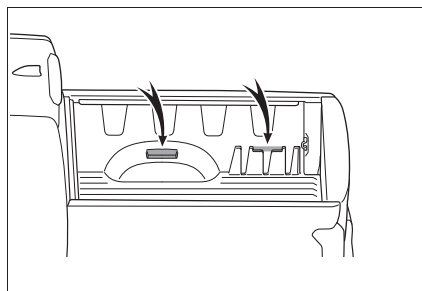
荷台の溝に 2 x 8 の板などで置く
ことができます。

設置する位置に合わせて、実車で
長さを測り板を準備します。

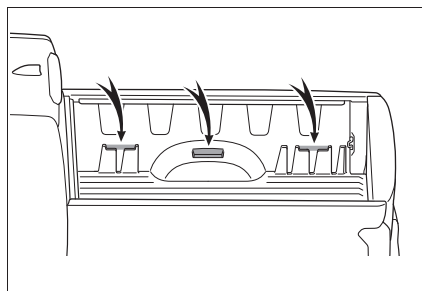


設置位置：

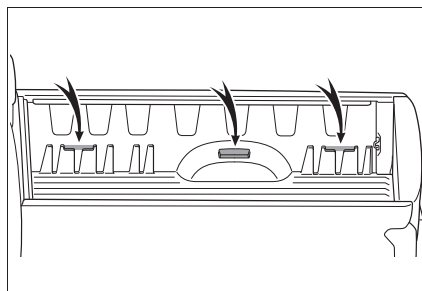
▶ タイプ A



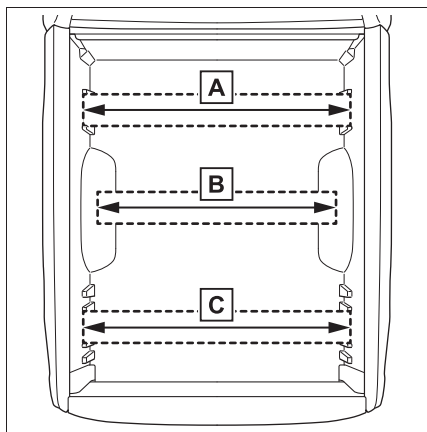
▶ タイプ B



▶ タイプ C



寸法：



A 幅 61.9 in (1573 mm)

B 幅 55.5 in (1409 mm)

C 幅 61.9 in (1573 mm)

車両に個体差があるため、**A**、**B**、**C**の寸法を測定し、正確な長さを確認してください。

⚠ 警告

■ 荷台仕切り版について

- オフロード走行や荒れた地形を走行する際は、荷台仕切り版を使用しないでください。仕切り板が荷台から飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 仕切り板が適切な寸法になっていることを確認してください。適切な寸法に加工されていないと仕切り板が荷台から飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 荷台用仕切り板を使用するとき

- 板などを溝に取り付けただけでは荷物をしっかり保持できない場合があります。適切な方法で荷物を固定してください。
- 荷台の溝は、車両ごと個体差があるため、参考値になり、車両に合わせて板を調整する必要があります。無理やり板などを取り付けようとすると損傷する可能性があります。

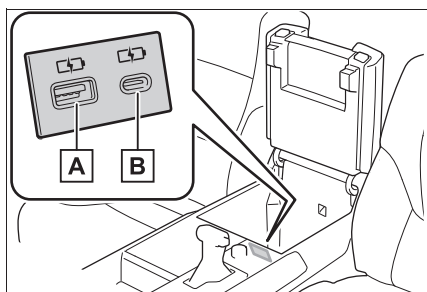
その他の室内装備

充電用 USB 端子を使うには

充電用 USB 端子は、使用する機器に 5V、2.5A (USB Type-A) または 3.0A (USB Type-C) の電源としてお使いください。充電ポートの種類に応じて適切な端子を使用してください。この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB 端子を使用するには

▶ コンソールボックス

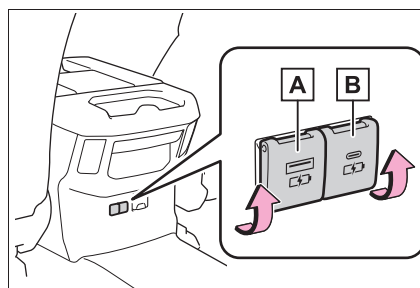


A USB Type-A

B USB Type-C

▶ コンソールボックス背面★

フタを開ける



A USB Type-A

B USB Type-C

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 充電用 USB 端子の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ 充電用 USB 端子が正常に動かないおそれのある状況

- USB Type-A：DC5V/2.5A をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- USB Type-C：DC5V/3.0A をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

**注意**

■ 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- コンソールボックス背面の充電用 USB 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

ワイヤレス充電器を使うには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

適合機器は WPC のホームページ (<https://www.wirelesspowerconsortium.com/>) でご確認ください。

ワイヤレス充電器より大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

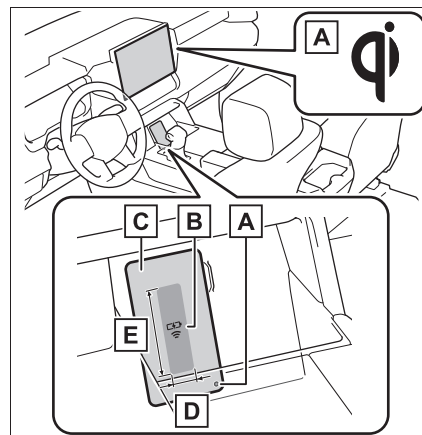
■ 「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) の商標です。

Qi ID : 11277



■ 各部の名称



A 作動表示灯

B 充電エリア ※

C 充電トレイ

D 約 1.0 in. (2.5 cm)

E 約 3.9 in. (10 cm)

※ ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、携帯機器内の充電用コイル位置まで充電エリア内を移動することができます。携帯機器のコイル中心が充電エリア内に入っていれば充電が可能です。また、2 つ以上の携帯機器を同時に充電エリアに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

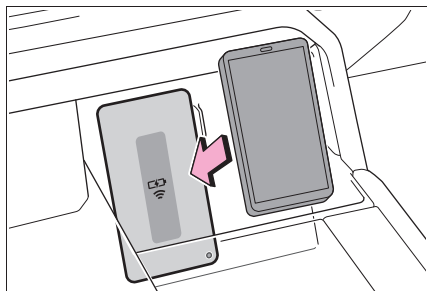
■ 充電する**携帯機器を置く**

携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るように置いてください。

充電中は充電トレイ上の作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、「機能が正常に働かないおそれのある状況」(→P.381)をご確認ください。

充電が完了するとワイヤレス充電器側の作動表示灯が緑色に点灯します。

**■ 再充電機能**

- 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
- 充電エリア内で携帯機器が大きく動くと、充電用コイルがはずれて充電がいったん停止しますが、充電エリア内に充電用コイルの中心がある場合は、ワイヤレス充電器内の充電用コイルがその付近まで移動して充電を再開します。充電エリア外まで携帯機器が動くと、充電が停止します。充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

■ 急速充電機能

- 次の携帯機器に対しては急速充電が行えます。
 - ・ WPC の Ver1.3.2 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器
 - ・ 7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone (iPhone 8 以降の機種)
 - ・ Galaxy 独自の急速充電規格に対応した携帯機器
- 急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯		状況
ワイヤレス充電器側	マルチメディアディスプレイ側	
消灯	非表示	マルチメディア電源が OFF、またはエンジンスイッチが OFF のとき
緑（点灯）	灰	待機中（充電可能状態）※ ¹
		充電完了時 ※ ²
橙（点灯）	青	充電中

※¹ 待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電エリアに置いて、加熱されることはありません。

※² 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

作動表示灯		想定される原因・対処方法
ワイヤレス充電器側	マルチメディアディスプレイ側	
橙（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	灰	車両とワイヤレス充電器の通信不良 → エンジンが始動しているときは、一度エンジンを停止し、再始動してください。 エンジンスイッチのモードが ACC のときは、一度エンジンを始動してください。（→P.169）
緑（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	非表示	ワイヤレス充電器とマルチメディアシステムの通信異常 → エンジンが始動しているときは、一度エンジンを停止し、再始動してください。 エンジンスイッチのモードが ACC のときは、一度エンジンを始動してください。（→P.169）

作動表示灯		想定される原因・対処方法
ワイヤレス充電器側	マルチメディアディスプレイ側	
緑（点灯）	青	AM 放送局を自動選局している → AM 放送局の自動選局が完了するのを待ちください。また、自動選局が完了しないときは、自動選局を停止させてください。
		スマートエントリー&スタートシステムが電子キーの検出を行っている。 → 電子キーの検出が完了するのを待ちください。
緑（点灯）	灰	異物検知： 充電エリア内に金属製の異物があり、異物の異常過熱防止機能が働いた → 充電エリア内にある異物を取り除いてください。
		携帯機器のずれ・充電面からの浮き： 携帯機器の充電用コイルの中心が充電エリアからはずれた、レンズの凸量が多い、又はケースが厚いため、異常過熱防止機能が働いた → 携帯機器を充電トレイから取り出し、5 秒後に充電トレイの中央付近に置き直してください。 また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、はずしてください。
		携帯機器のバッテリー保護機能： 満充電に達する前に、携帯機器のバッテリー保護機能により充電が停止した → 携帯機器の仕様のため、設定を確認してください。
橙（4 回連続の点滅をくり返す）	灰	ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止 → いったん充電を停止し、携帯機器を充電エリアから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。

 知識

■使用条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■使用できる携帯機器について

- ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、Qi Ver1.0 及び 1.3.2 以降に対応した携帯機器に対しては、互換性を保証しているものではありません。
- 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。
- ただし、次の携帯機器に対しては、5W をこえる充電に対応しています。
 - ・ 7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。
 - ・ Galaxy 独自の充電規格に準拠した携帯機器に対しては、急速充電に対応しています。
 - ・ WPC 規格の Ver1.3.2 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、15W 以下の充電に対応しています。

■スマートエントリー&スタートシステムの使用について

充電動作中にスマートエントリー&スタートシステムが電子キーの検出を行うと、一時的に充電を停止します。電子キーが検出されると、充電は自動的に再開します。

■携帯機器にカバーやアクセサリを付けるとき

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリを付けた状態で充電しないでください。カバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリの種類によっては充電できない場合があります。

充電エリアに携帯機器を置いてても充電が行われないときは、カバーやアクセサリをはずしてください。

■充電中の AM ラジオ放送連携機能

- 充電中、AM ラジオにノイズが入る場合、充電の周波数を自動で切りかえてノイズを低減します。
- AM ラジオを自動選局中は、充電によって発生するノイズで誤選局しないよう、一時的に充電を停止します。選局が終了すると、充電は自動的に再開します。

■充電中についての留意事項

- 車室内に電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。
- 充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。また、ワイヤレス充電器内の温度を下げするためファンが作動することがありますが、異常ではありません。

■作動中の音について

エンジンスイッチを押して ACC または ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は“ジー”や“カチッ”と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→P.397

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき

- 有線接続で携帯機器を充電中のとき
 - 充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき
 - 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
 - 炎天下などにより、充電エリア付近の温度が 95 °F (35 °C) 以上になっているとき
 - 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
 - 折りたたみ式等の小型の携帯機器の充電コイルが充電エリアからはずれているとき
 - 携帯機器が充電トレイよりも大きいとき
 - カメラレンズが携帯機器の表面から 0.12 in. (3 mm) 以上突出しているとき
 - 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
 - 電子キーが車内にないとき
 - 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに次のようなものを挟んだり、装着したりしているとき
 - ・ 厚みがあるケースやカバー
 - ・ 充電面が平面状ではなく、段差や傾斜があるケースやカバー
 - ・ 厚みがあるデコレーション
 - ・ 指リングやストラップなどのアクセサリ
 - 携帯機器の充電面にカメラなどの突起があり、携帯機器の充電面と充電エリアとのあいだにすき間ができるとき
 - 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
 - ・ 金属製のデコレーション
 - ・ 金属製のケースやカバー
 - ・ 携帯機器の充電面側に磁石が入った手帳型ケース
 - 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
 - 2つ以上の携帯機器を同時に充電エリアに置いたとき
 - S ペン (Galaxy 端末付属のタッチペン) 内蔵の端末 (Note シリーズ等) をご使用の場合、S ペンを挿入したままトレイに置いたとき
- また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。
- **スマートフォンの OS を更新したとき**
- スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ情報等でご確認ください。
- **商標について**
- ・ iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。なお、iPhone の商標はアイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
 - ・ Galaxy は、Samsung Electronics Co.,Ltd. の商標または登録商標です。
- **認証**
- P.515

⚠ 警告**■ 運転中の注意**

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■ 走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■ 電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■ 故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない

- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない

⚠ 注意**■ 故障やデータ破損を防止するために**

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取り付けられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因になります。

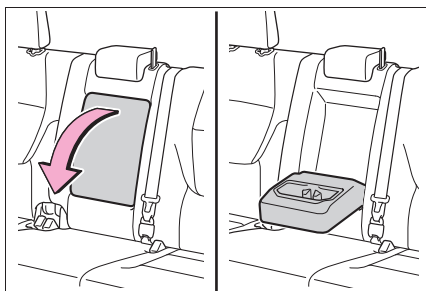
■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

アームレストを使うには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手前に倒して使用する

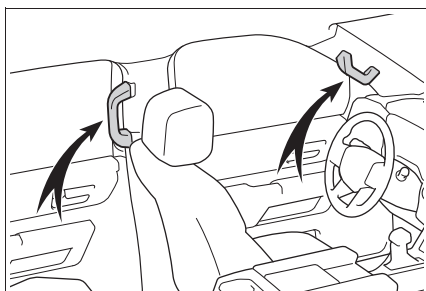


⚠ 注意

■アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップを使うには

センターピラーに取り付けられたアシストグリップは、車両への乗り降り時などにお使いください。

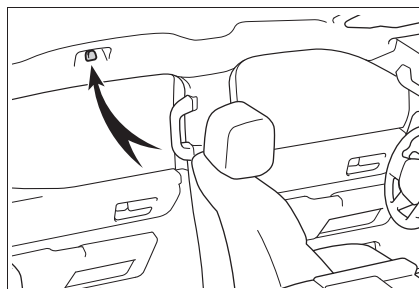


⚠ 注意

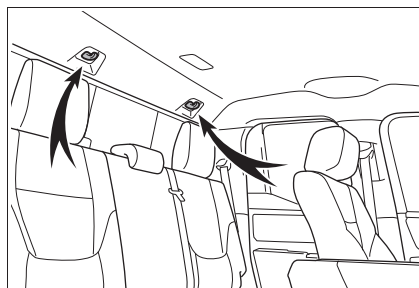
■破損を防ぐために
アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

コートフックを使うには

▶ タイプ A



▶ タイプ B



⚠ 警告

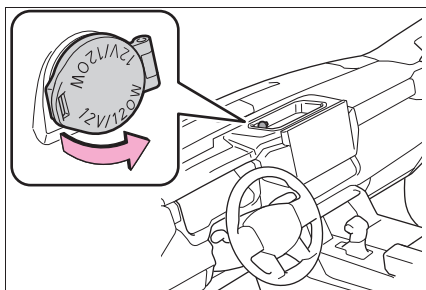
■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アクセサリソケットを使うには (12VDC)

DC12V/10A (消費電力 120W)
未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開ける。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

⚠ 注意

■ アクセサリーソケットの損傷を防ぐために

アクセサリーソケットを使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V/10A（消費電力120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセントを使用するには（120 VAC）★

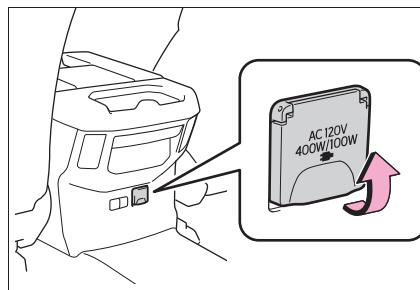
★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

AC120 V に対応した電気製品を使用するときの電源としてお使いください。AC100 V 専用品など、AC120 V に対応していない電気製品を使用しないでください。

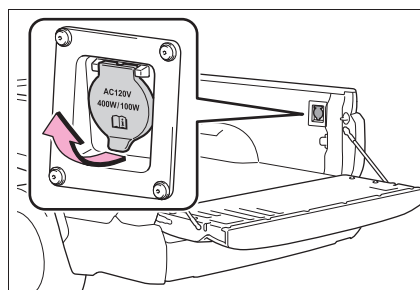
■ 作動条件

▶ コンソールボックス背面
フタを開ける



▶ 荷台

フタを開ける

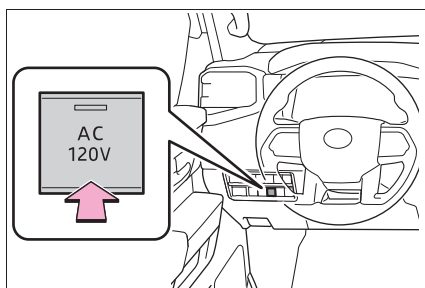


■ コンセントを ON するとき

AC120 V スイッチを押す。

インジケータが点灯しているときは、アクセサリーコンセントを使用できます。

AC120 V スイッチを押すたびにコンセントの ON/OFF が切りかわります。



■ アクセサリーコンセントの最大容量

● 車両走行中

コンセントの最大容量は常に AC120 V / 100 W です

● 車両停止中

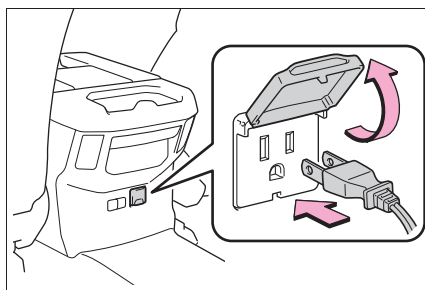
- ・ シフトレバーを P または N 以外の位置にすると、最大容量は AC120 V / 100W に制限されます
- ・ シフトレバーが P または N のとき、最大容量は AC120 V / 400 W です。

上記の状況のとき、コンセントのメインスイッチを OFF にしてから再び ON にすることで、最大容量 400 W を回復できます

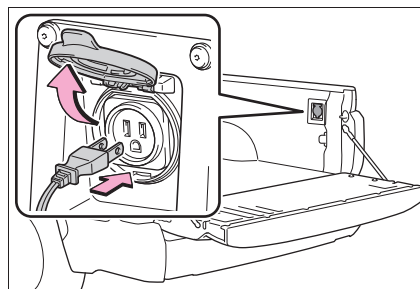
■ 電源プラグを接続するとき

フタを開けて、電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む。

▶ コンソールボックス背面



▶ デッキ



■ コンセントを OFF するとき

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 AC120 V スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める

□ 知識

■ アクセサリーコンセントは以下の場合に使用することができます

エンジンがかかっているとき

■ アクセサリーコンセントに接続する電気製品について

コンセントに接続できる電気製品を使用してください。

コンセントの使用上、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間的に規定の容量をこえる場合があります。この場合は、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなる場合がありますが、故障ではありません。

ただし、以下の注意事項を守ってください。

- コンセントの使用上、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

- 一般的な電気製品の多くは、自動車内での使用が想定されていません。車室内で電気製品を使用すると、次のような問題が発生する場合があります。
 - ・走行中の振動による電気製品の故障
 - ・車室内の温度変化※による電気製品の故障または作動不良
 - ・車室内が平らではないため、設置が不安定になり、正常に作動しない

※天候・季節・使用環境などによっては、車室内が極端な高温または低温になることがあります。

■アクセサリコンセントについて

コンソールボックス背面のコンセントは、車内で電気製品を使用するための装置です。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、AC120 V 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■Stop & Start システムの操作

Stop & Start システムの作動によりエンジンが停止状態から再始動すると、アクセサリコンセントが一時的に使用できなくなる場合がありますが、これは故障ではありません。

AC120 V スイッチを再度押すと、アクセサリコンセントが使用可能になります。

■電源供給機能が使用できない場合について

AC120 V スイッチを押してもインジケーターが点灯しない場合は、保護機能が作動している可能性があります。

この場合、以下の適切な手順を行ってください。

- 電気製品のプラグをコンセントから抜き、コンセントに接続する。すべての機器の合計消費電力を確認した後、再度接続して、AC120 V スイッチを再度押してください。
- 電気製品のプラグをコンセントから抜き、異常がないことを確認した後、再度接続して AC120 V スイッチを再度押してください。
- 炎天下に駐車した後など、車内の温度が高い場合は、日陰に移動し、エアコンで車内を十分に冷やしてから AC120 V スイッチを再度押してください。

上記の手順を行ってもコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 電気製品が故障した場合は、車両を安全な場所に駐車し、AC120 V スイッチをオフにしてください。

- 保護機能が作動して電源が切れた場合は、以下の手順を実行してください。

- 1 安全な場所に車両を停車して、パーキングブレーキをかける
- 2 シフトレバーを P または N の位置にする
- 3 電気製品の消費電力が 400 W 以内であり、機器に故障がないことを確認してください
- 4 AC120 V スイッチを押す

車内が高温になっている場合は、窓を開けて温度を下げ、車内が常温に戻ってからスイッチを再び ON にしてください。

上記の手順を行っても電源が復旧しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。
 - ・ 電気製品を確実に固定できない機器
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
 - ・ 落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーマーカーなど）
 - ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。
- 損傷した電子機器は使用しないでください。電源機能が使用できない場合があります。

● ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

● コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

● お子さまにコンセントをさわらせないでください。

● コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

● 電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■駐車中または停車中に使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● コンセントの使用中は車両から離れないでください。

● 排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。

● ボンネットが閉まっていることを確認してください。エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

警告

- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
 - 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
設置できない場合は使用しないでください。
 - 給排気換気装置が設置されていない車庫内など換気の悪い場所、車両が囲まれる場所（積雪など）では使用しないでください。
 - 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
 - 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。
- 接続する電気製品について
- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
 - 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
 - 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
 - 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
 - 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
 - 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

注意

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

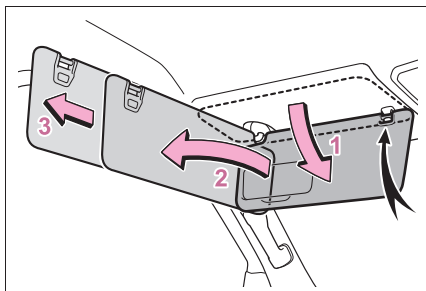
■ ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。
車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- マルチコンセントアダプターは使用しないでください。電源コンセントに過負荷がかかる可能性があります。
- コンセントから異常な熱を感じた場合は、使用しないでください。

■ 外気温が高いときは

炎天下に駐車した後など、車内の温度が高い場合は、車を日陰に移動し、エアコンで車内を十分に冷やしてから、再度 AC120 V スイッチを押してください。

サンバイザーを使うには

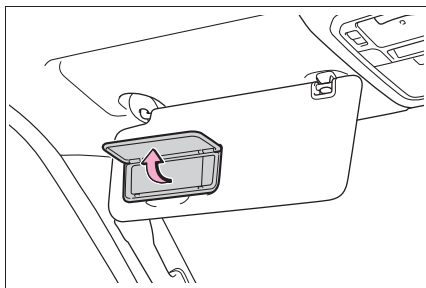


- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす
- 3 サイドエクステンダーを使用するには、バイザーをスライドしてから、後方に動かす

バニティミラーを使うには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カバーを開ける
ランプが点灯します。



■ 自動消灯について

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのとき

は、約 20 分後に自動消灯します。



注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

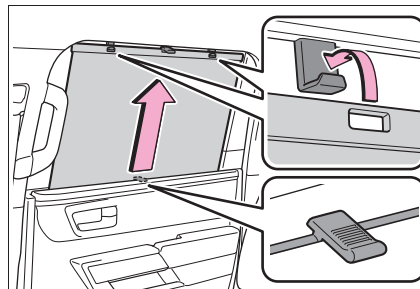
バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

リヤサンシェード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サンシェードのタブを引き上げて、アンカーを使ってシェードを固定してください。

サンシェードを格納するには、サンシェードのフックを外し、ゆっくりと格納してください。



注意

■ 正常に機能させるために

次のことをお守りください。

- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- リヤサンシェードにものを貼らない
- リヤサンシェードをフックに掛けた状態では、過度の負荷をかけないでください
- リヤドアの開閉中は、リヤサンシェードを操作しないでください

 注意

- リヤサンシェードを傾けた状態で保管しないでください。傾けた状態で保管すると、リヤサンシェードのスクリーンにシワが寄る場合があります。

■ リヤサンシェードの損傷を防ぐため

次のことをお守りください

- どちらかのフックが外れた状態でリヤサンシェードを使用しないでください。リヤドアを開閉すると、リヤサンシェードが損傷する可能性があります。
- フックを取り付けた状態でスクリーンを引っ張らないでください。スクリーンが破損するおそれがあります。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 394

内装の手入れ 397

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 400

ウォッシャー液の補充 400

タイヤについて 401

タイヤ空気圧について 410

エアコンフィルターの交換 412

電子キーの電池交換 414

ヒューズの点検・交換 416

電球（バルブ）の交換 419

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

知識

■ 自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納する

車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■ 洗車などで車に水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から 6 ft. (2 m) 以上離れた場所に保管する
(電子キーの盗難に注意してください)
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する (→P.120)

■ ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ ブレーキパッドやディスクローターについて

水にぬれた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ メッキ部分のお手入れについて

メッキ部分の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふ

き取る

- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

⚠ 警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあります。

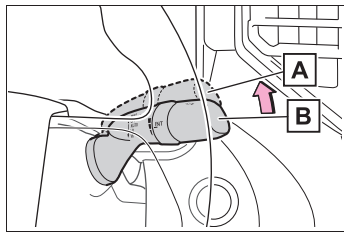
■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスを清掃するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ ブラインドスポットモニター付きリヤバンパーについて（塗装済みリヤバンパー装着車）

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- BSM
- RCTA
- PKSB

⚠ 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・海岸地帯を走行したあと
 - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・コールトール・花粉・樹液などが付着したとき
 - ・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

⚠ 注意

- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品

- ・ サスペンション部品

- ・ ブレーキ部品

- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 11.9 in. (30 cm) 以上離してください。

また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。

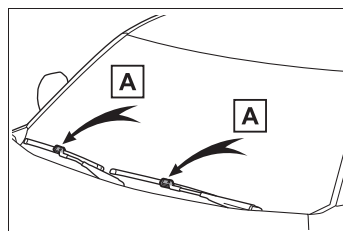
エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

■ ワイパーアームを上げる際は

必ずフック部 **A** を持ってワイパーアームを上げてください。

ワイパーブレードだけを持って上げると、ワイパーブレードが変形するおそれがあります。



A フック部

■ ハイマウントストップランプとカーゴランプの洗浄

高圧洗浄機を使用する場合は、洗浄ノズルの先端を車体から 20 in. (50 cm) 以上離してください。洗浄ノズルが車体に近いと、ランプ本体や車内に水が入る可能性があります。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■ カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■ 車両への水の浸入

SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→P.35)
電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シートとハンドル以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
 - ・ ハンドル：シンナーなどのようなアルコールまたは溶剤を含むクリーナー
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

**注意****■ 革の傷みを避けるために**

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない
- 革の表面に水分を長時間放置すると、損傷の原因となるおそれがあります

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウィンドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.198)

■ リヤウィンドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

**知識****■ サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて**

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% にうすめて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

**知識****■ 本革部分のお手入れの目安**

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

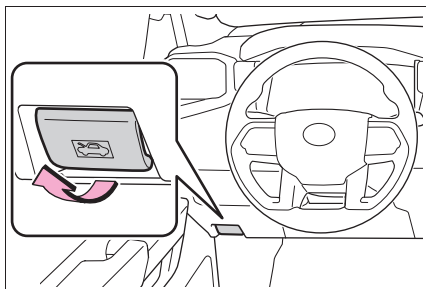
合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

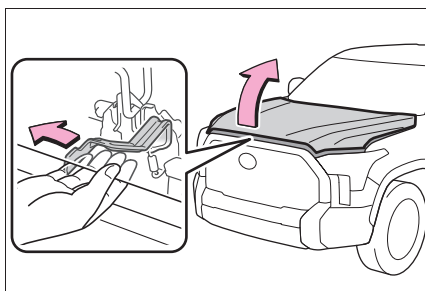
ボンネット

ボンネットを開けるには

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げてボンネットを開ける



警告

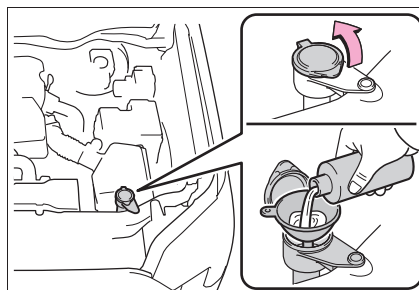
■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ウォッシャー液の補充

補充するには

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに“Windshield Washer Fluid Low”とが表示されたら、ウォッシャー液を補充する



警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

**注意****■ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。
水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

メンテナンススケジュールとタイヤの摩耗状況に応じてタイヤを交換またはローテーション（タイヤ位置交換）してください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無**● タイヤの溝の深さ****● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無****知識****■ タイヤ交換時期**

次の場合、タイヤを交換する必要があります。

- トレッドウェアインジケーターがトレッド面上に出ている
- タイヤに切れ目、裂け目、内部のワイヤーが見えるほどの深い亀裂、内部損傷を示す膨らみなどの損傷がある
- タイヤが繰り返しパンクする、または切れ目やその他の損傷の大きさや位置により適切に修理できない

不明な点がある場合は、トヨタ販売店に

ご相談ください。

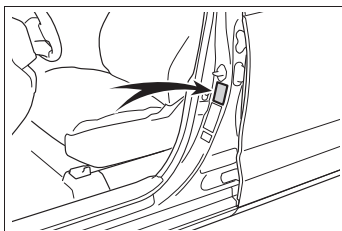
■ タイヤの寿命

6 年以上経過したタイヤは、使用頻度が低い、あるいは全く使用されていない、損傷が明らかでない場合でも、必ず資格を持つ整備士による点検を受けなければなりません。

■ タイヤの最大荷重

交換するタイヤの最大荷重を 1.10 で割った数値が、前軸または後軸のいずれか大きい方の総軸重量定格 (GAWR) の $1/2$ 以上であることを確認してください。

GAWR については、認証ラベルを参照してください。タイヤの最大荷重については、タイヤのサイドウォールに記載されている、冷間時のタイヤ最大空気圧時の荷重制限を参照してください。



■ タイヤの種類

● サマータイヤ

サマータイヤは、乾燥した路面での高速走行に最適な高性能タイヤです。サマータイヤは冬用タイヤほどのトラクション性能を持たないため、雪道や凍結路面での走行には不向きです。雪道や凍結路面での走行には、冬用タイヤの使用をお勧めします。冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 本すべてを交換してください。

● オールシーズンタイヤ

オールシーズンタイヤは、雪上でのトラクション性能を向上させ、ほとんどの冬季条件下での走行に適していると同時に、通年使用を目的として設計されています。

ただし、大雪や新雪の中では、冬用タイヤと比較して十分なトラクション性能を発揮しません。また、高速道路走行においては、サマータイヤと比較して加速性能やハンドリング性能が劣ります。

● 冬用タイヤ

雪道や凍結路面を走行する場合は、冬用タイヤの装着をお勧めします。冬用タイヤを装着する場合は、装着されているタイヤと同じサイズ、構造、耐荷重のタイヤをお選びください。お車はラジアルタイヤが標準装備されているため、冬用タイヤもラジアルタイヤであることを必ずご確認ください。冬用タイヤを装着する場合は、必ず地域の規制をご確認ください。すべての車輪に冬用タイヤを装着してください。(→P.349)

■ 冬用タイヤの溝の深さが 0.16 in. (4mm) 以下に摩耗したとき

冬用タイヤとしての性能が失われます。

⚠ 警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

警告

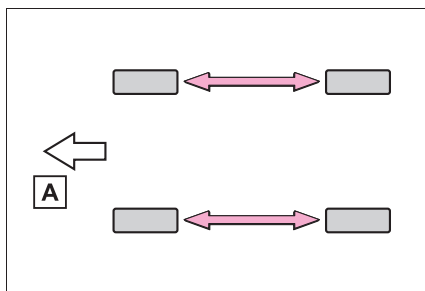
- 他の車両で使用されていたタイヤは使用しないでください。
以前どのように使用されていたかわからないタイヤは使用しないでください。
- タイヤ空気圧ラベルまたは取扱説明書に記載されているものとは異なる荷重等級または速度記号のタイヤを使用しないでください。

注意**■ 悪路走行に対する注意**

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

**A 前側**

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。
タイヤローテーション後は、タイヤ空気

圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

タイヤ空気圧警告バルブと送信機を用いて、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

タイヤ空気圧警告システムは 2 種類の警告システムを採用しています。

- “Adjust Pressure” と表示されたとき（通常の警告）

自然な空気漏れや外気温などによりタイヤの空気圧が低下すると、タイヤ空気圧警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

（対処法：→P.440, 473）

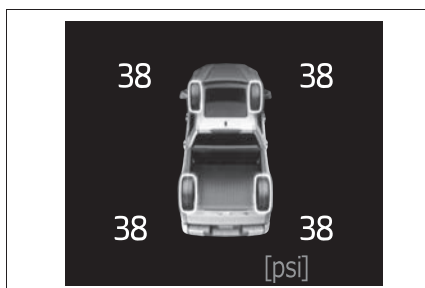
- “Immediately Check tire when Safe” と表示されたとき（緊急の警告）

タイヤのパンクなどによりタイヤの空気圧が急激に低下すると、タイヤ空気圧警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

（対処法：→P.446）

ただし、タイヤの突然の破裂（バーストなど）は検知できない場合があります。

タイヤ空気圧警報システムによって検出されたタイヤ空気圧は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。単位は変更できます。



■ 単位の変更方法

- 1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを停止する

車両が走行している間には変更は行えません。

- 2 エンジンスイッチを ON にする
- 3 メーター操作スイッチの < または > を押して、 を選択する
- 4  または  を押して
“Vehicle Settings” を選択し、**OK** を押し続ける
- 5  または  を押して
“TPWS” を選択し、**OK** を押す
- 6  または  を押して “Set Unit” を選択し、**OK** を押す
- 7  または  を押してご希望項目を選択し、**OK** を押す



知識

■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検

の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

■ タイヤ空気圧表示について

- エンジンスイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで数分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで数分かかります。
- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
 - ・ 純正ホイール以外を使用したとき
 - ・ 純正（OE）装着タイヤ以外に交換したとき
 - ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
 - ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
 - ・ 補助装置付きランフラットタイヤを装着しているとき
 - ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
 - ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
 - ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき
- 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
 - ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・

空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

- ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

- 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。
- タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■タイヤ空気圧警報システムの警報精度について

タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、システムを初期化したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、初期化したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。

■認証情報

→P.517

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、新しいIDコードを登録し、タイヤ空気圧警告システムを初期化する必要があります。（→P.407）

知識

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機のIDコードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約20分間走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅、その後点灯します。

⚠ 注意

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエアリークの原因となります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

タイヤ空気圧警告システムの初期化

■次の状況では、タイヤ空気圧警告システムを初期化する必要があります：

- タイヤローテーションをしたとき
- タイヤ交換をしたとき
- IDコードを登録したあと（→P.407）

● 登録済みの2つのタイヤセットを切り替えたとき

タイヤ空気圧警告システムが初期化されると、現在のタイヤ空気圧が基準の空気圧として設定されます。

■ タイヤ空気圧警告システムの初期化方法

1 車を安全な場所に駐車し、20分以上エンジンを停止する

車両が動いているときは、タイヤ位置の初期化操作はできません。

2 タイヤ空気圧を指定された冷間時のタイヤ空気圧レベルに調整する

タイヤ空気圧は、必ず指定冷間時の空気圧に調整してください。タイヤ空気圧警告システムは、この空気圧に基づいて作動します。

3 エンジンを始動する

4 メーター操作スイッチの < または > を押して、 を選択する

5 または を押して “Vehicle Settings” を選択し、OK を押し続ける

6 または を押して “TPWS” を選択し、OK を押す

7 または を押して “Set Pressure” を選択し、OK を押し続ける

マルチインフォメーションディスプレイに “Set Pressure Accepted” と表示され、タイヤ空気圧警告灯が3回点滅します。メッセージが消え、初期化が完了します。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

また、タイヤ空気圧警報システムが位置判定をしている間、マルチインフォメーションディスプレイの各タイヤの空気圧には “--” が表示されます。

8 約 25 mph (40 km/h) 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ~ 30 分走行する

初期化が完了すると、各タイヤの空気圧がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

約 25 mph (40 km/h) 以上で走行していなくても、長時間走行することで初期化が完了する場合があります。

ただし、1 時間以上走行しても初期化が完了しない場合は、安全な場所に約 20 分間停車してから、再度走行してください。

 知識

■ 初期化するときは

● 車速が約 25 mph (40 km/h) 以上のときに行われます。

● 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

● タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に右左折もしながら、直進走行することで初期化されますが、走行条件や

走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ 初期化操作について

- 初期化中にエンジンスイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化操作をやり直す必要はありません。
- 初期化の必要がない状態で誤って初期化操作をしてしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。
- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■ タイヤ空気圧警報システムが適切に初期化されていないとき

- 次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。通常、初期化は約 30 分以内に完了します。
 - ・ 約 25 mph (40 km/h) 以上で走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した
 - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
 - ・ 渋滞時や他の車両が近くを走行している状況では、システムが自車のタイヤ空気圧警告バルブおよび送信機を他の車両のものと区別するのに時間がかかる場合があります。
- 1 時間以上走行しても初期化が完了できない場合は、安全な場所に約 20 分以上停車したあと、再度走行し直してください。
- タイヤ位置登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、初期化手順を再度行ってください。
- 次の場合では、初期化が開始されない、または正常に完了しないため、システムが正常に動作しません。

初期化手順を再度実行してください。

- ・ 初期化操作時に警告灯が 3 回点滅しないとき
- ・ 初期化後、約 20 分間走行したときに、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後、点灯し続けるとき

上記の方法でも初期化できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するに

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、新しいバルブ／送信機を装着したときは、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

ID コードを登録するときは、次の手順を行ってください。

- 1 車両を安全な場所に駐車し、約 20 分間待ってからエンジンを始動する
- 2 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して、**⚙** を選択する
- 3 **⬆** または **⬇** を押して
“Vehicle Settings” を選択し、**OK** を押し続ける

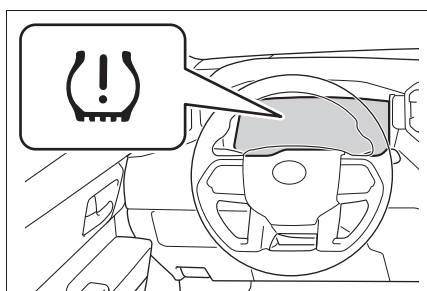
4 へまたは▼を押して

“TPWS” を選択し、**OK**を押す

5 へまたは▼を押して

“Change Wheel” を選択し、
タイヤ空気圧警告灯がゆっくり
3 回点滅するまで**OK**を押し続ける

タイヤ交換モードになり、登録が始まります。その後、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。登録中は、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯し、マルチインフォメーションディスプレイのタイヤの空気圧表示が “--” になります。

**6** 約 25 mph (40 km/h) 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにタイヤの空気圧が表示されます。

約 25 mph (40 km/h) 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

7 タイヤ空気圧警報システムを初期化する。(→P.405)

知識

■ID コードの登録をするとき

- 車速が約 25 mph (40 km/h) 以上のときに行われます。
- 登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。
- ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。
- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。
- 登録が完了したあとは、走行によりタイヤが熱くなっているためタイヤが十分に冷えたあとで初期化操作を行ってください。

■ID コード登録の中止について

- ID コード登録を中止するには、マルチインフォメーションディスプレイで “Change Wheel” を再度選択してください。
- ID コードの登録を中止した場合、次回エンジンスイッチを ON にしたとき、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。
- しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがある

ります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。

■ ID コードの登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
 - 通常、登録は約 30 分以内に完了します。
 - 約 30 分走行しても ID コードの登録が完了しない場合は、しばらく運転を続けてください。
 - ・ 走行前に約 20 分以上駐車していない
 - ・ 約 25 mph (40 km/h) 以上で走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した
 - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
 - ・ タイヤ空気圧バルブ/送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある
- 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- 登録中に車両を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、登録手順を最初から再度行ってください。
 - 次の状況では、ID コード登録が開始されない、または正常に完了せず、システムが正常に動作しません。
 - ID コード登録手順を再度行ってください。
 - ・ ID コード登録を開始しようとしたとき、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅しない
 - ・ ID コード登録後、約 20 分間走行したときにタイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと、点灯し続ける
 - 上記の方法でも ID コードを登録できない場合は、トヨタ販売店にご依頼ください。

タイヤセットを選択する

この車両のタイヤ空気圧警告システムには、冬用タイヤなど 2 セット目のタイヤ用の ID コードを登録する機能があります。2 セット目のタイヤはご自身またはトヨタ販売店にて登録できます。

2 セット目のタイヤを登録後、タイヤ空気圧警告システムで使用するタイヤセットを選択できます。

■ 作動条件

- この機能は 2 セット目のタイヤを登録してある場合のみ、切りかえをすることができます。2 セット目のタイヤが登録されていない場合、メニューで選択しても切りかわりません。
- 登録済みのタイヤセットのみ変更可能であり、他のセットの ID コードを混在させた場合は作動しません。

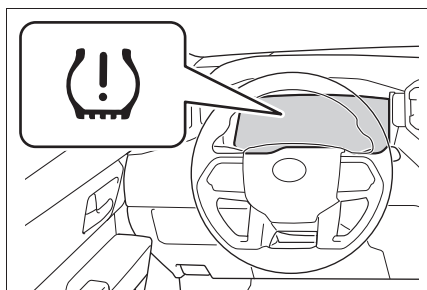
■ タイヤセットの切りかえかた

- 1 切りかえをしたいタイヤセットに交換する
- 2 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して、**⚙** を選択する
- 3 **⬆** または **⬇** を押して
“Vehicle Settings” を選択し、**OK** を押し続ける
- 4 **⬆** または **⬇** を押して
“TPWS” を選択し、**OK** を押す

5 へまたは▼を押して

“Change Wheel” を選択し、
タイヤ空気圧警告灯がゆっくり
3 回点滅するまで**OK**を押し続
ける

そのあとにタイヤ空気圧警告灯が 1 分間
点滅した後、点灯します。



約 2 分後に 2 セット目のタイヤセット
の登録が行われます。タイヤ空気圧警告
灯が消灯し、マルチインフォメーション
ディスプレイのタイヤの空気圧表示が
“--” になります。

6 タイヤ空気圧警報システムを初
期化する (→P.406)

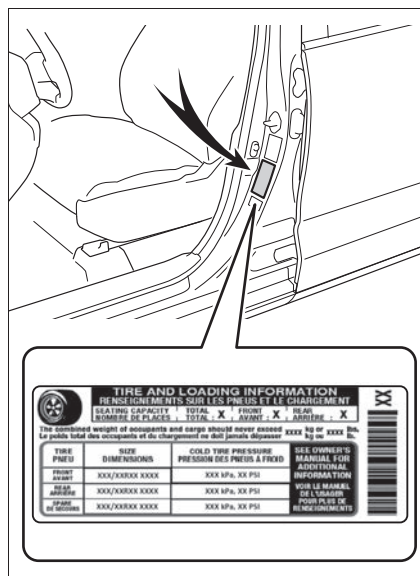
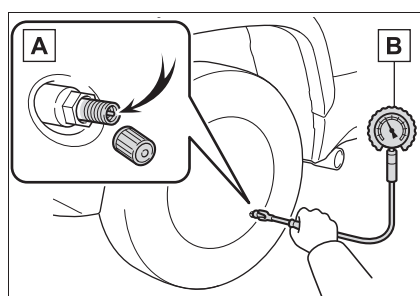
取り付けたタイヤの空気圧が異なる場合、
初期化が必要になりますが、同じ空気圧
に設定されている場合は、初期化の必要
はありません。

7 約 25 mph (40 km/h) 以上
で適度に右左折や直進をしながら約 10 ~ 30 分走行する

2 セット目に切りかえが完了すると、タ
イヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチイン
フォメーションディスプレイにタイヤ空
気圧が表示されます。

タイヤ空気圧について**タイヤ空気圧を確認する**

タイヤの指定空気圧は、運転席側
の空気圧ラベルで確認することが
できます。(→P.473)

**確認と調整方法****A** タイヤバルブ**B** タイヤ空気圧ゲージ**1** タイヤバルブキャップを外す

- 2 タイヤ空気圧ゲージの先端をタイヤバルブに押し付ける
- 3 ゲージで空気圧を確認する
- 4 タイヤの空気圧が指定以下のときは空気圧を調整する
空気を入れすぎた場合は、バルブの中央を押して空気を抜きます。
- 5 タイヤ空気圧の測定と調整が完了したら、バルブに石鹸水を塗り空気漏れがないか確認する
- 6 タイヤバルブキャップを元に戻す



知識

■ タイヤ空気圧の点検間隔

タイヤの空気圧は 2 週間ごと、または少なくとも月に 1 回は点検してください。スペアタイヤの点検も忘れずに行ってください。

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下
- 駆動系部品の損傷

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えている状態で点検してください。
冷間時のタイヤ空気圧は、車両が 3 時

間以上駐車されている、または 1 miles (1.5 km) 以上走行していない場合は、正確に測定できます。

- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 車両の定員重量をこえないでください。
乗員と荷物の重量を不均等にかけないようにしてください。

警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

**注意****■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

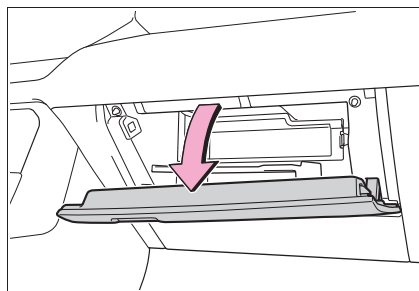
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

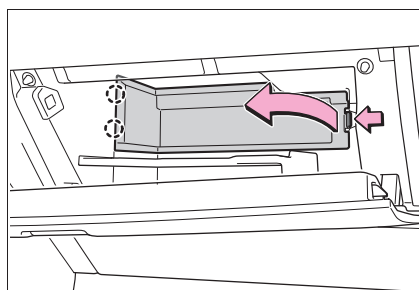
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

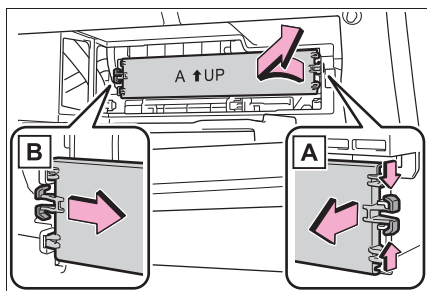
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開く



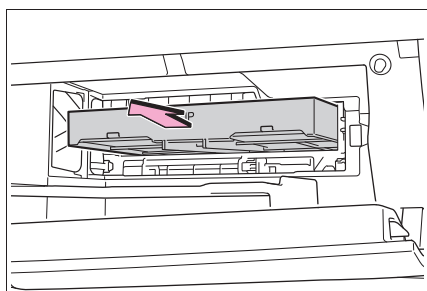
- 3 パネルを取りはずす



- 4** フィルターカバーのロックをはずし (A)、ツメからフィルターカバーを抜き (B)、フィルターカバーを取りはずす

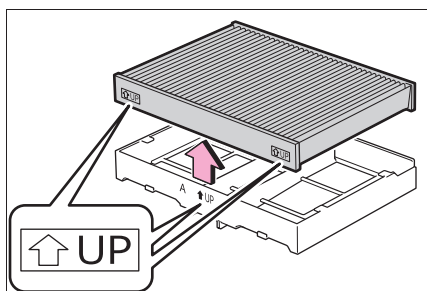


- 5** フィルターケースを取りはずす



- 6** フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“↑ UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■ エアコンフィルターの点検について

エアコンフィルターは、メンテナンススケジュールに従って点検・交換してください。粉じんの多い地区や交通量の多い場所では、早めの交換が必要になる場合があります。(メンテナンススケジュールについては、“Owner’s Manual Supplement” または “Scheduled Maintenance Guide” を参照してください。)

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

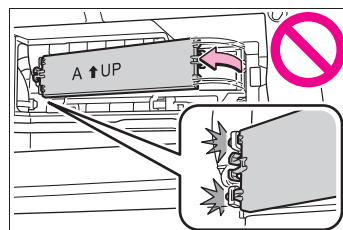
■ エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。

必ずフィルターを装着してください。

■ フィルターカバーの損傷を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：CR2450

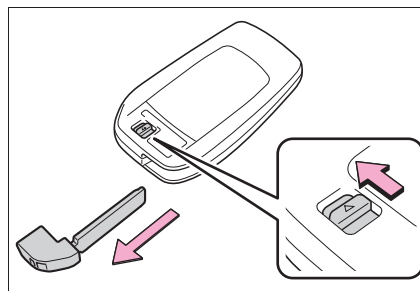
知識

■ リチウム電池 CR2450 の入手

- 電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。
- 交換は、必ずメーカーが推奨する同一または同等タイプの電池を使用してください。
- 使用済み電池は、地域のルールに従って廃棄してください。

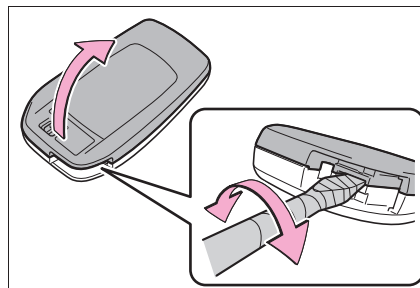
電池を交換するには

- 1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



- 2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

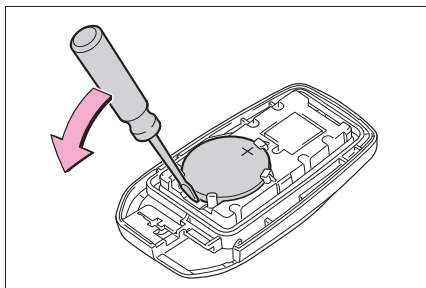


- 3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、+極を上にして取り付け

ます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

⚠ 警告

■ 取りはずした電池およびその他の部品について

これらの部品は小さく、お子さまが誤って飲み込むと窒息の原因となることがあります。お子さまの手の届かない場所に保管してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。

- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■ 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

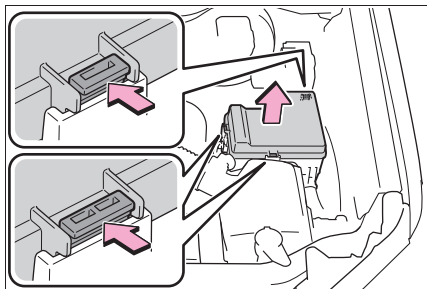
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

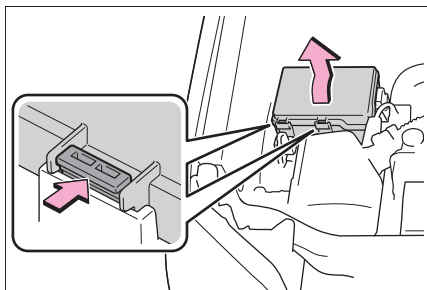
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 ヒューズボックスを開ける
 - ▶ エンジンルーム：タイプ A
ヒューズボックス

ツメを押しながらカバーを持ち上げる



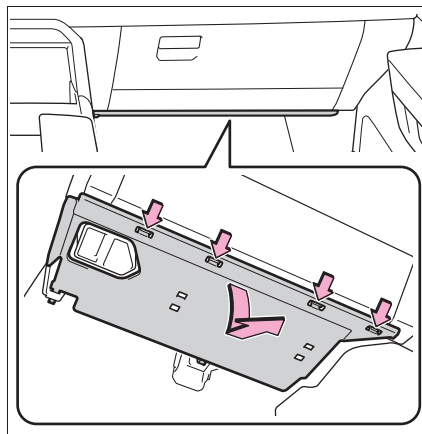
- ▶ エンジンルーム：タイプ B
ヒューズボックス

ツメを押しながらカバーを持ち上げる

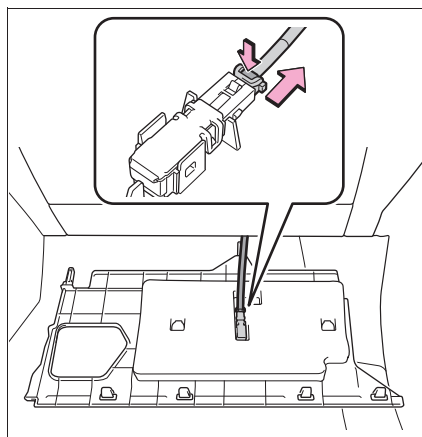


- ▶ 助手席足元（インストルメントパネル）

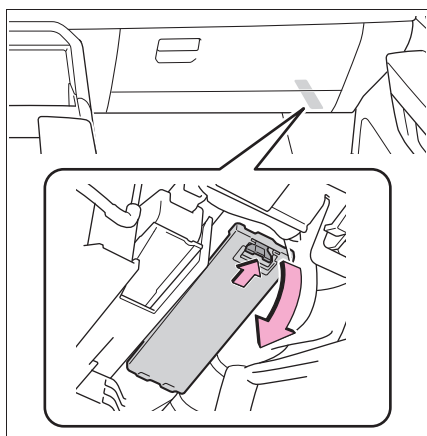
ツメを押してアンダーカバーを取りはずす



足元照明装着車：ツメを押してコネクターと固定部を取りはずします。

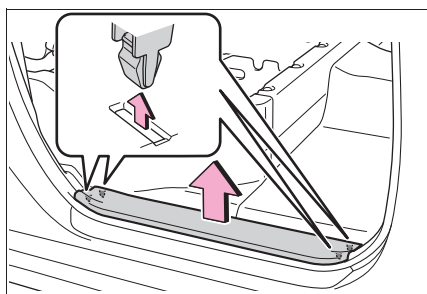


ヒューズボックスのカバーをとりはずす
ヒューズボックスのカバーを取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

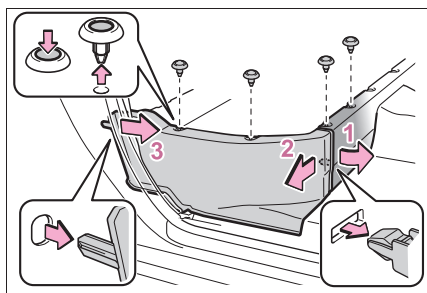


▶ リヤシート（助手席側）

サイドカバーを取りはずす



クリップを取りはずす

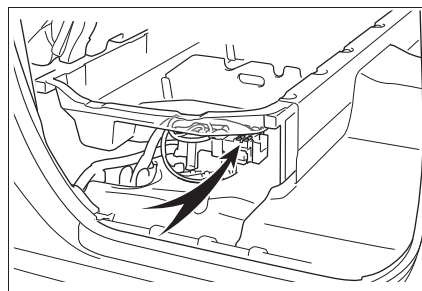


1 リヤ席のアンダーカバーを矢印の方向に持ち上げ、ツメをはずす

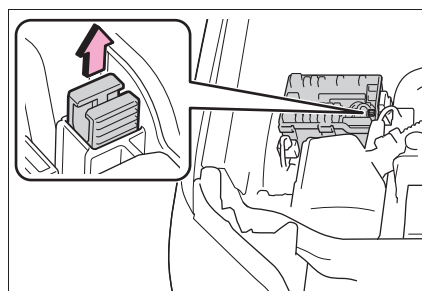
2 リヤ席のアンダーカバーを矢印の方向に引く

3 車両前方に引いて、リヤ席のア

ンダーカバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く
ヒューズはすしでタイプ A
ヒューズのみを引き抜くことが
できます。

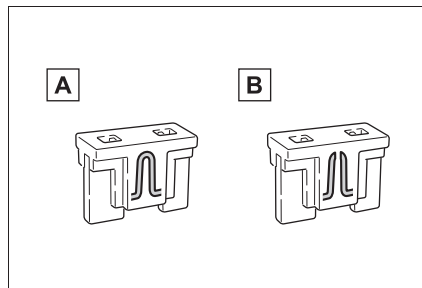


4 ヒューズが切れていないか点検
する

タイプ A および B :
ヒューズボックスの表示に従い、規定容
量のヒューズに交換します。

タイプ C および D :
トヨタ販売店にご連絡ください。

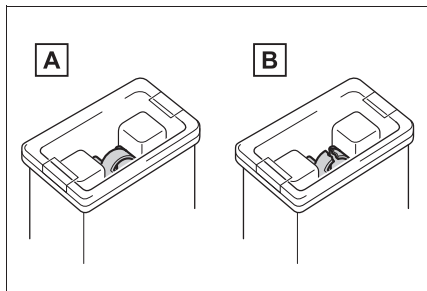
▶ タイプ A



A 正常

B ヒューズ切れ

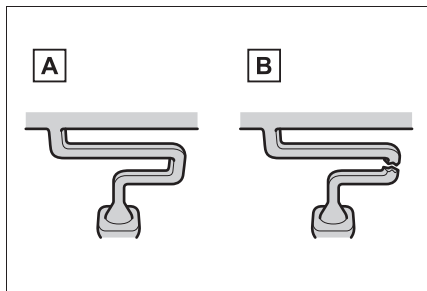
▶ タイプ B



A 正常

B ヒューズ切れ

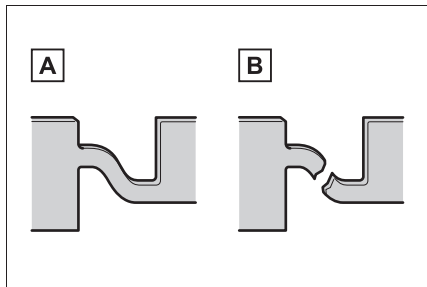
▶ タイプ C



A 正常

B ヒューズ切れ

▶ タイプ D



A 正常

B ヒューズ切れ

 知識

■ ヒューズを交換したあと

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかりと取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

**注意****■ヒューズを交換する前に**

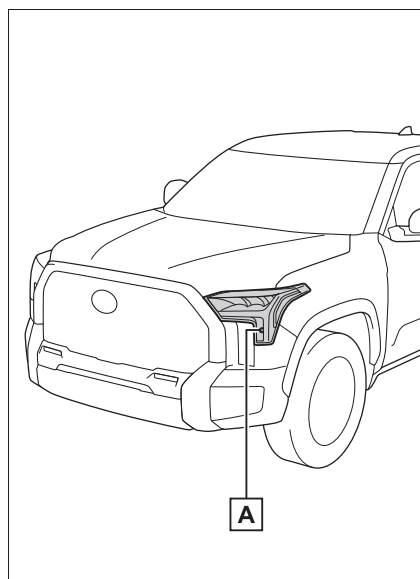
ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.474）

電球の位置

A フロント方向指示灯／車幅灯
（バルブタイプ）

6

お手入れのしかた

■ トヨタ販売店で交換が必要なランプ

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- デイタイムランニングランプ
- フロント方向指示灯／車幅灯 (LED タイプ)
- フロントフォグランプ★
- サイドマーカーランプ
- サイド方向指示灯
- 尾灯
- 制動灯
- 後退灯
- リヤ方向指示灯
- ハイマウントストップライトランプ／カーゴランプ
- トレーラーヒッチランプ★
- ベッドランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ 電球を交換するとき

電球がソケットにしっかりと挿し込まれ、光がもれていないことを確認してください。

■ LED ランプについて

フロント方向指示灯／車幅灯（バルブタイプ）以外のランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するとき

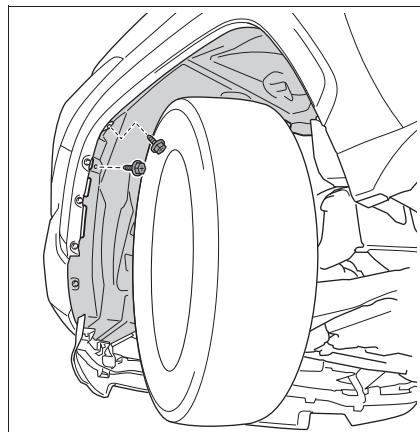
→P.418

電球交換をするには

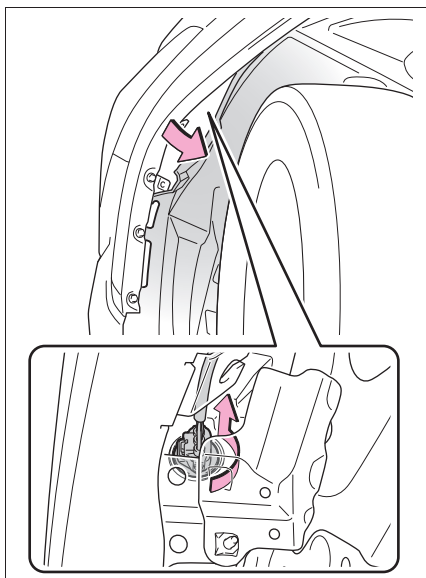
■ フロント方向指示灯／車幅灯（バルブタイプ）

- 1 作業スペースを十分に確保するために、交換する電球と反対側にハンドルを回します。
フェンダーライナーのネジを取りはずす

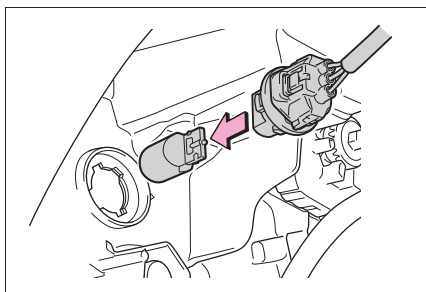
右側の電球を交換する場合はハンドルを左に、左側の電球を交換する場合はハンドルを右に回します。



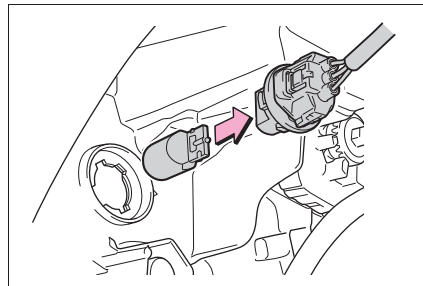
- 2 フェンダーライナーをめくり、ソケットを左にまわして取りはずす



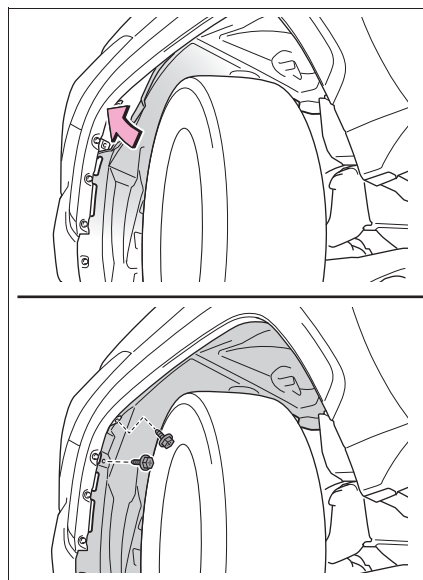
- 3 電球を取りはずす



- 4 新しい電球を取り付け、ソケットを右にまわして取り付ける



- 5 フェンダーライナーをもとにもどし、ボルトを取り付ける



⚠ 警告

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

⚠ 警告

- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
 - 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
 - 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- **お車の故障や火災を防ぐために**
電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万ーの場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは	424
非常点滅灯（ハザードランプ）	425
発炎筒.....	425
車両を緊急停止するには.....	426
水没・冠水したときは.....	427
車中泊が必要なときは.....	428

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	429
フューエルポンプシャットオフシス テム.....	431
警告灯がついたときは.....	432
警告メッセージが表示されたときは	442
パンクしたときは	446
エンジンがかからないときは ..	456
キーをなくしたときは.....	457
電子キーが正常に働かないときは	458
バッテリーがあがったときは ..	460
オーバーヒートしたときは	464
スタックしたときは.....	466

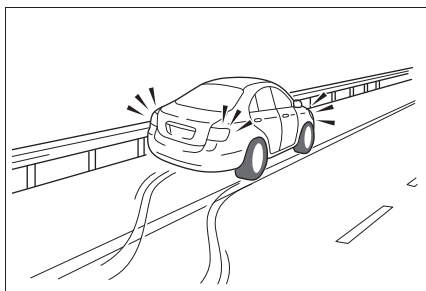
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

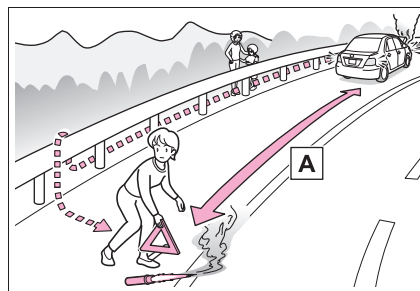
- 非常点滅灯（→P.425）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
- 1 同乗者を避難させる
 - 2 車両の 50m 以上後方 (A) に発炎筒（→P.425）と停止表示板を置か、停止表示灯を使用する
- 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください

い。

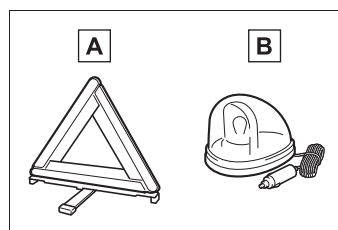


- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

- 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

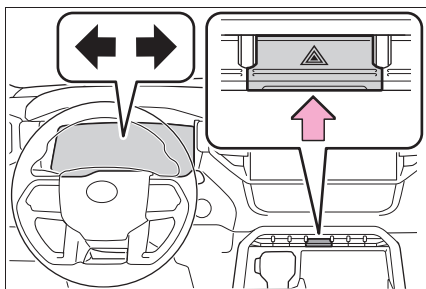
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

- エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。
(衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります)

発炎筒

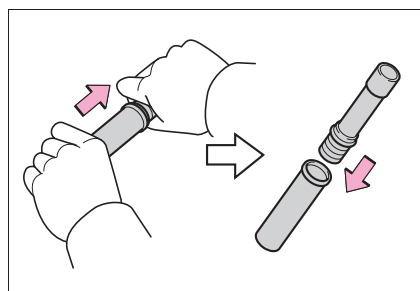
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。

(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)

発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

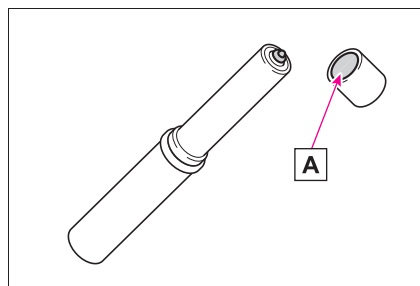
- 1 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 2 先端のフタを取り、すり薬Aで発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。

着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

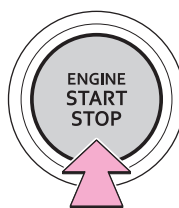
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

- 4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

 警告**■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき**

操作力補助がなくなり、ハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分をこえると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

 知識**■ 水位がフロアをこえると**

水位がフロアをこえて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告**■走行中の警告**

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは**⚠ 警告**

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

● 詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency



けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

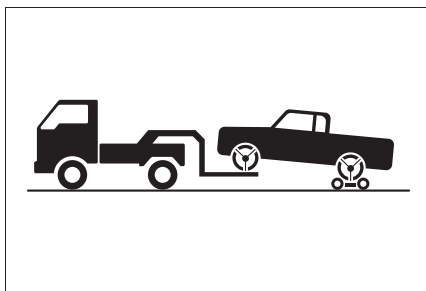
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

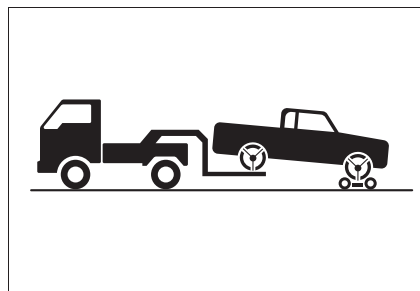
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

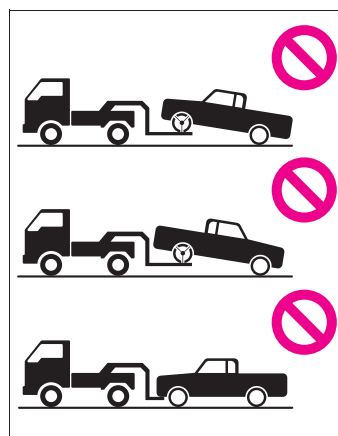
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

▶ 2WD 車

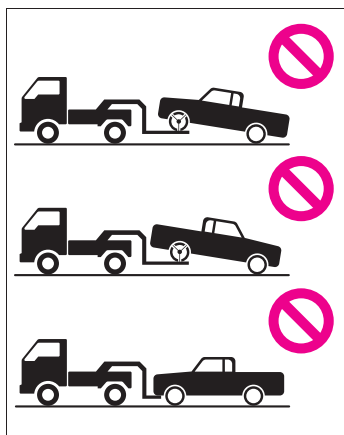
必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。



警告

▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。

**注意**

■ ホイールリフト式トラックによるけん引時の車両損傷防止について

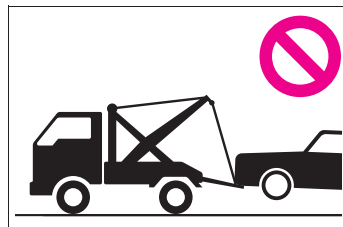
- エンジンスイッチが OFF の状態で、車両を後方からけん引しないでください。
- 車両を持ち上げる際は、持ち上げた車両の反対側でけん引するための十分な最低地上高を確保してください。十分な地上高がない場合、けん引中に車両が損傷するおそれがあります。

■ Stop & Start システム搭載車両をけん引するために

4 輪すべてを地面につけた状態でけん引する場合は、システムを保護するため、けん引前にエンジンスイッチを OFF にし、その後エンジンを始動するか、エンジンスイッチを ON にしてください。

■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、タイヤ固定ベルトを使用してください。タイヤ固定方法については、車両運搬車の取扱説明書を参照してください。

輸送中の車両移動を抑制するため、パーキングブレーキをかけ、エンジンスイッチを OFF にしてください。

他車にけん引してもらうとき

お車にけん引フックは装備されていません。けん引が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

フューエルポンプシャット オフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1 エンジンスイッチを ACC または OFF にする
- 2 エンジンを再始動する



注意

■エンジンを始動する前に

車両の下をよく確認してください。

地面に燃料漏れを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (Type A) または  (赤色) (Type B)	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。 走行を続けると危険です。

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 高水温警告灯 ※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.464）に従ってください。

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯（警告ブザー） ※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (Type A) または  (Type B)	●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 ●排出ガス浄化装置の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●助手席乗員検知システムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (Type A) または  (Type B)	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色) または  (黄色)	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ PCS 警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	警告ブザーが鳴った場合： ●プリクラッシュセーフティの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.200, 442) プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 → P.343

■ LTA 表示灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
 (橙色)	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.222)

※ 4.2 インチディスプレイ装着車：マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ Stop & Start キャンセル表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	Stop & Start システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）★

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	クリアランスソナーの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.249)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB OFF 表示灯（警告ブザー）★

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.263)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “RCTA OFF” 表示灯（警告ブザー）★

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	RCTA（リヤクロストロフィックアラート）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 レーダーセンサー周辺のリヤバンパーに汚れや付着物がある (→P.242) → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.255)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC システム／トレーラースウェイコントロールの異常 ●TRAC システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ●マルチテレインセレクトブレーキコントロール★の異常 ●クロールコントロール★の異常 ●ダウンヒルアシストコントロールシステム★の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ペダル誤操作警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブレーキホールドシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅) (Type A) または  (点滅) (Type B)	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある → パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。 パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ リヤデフロック作動表示灯★

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	リヤディファレンシャルロックシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 → トヨタ販売店で点検を受けてください。 警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ●自然要因 ●タイヤのパンク → ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.439）に従ってください。

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 3.4 gal. (13.0L, 2.8 Imp. gal.) 以下になった → 燃料を補給する

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席に人が乗っている場合、助手席のシートベルトも着用しなければ警告灯（警告ブザー）は消灯しません。

※ 運転席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席シートベルト警告ブザーは、運転席のシートベルトが装着されていないことを知らせるために鳴ります。エンジンスイッチを ON にすると 1 回ブザーが鳴ります。シートベルトが非着用のまま車速が一定以上になると警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

助手席シートベルト非着用警告ブザー：

助手席シートベルト警告ブザーは、助手席のシートベルトが装着されていないことを乗員に知らせるために作動します。シートベルトが非着用のまま車速が一定以上になると警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※¹（警告ブザー）※²

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※¹ 4.2 インチディスプレイ装着車：マルチインフォメーションディスプレイに点灯します。

※² リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ エアサスペンション異常表示灯★※

警告灯	警告内容・対処方法
	エアサスペンションシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 4.2 インチディスプレイ装着車：マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ トレーラーブレーキ警告灯★

警告灯	警告内容・対処方法
	● トレーラーブレーキコントロールシステムの異常 ● トレーラーコネクタ回路の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ SRS 警告灯

この警告灯システムは、エアバッグセンサーアッセンブリー、フロントインパクトセンサー、サイドインパクトセンサー（フロントドア）、サイドインパクトセンサー（フロント）、サイドインパクトセンサー（リヤ）、運転席ポジションセンサー、運転席シートベルトバックルスイッチ、助手席乗員検知センサー、“AIR BAG ON”表示灯、“AIR BAG OFF”表示灯、助手席シートベルトバックルスイッチ、シートベルトプリテンショナー、エアバッグ、回線回路、および電源装置を検知します。（→P.36）

■ 走行中にエンジン警告灯が点灯したとき

まず次を確認してください：

● 燃料は入っていますか？

入っていない場合は、ただちに燃料を補給してください。

● 燃料口キャップは緩んでいませんか？

緩んでいる場合は、しっかりと閉めてください。

数回の走行後、警告灯は消灯します。数回走行しても警告灯が消えない場合は、できるだけ早くトヨタ販売店にご相談ください。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.446

パンクしていないときは：

エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

- 1 タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整する
- 2 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行う。(→P.406)

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■ スペアタイヤに交換したときは

スペアタイヤには、タイヤ空気圧警告バルブと送信機が装備されていません。パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換しても、タイヤ空気圧警告灯は消灯しません。

正常なタイヤと交換し、適切なタイヤ空気圧に調整してください。数分後にタイヤ空気圧警告灯は消灯します。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.404



警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

● タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯している場合はタイヤがパンクしている可能性がありますので、確認してください。タイヤがパンクしている場合はスペアタイヤに交換し、最寄りのトヨタ販売店でタイヤの修理をしてください。

● 急ハンドル・急ブレーキは避けてください。
もしタイヤの状態が悪化した場合、ハンドル操作またはブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■ タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

**警告****■ Maintenance of the tires**

Each tire, including the spare (if provided), should be checked monthly when cold and inflated to the inflation pressure recommended by the vehicle manufacturer on the vehicle placard or tire inflation pressure label (tire and load information label). (If your vehicle has tires of a different size than the size indicated on the vehicle placard or tire inflation pressure label [tire and load information label], you should determine the proper tire inflation pressure for those tires.)

As an added safety feature, your vehicle has been equipped with a tire pressure monitoring system (TPMS-tire pressure warning system) that illuminates a low tire pressure telltale (tire pressure warning light) when one or more of your tires is significantly underinflated. Accordingly, when the low tire pressure telltale (tire pressure warning light) illuminates, you should stop and check your tires as soon as possible, and inflate them to the proper pressure. Driving on a significantly under-inflated tire causes the tire to overheat and can lead to tire failure. Under-inflation also reduces fuel efficiency and tire tread life, and may affect the vehicle's handling and stopping ability.

Please note that the TPMS (tire pressure warning system) is not a substitute for proper tire maintenance, and it is the driver's responsibility to maintain correct tire pressure, even if under-inflation has not reached the level to trigger illumination of the TPMS low tire pressure telltale (tire pressure warning light).

Your vehicle has also been equipped with a TPMS (tire pressure warning system) malfunction indicator to indicate when the system is not operating properly.

The TPMS (tire pressure warning system) malfunction indicator is combined with the low tire pressure telltale (tire pressure warning light). When the system detects a malfunction, the telltale will flash for approximately one minute and then remain continuously illuminated. This sequence will continue upon subsequent vehicle start-ups as long as the malfunction exists. When the malfunction indicator is illuminated, the system may not be able to detect or signal low tire pressure as intended.

 警告

TPMS (tire pressure warning system) malfunctions may occur for a variety of reasons, including the installation of replacement or alternate tires or wheels on the vehicle that prevent the TPMS (tire pressure warning system) from functioning properly. Always check the TPMS (tire pressure warning system) malfunction telltale after replacing one or more tires or wheels on your vehicle to ensure that the replacement or alternate tires and wheels allow the TPMS (tire pressure warning system) to continue to function properly.

 注意

■ **タイヤ空気圧警報システムが正常に作動するようにするため**

構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.432）に従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

 知識

■ **警告メッセージについて**

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ **各部の操作に関するメッセージが表示されたときは**

- アクセルペダルまたはブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき

PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）などの運転支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

ブレーキオーバーライドシステムが作動すると、警告メッセージが表示されます。(→P.162)

ドライブスタートコントロール(→P.167)またはPKSB(パーキングサポートブレーキ)★(→P.259)が作動したときに、警告メッセージが表示されます。画面の指示に従って対処してください。

● エンジンスイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、エンジンスイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。画面の指示に従って操作し直してください。

● シフトレバーの操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

● 各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ トヨタ販売店で点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 取扱説明書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

● “Engine Coolant Temp High Stop in a Safe Place See Owner’s Manual” が表示されたときは、対処方法に従ってください。(→P.464)

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。安全な場所に車を止め、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。走行を続けると危険です。

・ “Transmission Oil Temp. High Stop in a Safe Place and See Owner’s Manual”

・ “Charging System Malfunction Stop in a Safe Place See Owner’s Manual”

・ “Smart Key System Malfunction See Owner’s Manual”

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・ “Oil Pressure Low Stop in a Safe Place See Owner’s Manual”

・ “Braking Power Low Stop in a Safe Place See Owner’s Manual”

■ “Shift to P Before Exiting Vehicle” または “Shift to P when Parked” が表示されたとき

シフトレバーがP以外の位置でエンジンスイッチをOFFにせずに運転席ドアを開けた場合に、メッセージが表示されます。

シフトレバーをPに入れてください。

■ “Auto Power OFF to Conserve Battery” が表示されたとき

自動電源OFF機能が作動したときにメッセージが表示されます。

次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにして約5分間その回転数を保

持し、バッテリーを充電してください。

■ **“Headlight System Malfunction Visit Your Dealer” が表示されたとき**

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- LED ヘッドランプ
- オートヘッドライトレベリングシステム★
- オートマチックハイビーム

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“Engine Oil Level Low Add or Replace” が表示されたとき**

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ **“Engine Stopped Steering Power Low” が表示されたとき**

走行中にエンジンが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ **“Maintenance Required Soon” が表示されたとき**

メンテナンススケジュール※に記載されている走行距離から点検・整備をまもなく実施する必要があることをお知らせします。

メッセージをリセットしてからおよそ 4500 miles (7200 km) 走行後に表示します。

必要に応じてメンテナンスを実施してください。メンテナンスが完了したら、メッセージをリセットしてください。

※ 車両のメンテナンス間隔については、別冊の “Scheduled Maintenance Guide” または “Owner’s Manual Supplement” を参照してください。

■ **“Maintenance Required Visit Your Dealer” が表示されたとき**

メンテナンススケジュール※に記載されている走行距離から点検・整備を実施する必要があることをお知らせします。

メッセージをリセットしてからおよそ 5000 miles (8000 km) 走行後に表示します。(メッセージをリセットしていない場合、正しく作動しません。)

必要に応じてメンテナンスを実施してください。メンテナンスが完了したら、メッセージをリセットしてください。

※ 車両のメンテナンス間隔については、別冊の “Scheduled Maintenance Guide” または “Owner’s Manual Supplement” を参照してください。

■ **“Engine Maintenance Required Visit Your Dealer” が表示されたとき**

エンジンに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **“Oil Maintenance Required Soon” が表示されたとき**

エンジンオイルがまもなく交換時期であるときに表示されます。

エンジンオイルを点検し、必要であれば交換してください。エンジンオイルを交換した後は、必ずメッセージをリセットしてください。

■ “Oil Maintenance Required” が表示されたとき

エンジンオイルの交換が必要であるときに表示されます。

トヨタ販売店でエンジンオイルおよびオイルフィルターを点検・交換してください。交換後は、必ずメッセージをリセットしてください。

■ 前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたとき

メッセージに表示された異常が解消されるまで、次のシステムは作動しない可能性があります。(→P.200, 432)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LTA (レーントレーシングアシスト)
- オートマチックハイビーム
- RSA (ロードサインアシスト) ★
- レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ レーダーの異常を示すメッセージが表示されたとき

メッセージに表示された異常が解消されるまで、次のシステムは作動しない可能性があります。(→P.200, 432)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LTA (レーントレーシングアシスト)
- レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)

■ “Radar Cruise Control Unavailable See Owner’s Manual” が表示されたとき

レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。(要因および対処方法 : →P.200)

■ “Radar Cruise Control Unavailable” が表示されたとき

レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) を再設定してください。

■ “Power Tailgate Unavailable Fully Close Tailgate Manually to Re-Activate Power Tailgate” が表示されたとき★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

テールゲートオープナースイッチを押したあとに次のメッセージが表示された場合、パワーテールゲートの初期化が必要です。パワーテールゲートを初期化するには、手動でテールゲートを完全に閉めてください。

次のような状況が発生した場合、パワーテールゲートの初期化が必要になることがあります。

- ・ 挟み込み検知が作動し、テールゲートが完全に閉まっていない場合
- ・ テールゲートのコネクタを脱着したあと、テールゲートを完全に閉じていない
- ・ テールゲートが完全に閉まっていない状態で、パワーテールゲートの作動を停止した
- ・ バッテリーを再接続したあとに、テールゲートを完全に閉じていない

テールゲートが完全に閉まると、システムは初期化され、メッセージは消えます。

■ “Power Tailgate Unavailable/ Malfunction Visit Your Dealer” が表示されたとき★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムに異常があるおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告ブザー

→P.442

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。

(タイヤについての詳しい説明はP.401を参照してください)

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしたとき

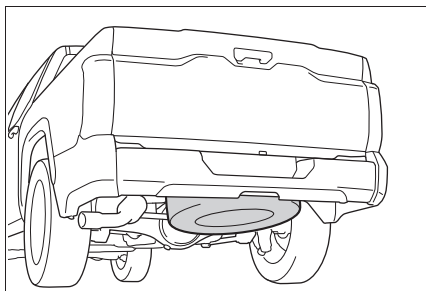
パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPにする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→P.425)
- 電子制御サスペンション装着車：車高調整モードスイッチを押して、システムを手動モードに設定してください (→P.323)

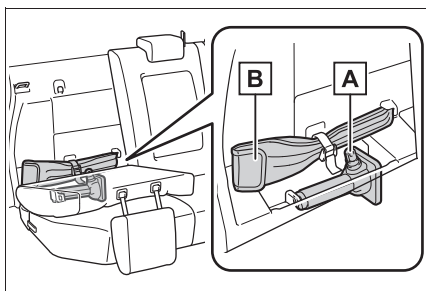
スペアタイヤ・工具・ジャッキの位置

■ スペアタイヤ



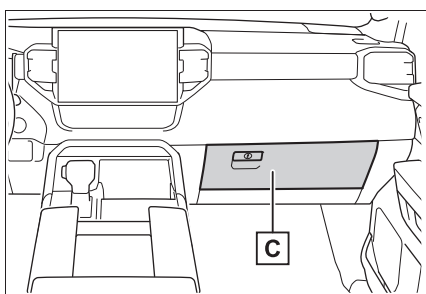
■ 工具・ジャッキ

▶ Double Cab



A ジャッキ

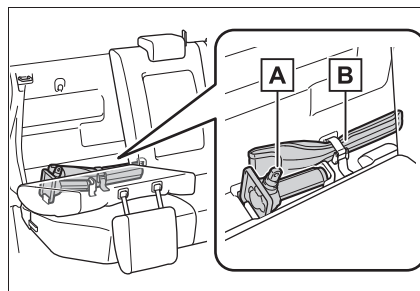
B 工具袋



C ホイールロックキー★

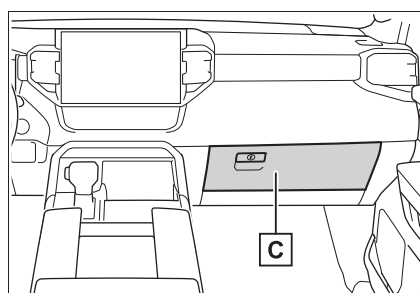
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ CrewMax



A ジャッキ

B 工具袋



C ホイールロックキー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ ジャッキの使用について

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない

● 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない

警告

- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

■ **ジャッキハンドルを使用するときは**
ジャッキハンドルが不意に分解しないように、ジャッキハンドルを組み付けたあと、ホイールナットレンチの穴部を使いネジ部を確実に締め付けてください。

ホイールロックナット★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります

ホイールロックナット付きのタイヤを交換する際は、次の手順に従ってホイールロックナットの取りはずし、取り付けを行ってください。ホイールロックキーはグローブボックスに収納されています。使用後は必ず元の位置にもどし、紛失しないようにしてください。(→P.447)

取りはずす

取りはずしをしやすいようにホイールロックナットを必ず最初にゆるめてください。

- 1 ホイールロックキーをホイールロックナットのパターンが合うまでまわす
- 2 ホイールナットレンチを使用してホイールロックナットをゆるめる

取り付ける

取り付けをしやすいようにホイールロックナットを必ず最後に締め付けてください。

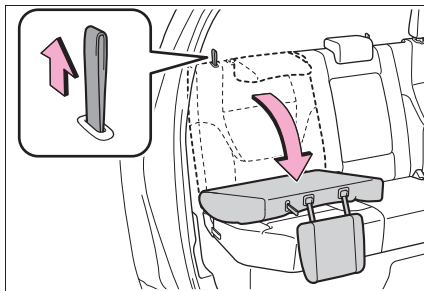
- 1 ホイールロックナットを手で取り付ける
- 2 ホイールロックキーをホイールロックナットのパターンが合うまでまわす
- 3 ホイールナットレンチを使用してホイールロックナットを指定の締め付けトルクで締める

注意**ホイールロックキーを使用するときは**

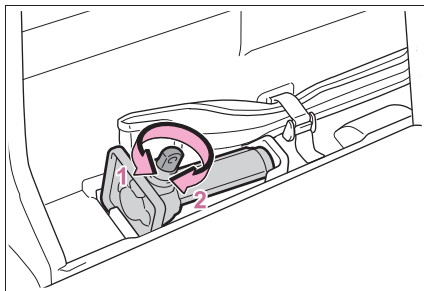
インパクトレンチは使用しないでください。インパクトレンチを使用すると、ホイールロックナットとホイールロックキーに損傷を与えるおそれがあります。ホイールロックの取り付けについては、トヨタ販売店にお問い合わせください。

ジャッキと工具袋を取り出すには

- 1 ヘッドレストを折りたたみ (→P.133)、ストラップを引いて背もたれを倒します。



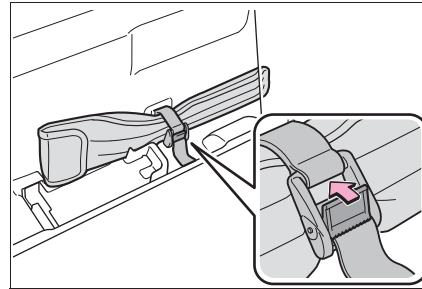
- 2 ジャッキをゆるめて取りはずす。



- 1 ゆるめる
- 2 締める

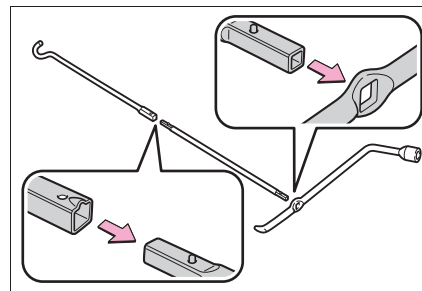
使用後は取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

- 3 固定バンドをはずして工具袋を取り出す

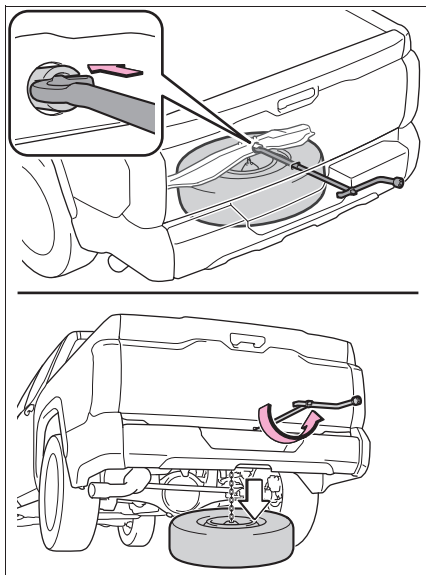


スペアタイヤを取り出すには

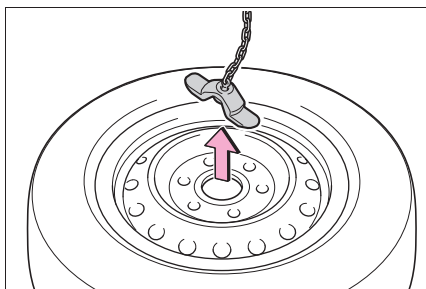
- 1 ジャッキハンドルを組み付ける



2 組み付けたジャッキハンドルを挿し込み、反時計回りにまわす

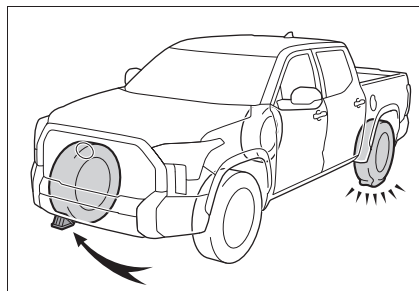


3 スペアタイヤを引き出し、アンカープレートを取りはずす



パンクしたタイヤを交換するには

1 輪止め※をする

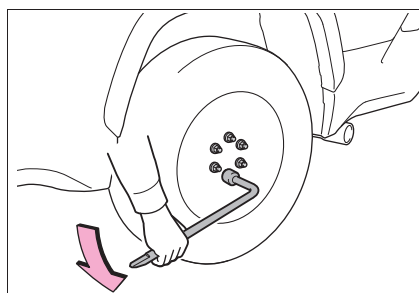


交換するタイヤ	輪止めの位置
左前輪	右側後輪うしろ
右前輪	左側後輪うしろ
左後輪	右側前輪前
右後輪	左側前輪前

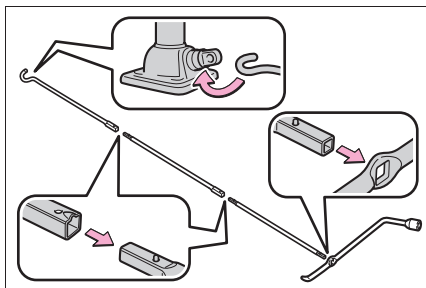
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

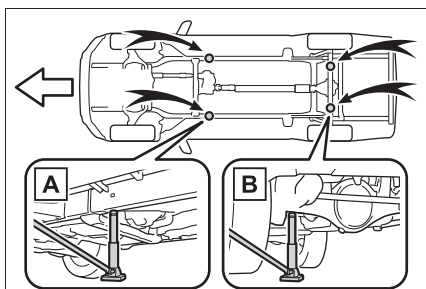
ホイールロック装着車：ホイールロックキーを使用してホイールロックをゆるめてください。



- 3** 図のようにジャッキハンドルを組み付ける



- 4** 図に示すジャッキセット位置にジャッキをかける



A フロント

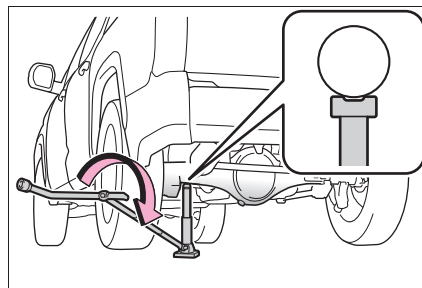
B リヤ

ジャッキは水平で固い場所に設置してください。

- 5** タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

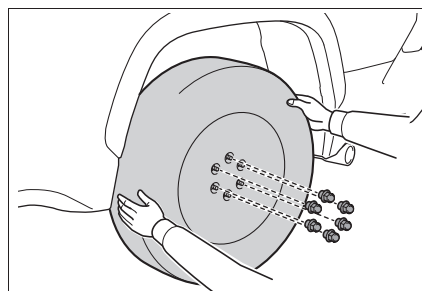
リヤアクスルハウジングにジャッキをセットするときは、ジャッキ上部の溝と、ハウジングを図のように合わせるように

してください。



- 6** ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

■タイヤ交換について

● 次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ・ スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
- ・ センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。

警告

- ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

● 次のことをお守りいただかないと、ナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認する

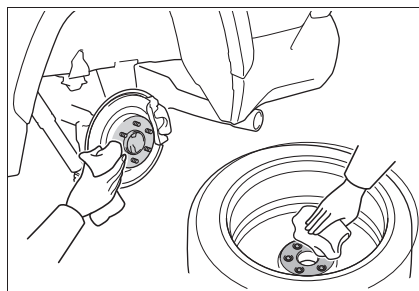
スチールホイール：154 ft•lbf (209 N•m, 21.3 kgf•m)

アルミホイール：97 ft•lbf (131 N•m, 13.4 kgf•m)

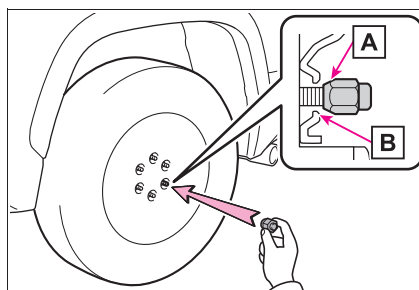
- ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ・ 100 miles (160 km) 走行するまでに再度ホイールナットの締め付けを確認する
- ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
- ・ 走行中に脱落するおそれがあるため、損傷が激しいホイールオーナメントは取り付けない
- ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパ部分を内側にして取り付ける

スペアタイヤを取り付けるには**1 ホイール接触面の汚れをふき取る**

ホイール接触面が汚れていると、走行中ナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

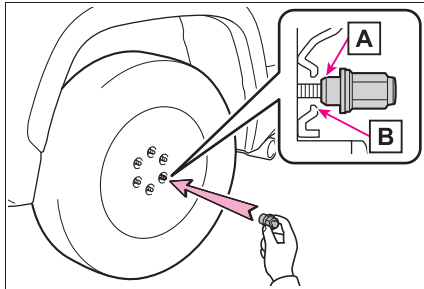
**2 スペアタイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする**

スチールホイールからスチールホイール（スペアタイヤ含む）に交換する場合は、ナットのテーパ部 **A** がホイールのシート部 **B** に軽くあたるまでまわします。

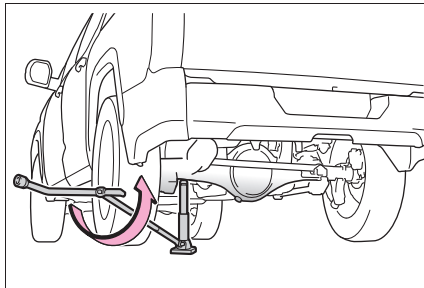


アルミホイールからスチールホイール（スペアタイヤ含む）に交換する場合は、ナットのテーパ部 **A** がホイールのシー

ト部 **B** に軽くあたるまでまわします。

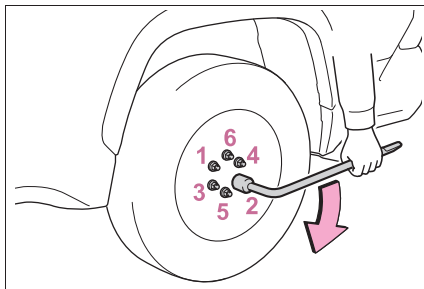


3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
154 ft•lbf (209 N•m, 21.3 kgf•m)



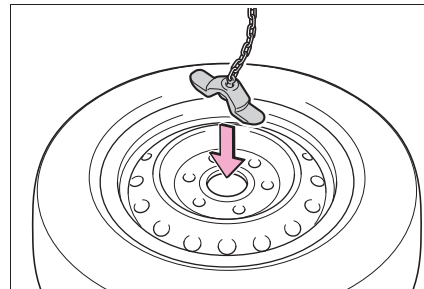
警告

■パンクしたタイヤを格納するときは

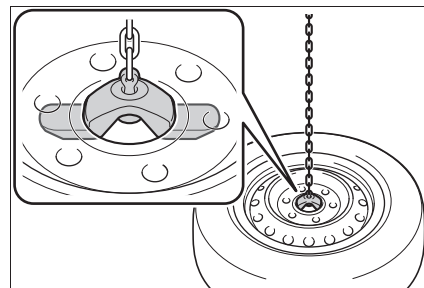
次の手順をお守りいただかないと、スペアタイヤキャリアの損傷やタイヤの落下により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パンクしたタイヤ・ジャッキ・工具の収納

- 1 センターオーナメントを取りはずす
- 2 タイヤの外側が上になるように地面に置き、アンカープレートを取り付け、ジャッキハンドルをまわして鎖のたるみをなくす



3 アンカープレートがホイールの中心にあることを確認してください。

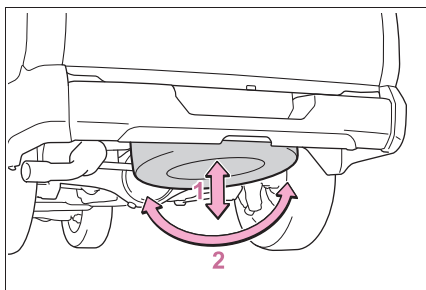


- 4 タイヤはまっすぐ上げてください。走行中、急ブレーキや衝突の際にタイヤが前方に飛び出すのを防ぐため、周囲の部品を巻き込まないようにしてください。

締め付けトルク：

34.7 ft•lbf (46.6 N•m, 4.8 kgf•m)

- 5 タイヤを巻き上げたら、タイヤが確実に固定されていることを確認する



- 1 タイヤを上下にゆする
2 回転させる

タイヤが周囲の部品に干渉していないことを直接目で確認してください。

ゆるんだり、正しく収納できなかったりした場合は、手順 2 から手順 4 をくり返してください。

- 6 タイヤが下がったときや不安定なときは、手順 5 をくり返す
7 工具・ジャッキを収納する



知識

■スペアタイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P.473)

■スペアタイヤを使用するときは

スペアタイヤにはタイヤ空気圧警報システムが装備されていないため、スペアタイヤの空気圧低下はタイヤ空気圧警報システムによって表示されません。また、タイヤ空気圧警報システムが点灯した後にスペアタイヤを交換した場合、警告灯は点灯したままになります。

■雪道・凍結路で後輪がパンクしたとき

一時的に車両の前輪にスペアタイヤを取り付けます。次の手順で後輪にタイヤチェーンを装着してください：

- 1 前輪をスペアタイヤに交換する
- 2 パンクした後輪をはずした前輪に交換する
- 3 タイヤチェーンを後輪に装着する

⚠ 警告

■スペアタイヤを使用するときは

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上のスペアタイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■スペアタイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があります。次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS & ブレーキアシスト
- ・ VSC
- ・ TRAC
- ・ AUTO LSD ★
- ・ PCS (プリクラッシュセーフティ) ★

⚠ 警告

- ・ AHB（オートマチックハイビーム）
- ・ LTA（レーントレーシングアシスト）
- ・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- ・ EPS
- ・ トレーラースウェイコントロール
- ・ タイヤ空気圧警報システム
- ・ BSM（ブラインドスポットモニター）★
- ・ パノラミックビューモニター★
- ・ マルチテレインモニター★
- ・ バッグガイドモニター★
- ・ クリアランスソナー★
- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）★
- ・ ナビゲーションシステム★

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ・ 4WD システム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スペアタイヤ使用時の速度制限

スペアタイヤを装着しているときは、50 mph (80 km/h) 以上の速度で走行しないでください。

スペアタイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意**■パンクしたタイヤで車両を運転しないでください**

パンクしたタイヤのまま走行を続けしないでください。

たとえ短距離であってもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤとホイールが修復不可能な損傷するおそれがあります。

■タイヤチェーンの装着について

スペアタイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

■スペアタイヤを格納するときは

タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。

■タイヤを交換するときは

タイヤ・ホイール・タイヤ空気圧警告システムのバルブや送信機を取りはずしたり、付けかえるときは、トヨタ販売店へご連絡ください。タイヤ空気圧警告システムのバルブと送信機の扱いを誤ると、バルブと送信機が損傷するおそれがあります。

■タイヤ空気圧警告バルブおよび送信機の損傷を防ぐため

補修液でタイヤを修理した場合、タイヤ空気圧警告バルブと送信機が正常に作動しない可能性があります。補修液を使用した場合は、速やかにトヨタ販売店またはその他の認定サービス工場にご連絡ください。タイヤ交換時には、必ずタイヤ空気圧警告バルブと送信機を交換してください。(→P.405)

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方 (→P.169) に従っても、エンジンがかからないときは、次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。(→P.458)
- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。再度、正しい手順 (→P.169) に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。(→P.64)

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。(→P.460)
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

(→P.460)

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。(→P.456)

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。(→P.460)
- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。(→P.460)

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く (→P.179)
- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチを ACC にする

4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。



注意

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→P.121)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。



知識

■電子キーが正常に働かないとき

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→P.475)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→P.121)



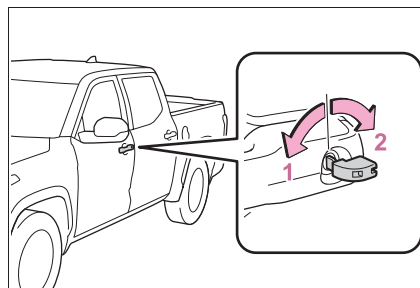
注意

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアを施錠・解錠するには

メカニカルキー (→P.98) を使って次の操作ができます。(運転席ドアのみ)



1 全ドア施錠

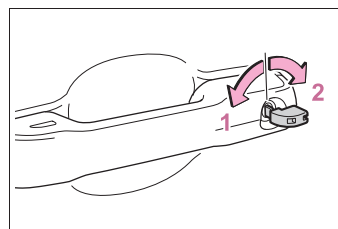
2 全ドア解錠

キーを回すと運転席ドアのロックが解除されます。もう一度回すと、他のドアのロックも解除されます。



知識

■キー連動機能



1 ドアガラスが閉まる (まわし続ける)

2 ドアガラスとパノラマムーンルーフ★が開く (まわし続ける)

トヨタ販売店で設定変更が必要です。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告**■メカニカルキーを使ってパワーウィンドウとパノラマムーンルーフ★を操作するとき**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアガラスやパノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。

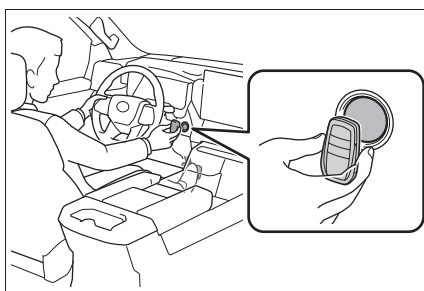
またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

エンジンを始動するには

- 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
- 2 スイッチが付いている側を表にして、電子キーでエンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACCへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメー

ションディスプレイに が表

示されていることを確認する

- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識**■エンジンの停止方法**

通常のエンジンの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.414)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.65)

■エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.171)

バッテリーがあがったときは

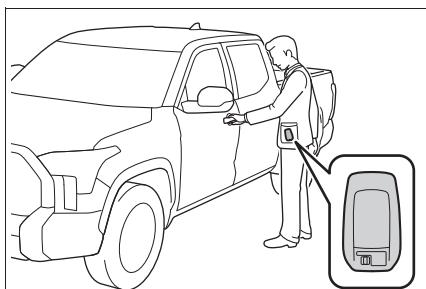
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

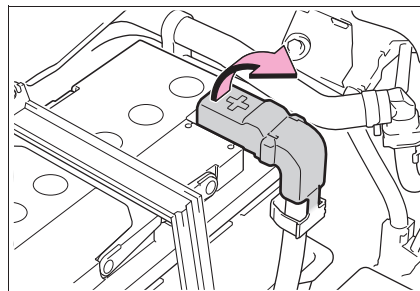
1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.66)



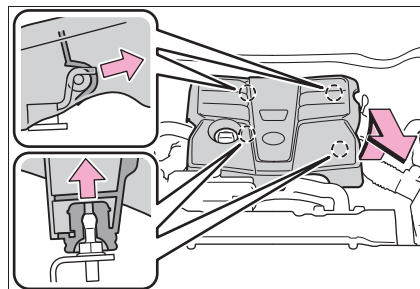
2 ボンネットを開けてる (→P.400)

3 バッテリーの+端子のカバーを開ける



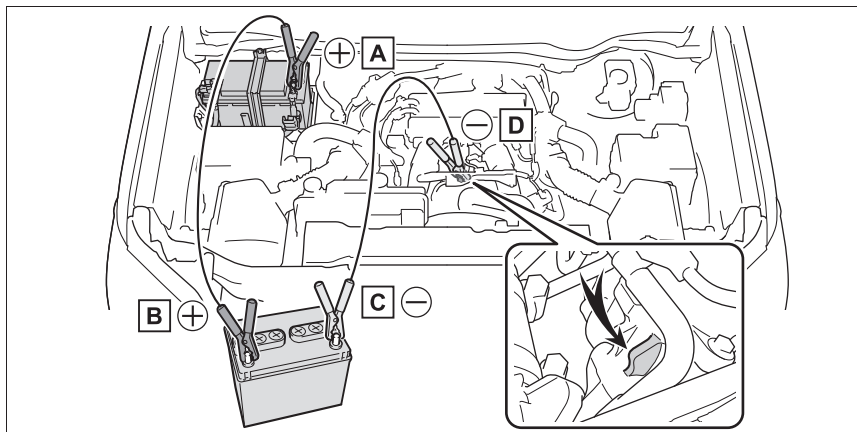
4 エンジンカバーを取りはずす

先端を持ち上げてカバーを固定ピンからはずし、カバー本体を手前に引いて取りはずします。



- 5 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子[C]につなぎ、もう一方の端を金属部[D]につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



A バッテリーの+端子（自車）

B バッテリーの+端子（救援車）

C バッテリーの-端子（救援車）

D 図に示す金属部

- 6 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 7 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する
- 8 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん ON にしてからエンジンを始動する
- 9 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
- 10 取りはずしたときと逆の手順で、エンジンカバーを取り付けます。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやエアコン、オーディオなどの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがってしまったとき

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。（→P.487）

■ バッテリー端子をはずすとき

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーあがり前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。
- Stop & Start システムは、最大 1 時間エンジンを自動停止しない場合があります。

■ バッテリーを交換するとき

- 装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。LN3-eco またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらに、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
 - 欧州規格バッテリーを使用してください。
 - 交換前と同一のケースサイズ（LN4）、20 時間率容量（20HR）が同等（75Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（776A）以上のバッテリーを使用してください。
 - ・ ケースサイズが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
 - ・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。
- 詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ バッテリー端子をはずすとき

必ず－端子を先にはずしてください。
＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告**■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 固定クランプ、端子、その他のバッテリー関連部品を扱った後は、必ず手を洗ってください。

- お子さまをバッテリーに近付けない

■ バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターが固定クランプに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

注意**■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するとき

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

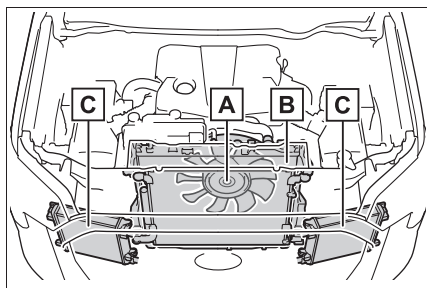
次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計 (→P.73, 77) の表示がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する (スピードが出ないなど)
- マルチインフォメーションディスプレイに “Engine Coolant Temp High Stop in a Safe Place See Owner’s Manual” が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部 (放熱部) やホースなどからの冷却水もれを点検する

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



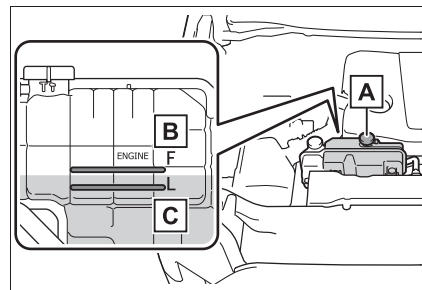
A ファン

B エンジンラジエーター

C インタークーラーラジエーター

- 4 冷却水の量がリザーバタンクの “F” (上限) と “L” (下限) のあいだにあるかを点検する

▶ エンジン

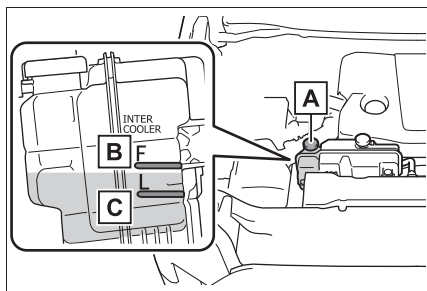


A リザーバタンク

B “F” (上限)

C “L” (下限)

▶ インタークーラー



A リザーバタンク

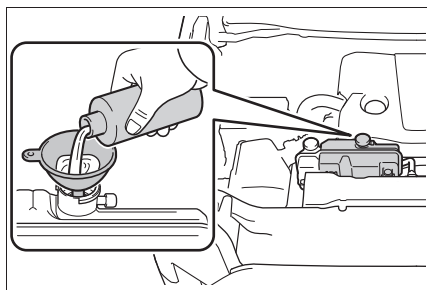
B “F”（上限）

C “L”（下限）

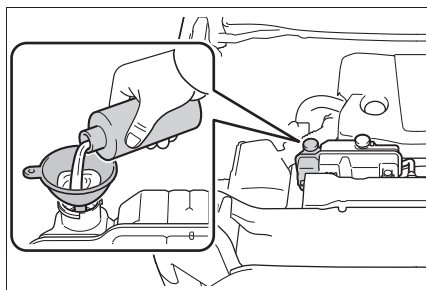
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

▶ エンジン



▶ インタークーラー



- 6** エンジンを始動し、ラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する
- 7** ファンが作動していない場合：すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡してください。ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 8** マルチインフォメーションディスプレイの“Engine Coolant Temp High Stop in a Safe Place See Owner's Manual”表示を確認する

表示が消えていない場合：

すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡してください。

表示が消えている場合：

最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意**■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する
- シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- 2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 後輪の下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

📖 知識**■ 脱出しにくいとき**

次の方法もお試しくください。

- TRAC を OFF にする
(→P.343)
- リヤデフロックを使用する★
(→P.331)
- 4WD スイッチを切りかえる★
(→P.328)
- クロールコントロールを使用する★
(→P.333)
- マルチトレインセレクトを使用する★
(→P.336)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） **470**

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 **475**

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 **487**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

燃料

指定燃料	容量（参考値）
・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	32.2 gal.（122.0 L, 26.8 Imp.gal.）

※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量（参考値 ※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイル フィルター交換
推奨： 弊社純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： 弊社純正モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	7.4 qt.（7.0 L, 6.2 Imp. qt.）	7.7 qt.（7.3 L, 6.4 Imp. qt.）

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

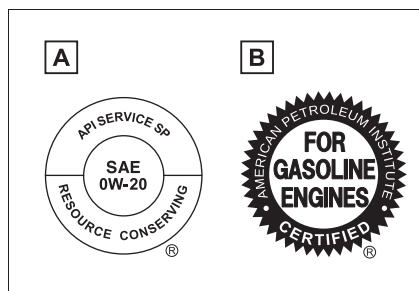
■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。

0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサクサーティフィケーション）マークが付いています。

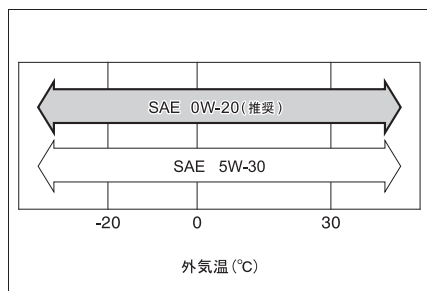


A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。

ラジエーター

容量 ※	ガソリンエンジン	13.1 qt. (12.4 L, 10.9 Imp. qt.)
	インタークーラー	4.6 qt. (4.4 L, 3.9 Imp. qt.)
指定銘柄	次のいずれかを使用してください： ●Toyota Super Long Life Coolant ●同等品 純水のみを使用しないでください。	

※ 容量は目安です。

交換が必要な際はトヨタ販売店にお問い合わせください。

オートマチックトランスミッション

容量 ※	11.7 qt. (11.1 L, 9.8 Imp. qt.)
指定銘柄	Toyota Genuine ATF WS

※ 容量は目安です。

交換が必要な際はトヨタ販売店にお問い合わせください。



注意

■ オートマチックトランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

トランスファー (4WD 車)

容量	2.17 qt. (2.05 L, 1.80 Imp.qt.)
指定銘柄	Toyota Genuine ATF WS

新車時に “Toyota Genuine ATF WS” が工場充填されています。
交換する際は、“Toyota Genuine ATF WS” または同等品をご使用ください。詳細はトヨタ販売店にお問い合わせください。

ディファレンシャル

容量	フロント (4WD 車)	1.4 qt. (1.29 L, 1.1 Imp.qt.)
	リヤ	▶ リヤディファレンシャルロック非搭載車 5.7 qt. (5.42 L, 4.8 Imp.qt.) ▶ リヤディファレンシャルロック搭載車 5.6 qt. (5.34 L, 4.7 Imp.qt.)
指定銘柄		Toyota Genuine Differential Gear Oil LT 75W-85 GL-5 または同等品

新車時に “Toyota Genuine Differential Gear Oil” が工場充填されています。
交換する際は、“Toyota Genuine Differential Gear Oil” または同等品をご使用ください。詳細はトヨタ販売店にお問い合わせください。

ブレーキ

踏み込んだときの床板とのすき間 ※ ¹	3.6 in. (93.3 mm)
遊び	0.04 — 0.24 in. (1 — 6 mm)
パーキングブレーキ表示灯の状態 ※ ²	パーキングブレーキスイッチを 1 ～ 2 秒間引いたとき：点灯する パーキングブレーキスイッチを 1 ～ 2 秒間押したとき：消灯する
指定銘柄	トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

※¹ エンジン回転時に 110 lbf (490 N, 50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値です。

※² ブレーキ警告灯（黄色）が点灯しないことを必ず確認してください。（ブレーキ警告灯が点灯した場合は、P.432 を参照してください。）

タイヤ・ホイール

▶ 18 インチタイヤ (タイプ A)

タイヤサイズ	245/75R18 112T, 245/75R18 112T (スペア)
タイヤが冷えているときの 空気圧	35 psi (240 kPa, 2.4 kgf/cm ² or bar) 36 psi (250 kPa, 2.5 kgf/cm ² or bar) (スペア)
ホイールサイズ	18 × 7 1/2 J, 18 × 7J (スペア)
ホイールナットの締め付け トルク	154 ft•lbf (209 N•m, 21.3 kgf•m)

▶ 18 インチタイヤ (タイプ B)

タイヤサイズ	265/70R18 116T, 245/75R18 112T (スペア)
タイヤが冷えているときの 空気圧	35 psi (240 kPa, 2.4 kgf/cm ² or bar) 36 psi (250 kPa, 2.5 kgf/cm ² or bar) (スペア)
ホイールサイズ	18 × 7 1/2 J, 18 × 7J (スペア)
ホイールナットの締め付け トルク	スチールホイール : 154 ft•lbf (209 N•m, 21.3 kgf•m) アルミホイール : 97 ft•lbf (131 N•m, 13.4 kgf•m)

▶ 18 インチタイヤ (タイプ C)

タイヤサイズ	265/70R18 116T, 265/70R18 116T (スペア)
タイヤが冷えているときの 空気圧	35 psi (240 kPa, 2.4 kgf/cm ² or bar)
ホイールサイズ	18 × 7 1/2 J, 18 × 7J (スペア)
ホイールナットの締め付け トルク	スチールホイール : 154 ft•lbf (209 N•m, 21.3 kgf•m) アルミホイール : 97 ft•lbf (131 N•m, 13.4 kgf•m)

▶ 20 インチタイヤ (タイプ A)

タイヤサイズ	265/60R20 112H, 245/75R18 112T (スペア)
タイヤが冷えているときの 空気圧	35 psi (240 kPa, 2.4 kgf/cm ² or bar) 36 psi (250 kPa, 2.5 kgf/cm ² or bar) (スペア)
ホイールサイズ	20 × 8J, 18 × 7J (スペア)
ホイールナットの締め付け トルク	スチールホイール : 154 ft•lbf (209 N•m, 21.3 kgf•m) アルミホイール : 97 ft•lbf (131 N•m, 13.4 kgf•m)

▶ 20 インチタイヤ (タイプ B)

タイヤサイズ	265/60R20 112H, 265/70R18 116T (スペア)
タイヤが冷えているときの 空気圧	35 psi (240 kPa, 2.4 kgf/cm ² or bar)
ホイールサイズ	20 × 8 1/2 J, 18 × 7J (スペア)
ホイールナットの締め付け トルク	スチールホイール : 154 ft•lbf (209 N•m, 21.3 kgf•m) アルミホイール : 97 ft•lbf (131 N•m, 13.4 kgf•m)

電球 (バルブ)

	電球	W (ワット) 数	タイプ
車外	フロント方向指示灯／車幅灯	28/8	A

A : ウェッジベース電球 (オレンジ)

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディアディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

設定を変更するには

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの〈ま〉または〈>〉を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチを操作して、カスタマイズしたい項目を選択します
- 3 メーター操作スイッチのOKを押してご希望の設定に切りかえる

前の画面にもどったり、設定を終了する場合は、 スイッチを押します。

■ マルチメディアディスプレイで設定するには

- 1 メインメニューの  をタッチする
- 2 “Vehicle customize” を選択する
- 3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

詳細設定の方法は、各画面ごとに異なります。画面に表示されているアドバイス文を参考に設定を行ってください。

⚠ 警告

■ カスタマイズ設定を行うとき

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ カスタマイズ設定を行うとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

- A** マルチメディアディスプレイの画面操作で設定変更可能
- B** マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- C** トヨタ販売店で設定変更可能

記号の意味：O＝使用可能、—＝使用不可

■ メーター・マルチインフォメーションディスプレイ (→P.73, 77, 81)

機能の内容 ※ ¹	カスタマイズ設定	A	B	C
言語 ※ ²	●English ●French ●Spanish	—	0	—
単位 ※ ²	●miles (MPG US) ●km (km/L) ●km (L/100 km) ●miles (MPG Imperial)	—	0	—
メーター表示 ※ ³	●Digital ●Analog ●Digital & Analog	—	0	—
燃費グラフ	●Total average (Average fuel consumption [after reset]) ●Trip average (Average fuel consumption [after start]) ●Tank average (Average fuel consumption [after refuel])	—	0	—
オーディオシステム連携表示	●On ●Off	—	0	—
ドライブインフォタイプ	●Trip (after start) ●Total (after reset)	—	0	—
ドライブインフォ項目 (1 行目)	●Distance ●Average vehicle speed ●Elapsed time	—	0	—
ドライブインフォ項目 (2 行目)	●Distance ●Average vehicle speed ●Elapsed time	—	0	—
割込表示	●On ●Off	—	0	—

※¹ 機能についての詳しい説明は P.85 を参照してください。

※² 初期設定は国によって異なります。

※³フル液晶ディスプレイ装着車のみ

■ ヘッドアップディスプレイ★ (→P.89)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ヘッドアップディスプレイ	●On ●Off	—	0	—
エコドライブインジケーター	●On ●Off	—	0	—
目的地／通り名へのルート案内	●On ●Off	—	0	—
運転支援システム表示★	●On ●Off	—	0	—
コンパス表示	●On ●Off	—	0	—
オーディオシステム表示	●On ●Off	—	0	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアロック (→P.99, 106, 458)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	●Driver' s door unlocked in one step, all doors unlocked in two step ●All doors unlocked in one step	—	—	0
シフト操作連動ドアロック	●Shift position linked door locking operation ●Speed linked door locking operation ●Off	0	—	0
シフト操作連動ドアアンロック	●Shift position linked door unlocking operation ●Driver' s door linked door unlocking operation ●Off	0	—	0

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通
(→P.99, 106, 119)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）	●Off ●1 ～ 7	0	—	0
作動の合図（非常点滅灯）	●On ●Off	0	—	0
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	●30 seconds ●60 seconds ●120 seconds	0	—	0
半ドア警告ブザー（車両を施錠したとき）	●On ●Off	—	—	0

■ スマートエントリー&スタートシステム (→P.99, 106, 119)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	●On ●Off	—	—	0
解錠されるドアの選択	●Driver' s door ●All the doors	0	—	0
全席解錠までの運転席ドアハンドル保持時間	●Off ●1.5 seconds ●2 seconds ●2.5 seconds	—	—	0
連続ロック操作の有効回数	●2 times ●As many as desired	—	—	0

■ ワイヤレスドアロック (→P.97, 99, 107)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ワイヤレス機能	●On ●Off	—	—	0
解錠時の操作	●Driver' s door unlocked in one step, all doors unlocked in two step ●All doors unlocked in one step	0	—	0
テールゲートの開操作	●One short press ●Push twice ●Press and hold (short) ●Press and hold (long) ●Off	—	—	0
パワーテールゲートの開閉操作★	●Single press ●Double press ●Press and hold ●Off	—	—	0
盗難防止パニックモード	●On ●Off	—	—	0
ドアオープン時の施錠操作	●On ●Off	0	—	0

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤシートリマインダー (→P.101)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
後席置き忘れ防止の表示	●On ●Off	—	0	—

■ テールゲート開放警告 (→P.108, 110)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
テールゲート開放警告	●On ●Off	—	0	—

■ パワータールゲート★ (→P.108)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
パワータールゲートの操作	☐ On ☐ Off	—	0	—
クローズアシスト	☐ On ☐ Off	—	—	0
テールランプおよびテールゲート ハンドルのオープナースイッチに よるパワータールゲート操作	☐ On ☐ Off (latch release only)	—	—	0
作動の合図 (ブザー)	☐ On ☐ Off	—	—	0
パワータールゲートブザー音量	☐ Low ☐ Medium ☐ High	—	0	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ポジションメモリー★ (→P.129)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メモリーコール機能と連動するド アの選択	☐ Driver's door ☐ All doors	—	—	0
降車時の運転席スライド動作	☐ Full ☐ Partial ☐ Off	0	—	0
ハンドルの操作・調整	☐ Tilt only ☐ Telescopic only ☐ Tilt and telescopic ☐ Off	0	—	0

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアミラー (→P.147)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
オート電動格納作動	●Linked to the locking/ unlocking of the doors ●Linked to operation of the engine switch ●Off	—	—	0

■ パワーウィンドウ、パノラマムーンルーフ★ (→P.150, 154)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メカニカルキー連動機能	●On ●Off	—	—	0
ワイヤレスリモコン連動機能	●On (open only) ●Off	—	—	0
ワイヤレスリモコン連動作動の合 図 (ブザー)	●On ●Off	—	—	0
サイドウィンドウ開警告制御	●On ●Off	—	—	0
スライディングルーフ開警告制御	●On ●Off	—	—	0

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 方向指示レバー (→P.178)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車線変更時のウインカーの点滅回 数	●Off ●3 ~ 7	—	—	0

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.185)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	●-2 ~ 2	0	—	0
ドア閉鎖後、ヘッドライトが自動消灯するまでの時間	●Off ●30 seconds ●60 seconds ●90 seconds	0	—	0
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	●On ●Off	—	—	0

■ ランプ (→P.185)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
デイトタイムランニングランプ	●On ●Off	0	—	0
おむかえ照明機能の制御★	●On ●Off	—	—	0

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.202)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ※	●On ●Off	—	0	—
警報タイミング	●Late ●Middle ●Early	—	0	—

※ エンジンスイッチを ON にするたびに、システムは自動的に作動します。

■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.213）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車線中央維持機能	●On ●Off	—	0	—
警報手段	●Steering wheel vibration ●Buzzer	—	0	—
警報感度	●Standard ●High	—	0	—
ふらつき警報機能	●On ●Off	—	0	—
ふらつき警報機能の感度	●Low ●Standard ●High	—	0	—

■ RSA（ロードサインアシスト）★（→P.222）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RSA（ロードサインアシスト）機能	●On ●Off	—	0	—
制限速度超過告知	●No notification ●Display only ●Display and buzzer	—	0	—
制限速度超過の告知車速	●1 mph（2 km/h） ●3 mph（5 km/h） ●5 mph（10 km/h）	—	0	—
その他告知方法（進入禁止通知）	●No notification ●Display only ●Display and buzzer	—	0	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ Stop & Start システム (→P.235)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
エアコン作動時のストップ&スタートシステム作動時間の変更	●Standard ●Extended	—	0	—

■ BSM (ブラインドスポットモニター) ★ (→P.241)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	●On ●Off	—	0	—
ドアミラーインジケータの明るさ	●Bright ●Dim	—	0	—
接近車両を知らせるタイミング (感度)	●Late ●Intermediate ●Early ●Only when vehicle detected in blind spot	—	0	—

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー★ (→P.247)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
クリアランスソナー機能	●On ●Off	—	0	—
ブザー音量	●Level 1 ~ Level 3	—	0	—

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA (リヤクロストラフィックアラート) ★ (→P.254)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RCTA (リヤクロストラフィックアラート) 機能	●On ●Off	—	0	—
ブザー音量	●Level 1 ~ Level 3	—	0	—

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン (→P.354)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる	●On ●Off	0	—	0

■ イルミネーション (→P.363)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
室内灯およびラゲージランプが自動で消灯するまでの時間	●Off ●7.5 seconds ●15 seconds ●30 seconds	0	—	0
エンジンスイッチ OFF 後のパーソナル／室内灯の作動	●On ●Off	—	—	0
ドア解錠時のパーソナル／室内灯の作動	●On ●Off	—	—	0
電子キーを携帯した状態で車両に接近した際のパーソナル／室内灯の作動	●On ●Off	—	—	0
アンビエントライト★	●On ●Off	—	—	0

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブモードセレクトスイッチ★ (→P.326)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
カスタムモード時のパワートレイン制御★	●Eco ●Normal ●Power	0	—	—
カスタムモード時のサスペンション制御★	●Comfort ●Normal ●Sport	0	—	—
カスタムモード時のステアリング制御★	●Normal ●Sport	0	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 車両カスタマイズについて

- スマートエントリー&スタートシステムが“Off”の場合、エントリー機能はカスタマイズできません。
- ドア解錠後にドアを閉じたままにすると、タイマーによる自動ドアロック機能が作動し、操作ブザー音量や操作信号（ハザードランプ）機能設定に応じて信号が発生します。
- 一部の設定はスイッチやマルチメディアシステムで変更可能です。スイッチで設定を変更した場合、変更内容はエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にするまでマルチメディアシステムに反映されません。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
PKSB（パーキングサポートブレーキ）★	・ バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.264
タイヤ空気圧警報システム	・ 走行速度や積載重量の変更などにより、タイヤの空気圧が変化したとき ・ タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったとき ・ タイヤローテーションを実施したとき ・ ID コードの登録を実施したとき	P.405
バックガイドモニター★	・ バッテリーが再装着されたとき	P.278, 310, 322
パノラミックビューモニター★	・ バッテリーの再装着中にハンドルが動かされたとき	
マルチテレインモニター★	・ バッテリー残量が少なくなってきたとき	
パワーテールゲート★	・ テールゲートを再装着したとき ・ バッテリーが再装着されたとき ・ 挟み込み防止機能が作動したとき ・ メーター操作スイッチを使用してテールゲートシステムの電源を ON にしたとき	P.111, 445

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

		489
さくいん		
こんなときは（症状別さくいん）		
.....	490	
五十音順さくいん	493	

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。（→P.457）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.457）



電子キーが正常に動作しない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.414）



施錠・解錠できない

- エンジンスイッチが ON になっていませんか？

施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→P.171）

- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.121）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.102）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.169）
- シフトレバーは P になっていませんか？（→P.169）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.120）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→P.459）

- バッテリーがあがっていませんか？（→P.460）



ブレーキペダルを踏んでいても
シフトレバーが P から動かない

- エンジンスイッチは ON になっていますか？

エンジンスイッチが ON でブレーキを踏んでも解除できないとき（→P.175）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？

ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→P.152）



エンジンスイッチが自動的に
OFF になった

- 一定時間 ACC または ON（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.172）



走行中に警告ブザーが鳴った

- シートベルト非装着灯が点滅している

運転席と助手席の乗員はシートベルトを着用していますか？（→P.438）

- パーキングブレーキ表示灯が点灯している

パーキングブレーキは解除されていますか？（→P.179）

状況によっては他の警告ブザーが

鳴る場合もあります。（→P.432, 442）



オートアラームが作動してホーン（警音器）が鳴る

- オートアラームを設定中に車内に残った人がドアを開けましたか？

センサーが感知してオートアラームが作動します。（→P.65）

オートアラームを解除または停止するには、次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- エンジンスイッチを ACC または ON にするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）



車から離れると警告ブザーが鳴る

- マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されていますか？

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージを確認してください。（→P.432）



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.432、442 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→P.446）



立ち往生した

- めかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.466）

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	460
アームレスト.....	384
アウターミラー（ドアミラー）.....	147
格納のしかた.....	148
操作.....	147
ブラインドスポットモニター（BSM）.....	241
ポジションメモリー.....	129
ミラーヒーター.....	356
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）	254
アクセサリーコンセント.....	385
アクセサリーソケット.....	384
アクティブフロントスポイラー.....	347
アシストグリップ.....	384
足元照明.....	363
アダプティブバリアブルサスペンション システム（AVS）.....	342
アラーム	
警告ブザー.....	432
アンカーブラケット（トップテザースト ラップ）.....	54
アンチロックブレーキシステム（ABS）	342
警告灯.....	433
アンテナ（スマートエントリー&スター トシステム）.....	119

い

イグニッションスイッチ（エンジンス イッチ）	
エンジンのかけ方.....	169
自動電源 OFF 機能.....	172

車両を緊急停止するには.....	426
モードの切りかえ.....	171
イモビライザーシステム.....	64
インジケーター（表示灯）.....	70
インタークーラー	
容量.....	471
インテリアランプ.....	363
インナーミラー.....	138, 139

う

ウインカー（方向指示灯）	
電球（バルブ）の交換.....	420
方向指示レバー.....	178
ワット数.....	474
ウインドウ	
ウォッシャー.....	191
パワーウインドウ.....	150
パワーバックウインドウ.....	153
リヤウインドウデフォグガー.....	356
ウインドウロックスイッチ.....	152
ウォッシャー	
液の補充.....	400
冬の前の準備・点検.....	349
フロント.....	191
リヤ.....	191
動けなくなったときは（スタック）.....	466
運転	
運転を補助する装置.....	342
寒冷時の運転.....	349
正しい運転姿勢.....	27
手順.....	161
運転支援機能情報表示.....	84
運転席シートベルト非着用警告灯 ...	438

え

エアコン	
フィルターの清掃	412
フロント席集中送風モード (S-FLOW)	
.....	358
エアコン・デフォッガー	356
エアサスペンション	323
エアバッグ	35
SRS エアバッグ警告灯	433
カーテンシールドエアバッグ作動条件 ..	38
カーテンシールドエアバッグの注意	40
改造・廃棄	43
サイドエアバッグ作動条件	38
サイドエアバッグの注意	40
作動条件	37, 38
助手席乗員検知システム	44
正しい姿勢	27
配置	35
エコドライブインジケーター	83, 92
S-FLOW	
フロント席集中送風モード	358
LED デイタイムランニングランプ ..	185
LTA (レーントレーシングアシスト)	
警告メッセージ	222
操作	213
エレクトリックパワーステアリング	
(EPS)	
機能	342
警告灯	434
エンジン	
エンジンがかからない (エンジンが始動で	
きない)	456
エンジンスイッチ	169
エンジンの始動方法	169
オーバーヒート	464

緊急始動機能	456
緊急時の停止方法	426
ボンネット	400
エンジンオイル	470
警告灯	433
メンテナンスデータ	470
容量	470
エンジンスイッチ	
エンジンのかけ方	169
自動電源 OFF 機能	172
車両を緊急停止するには	426
モードの切りかえ	171
エンジンスイッチ照明	363
エンジンフード (ボンネット)	400
エンジンルーム	
エンジンルームから蒸気が出ている ...	464

お

オイル (エンジンオイル)	470
オーディオシステム連携表示	84
オートアラーム	65
オートエアコン	354
オートエアコン	354
AUTO LSD	330
オートマチックトランスミッション	
.....	173, 471
S モード	175
TOW HAUL スイッチ	173
容量	471
オートマチックハイビーム	188
オートレベリングシステム (ヘッドラン	
プ)	186
オーバーヒート	464
オープナー	
テールゲート	107, 108
ボンネット	400

お子さまを乗せるとき	49
ウインドウロックスイッチ	152
エアバッグの注意	40
お子さまの安全のために	49
キーの電池	415
シートヒーターの注意事項	361
シートベルトの着用	29, 30
ステアリングホイールの注意事項	361
チャイルドシート	49
チャイルドシートの取り付け	49
バッテリーに関する警告	463
パノラマムーンルーフ	156
パワーウインドウに関する警告	151
パワーバックウインドウ	153
リヤドアチャイルドプロテクター	102
オドメーター／トリップメーターディス プレイ	
表示項目	75, 79

か

カーゴランプ	363, 365
電球（バルブ）の交換	420
カーテンシールドエアバッグ	35
カーペット	
フロアマットの取り付け方	26
外気温度表示	73, 77, 92
外装の電球（バルブ）	419, 420
交換要領	419, 420
ワット数	474
カスタマイズ機能	475
カップホルダー	367
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデ フォグガー）	356
寒冷時の運転	349

き

キー	96
エンジンが始動できない	456
キーナンバープレート	96
キーレスエントリー	97, 99, 119
キーをなくした	457
警告ブザー	120
スマートエントリー&スタートシステム	106
正常に働かない	458
施錠・解錠ができない	458
節電機能	120
電子キー	96
電池が切れた	414
メカニカルキー	96, 98
ワイヤレスリモコン	97
キーレスエントリー	
スマートエントリー&スタートシステム	119
ワイヤレスドアロック	97
給油	195
給油のしかた	195
メンテナンスデータ	470
緊急時シートベルト固定機構	31, 33
緊急始動機能	456
緊急時の対処	
エンジンが始動できない	456
オーバーヒートした	464
キーの電池が切れた	414, 458
キーをなくした	457
警告灯がついた	432
警告メッセージが表示された	442
けん引	429
故障したときは	424

車中泊が必要なときは	428
車両を緊急停止する	426
水没したときは.....	427
水没・冠水した.....	427
スタックした.....	466
電子キーが正常に働かない	458
バッテリーがあがった	460
パンクした	446
ヒューエルポンプシャットオフシステム	431

<

空気圧 (タイヤ)	473
タイヤ空気圧警報システム	403
曇り取り	
フロントガラス.....	356
ミラーヒーター.....	356
リヤウインドウデフォグガー	356
クラクション (ホーン).....	137
クリアランスソナー	247
警告灯	435
警告ブザー	253
警告メッセージ.....	249
操作	248
クリアランスランプ (車幅灯)	185
スイッチ	185
電球 (バルブ) の交換	420
クリップ	
フロアマット.....	26
クルーズコントロール	
レーダークルーズコントロール (全車速追 従機能付き).....	225
グローブボックス	367
グローブボックス照明.....	363
クロールコントロール.....	333

け

警音器 (ホーン)	137
計器類 (メーター)	73, 77
警告灯	69, 432
RCTA OFF 表示灯.....	435
エアサスペンション異常表示灯	438
ABS & ブレーキアシスト	433
SRS エアバッグ	433
LTA 表示灯	434
エンジン	433
クリアランスソナー OFF 表示灯.....	435
高水温	432
シートベルト非着用	438
充電	432
Stop & Start キャンセル表示灯.....	434
スリップ表示灯	436
タイヤ空気圧.....	437
ドライブスタートコントロール.....	436
トレーラーブレーキ警告灯.....	439
燃料残量	437
パワーステアリング	434
PKSB OFF 表示灯	435
PCS	434
ブレーキ	432
ブレーキオーバーライドシステム	436
ブレーキホールド作動表示灯....	436, 437
油圧	433
リヤデフロック作動表示灯.....	437
警告ブザー	
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	435
SRS エアバッグ.....	433
LTA (レーントレーシングアシスト)213, 216, 434	

エンジン	433
クリアランスソナー	435
高水温	432
シートベルト非着用	438
シフトダウン制限警告ブザー	176
車線逸脱抑制機能	221
衝突警報	202
接近警報	231
手放し運転警告 (LTA)	221
ドアガラスを開ける	151
ドアの解錠	100
ドライブスタートコントロール	436
パーキングブレーキ未解除走行時	181
パワーステアリング	434
半ドア	102
PKSB (パーキングサポートブレーキ)	435
ブリクラッシュセーフティ	434
ブリクラッシュブレーキ	202
ブレーキ	432
ブレーキオーバーライドシステム	436
ブレーキホールド	436, 437
油圧	433
警告メッセージ	442
傾斜計	80, 84
けん引	
トレーラータイプの設定	86

こ

交換	
キーの電池	414
電球 (バルブ)	419
ヒューズ	416
航続可能距離	83

後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	420
コートフック	384
小物入れ	369
コンソールボックス	369

さ

サイドウインドウ	150
サイドエアバッグ	35
サイド方向指示灯	178
電球 (バルブ) の交換	420
方向指示レバー	178
サイドマーカーランプ	
電球 (バルブ) の交換	420
ランプスイッチ	185
サイドミラー (ドアミラー)	147
格納のしかた	148
操作	147
ブラインドスポットモニター (BSM)	241
ポジションメモリー	129
ミラーヒーター	356
リヤクロストラフィックアラート (RCTA)	254
サンバイザー	390

し

シート	124, 126
シートヒーター	361
シートベンチレーター	361
正しい運転姿勢	27
チャイルドシート	49
調整	124
手入れ	397

パワーイーザーアクセスシステム.....	129
フロントシートリフレッシュシステム	125
ヘッドレスト.....	133
ポジションメモリー.....	129
メモリーコール機能.....	129
シートヒーター.....	361
シートベルト.....	29
お子さまの着用.....	29, 30
緊急時シートベルト固定機構.....	31, 33
高さ調節.....	33
正しく着用するには.....	30
チャイルドシート固定機構付シートベルト.....	31, 33
チャイルドシートの取り付け.....	51
着け方.....	31
着け方・はずし方.....	30
手入れ.....	397
妊娠中の方の着用.....	29
はずし方・格納のしかた.....	32
非着用警告灯.....	438
シートベルト非着用警告灯.....	438
シートベルトプリテンショナー.....	34
機能.....	34
プリテンショナー警告灯.....	433
シートベンチレーター.....	361
室内灯（インテリアランプ）.....	363
始動のしかた.....	169
シフトレバー.....	173
シフトポジションの切りかえ.....	174
操作.....	173
シフトレバー照明.....	363
シフトロックシステム.....	175
車中泊が必要なときは.....	428

車幅灯	
電球（バルブ）の交換.....	420
ランプスイッチ.....	185
車両仕様（スペック）.....	470
車両情報表示.....	84
車両を緊急停止するには.....	426
充電用 USB 端子.....	376
瞬間燃費.....	83
仕様（車両仕様）.....	470
初期化.....	487
タイヤ空気圧警報システム.....	405
パワーウインドウ.....	150
初期設定.....	487
PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....	264
助手席シートベルト非着用警告灯 ...	438
助手席乗員検知システム.....	44

す

水温計.....	73, 77
スイッチ	
イグニッション.....	169
ウインドウロック.....	152
エアコン・デフォグガー.....	356
LTA（レーントレーシングアシスト）ス イッチ.....	218
エンジンスイッチ.....	169
オートマチックハイビーム.....	188
カーゴランプ.....	365
シートヒーター.....	361
車間距離切りかえスイッチ.....	226
車高調整スイッチ.....	323
ステアリングヒーター.....	361

TOW HAUL スイッチ	176	レーダークルーズコントロール（全車速追 従機能付き）スイッチ	226
DAC/CRAWL スイッチ	333, 339	ワークランプ	365
テールゲートオープナースイッチ	107, 109	水没・冠水したときは	427
ドアミラー	147	スタック	466
ドアロック	101	Stop & Start キャンセルスイッチ	235
ドライブモードセレクト	326	ステアリングヒーター	361
TRAC OFF	343	ステアリングホイール（ハンドル）	136
パーキングブレーキ	179	位置調整	136
ハザードランプ	425	ステアリングヒーター	361
パノラマムーンルーフ	154	パワーイージアクセスシステム	129
パワーウインドウスイッチ	150	ポジションメモリー	129
パワーステップスイッチ	105, 118	メーター操作スイッチ	82
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	261	Stop & Start キャンセル表示灯 警告灯	434
非常点滅灯（ハザードランプ）	425	Stop & Start システム情報	88
VSC OFF	343	ストレージボックス	370
フォグランプ	188	スノータイヤ（冬用タイヤ）	349
ブレーキホールドスイッチ	182	スピードメーター	73, 77
フロントワイパーデアイサー	359	スペアタイヤ	
ヘッドアップディスプレイスイッチ	90	空気圧	473
ベンチレーター（シートベンチレーター）	361	スペック（車両仕様）	470
ホーン（警音器）	137	スマートエントリー&スタートシステム	119
ポジションメモリー	129	アンテナの位置	119
MTS スイッチ	336, 337	エンジンの始動	169
メーター操作スイッチ	82	エントリー機能	99
モードセレクトスイッチ	333, 336, 337, 339	キーレスエントリー	106
4WD スイッチ	328	緊急始動機能	456
ランプ	185	正常に働かないとき	458
リヤウインドウデフォグガー	356	スモールランプ（車幅灯）	
リヤデフロック	331	電球（バルブ）の交換	420
		ランプスイッチ	185

せ

清掃

アルミホイール.....	394
外装.....	394
シートベルト.....	397
内装.....	397
ホイールキャップ.....	394
レーダー.....	198

セカンダリーコリジョンブレーキ（前突時の二次衝突軽減）.....	342
積算距離計（オドメーター）.....	75, 79
接近警報.....	231
センサー	

PCS（プリクラッシュセーフティ）....	198
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....	242
インナーミラー.....	139
雨滴感知センサー.....	193
LTA（レーントレーシングアシスト）.....	213
オートマチックハイビーム.....	188
クリアランスソナー.....	247
パーキングサポートブレーキ（静止物）.....	247
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....	242
BSM（ブラインドスポットモニター）.....	242
ライトセンサー.....	185
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....	198
レーダーセンサー.....	198
洗車.....	394
前照灯（ヘッドランプ）.....	185
オートレベリングシステム.....	186
電球（バルブ）の交換.....	420

マニュアルレベリングシステム.....	187
ライトセンサー.....	185
ランプ消し忘れ防止機能.....	186
ランプスイッチ.....	185

センターコンソール内照明.....	363

そ

走行距離.....	84
走行時間.....	84
走行情報表示.....	83
走行モード（ドライブモード）.....	326
送信機（タイヤ空気圧警報システム）.....	403

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）.....	178
電球（バルブ）の交換.....	420
方向指示レバー.....	178
タイヤ.....	401
空気圧.....	410, 473
警告灯.....	437
サイズ.....	473
チェーン.....	350
点検.....	401
パンク応急修理キット.....	446
パンクしたときは.....	446
ローテーション（位置交換）.....	403
タイヤが空まわりする（スタックした）.....	466
タイヤ空気圧	
警告灯.....	437

タイヤ空気圧警報システム	403
ID コードの登録	407
機能について	403
空気圧バルブ/送信機について	405
空気圧表示画面	403
警告灯	437
初期化	405
タイヤセットの選択	409
TOW HAUL スイッチ	176
ダウンヒルアシストコントロールシステム	339

ち

チェーン (タイヤチェーン)	350
チャイルドシート	49
LATCH アンカーでの取り付け	56
アンカーブラケット (トップデザースト ラップ) の使用	54
シートベルトでの固定	59
助手席乗員検知システム	44
チャイルドプロテクター	102
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)	179
未解除走行時警告ブザー	181

つ

ツール (工具)	447

て

ディスプレイ	
LTA (レーントレーシングアシスト)	218
クリアランスソナー	247

警告メッセージ	442
ヘッドアップディスプレイ	89
マルチインフォメーションディスプレイ	81
レーダークルーズコントロール (全車速追 従機能付き)	225
デイトタイムランニングランプ	
電球 (バルブ) の交換	420
ディファレンシャル	472
容量	472
手入れ	
アルミホイール	394
外装	394
シートベルト	397
内装	397
ホイールキャップ	394
レーダー	198
テールゲート	106
テールゲートの取り外し	113
パワーテールゲート	108
テールゲートオープナー	107
テールゲートオープナースイッチ ...	109
テールランプ (尾灯)	185
電球 (バルブ) の交換	420
ランプスイッチ	185
デジタルインナーミラー	139
デフォッガー (リヤウインドウデフォッ ガー)	356
電圧計	73, 77
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	419, 420
点検基準値 (メンテナンスデータ)	470
電子キー	96
正常に働かないとき	458
節電機能	120

電池が切れた.....	458
電池交換	414
電子制御エアサスペンション	323
電池交換（キー）.....	414
電動サンシェード	154

と

ドア	99
オートドアロック・アンロック機能...	102
スマートエントリー&スタートシステム	119
チャイルドプロテクター	102
ドアガラス	150
ドアの解錠警告ブザー	100
ドアロックスイッチ	101
ドアカーテシランプ	363
ドアミラー	147
格納のしかた.....	148
操作	147
ミラーヒーター.....	356
ドアロック	
サイドドア	99
Tow ゲージ	80
盗難防止装置	
イモビライザーシステム	64
オートアラーム.....	65
時計	73, 77
Toyota Safety Sense.....	198
RSA（ロードサインアシスト）.....	222
AHB（オートマチックハイビーム）....	188
LTA（レーントレーシングアシスト）.	213
PCS（プリクラッシュセーフティ）....	202
レーダークルーズコントロール（全車速追 従機能付き）.....	225

ドライブインフォメーション.....	84
ドライブスタートコントロール	167
ドライブモードセレクトスイッチ ...	326
トラクションコントロール（TRAC）	342
トランスファー	472
容量	472
トランスミッション	173
操作	174
トリップメーター	75, 79
トレーラータイプの設定.....	86
トレーラーのけん引	
トレーラータイプの設定	86
トレーラーヒッチランプ.....	363
電球（バルブ）の交換	420

な

内装	
収納装備	366
手入れ	397
ナビゲーションシステム連携表示	84

に

ニーエアバッグ	35
荷台	371
荷台用仕切り板	373
荷物	
積むときの注意	168
荷台装備	371

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）.....	466

ね

燃費	
瞬間燃費	83
平均燃費	83
燃費画面	93
燃費グラフ	83
燃料	470
給油	195
種類	470
燃料計	73, 77
燃料残量警告灯	437
容量	470
燃料計	73, 77

は

パーキングサポートブレーキ	
警告灯	435
パーキングサポートブレーキ (PKSB)	
.....	259
警告メッセージ	263
操作	261
パーキングサポートブレーキ (後方接近車 両)	267
パーキングサポートブレーキ (静止物)	264
パーキングブレーキ	179
ブレーキ警告灯	432
未解除走行時警告ブザー	181
パーソナルランプ	363, 364
排気ガス	48
ハイビーム (ヘッドランプ)	185
電球 (バルブ) の交換	420
ランプスイッチ	185

ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換	420
ハザードランプ (非常点滅灯)	425
スイッチ	425
電球 (バルブ) の交換	420
ワット数	474
挟み込み防止機能	
電動サンシェード	155
パノラマムーンルーフ	155
パワーウインドウ	150
パワーテールゲート	111
パワーランニングボード	104
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	420
バックウインドウ	
パワーバックウインドウ	153
バックガイドモニター	269
運転時の注意事項	269
画面表示	270
距離目安線モード	273
知っておいていただきたいこと	278
駐車ガイド線モード	273
バックガイドモニターの注意事項	274
バックガイドモニターを使用する	271
予想進路線モード	272
バッテリー	
警告灯	432
バッテリーがあがった	460
冬の前の準備	349
パニックモード	98
バニティミラー	390
バニティライト	390
パノラマムーンルーフ	154

パノラミックビューモニター	280
運転時の注意事項	280
カメラスイッチについて	282
画面表示	283
画面を拡大表示する	299
知っておいていただきたいこと	310
車両後方と車両周囲を確認する	290
車両前方と周囲を確認する	285
車両の周囲を確認する	284
荷台を確認する	299
パノラミックビューモニターの注意事項	300
ボデーカラーを設定する	300
メニューボタンについて	282
バルブ（電球）	
交換要領（外装のバルブ）	420
ワット数	474
パワーイーザーアクセスシステム ...	129
パワーウインドウ	
ウインドウロックスイッチ	152
操作	150
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 ...	151
挟み込み防止機能	150
パワーステアリング	342
警告灯	434
パワーテールゲート	
ワイヤレスリモコン	108
パワーバックウインドウ	153
パワーベッドステップ	117
パワーランニングボード	103
パンクした	446
番号灯（ライセンスプレートランプ）	185
ランプスイッチ	185
ハンドル（ステアリングホイール）	136
位置調整	136
メーター操作スイッチ	82

ひ

PKSB（パーキングサポートブレーキ）	259
警告メッセージ	263
操作	261
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）	267
パーキングサポートブレーキ（静止物）	264
PCS（プリクラッシュセーフティ）	202
機能	202
操作	205
ヒーター	
オートエアコン	354
シートヒーター	361
ステアリングヒーター	361
ミラーヒーター	356
非常点滅灯（ハザードランプ）	425
スイッチ	425
電球（バルブ）の交換	420
ワット数	474
尾灯（テールランプ）	185
電球（バルブ）の交換	420
ランプスイッチ	185
ヒューエルポンプシャットオフシステム	431
ヒューズ	416
表示灯	70
ヒルスタートアシストコントロール	342

ふ

ブーストメーター	80
フォグラмп	
電球（バルブ）の交換	420

ベッドランプ	363
電球（バルブ）の交換	420
ヘッドランプオートレベリングシステム	186
ヘッドレスト	133
ベンチレーター（シートベンチレーター）	361

ほ

ホイール	
サイズ	473
ホイールロックナット	448
方向指示灯	178
電球（バルブ）の交換	420
方向指示レバー	178
ホーン（警音器）	137
ポジションメモリー	129
パワーイーザーアクセスシステム	129
メモリーコール機能	131
ボトルホルダー	368
ボンネット	
開け方	400

ま

マルチインフォメーションディスプレイ	81
運転支援機能情報表示	84
エコドライブインジケーター	83
LTA（レーントレーシングアシスト）	218
オーディオシステム連携	84
クリアランスソナー	247
警告メッセージ	442
車両情報表示	84
Stop & Start システム情報	88

設定	85
走行情報表示	83
タイヤ空気圧	403
トレーラータイプの設定	86
ナビゲーションシステム連携	84
燃費グラフ	83
メーター操作スイッチ	82
メニューアイコン	81
レーダークルーズコントロール（全車速追 従機能付き）	225

マルチテレインセレクト.....336

マルチテレインモニター

オート表示モード	315
カメラスイッチ	312
画面表示の見方や機能などについて	315
知っておくべきこと	322
マルチテレインモニターについて	312
マルチテレインモニターの注意事項	322
メニューボタン	313

み

ミラー

インナーミラー	138
デジタルインナーミラー	139
ドアミラー	147
バニティミラー	390
ミラーヒーター	356

め

メーター

計器類	73, 77
警告灯	69, 432
警告メッセージ	442
傾斜計	80, 84

照度調整	76, 80
設定	85
電圧計	73, 77
Tow ゲージ	80
時計	73, 77
表示灯	70
ブーストメーター	80
マルチインフォメーションディスプレイ	81
メーター操作スイッチ	82
油圧計	73, 77
メーター照度調整	76, 80
メーター操作スイッチ	82
メカニカルキー	98
メニューアイコン	81
メンテナンスデータ	470

も

モード選択スイッチ	
TOW HAUL スイッチ	176

ゆ

油圧計	73, 77
雪道ですべて動けない (スタックした)	466
油脂類	470

よ

4WD システム	328

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)	185
ランプスイッチ	185

ライト	
バニティライト	390
ラジエーター	
オーバーヒート	464
容量	471
ランプ	
オートマチックハイビーム	188
室内灯	363, 364
電球 (バルブ) の交換	419
非常点滅灯 (ハザードランプ)	425
フロントフォグランプ	188
ヘッドランプ (前照灯)	185
方向指示灯 (ターンシグナルランプ/ウィンカー)	178
ライトセンサー	185
ランプ消し忘れ防止機能	186
ランプ消し忘れ防止機能	186

り

リヤウインドウデフォッガースイッチ	356
リヤクロストラフィックアラート (RCTA)	254
警告メッセージ	255
操作	255
リヤサンシェード	390
リヤシート	126
シートクッションを持ち上げる・もどす	127
シートヒーター	361
背もたれを倒す・もどす	126
ヘッドレスト	133
ベンチレーター	361
リヤ席シートベルト非着用警告灯 ...	438
リヤデフロック	331

リヤ方向指示灯	178
電球（バルブ）の交換	420
方向指示レバー	178

る

ルームミラー（インナーミラー）...	138, 139

れ

冷却水	471
冬の前の準備	349
冷却装置（ラジエーター）	471
オーバーヒート	464
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）	225
警告メッセージ	233
接近警報	231
レーントレーシングアシスト（LTA）	213
レーントレーシングアシスト（LTA）	
警告灯	434
警告メッセージ	222
操作	213
レバー	
シフト	173
方向指示	178
ボンネット解除	400

ろ

ロードサインアシスト (RSA)	222
ロック	
ウインドウロック	152
スマートエントリー&スタートシステム	119

ドア	99
ワイヤレスリモコン	97

わ

ワークランプ	363, 365
ワイパー&ウォッシャー	
ウォッシャー液の補充	400
フロント	191
リヤ	191
ワイヤレス充電器	377
ワイヤレスリモートコントロール	
節電機能	120
ワイヤレスリモコン	
操作	97
電池の交換	414
半ドア警告ブザー	102
ワックス	394

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

- ・ナビゲーションシステム
- ・オーディオ

認証情報**スマートエントリー&スタートシステム／エンジンイモビライザーシステム**

- ▶ For vehicles sold in the U.S.A.

FCC ID:NI4TMLF19D-1

FCC ID:HYQ14FBX

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

- ▶ For vehicles sold in Canada

IC: 2842A-TMLF1901

IC: 1551A-14FBX

This device complies with Industry Canada's licence-exempt RSSs. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause interference; and (2) This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes : 1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage; 2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

Toyota Safety Sense

- For vehicles sold in the U.S.A., Hawaii, Guam, Puerto Rico, A.Samoa and Saipan

Radiofrequency radiation exposure Information:

This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of 20 cm between the radiator and your body.

This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

FCC Notice

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

- For vehicles sold in Canada

This device contains licence-exempt transmitter(s)/receiver(s) that comply with Innovation, Science and Economic Development Canada's licence-exempt RSS(s). Operation is subject to the following two conditions:

- (1) This device may not cause interference.
- (2) This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

Radiofrequency radiation exposure information:

This equipment complies with radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of 20 cm between the radiator and your body.

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes :

- (1) L'appareil ne doit pas produire de brouillage;
- (2) L'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

Informations sur l'exposition aux rayonnements radiofréquences:
Cet équipement est conforme aux limites d'exposition aux rayonnements définies pour un environnement non contrôlé. Cet équipement doit être installé et utilisé avec un minimum de 20 cm de distance entre la source de rayonnement et votre corps.

BSM (ブラインドスポットモニター)

- For vehicles sold in the U.S.A., Hawaii, Guam, Puerto Rico, A.Samoa and Saipan

FCC ID : OAYSRR3A

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- (1) This device may not cause harmful interference, and
- (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

FCC Warning

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

► For vehicles sold in Canada

This device contains licence-exempt transmitter(s)/receiver(s) that comply with Innovation, Science and Economic Development Canada's licence-exempt RSS(s). Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause interference.
2. This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

Radiofrequency radiation exposure information:

This equipment complies with radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of 20 cm between the radiator and your body.

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes:

1. L'appareil ne doit pas produire de brouillage;
2. L'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

Informations sur l'exposition aux rayonnements radiofréquences:

Cet équipement est conforme aux limites d'exposition aux rayonnements définies pour un environnement non contrôlé. Cet équipement doit être installé et utilisé avec un minimum de 20 cm de distance entre la source de rayonnement et votre corps.

クリアランスソナー

- ▶ For vehicles sold in the U.S.A., Hawaii, Guam, Puerto Rico, A.Samoa and Saipan

Product name : Intuitive parking assist

Compliance statement : This device complies with part 18 of the FCC Rules.

Responsible Party : DENSO International America, Inc.

24777 Denso Drive, P.O. Box 5047, Southfield,
Michigan 48033-5244, U.S.A.

<https://www.denso.com/us-ca/en/about-us/company-information/diam/>

- ▶ For vehicles sold in Canada

This ISM device complies with Canadian ICES-001.

Cet appareil ISM est conforme à la norme NMB-001 du Canada.

ワイヤレス充電器

- ▶ For vehicles sold in the U.S.A., Hawaii, Guam, Puerto Rico, A.Samoa and Saipan

FCC ID: ACJ932AT2501

NOTE:

This device complies with part 15 and part 18 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

FCC CAUTION

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment. This equipment has been tested and found to comply with the limits for a wireless power charger, pursuant to part 18 of the FCC Rules. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio communications, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.

The available scientific evidence does not show that any health problems are associated with using low power wireless devices. There is no proof, however, that these low power wireless devices are absolutely safe. Low power wireless devices emit low levels of radio frequency energy (RF) in the microwave range while being used. Whereas high levels of RF can produce health effects (by heating tissue), exposure of low-level RF that does not produce heating effects causes no known adverse health effects. Many studies of low-level RF exposures have not found any biological effects. Some studies have suggested that some biological effects might occur, but such findings have not been confirmed by additional research.

AT2501 has been tested and found to comply with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment and meets the FCC radio frequency (RF) Exposure Guidelines.

The contact information for maintenance is described in the car manual by the manufacturer of the car in which this wireless charger is installed.

FCC ID : ACJ932AT2301

NOTE:

This device complies with part 15 and part 18 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

FCC CAUTION

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment. This equipment has been tested and found to comply with the limits for a wireless power charger, pursuant to part 18 of the FCC Rules. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and,

if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio communications, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.

This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment and meets the FCC radio frequency (RF) Exposure Guidelines. This equipment should be installed and operated keeping the radiator at least 20cm or more away from person's body.

► For vehicles sold in Canada

NOTE:

This device contains licence-exempt transmitter(s)/receiver(s) that comply with Innovation, Science and Economic Development Canada's licence-exempt RSS(s). Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause interference. (2) This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes :

- 1) L'appareil ne doit pas produire de brouillage;
- 2) L'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

CAUTION:

This equipment complies with ISED radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment and meets RSS-102 of the ISED radio frequency (RF) Exposure rules. This equipment should be installed and operated keeping the radiator at least 20cm or more away from person's body.

Cet équipement est conforme aux limites d'exposition aux rayonnements énoncées pour un environnement non contrôlé et respecte les règles d'exposition aux fréquences radioélectriques (RF) CNR-102 de l'ISDE.

Cet équipement doit être installé et utilisé en gardant une distance de 20 cm ou plus entre le radiateur et le corps humain.

タイヤ空気圧警報システム

“Perchlorate Material – special handling may apply, See www.dtsc.ca.gov/hazardouswaste/perchlorate.”

- ▶ For vehicles sold in the U.S.A., Hawaii, Guam, Puerto Rico, A.Samoa and Saipan

FCC ID: PAXPMVE005

NOTE

This device complies with part 15 of the FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

- (1) This device may not cause harmful interference, and
- (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

FCC WARNING

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

- For vehicles sold in Canada

NOTE

This device contains licence-exempt transmitter(s)/ receiver(s) that comply with Innovation, Science and Economic Development Canada's licence-exempt RSS(s).
Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause interference.
(2) This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

NOTE

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence.
L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes :
(1) L'appareil ne doit pas produire de brouillage;
(2) L'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

スマートエントリー&スタートシステム／エンジンイモビライザーシステム

14FBX



® 007-AQ0012

DENSO CORPORATION

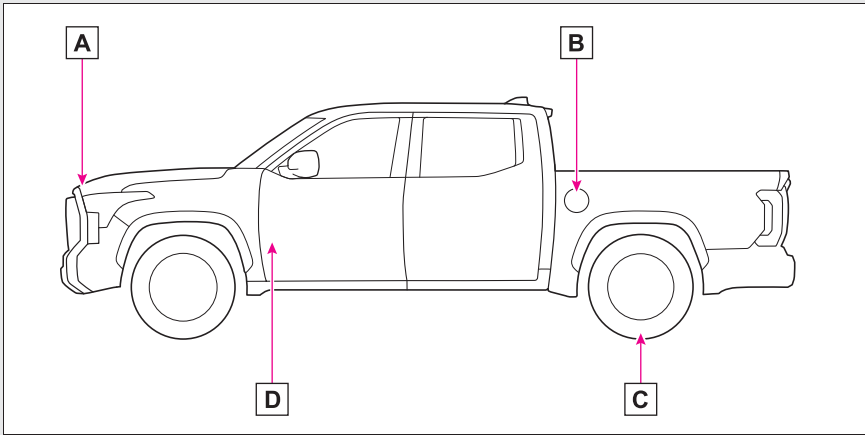
- ・ 本機は、電波法の基準に適合しています。
- ・ 本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

Toyota Safety Sense

本製品は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。本製品の改造は禁止されています。(適合証明番号などが無効となります)



ガソリンスタンドでの情報



- A ボンネットフック (→P.400)
- B 給油口 (→P.196)
- C タイヤ空気圧 (→P.473)
- D ボンネット解除レバー (→P.400)

燃料の容量 (参考値)	32.2 gal. (122.0 L, 26.8 Imp.gal.)
燃料の種類	P.470
タイヤが冷えているときの空気圧	P.473
エンジンオイル容量 (参考値)	P.470
エンジンオイルの種類	P.470

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索



リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEBページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。
「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。



- ご愛用車のお問い合わせは、**自動車検査証（車検証）** をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。
- QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

